別添１

研究報告書表紙

厚生労働科学研究費補助金

（難治性疾患政策研究事業）

原発性高脂血症に関する調査研究

令和２年度　総括研究報告書

研究代表者　斯波　真理子

令和３（２０２１）年　３月

別紙２

研究報告書目次

目　　次

別添３

厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

総括研究報告書

原発性高脂血症に関する調査研究

研究代表者　斯波真理子　国立循環器病研究センター研究所　非常勤研究員

研究要旨

今期班では前期班（班長：石橋俊）の研究成果を継承しながら、指定難病７疾患（家族性高コレステロール血症（FH）ホモ接合体、レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ（LCAT）欠損症、シトステロール血症、タンジール病、原発性高カイロミクロン血症、脳腱黄色腫症、無βリポ蛋白血症）についてそれぞれ疾患担当責任者を決め、全疾患のレジストリ構築、疾患概念のまとめ（システマティックレビューの作成)、診療上の課題の明確化と解決方法の考案（小児慢性特定疾病と成人指定難病の該当疾患の違い等に起因する小児から成人期への移行期医療に関する課題など）をオールジャパン・学会横断的体制で行い、研究班独自のホームページの開設や患者会等との連携、学会シンポジウムや市民公開講座発表等による情報発信・疾患啓発を実施する。これにより難病患者診断率および受給者数の向上と患者 QOL 及び予後の改善が期待できる。

疫学研究（PROLIPID 研究）については７つの担当疾患すべてのレジストリ項目の決定、倫理委員会での承認を経て、登録システムの構築が完了した。また登録患者数が前年度の 587 名から 965 例へと大幅に増加した。FH を除く新診断基準については疾患担当責任者が中心となり、改善案作成後に日本動脈硬化学会理事会で承認を得、難病検討委員会へ新診断基準（案）を提出した。また無βリポタンパク血症の類縁疾患である家族性低βリポタンパク血症１ホモ接合体の診断基準を作成し、動脈硬化学会理事会で承認を得、難病検討委員会に提出した。7 疾患すべての英文総説が疾患担当責任者らにより執筆され、日本動脈硬化学会の英文雑誌 Journal of Atherosclerosis and Thrombosis（JAT）誌にすべてアクセプトされた。FH の新診断基準および診療ガイドライン作成を担当する日本動脈硬化学会の作成班に協力した。また東京大学および香川県の検討結果から、若年および小児の高 LDL-C 血症患者（児）では FH が高頻度で存在することが分かり、健診スクリーニングの有用性が示唆された。移行期医療については移行期に行き場がなくなる（小児慢性特定疾病だが成人指定難病ではない）疾患としてアポリポタンパク A-I 欠損症があることが判明したため、診断基準を作成し、動脈硬化学会理事会で承認を得、難病検討委員会に提出した。

分担研究者
石橋　俊　自治医科大学・医学部・教授
横山　信治　中部大学・生物機能開発研究所・客員教授
島野　仁　筑波大学・医学医療系・教授
横手幸太郎　千葉大学・大学院医学研究院・教授
武城　英明　東邦大学・医学部・教授
山下　静也　りんくう総合医療センター・病院長
塚本　和久　帝京大学・医学部・教授
林　登志雄　東海国立大学機構名古屋大学・大学院医学系研究科・教授
池脇　克則　防衛医科大学校・抗加齢血管内科・教授
後藤田貴也　杏林大学・医学部・教授
土橋　一重　山梨大学・大学院総合研究部・医学研究員
宮本　恵宏　国立循環器病研究センター・オープンイノベーションセンター・センター長
竹上　未紗　国立循環器病研究センター・研究所・室長
関島　良樹　信州大学・医学部・教授
石垣　泰　岩手医科大学・医学部・教授
岡崎　啓明　東京大学・医学部附属病院・助教
野原　淳　石川県立中央病院・遺伝診療科・診療部長
小山　信吾　山形大学・医学部附属病院・講師
稲垣　恭子　日本医科大学・医学部・講師
尾野　亘　京都大学・医学研究科・准教授
小関　正博　大阪大学・大学院医学系研究科・助教
代田　浩之　順天堂大学・保健医療学部・特任教授
高橋　学　自治医科大学・医学部・学内講師
中村　公俊　熊本大学・生命科学研究部・教授
三井田　孝　順天堂大学・大学院医学研究科・教授
川尻　剛照　金沢大学・大学院医薬保健研究総合研究科・准教授
南野　哲男　香川大学・医学部・教授
岡崎　佐智子　東京大学・保健・健康推進本部・助教
多田　隼人　金沢大学・附属病院・助教
和田　淳　岡山大学・医学部・教授
小倉　正恒　国立循環器病研究センター・研究所・室長

A. 研究目的

1. 診療体制の構築に資する研究

まず、指定難病である 7 つの原発性脂質異常症について概要を記す。

家族性高コレステロール血症（Familial Hypercholesterolemia: FH）（ホモ接合体）は LDL 受容体およびその関連遺伝子の変異を 2 つ以上有する遺伝病であり、常染色体優性遺伝形式をとる。ヘテロ接合体が 200 人から 500 人に 1 人存在することから、ホモ接合体患者は 16 万人から 100 万人に 1 人の頻度で認められ、わが国における患者数は、数百人と推定される。FH ホモ接合体は、生下時より著明な高 LDL コレステロール（LDL-C）血症を示し、幼児期より動脈硬化症による冠動脈疾患や大動脈弁狭窄症、大動脈弁上狭窄症などを引き起こし、未治療では 30 歳まで生きられないことが多い。多くの脂質異常症治療薬が LDL 受容体の活性化をその主要機序としているために LDL 受容体活性が著しく低い FH ホモ接合体の治療は困難であり、定期的な LDL アフェレシスや LDL 受容体経路を介さない脂質低下治療薬であるミクロソームトリグリセリド転送タンパク（Microsome Triglyceride Transfer Protein: MTP）阻害薬の投与が必要であるが、治療費が極めて高額である。ヘテロ接合体はホモ接合体ほどではないものの生下時からの高 LDL-C 血症による早発性冠動脈疾患のハイリスク群である。

レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ（LCAT）欠損症は、LCAT 遺伝子変異による遺伝病で常染色体劣性遺伝形式をとる。低 HDL-コレステロール血症のほか、幼少時から進行する腎障害、角膜混濁により長期にわたり日常生活に高度の支障をきたす。現在のところ有効な治療法は確立されていない。

シトステロール血症は ATP 結合カセットトランスポーター（ATP-binding cassette transporter：ABC）G5 または G8 の遺伝子変異による遺伝病である。植物ステロールが蓄積することにより高率に早発性心血管疾患を発症する。幼少期に黄色腫を認めることから FH ホモ接合体との鑑別が重要である。

タンジール病は ABCA1 の遺伝子変異による遺伝病で常染色体劣性遺伝形式をとる。極端な低 HDL-コレステロール血症とそれに伴う末梢組織への脂質沈着、末梢神経障害などをきたし、早発性冠動

脈疾患の発症が生命予後を規定する。

原発性高カイロミクロン血症は脂質異常症 WHO 分類でのⅠ型およびⅤ型を指し、カイロミクロン代謝に関与する種々の蛋白の欠損・機能異常を背景として発症する。例としてリポ蛋白リパーゼ（Lipoprotein Lipase: LPL）欠損症やアポリポ蛋白 C-Ⅱ欠損症などの遺伝子変異による遺伝病で常染色体劣性遺伝形式をとる。高カイロミクロン血症は急性膵炎のリスクが高く、その発症や重症度が生命予後を規定する。膵炎の予防のために脂肪制限が生涯必要で、現在のところ治療法は確立されていない。しかし高カイロミクロン血症患者のなかでも膵炎を起こさない患者もいれば、重症膵炎を繰り返す患者もおり、予測することが現時点では困難である。高カイロミクロン血症は他疾患や薬剤により生じることもある点、一般検査では中性脂肪高値の中に含まれることから診断が困難な点、患者数が稀少である点などから、高カイロミクロン血症と予後の関連は明らかになっていない。

脳腱黄色腫症は CYP27A1 の遺伝子変異による遺伝病で常染色体劣性遺伝形式をとる。血清コレスタノールが脳を含む末梢組織に過剰に蓄積することによって、巨大な黄色腫の出現や認知症、錘体路症状、精神症状などの神経症状、早発性冠動脈疾患をきたす。

無βリポタンパク血症は MTP の遺伝子変異による遺伝病で常染色体劣性遺伝形式をとる。MTP は肝臓においてリポ蛋白の合成・分泌を担い、腸管では脂質の吸収を担うため、極端な低 LDL-コレステロール血症に加え、脂溶性ビタミン（A, D, E, K）吸収障害の結果、低身長、頻回の下痢、進行性神経障害、夜盲症などをきたし日常生活への支障をきたす。

これら 7 疾患については、著明な脂質異常症（極端な高 LDL コレステロール（LDL-C）血症、極端な高トリグリセライド（TG）血症、極端な低 HDL-C 血症、極端な低脂血症）や黄色腫の出現を契機に発見されることが多いが、専門家が少なく、また脂質代謝学そのものが複雑なために非専門家にとって正確な診断は困難である。そのため速やかな治療の開始もできず、合併症の発症や生命予後の悪化につながっている。

したがって難治性脂質異常症に対する診療体制の構築は重要課題であると考える。そこで非専門医が上記のような極端な脂質異常症や黄色腫を呈する患者に遭遇した場合に専門医に紹介できるシステムづくりや、紹介までの間に可能な検査、疾患の概要が手軽に理解できる日本語総説や患者への説明資料の作成、海外で脂質異常症難病の診療や研究を行っている医師・研究者に向けて英文総説の公開が必要と考えた。

2. 疫学研究（指定難病 7 疾患の予後実態調査（PROLIPID 研究））

本研究事業の中の調査研究の一環として、我が国の原発性高脂血症のうち、前期班（班長：石橋俊）では FH（ホモ・ヘテロ接合体含む）、家族性Ⅲ型高脂血症、高カイロミクロン血症患者の病態および治療実態の調査を行い、登録がスタートしていたが、今期の斯波班では上記に加えて指定難病である LCAT 欠損症、シトステロール血症、タンジール病、脳腱黄色腫症、無βリポ蛋白血症についても病態および治療実態の調査を行うこととした。診療の実際や予後の現状、危険因子などについて把握するとともに、その後前向きに各種イベントの発生および死亡を追跡することにより、難病患者における自然経過・イベント発生率・死亡率を明らかにし、予後改善への貢献、診療ガイドラインの改訂を目的とする。

3. 難病の普及啓発に関する研究（国際協調も含む）

各疾患の一般医家への啓蒙が不十分なために、適切な診断と治療が実施されておらず、難病患者の不安を払しょくできていない現状がある。そこで難病患者および難病患者を診療する医療従事者へ疾患についての啓発を実施し、難病患者の生命予後及び QOL の改善につなげる必要がある。

4. 診断基準・診療ガイドラインの作成に資する研究

平成 27 年 1 月に施行された「難病の患者に対する医療等に関する法律」に基づき新たに指定難病を拡大する方向となったため、前期研究班（班長：石橋俊）ではすでに指定難病であった FH ホモ接合体を除く 6 疾患について診断基準・重症度分類の策定を行ったが、複数の疾患で現行の診断基準に合致しないが遺伝子変異からその疾患と診断される症例などが報告され、次期の診断基準や臨床調査個人票の全面改定時期に備えて改善案を策定し、学会承認まで得ておく必要がある。

特に頻度が比較的高いFHの診断基準については明らかにFHのフェノタイプを呈しながら、遺伝子診断では*LDLR*変異も*PCSK9-GOF*変異を認めない患者が30%以上存在する（Ohta N, Hori M, Ogura M, Harada-Shiba M, J Clin Lipidol 2016)。逆に遺伝子診断でFHと診断できたが、LDL-C値やアキレス腱の厚さが診断基準を満たさない患者も日常診療で経験する。そこで遺伝子診断されたが現行の診断基準では基準を満たさない患者の頻度や特徴を明らかにし、次の診断基準作成時に議論すべき課題に関する情報を提供することを目的として研究を実施する。具体的には以下の3つの研究を実施する。

(1) 遺伝子検査により FH と診断された患者における原稿診断基準の蓋然性の検討（国立循環器病研究センター)

(2) Young FHコホート研究（東京大学)

(3) 小児生活習慣病予防健診を活用した家族性高コレステロール血症の早期診断と継続的支援のための保健と医療の連携モデル構築（香川大学)

5. 小児成人期移行医療（トランジション）の推進に資する研究

原発性脂質異常症のうち成人指定難病と小児慢性特定疾病の該当疾患と分類法が大きく異なっている。両制度は基礎となる法律が異なるため、両者の違い自体は大きな問題ではないが、移行期にスムースに小児科から内科へ連携できるか、また小児科が成人になっても診療すべき疾患か、小児期から内科が診療すべき疾患なのか等は切実な未解決課題である。また小児期から診断・治療を実施することにより、生命予後やQOLが改善する可能性があるのであれば、小児科医への疾患啓発や連携も極めて重要である。

B. 研究方法

1. 診療体制の構築に資する研究

7つの指定難病それぞれに対する疾患担当責任者を決定した。またその疾患担当責任者が中心となって日本語版および英語版の総説を執筆し、他の班員が査読を実施した。また日本語総説などを全国の非専門医にも読んでいただくために、昨年度作成した本研究班独自のホームページに掲載した。一般医家がアクセスしやすいように難病情報センターとリンクさせるようにする。

2. 疫学研究（指定難病 7 疾患の予後実態調査（PROLIPID研究))

最終年度である本年度は、担当7疾患すべてのレジストリ項目を決定し、国立循環器病研究センターの倫理委員会から承認を受けた後に後述のシステムに統合、登録サイトをオープンし、新規患者登録の推進を図った。

本研究への参加に同意した全国の国公立病院、大学病院関連施設および日本動脈硬化学会の会員が所属する医療機関において、研究期間中に来院した原発性高脂血症患者を登録する前向きコホート研究である。本研究の参加に同意した各研究協力施設は、各施設の倫理委員会承認後、患者登録を開始する。協力施設が独自の倫理委員会を有しない場合は、所属長の許可を得たうえで自治医科大学の倫理審査委員会にて審査する。各研究協力施設の担当者は、本研究への参加について研究対象者から文書による同意を取得できた患者を登録する。一部の症例が多い施設に関しては過去に遡り、症例を登録する。

登録は、Electronic Data Captureシステム（以下、EDC）の一つであるResearch Electronic Data Capture (REDCap)を用いる。(REDCap：米国でNIHの援助によりヴァンダービルト大学が開発し、アカデミアを中心に世界で広く使われているデータ管理システム。)REDCap上には個人情報は含まれず、互いの研究者間に個人情報が漏れることはない。各研究協力施設の医師は、本研究に該当する患者が来院した際に、患者を登録し、ベースライン調査項目（後述）を入力する。EDC上には氏名、住所など個人を特定する情報は含めず、研究IDのみを用いる。患者の氏名、住所および家族などの連絡先といった個人情報は各研究協力施設の個人情報担当者が保有し、住民票による追跡を必要とする場合にのみ研究全体の個人情報担当者からの照会を行う。過去の患者を本研究に登録する際は、担当医師がREDCap登録するか、あるいはREDCapに登録する項目をCD-R、またはUSBにて収集し、データマネジメント担当者がREDCapに情報入れる。

登録終了後、1年毎にアウトカム調査を行う。各協力施設の担当者は、イベント発症および死亡の有無を報告する。アウトカム調査時に通院していない患者は、本人または登録時に本人以外の連絡先として申請されている家族に郵送、または電話にて問い合わせる。本研究参加施設以外の医療機関に転院していた場合は、各協力施設担当者が、

該当する医療機関にイベント発症時の状況を問い合わせる。

各協力施設で追跡不可能な場合は、各協力施設から全体の個人情報担当者に報告する。研究者は定期的に（4年に1度）患者や登録時に本人以外の連絡先として申請されている家族に直接連絡を取るか、医療機関や公的機関（保健所、都道府県・市町村等）に問い合わせて、診療・介護・転出入・死亡等に関する情報について一定の請求手続き（閲覧、転記、写しの交付等：例. 住民票請求、死亡小票請求）を経てアウトカムを把握する。追跡手続きについては研究参加時に説明の上で同意を取得する。

2-3) 測定項目

1)ベースライン調査…患者イニシャル、生年月日（重複登録の確認目的)、性別、満年齢、身長、体重、ウエスト周囲長、血圧、特徴的身体所見の有無（アキレス腱肥厚、その他の腱黄色腫、結節性黄色腫、扁平黄色腫、手掌線状黄色腫、発疹性黄色腫、角膜輪、角膜混濁、肝腫大、脾腫、末梢神経障害、浮腫、オレンジ色の特徴的な扁桃腫大、その他）の有無、登録時血液検査データ（検査日、採血条件、総コレステロール、HDL コレステロール、トリグリセリド、LDL コレステロール(総コレステロールがない場合のみ)、遊離コレステロール、FC/CE 比、血糖値、インスリン、HOMA-IR、insulinogenic index、BUN、クレアチニン、GOT(AST)、(以降はデータがあれば入力)GPT(ALT)、γ-GTP、アルブミン、HbA1c、ヘモグロビン、アミラーゼ、膵型アミラーゼ、リパーゼ、尿酸、apoB、apoC-II、apoC-III、apoE、apoA-I、apoA-II、Lp(a)、レムナントリポ蛋白コレステロール(RLP-C)、リポ蛋白リパーゼ(LPL)(ヘパリン前後)、血中脂肪酸分画（EPA、AA、EPA/AA 比)、リポ蛋白分画 HPLC 法(HDL、LDL、IDL、VLDL、Other、その他)、白血球、赤血球、Ht、Plt、総ビリルビン、有棘赤血球の存在、赤血球形態異常、直接ビリルビン、TSH、free T3、freeT4、シトステロール、コレスタノール、ラソステロール、カンペステロール、ビタミン A, D, E, K)、生理学的検査（PWV、ABI 検査値、12 誘導心電図異常の有無、頸動脈エコーでの狭窄の有無、心エコーでの弁膜症有無)、血族結婚の有無、2 親等以内の家族歴（若年性冠動脈疾患・家族性高コレステロール血症・高中性脂肪血症)、合併症の有無(耐糖能障害、糖尿病（病型)、慢性腎臓病(CKD)、末梢動脈疾患(PAD)、冠動脈疾患（発症年齢、治療内容)、高血圧症、脳梗塞・TIA・脳出血、大動脈弁狭窄症、大動脈弁上狭窄、胸・腹部大動脈瘤、甲状腺機能低下症、急性膵炎、肝腫大、脾腫、血液疾患、自己免疫疾患、白内障、慢性の下痢、骨粗鬆症、新生児~乳児期の遷延性黄疸・胆汁うっ滞、神経症状、関節炎、出血傾向、脂肪便、網膜色素変性、視野狭窄、夜盲、視力低下、運動失調、痙性麻痺)、現在の投薬状況(降圧薬、経口糖尿病薬、糖尿病注射薬、抗血小板薬・抗凝固薬)、服用中の脂質異常症治療薬の種類と用量および開始時期、LDL アフェレシスの有無と開始時期および施行頻度、生活習慣（喫煙・飲酒・運動習慣)、栄養士による栄養指導の有無、診断的検査（*LDLR* 遺伝子変異、*PCSK9* 遺伝子変異、*ARH* 遺伝子変異、その他の遺伝子変異、アポ E 遺伝型、アポ E 表現型、シトステロール血症遺伝子変異（*ABCG5*、*ABCG8*)、脳腱黄色腫症遺伝子変異（*CYP27A1*)、LCAT 欠損症遺伝子変異(*LCAT*)、タンジール病遺伝子変異(ABCA1)、無βリポ蛋白血症遺伝子変異（*MTTP*)、低ベータリポ蛋白血症遺伝子変異（*APOB*))、リポ蛋白電気泳動パターン、アポ E 表現型)、アキレス腱軟線撮影でのアキレス腱厚

2)アウトカム調査…冠動脈疾患の有無(急性心筋梗塞、狭心症)とその発症年月日・入院年月日とその関連項目（発症時の症状、心電図変化の有無、心筋逸脱酵素上昇の有無、経皮的冠動脈インターベンションの有無、経皮的冠動脈血栓溶解療法の有無、冠動脈バイパス術の有無、冠動脈 CT/MRI 検査の有無。）脳血管疾患の有無(脳梗塞・脳出血)とその発症年月日・入院年月日とその関連項目（発症時の神経症状、画像検査の有無とその所見)、心房細動の有無、塞栓源の有無、大動脈弁狭窄症および閉鎖不全症・大動脈弁上狭窄の有無、僧房弁狭窄・三尖弁狭窄および閉鎖不全症の有無、大動脈瘤の有無、末梢血管疾患の有無、急性膵炎の有無

主要評価項目は心血管および脳血管イベント、大動脈瘤、末梢動脈疾患、急性膵炎で、副次的評価項目は全死亡としている。

（倫理面への配慮）

本研究は前向き観察研究であり、研究の遂行に伴う研究対象者本人への身体的不利益・危険性は生じない。予後追跡調査のために説明同意文書での本人の同意に基づき個人情報を収集する。その保管は各研究協力施設であり、他の研究者によるアクセスは不可能である。また収集する

個人情報も氏名・住所・電話番号・関係者連絡先と、一般診療の範疇内であり、研究参加者への不利益は発生しないと考える。また本研究はヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針で定めた倫理規定等を遵守するとともに、国立循環器病研究センター倫理員会で承認されている。

3. 難病の普及啓発に関する研究

FH ホモ接合体については「難治性家族性高コレステロール血症患者会」と「高コレステロール血症患者の集い」を共催する。患者会代表による自身の病気や治療に対する思いの講演や食事療法や新しい治療法に関する講演、患者と医療従事者のグループセッションを実施し、患者のニーズを探るために「集い」に関するアンケート調査を実施する。

本研究班の班員および研究協力者は脂質代謝領域や神経領域のエキスパートであり、かつ各関連学会において要職に就いているものが多い。したがって学会等でシンポジウムを企画し、または招待講演等により、非専門医に対して該当疾患に関する疾患啓発を実施することが十分可能である。そこで、そのような機会を生かし、発表や日本語および英語論文・総説の執筆を積極的に行う。

特に今年度はアジアをはじめ海外への脂質難病の疾患啓発を図るため、各疾患担当者が中心となり、英語総説を執筆する。来年度にかけて、班員による査読を実施し、日本動脈硬化学会の英文誌である Journal of Atherosclerosis and Thrombosis 誌に invited review article として令和 2 年度中に 7 疾患すべて publish されることを目指す。

4. 診断基準・診療ガイドラインの作成に資する研究

各疾患について、最新の文献や診療情報から疾患担当責任者を中心に新しい診断基準案やガイドライン案を作成し、班会議で議論を行い、日本動脈硬化学会承認に向けて準備を進める。脳腱黄色腫症は新しい診断基準及びガイドラインを昨年度すでに策定し、日本神経学会で承認を得た。

FH に関する 3 つの研究の方法は以下のとおりである。なお各研究はヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針で定めた倫理規定等を遵守するとともに、それぞれの所属機関における倫理員会で承認されている。

(1) 国立循環器病研究センターおよび金沢大学で遺伝子検査により FH と診断された患者における現行診断基準の蓋然性の検討

対象は臨床的に FH を疑われ、当センターで遺伝子解析をした患者である。FH の診断基準は、2017 年の日本動脈硬化学会の基準 (①未治療時の LDL-C 値：180 mg/dL 以上、②アキレス腱厚：Xp 測定で 9 mm 以上、③FH または早発性冠動脈疾患の家族歴) を用いた。

(2) Young FH コホート研究 (東京大学)

東京大学では以前より新入生健診でLDL-C測定を行なっており (新入生対象、毎年約3,000人) 、平成25年度から、若年成人高LDL-C血症のうち同意を得られたものを対象に、FH遺伝子変異を解析し、LDL-C健診測定のFH診断における有用性を継続的に検討している。また若年成人 (20歳前後) の遺伝子診断されたFHの特徴と現行の診断基準の蓋然性についての検討を行う。

(3) 小児生活習慣病予防健診を活用した家族性高コレステロール血症の早期診断と継続的支援のための保健と医療の連携モデル構築 (香川大学)

平成 29 年度から香川県小児生活習慣病予防健診 (10 歳児童が対象、毎年 8,000 名が受診) を実施、LDL≧140 mg/dL を示した児童に対して、医療機関への受診を勧奨している。平成 30 年度からは金沢大学 (川尻剛照 (分担者)) との共同研究で、小児予防健診で LDL≧140 mg/dL 以上 10 歳小児 (24 名) に遺伝子検査を実施した (LDL 受容体、PCSK9、アポ B 遺伝子など 21 遺伝子を含む遺伝性脂質異常症網羅的遺伝子解析パネル)。

5. 小児成人期移行医療 (トランジション) の推進に資する研究

昨年度は成人指定難病と小児慢性特定疾病において疾患が一致していないことが班内で共有された。今年度は上記が原因で、例えば小児慢性特定疾病であるが成人指定難病でないために移行期に行き場がなくなってしまうなど、小児成人期移行時期に患者が不利益を被る可能性について整理し、その対策を練ることとした。

C&D. 研究結果と考察

下記の研究結果については年に 2 回実施される全体班会議で討議・承認されたものである。班会

議の会議次第は資料１のとおりである。
また、班独自のホームページ（nanbyo-lipid.com）はすでに作成が完了し、令和元年 7 月からアクセスできる。

1．診療体制の構築に資する研究

昨年度、疾患担当責任者を下記のように決定した。

(1) FH ホモ接合体：野原淳
(2) LCAT 欠損症：武城英明、黒田正幸、村野武義
(3) シトステロール血症：川尻剛照、多田隼人
(4) タンジール病：小関正博
(5) 原発性高カイロミクロン血症：後藤田貴也、岡崎啓明
(6) 脳腱黄色腫症：関島良樹、小山信吾
(7) 無βリポ蛋白血症：岡崎啓明、高橋学

一般医家への疾患啓発の一環として昨年度までに各疾患について日本語総説を疾患担当者が中心となり執筆し、すでに班独自のホームページにアップロードされており、PDF ファイルで読むことができるようになっている。

今年度はアジアをはじめとする海外に脂質異常症難病について疾患啓発を行う目的で、各疾患について英文総説を疾患担当者が中心となり執筆した。疾患担当者以外の班員はそれぞれ割り当てられた 2 疾患の英語総説の査読を担当した。その結果、すべての疾患について、日本動脈硬化学会の英文誌 *Journal of Atherosclerosis and Thrombosis（JAT 誌）* に invited review articles として投稿、アクセプトされ、全て早期公開されている。各疾患の英語総説は資料 2 のとおりである。

システマティックレビュー執筆およびレジストリ登録項目決定に責任を持つ各疾患担当者の任命は、本研究班本部（難病診療連携拠点）と各疾患担当者（医療支援ネットワーク）が協調し、できる限り早期に正しい診断ができる難病の医療提供体制を整える。また班独自の HP による積極的な情報発信は上記診療体制に全国の非専門医が容易にアプローチできる機会を与える。このことは難病患者診断率および受給者証取得者数の向上に寄与し、難病法の施策に直接的に反映する。システマティックレビューの英文化と JAT 誌への掲載は海外の難病を治療している医師への貴重な情報を提供し、国際貢献および論文引用等、間接的な波及効果が期待できる。特に JAT 誌（IF：3.876）は、国内のみならず、アジアからの引用件数が急増し、Impact Factor も上昇中である。

2．疫学研究（指定難病 7 疾患の予後実態調査（PROLIPID 研究））

現在までに担当７疾患すべての PROLIPID システムへのレジストリ項目の追加、EDC システムの構築、PROLIPID 研究の変更点に関する倫理委員会への変更申請がレジストリシステム担当の宮本班員および竹上班員（国立循環器病研究センター）により提出され、承認された。また症例登録の推進を図った。

令和 3 年３月末時点の登録患者数（FH（ヘテロ接合体も含む）は 965 例（資料３）と昨年度よりも 378 例増加した。今後は全疾患の登録が可能になるため各施設での倫理委員会における迅速審査申請の依頼がなされた。また今までのプロトコールでは登録時の服薬状況のみが入力されていたが、新薬の登場や治療概念の変化に伴い、難病の治療も変化していくことが予想されるため、5 年目と 10 年目に服薬状況を改めて確認し、入力することが班会議で決定された。

すでに班独自のホームページに PROLIPID の入り口もオープンとなったため、より多くの医療機関からのアクセスや患者登録が期待できる。このことにより、診療の実際や予後の現状、危険因子などについてより大きな N 数で把握するとともに、その後前向きに各種イベントの発生および死亡を追跡することにより、難病患者におけるイベント発生率・死亡率を明らかにし、予後改善への貢献、診療ガイドラインの改訂に寄与することができる。また患者数が非常に少ない脂質異常症難病のデータベースの構築により、実際の診断状況や患者の自覚症状・多覚的所見が明らかになり、今後の診断基準や治療指針作成に資することが可能になる。次年度以降の課題として、「PROLIPID 研究」と「指定難病患者データベースおよび小児慢性特定疾病児童等データベースの第三者利用に基づいた研究」のすみわけに関する議論が不十分であるため、班会議等で議論を深めていく必要がある。

3．難病の普及啓発に関する研究

平成 30 年度は多くの班員が指定難病に関する教育講演やシンポジウム講演、日本動脈硬化学会主

催の FH 疾患啓発研修会等で非専門医をはじめとする医療従事者に向けてメッセージを発信した（**G. 研究発表参照**）。特に本研究班との共催シンポジウムが日本動脈硬化学会および日本臨床化学会で企画・開催された。

FH ホモ接合体については「難治性家族性高コレステロール血症患者会」と「高コレステロール血症患者の集い」を共催してきたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で開催を断念した。来年度は WEB 形式を含む患者に安全な方法で実施予定である。

4. 診断基準・診療ガイドラインの作成に資する研究

次の全体改訂に向けて新診断基準案を本研究班で作成し、関連学会で承認を得ておく必要があるため、すでに新しい診断基準案を作成し、令和 2 年 2 月 1 日に日本動脈硬化学会の理事会で承認を得ていた。なお指定難病のうち脳腱黄色腫症については、疾患担当責任者である関島班員および小山班員らが平成 30 年 5 月に新しい診断基準および診療ガイドラインを作成し、すでに日本神経学会で承認され、公開されている（http://www.ctx-guideline.jp/guideline/）。今年度の途中に全体改訂の情報および新診断基準の募集があったため、学会承認された新診断基準案を難病対策課（難病検討委員会）に提出した。提出した診断基準案は**資料３**のとおりである。

また FH ホモ接合体を含む FH についての新診断基準案は「日本動脈硬化学会　動脈硬化性疾患予防ガイドライン（2022 年版）」に反映すべく、斯波班長を委員長として本研究班のメンバー数名も委員となり、動脈硬化学会ガイドライン委員会（委員長：斯波班長）が診断基準の改訂作業と診療ガイドラインの作成を進めているところである。今年度は遺伝子検査により確定診断された FH 患者（国立循環器病研究センター、金沢大学、各 500 名）についての臨床情報を収集・解析が完了し（JAT in press）、次期ガイドラインにおける診断基準の策定に役立てることが決定している。

東京大学（大学入学時健診）および香川大学（10 歳時健診）の検討結果から、若年高 LDL-C 血症では FH が高頻度で見つかること、その親へのリバースカスケイドスクリーニングが可能であることなどの健診スクリーニングの有用性が証明され、これらの成果が学会等で報告された。またその成果内容が次期診断基準への資料となることが決まった。

無βリポ蛋白血症については、岡崎班員から類縁疾患として家族性低βリポタンパク血症（FHBL）1(ホモ接合体)を指定難病に追加することが提案され、診断基準も示された。令和 2 年 1 月 5 日の班会議で承認、2 月 1 日に学会承認を得た。これにより「家族性低βリポタンパク血症（FHBL）1(ホモ接合体)」の新規難病指定を目指す。診断基準は**資料３**のとおりである。

またタンジール病の鑑別疾患であり、小児で登録の可能性があるアポリポタンパク A-I 欠損症(両疾患とも小児慢性特定疾病では、LCAT 欠損症とともに高比重リポタンパク欠乏症に属している）については移行期に行き場がなくなることが判明し、小関班員・山下班員が診断基準を作成し、令和 2 年 1 月 5 日の班会議で承認、2 月 1 日に学会承認のを得た。これにより「アポリポタンパク A-I 欠損症」の新規難病指定を目指す。診断基準は**資料３**のとおりである。

5. 小児成人期移行医療（トランジション）の推進に資する研究

成人指定難病と小児慢性特定疾病の疾患の不一致（**資料４**）について、昨年度から班会議で議論が開始された。表１（成人）と表２（小児）で下記のように対象疾患名や疾患の括りが異なることが班員全体で共有された。①FH は成人はホモ接合体のみ、小児はヘテロも含む、②LCAT 欠損症とタンジール病は小児の「133　HDL 欠乏症」というくくりに含まれると考えられる、同じく難病であるアポ A-I 欠損症も含まれると考えるが、成人指定難病ではない、③シトステロール血症と CTX は、小児では「134　その他の脂質代謝異常症」に含まれると考えられる、④小児では家族性複合型高脂血症、アポリポタンパク E 異常症が含まれている。これらについて、移行期に患者のデメリットにならないような体制の整備が必要であることが共有されたが、現状で上記疾患については、移行期に患者のデメリットはほぼ無いことが確認された（FH ヘテロ接合体は 200-300 人に 1 人と非常に頻度が高いため、成人の FH ヘテロ接合体を指定難病とするのは持続可能な難病支援体制としては非現実的であることも共有された）。アポリポタンパク E 異常症については、移行期に行き場はなくなるものの内服薬である程度管理は可能であり、また類

縁疾患であるリポ蛋白糸球体症（アポリポタンパク E 異常症を伴う）についても腎疾患として難病指定が可能であることから今回は新規難病指定の申請を提出しないこととなった。

上述の通り、「アポリポタンパク A-I 欠損症」についてはいまだ有効な治療方法もなく、HDL 欠乏症として小児慢性特定疾病に登録されてきた患者が移行期に行き場をなくすことが明らかとなったため、診断基準を策定した。その結果、脂質難病の患児が移行期に行き場がなくなる事態はなくなる予定である。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表（下線は班員）

【家族性高コレステロール血症】

1） Tada H, Kawashiri MA, Nohara A, Takamura M, Prognostic Impact of Cascade Screening for Familial Hypercholesterolemia on Cardiovascular Events, European Society of Cardiology Congress 2020 Aug 29-Sep 2, 2020 (Amsterdam)

2） Sachiko Okazaki, Satoru Takase, Masaki Tanaka, Midori Kubota, Eisuke Amiya, Mikio Takanashi, Chengcheng Li, Jingxuan Shi, Hiroshi Noto, Yoko Iizuka, Shintaro Yanagimoto, Takashi Kadowaki, Toshimasa Yamauchi, Hiroaki Okazaki. Universal Screening for Familial Hypercholesterolemia in Young Adults：The Young FH Study. American Heart Association Scientific Sessions 2020（2020 年 11 月 Dallas,Texas(virtual))

3） Koseki M, Prevalence of Coronary Artery Disease and Achievement of Low-density Lipoprotein Cholesterol Management Targets in Familial Hypercholesterolemia Patients at Osaka University Hospital, 88th European Atherosclerosis Congress (EAS),ポスター発表（共著者）,2020 年 10 月 4-7 日（Virtual）

4） Koseki.M, Targeted Exon Sequencing of Lipid-Related Genes in Patients with Clinically Diagnosed Familial Hypercholesterolemia , American Heart Association Scientific Sessions 2020,ポスター発表（共著者）,2020 年 11 月 13-17 日（Virtual）

5） 多田隼人（座長：塚本和久）：遺伝学から考える超積極的 LDL－C 低下療法のススメ，第 20 回日本動脈硬化学会動脈硬化教育フォーラム,2020 年 2 月 2 日（東京）

6） 斯波真理子（座長：川尻剛照，島野仁）：HoFH治療の進歩と課題，シンポジウム2，FHの診断治療の進歩と課題(小児を含む)，第52回日本動脈硬化学会，2020年7月17日～31日(Web開催)

7） 小倉 正恒（座長：川尻剛照，島野仁）：FH 診断基準の方向性，シンポジウム 2，FH の診断治療の進歩と課題(小児を含む)，第 52 回日本動脈硬化学会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)，2020（総会プログラム・抄録集 95）

8） 多田隼人,岡田寛史,野村章洋,野原 淳,高村雅之,川尻剛照（座長：川尻剛照，島野仁）：FHの遺伝子解析の最先端（遺伝子解析の最先端と将来の方向性）,シンポジウム2，第52回日本動脈硬化学会総会 2020年7月17日～31日(Web開催)

9） 南野哲男（座長：川尻剛照，島野仁）：FH のリバース・カスケードスクリーニング，シンポジウム2，第52回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2020年7月17日～31日(Web開催)

１０） 土橋一重（座長：川尻剛照，島野仁）：小児 FH の問題点，シンポジウム 2，FH の診断治療の進歩と課題（小児を含む），第 52 回日本動脈硬化学会総会学術集会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)

１１） 多田隼人,岡田寛史,野村章洋,野原 淳,高村雅之,川尻剛照：Prevalence, self-awareness, and LDL cholesterol levels among patients highly suspected as familial hypercholesterolemia in a Japanese community，第52回日本動脈硬化学会総会，2020年7月17日～31日(Web開催)

１２） 土橋一重（座長:横手幸太郎，荒井秀典）：小児期の脂質異常症とメタボリックシンドローム，シンポジウム 9 メタボ～フレイル-ライフステージごとの動脈硬化リスク，第 52 回日本動脈硬化学会総会学術集会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)

１３） 山口崇、中村祥子、岡怜奈、田中翔、河越尚幸、渡邉康弘、大平征宏、清水直美、齋木厚人、辻沙耶佳、大城崇司、龍野一郎： 肥満外科治療は体重減少非依存性にHDL-Cを上昇させる，第52回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2020年7月17日～31日(Web開催)

１４） 岡崎佐智子、高瀬暁、田中督記、久保田みどり、網谷英介、高梨幹生、李騁騁、石婧璇、

能登洋、飯塚陽子、柳元伸太郎、門脇孝、山内敏正、岡崎啓明：若年成人における健診LDL-C スクリーニングの意義：FH 低診断の克服, 第52回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2020年7月17日～31日(Web開催)

１５） 高瀬暁,田中督記,岡崎佐智子,高梨幹生,李騁騁,石婧璇,飯塚陽子,門脇孝,山内敏正,岡崎啓明 ：家族性高コレステロール血症と診断された症例に見出されたシトステロール血症, 第52回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2020年7月17日～31日(Web開催)

１６） 岡崎啓明（座長：横手幸太郎, 荒井秀典）：メタボ～フレイル-ライフステージごとの動脈硬化リスク　健康長寿のためのLDL-Cの健診スクリーニング　young FH研究からの提言, 第52回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2020年7月17日～31日(Web開催)

１７） 野原　淳（座長：松尾 汎）：家族性高コレステロール血症におけるアキレス腱計測の意義, 第 24 回 診断技術向上セミナー 3＜特別セッション＞成人家族性高コレステロール血症スクリーニングに用いる「超音波によるアキレス腱厚測定」の標準的評価法, 第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会, 2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)

１８） 多田隼人 :遺伝子診療の利点と注意点, 第24回日本心不全学会学術集会, 2020年10月15日～17日 (Web開催)

１９） Tada H, Kawashiri MA, Nohara A, Takamura M, Prognostic Impact of Cascade Screening among Patients with Familial Hypercholesterolemia：第84回日本循環器学会学術集会, 2020年7月27日～8月2日(Web開催)

２０） 土橋一重：小児の家族性高コレステロール血症, 日本動脈硬化学会共催シンポジウム 家族性高コレステロール血症の疾患啓発,第119回日本皮膚科学会総会,2020年6月4日～7日 (Web開催)

２１） 野原　淳（座長:松永彰,木原進士）： 著明な高コレステロール血症を見たら, シンポジウム6（日本動脈硬化学会との共催）原発性脂質異常症のスクリーニング, 第60回日本臨床化学会・年次学術集会,2020年10月30日～11月1日 (Web開催)

２２） 渡部俊之, 横村 守, 石田恵梨, 河野正臣, 中川央充, 根間敏郎, 村野武義, 武城英明, 平山 哲, 三井田 孝（座長：大久保滋夫, 中川央充）： トリグリセライド(TG)測定法における遊離グリセロールの影響.　第60回日本臨床検査医学会年次学術集会, 2020年11月 (Web開催)

２３） 岡崎佐智子、高瀬暁、久保田みどり、田中督記、網谷英介、高梨幹生、李騁騁、石婧璇、能登洋、飯塚陽子、柳元伸太郎、門脇孝、山内敏正、岡崎啓明：家族性高コレステロール血症早期診断のための健診スクリーニングの有用性および若年成人のための診断基準についての検討, 第63回日本糖尿病学会年次学術集会,2020年10月 (Web開催)

２４） 高瀬 暁, 田中 督記, 岡崎佐智子, 高梨 幹生,李　騁騁,石 婧璇,飯塚 陽子,門脇　孝, 山内 敏正, 岡崎 啓明：特異な臨床経過から診断し得た家族性高コレステロール血症とシトステロール血症の合併例, 第63回日本糖尿病学会年次学術集会,2020年10月 (Web開催)

２５） 小関正博：Targeted Exon Sequencing of Lipid-Related Genes in Patients with Familial Hypercholesterolemia,第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会,2020 年 7 月 17～31 日 (WEB 開催)

２６） 小 関 正 博 ： The Current Status of Achievement of Low-density Lipoprotein Cholesterol Management Targets in Familial Hypercholesterolemia Patients in Osaka University Hospital, 第 84 回日本循環器学会学術集会,2020 年 7 月 27 日～8 月 2 日 (WEB 開催)

２７） 代田浩之（座長：斯波 真理子, 佐藤 元美）：Lp(a) と 心血管疾患リスク～LDL アフェレシスへの期待～, シンポジウム 5　脂質異常症・動脈硬化領域における LDL アフェレシス治療の近年の位置づけ, 第 41 回日本アフェレシス学会年次学術集会,2020 年 10 月(東京)

２８） 野原　淳（座長：斯波 真理子, 佐藤 元美）：FH と遺伝子変異―遺伝子変異と治療の選択―, SYMPOSIUM 5　脂質異常症・動脈硬化領域における LDL アフェレシス治療の近年の位置付け, 第 41 回日本アフェレシス学会年次学術集会, 2020 年 10 月 (東京)

２９） 加茂 夕紀, 藤本 進一郎, 青島 千紘, 川口 裕子, 高村 和久, 比企 誠, 富澤 信夫, 隈丸 加奈子, 野崎 侑衣, 工藤 綾子, 高橋 大悟, 代 田　浩 之 ： A Study of Heart Valve Calcification Using Coronary CT Angiography,　日本循環器学会学術集会抄録集 84 回 Page PJ11-4, 2020 年 07 月

３０） 石垣　泰、外舘　祐介、八代　諭、佐々木 真理：超高磁場MRIを用いた代謝異常患者における脳血管画像解析：第34回日本糖尿病合併症学会シンポジウム, 2019年9月27日 (大阪)

３１） 小倉 正恒, 神谷 千津子, 片岡 有, 吉松 淳, 斯波 真理子： 循環器疾患患者の妊娠と出産(Management of Pregnancy and Delivery in Women with Familial Hypercholesterolemia). 第84回日本循環器学

会学術集会. 2020(抄録集　シンポジウム23 - 5)
３２） 斯波真理子: 小児脂質異常症, 総編集 水口雅, 市橋光, 崎山弘, 伊藤秀一, 今日の小児治療指針　第17版, 医学書院, 253, 2020.
３３） 小倉正恒:もっともっとくわしく知りたい! イラストでわかる脂質・脂肪酸・コレステロールのふしぎ 続発性脂質異常症, Nutrition Care 13(4) 335 - 338, 2020.
３４） 小倉正恒：家族性高コレステロール血症ホモ接合体の管理, 糖尿病・内分泌代謝科 51(2) 157 - 163, 2020.
３５） 小倉正恒: VI: 脂質異常症の治療 ３.LDL-Cを下げる, そうだったんだ！脂質異常症（第２版）: 治療の新潮流を探る, 伊藤浩編, 文光堂, 東京: 160-173（分担執筆）, 2020
３６） 小倉正恒: ５章. 各疾患・ライフステージの心血管イベントリスク・治療の違いを知ろう！, ３. 小児や妊娠可能女性の家族性高コレステロール血症はどのように管理すればよいですか？, 評価・処方の“いま”を押さえる　見直し！脂質異常症, 小倉正恒編, 日本医事新報社, 東京: 145-148（分担執筆・企画編集）, 2020
３７） 多田隼人,岡田寛史,高村雅之,川尻剛照:遺伝子研究からみた脂質異常症, 糖尿病・内分泌代謝科　Vol.51 No.2, 85-91, 2020
３８） 土橋一重：小児疾患の薬物治療ガイドライン総まとめ,編集：五十嵐隆 第６章　内分泌・代謝疾患　５. 家族性高コレステロール血症,月刊薬事　増刊号：1425-1431, 2020.
３９） 土橋一重：綜説　小児家族性高コレステロール血症診療ガイド,小児科 61：878-886, 2020.
４０） 土橋一重：小児期における肥満・脂質異常症の治療,診断と治療 108：1381-1385, 2020.
４１） 山下静也：LDL コレステロールが高い状態を放置しないで, 日医ニュース 令和２年８月５日号　健康ぷらざ No.533:1, 2020
４２） 山下静也:Ⅱ　脂質異常症の病態と診断　3. LDL の目標値はなぜ病態で異なる？,そうだったんだ！脂質異常症【第 2 版】治療の新潮流を探る（編集：伊藤浩）:61-67,2020（文光堂）
４３） 山下静也：２. 代謝・内分泌検査/B.脂質代謝　総コレステロール, 臨床検査ガイド 2020 年改訂版　これだけは必要な検査のすすめかた・データのよみかた(大西宏明、Medical Practice 編集委員会：矢崎義雄、小池和彦、小室一成、須永眞司、山内敏正):287-294, 2020（文光堂）
４４） 岡崎啓明:「糖尿病患者の脂質異常症」【糖尿病エキスパートブック　食事療法・栄養指導に活かす最新情報】「臨床栄養」136(6):853-858, 2020.05
４５） 岡崎啓明:「PCSK9 阻害薬を処方すべき患者とは」【いま知っておきたい!　内科最新トピックス】内科　126(3):617-620, 2020.09
４６） 岡崎啓明:「PCSK9 阻害薬」診断と治療 108(10), 2020.10
４７） 石垣　泰:脂質異常症－高 LDL コレステロール血症. 今日の治療指針　医学書院;2019:745-50
４８） 稲垣恭子:Lp(a)と動脈硬化　Medical View Point　Vol.41 No.8　P.4
４９） 稲垣恭子：MTP 阻害薬（microsomal triglyceride transfer protein inhibitor）：ロミタピド　51（2）:151-156, 2020
５０） 野原 淳:【脂質異常症と動脈硬化 update】「PCSK9 阻害薬」, 糖尿病・内分泌代謝科(2435-1946)51 巻 2 号 Page129-135(2020.08)
５１） 野原 淳:２章　薬を知ろう！「4.　家族性高コレステロール血症ホモ接合体の治療, MTP 阻害薬とアフェレシスについて教えて下さい」, 見直し！脂質異常症 あなたも名医！評価・処方の“いま”を押さえる （ｊｍｅｄ）小倉 正恒 （編）,日本医事新報社, 東京: 52-62, 2020
５２） 野原 淳:「脂質異常症の成因・病態生理」, 動脈硬化予防のための肥満・脂質異常症診療戦略　肥満・脂質異常の病態・診断基準, 診断と治療 108(10):1325-1333, 2020.10
５３） 野原 淳: Ⅰ 症候編　1. 全身的にみられる症候　「脂質異常症」, 今日の診断指針 第８版　永井 良三 （総編集）,浅利 靖 （ほか責任編集）, 医学書院, 123-126,2020.4
５４） Harada-Shiba M, Ali S, Gipe DA, Gasparino E, Son V, Zhang Y, Pordy R, Catapano AL. A randomized study investigating the safety, tolerability, and pharmacokinetics of evinacumab, an ANGPTL3 inhibitor, in healthy Japanese and Caucasian subjects. Atherosclerosis. 314:33-40. 2020.
５５） Yamashita S, Masuda D, Akishita M, Arai H, Asada Y, Dobashi K, Egashira K, Harada-Shiba M, Hirata K, Ishibashi S, Kajinami K, Kinoshita M, Kozaki K, Kuzuya M, Ogura M, Okamura T, Sato K, Shimano H, Tsukamoto K, Yokode M, Yokote K, Yoshida M. Guidelines on the Clinical Evaluation of Medicinal Products for Treatment of Dyslipidemia. J Atheroscler Thromb. 27(11):1246-1254. 2020.
５６） Blom DJ, Harada-Shiba M, Rubba P, Gaudet D, Kastelein J J.P, Charng M-J, Pordy R, Donahue S, Ali S, Dong Y, Khilla N, Baccara-Dinet M, Rosenson R. Efficacy and

safety of Alirocumab in adults with homozygous familial hypercholesterolemia The ODYSSEY HoFH trial. Journal of the American College of Cardiology. 76(2):131-142. 2020.

５７） Hori M, Takahashi A, Son C, Ogura M, Harada-Shiba M. The first Japanese cases of familial hypercholesterolemia due to a known pathogenic APOB gene variant, c.10580 G>A: p.(Arg3527Gln) J Clin Lipidol. 14(4):482-486. 2020.

５８） Tada H, Hori M, Nomura A, Hosomichi K, Nohara A, Kawashiri MA, Harada-Shiba M. A catalog of the pathogenic mutations of LDL receptor gene in Japanese familial hypercholesterolemia. J Clin Lipidol. 14(3):346-351.e9. 2020.

５９） Hori M, Takahashi A, Son C, Ogura M, Harada-Shiba M. The benign c.344G > A: p.(Arg115His) variant in the LDLR gene interpreted from a pedigree-based genetic analysis of familial hypercholesterolemia. Lipids Health Dis, 19(1):62. 2020.

６０） Wilemon KA, Patel J, Aguilar-Salinas C, Ahmed CD, Alkhnifsawi M, Almahmeed W, Alonso R, Al-Rasadi K, Badimon L, Bernal LM, Bogsrud MP, Braun LT, Brunham L, Catapano AL, Cillikova K, Corral P, Cuevas R, Defesche JC, Descamps OS, de Ferranti S, Eisele JL, Elikir G, Folco E, Freiberger T, Fuggetta F, Gaspar IM, Gesztes AG, Groselj U, Hamilton-Craig I, Hanauer-Mader G, Harada-Shiba M, Hastings G, Hovingh GK, Izar MC, Jamison A, Karlsson GN, Kayikcioglu M, Koob S, Koseki M, Lane S, Lima-Martinez MM, Lopez G, Martinez TL, Marais D, Marion L, Mata P, Maurina I, Maxwell D, Mehta R, Mensah GA, Miserez AR, Neely D, Nicholls SJ, Nohara A, Nordestgaard BG, Ose L, Pallidis A, Pang J, Payne J, Peterson AL, Popescu MP, Puri R, Ray KK, Reda A, Sampietro T, Santos RD, Schalkers I, Schreier L, Shapiro MD, Sijbrands E, Soffer D, Stefanutti C, Stoll M, Sy RG, Tamayo ML, Tilney MK, Tokgozoglu L, Tomlinson B, Vallejo-Vaz AJ, Vazquez-Cardenas A, de Luca PV, Wald DS, Watts GF, Wenger NK, Wolf M, Wood D, Zegerius A, Gaziano TA, Gidding SS. Reducing the clinical and public health burden of familial hypercholesterolemia: A global call to action. JAMA cardiology. 5(2):217-229, 2020.

６１） Tada H, Okada H, Nomura A, Nohara A, Takamura M, Kawashiri MA, A Healthy Family of Familial Hypobetalipoproteinemia Caused by a Protein-truncating Variant in the PCSK9 Gene, Intern Med. 59(6):783-787.2020

６２） Tada H, Usui S, Sakata K, Takamura M, Kawashiri MA , Low-Density Lipoprotein Cholesterol Level cannot be too Low: Considerations from Clinical Trials, Human Genetics, and Biology, J Atheroscler Thromb. 1;27(6):489-498.2020

６３） Tada H, Okada H, Yoshida S, Shimojima M, Nomura A, Tsuda T, Mori M, Takashima SI, Kato T, Usui S, Sakata K, Hayashi K, Fujino N, Inazu A, Takahara S, Imai Y, Matsubara T, Nohara A, Miwa K, Namura M, Terai H, Yoshida T, Araki T, Minamoto M, Aburao T, Ito Y, Nakanishi C, Kawasaki S, Todo Y, Koizumi J, Kita Y, Matsumoto H, Shintaku H, Hodatsu A, Ino H, Higashikata T, Takata M, Misawa K, Yamaguchi M, Noji Y, Osato K, Mabuchi T, Ichise T, Kaku B, Katsuda S, Fujimoto M, Uchiyama K, Fujioka K, Nakahashi T, Nozue T, Michishita I, Usuda K, Otowa K, Okeie K, Hirota S, Aburadani I, Kurokawa K, Takatori O, Hondo S, Oda H, Takata S, Murai H, Kinoshita M, Nagai H, Sekiguchi Y, Sakagami S, Omi W, Fujita C, Katsuki T, Ootsuji H, Igarashi A, Nakano M, Okura S, Maeno K, Mitamura Y, Sugimoto N, Yamamoto M, Akao H, Kajinami K, Takamura M, Kawashiri MA, Hokuriku-plus familial hypercholesterolaemia registry study: rationale and study design, BMJ Open. 10;10(9):e038623.2020

６４） Tada H, Okada H, Nomura A, Nohara A, Usui S, Sakata K, Takamura M, Kawashiri MA, A reassessment of the Japanese clinical diagnostic criteria of familial hypercholesterolemia in a hospital-based cohort using comprehensive genetic analysis, Pract Lab Med. 19;22:e00180. 2020

６５） Tada H, Shibayama J, Nishikawa T, Okada H, Nomura A, Usui S, Sakata K, Hashiba A, Inazu A, Takamura M, Kawashiri MA, Prevalence, self-awareness, and LDL cholesterol levels among patients highly suspected as familial hypercholesterolemia in a Japanese community, Pract Lab Med. 19;22:e00181.2020

６６） Philip J Barter, Shizuya Yamashita, Ulrich Laufs, Alvaro J Ruiz, Rody Sy, Mark David G. Fang, Emanuela Folco, Peter Libby,

Yuji Matsuzawa, Raul D. Santos. Gaps in beliefs and practice in dyslipidaemia management in Japan, Germany, Colombia and the Philippines: insights from a web-based physician survey. Lipids in Health and Disease 19:131, 2020

６７） Gerald F. Watts, Samuel S. Gidding, Pedro Mata, Jing Pang, David R. Sullivan, Shizuya Yamashita, Frederick J. Raal, Raul D. Santos, Kausik K. Ray. Familial hypercholesterolaemia: evolving knowledge for designing adaptive models of care. Nat Rev Cardiol. 17(6):360-377, 2020

６８） Yoshida H, Tada H, Ito K, Kishimoto Y, Yanai H, Okamura T, Ikewaki K, Inagaki K, Shoji T, Bujo H, Miida T, Yoshida M, Kuzuya M, Yamashita S. Reference Intervals of Serum Non-Cholesterol Sterols by Gender in Healthy Japanese Individuals. J Atheroscler Thromb. 1;27(5):409-417. 2020 May

６９） Yamashita S, Arai H, Bujo H, Masuda D, Ohama T, Ishibashi T, Yanagi K, Doi Y, Nakagawa S, Yamashiro K, Tanabe K, Kita T, Matsuzaki M, Saito Y, Fukushima M, Matsuzawa Y; PROSPECTIVE Study Group. Probucol Trial for Secondary Prevention of Atherosclerotic Events in Patients with Coronary Heart Disease (PROSPECTIVE). J Atheroscler Thromb. 2020 Apr 24.

７０） Suwa S, Ogita M, Takahashi N, Wada H, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Shimada K, Miyauchi K, Bujo H, Daida H. Impact of LR11 as Residual Risk on Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statins after First Percutaneous Coronary Intervention. Int Heart J. 30;61(3):470-475. 2020 May

７１） Shimizu M, Miyazaki T, Takagi A, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Hiki M, Shimada K, Daida H. Low coenzyme Q10 levels in patients with acute cardiovascular disease are associated with long-term mortality. Heart Vessels. 2020 Sep 16. doi: 10.1007/s00380-020-01698-7. Online ahead of print.PMID: 32939561

７２） Kamo Y, Fujimoto S, Aoshima C, Kawaguchi YO, Nozaki Y, Kudo A, Takahashi D, Takamura K, Hiki M, Tomizawa N, Kumamaru KK, Aoki S, Daida H. A study on the prevalence, distribution and related factors of heart valve calcification using coronary CT angiography. Int J Cardiol Heart Vasc. 2020 Jul 1;29:100571. doi: 10.1016/j.ijcha.2020.100571. eCollection 2020 Aug.PMID: 32642552

７３） Doi T, Hori M, Harada-Shiba M, Kataoka Y, Onozuka D, Nishimura K, Nishikawa R, Tsuda K, Ogura M, Son C, Miyamoto Y, Noguchi T, Shimokawa H, Yasuda S. Patients with *LDLR* and *PCSK9* Gene Variants Experienced Higher Incidence of Cardiovascular Outcomes in Heterozygous Familial Hypercholesterolemia. J Am Heart Assoc. 10: e018263, 2021

７４） Nishikawa R, Furuhashi M, Hori M, Ogura M, Harada-Shiba M, Okada T, Koseki M, Kujiraoka T, Hattori H, Ito R, Muranaka A, Kokubu N, Miura T. A Resuscitated Case of Acute Myocardial Infarction with both Familial Hypercholesterolemia Phenotype Caused by Possibly Oligogenic Variants of the PCSK9 and ABCG5 Genes and Type I CD36 Deficiency. J Atheroscler Thromb.in press.

７５） Michikura M, Ogura M, Hori M, Furuta K, Hosoda K, Harada-Shiba M. Achilles Tendon Softness as a New Tool for Diagnosing Familial Hypercholesterolemia. JACC Cardiovasc Imaging. In press.

７６） Nohara A, Tada H, Ogura M, Okazaki S, Ono K, Shimano H, Daida H, Dobashi K, Hayashi T, Hori M, Matsuki K, Minamino T, Yokoyama S, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Homozygous Familial Hypercholesterolemia. J Atheroscler Thromb.in press.

【LCAT 欠損症】

１） 小倉正恒（座長：松永彰,木原進士）：HDL 異常低値・異常高値の話題と原発性脂質異常症の診療・研究の方向性について，シンポジウム 6（日本動脈硬化学会との共催）原発性脂質異常症のスクリーニング，第 60 回日本臨床化学会・年次学術集会,2020 年 10 月 30 日～11 月 1 日（Web 開催）

２） 武城英明（座長：小倉正恒，千葉仁志）：低 HDL-C 血症の検査の進め方―LCAT 欠損症とタンジール病―，JSCC 国際学術シンポジウム HDL 研究のトピックス，第 60 回日本臨床化学会・年次学術集会,2020 年 10 月 30 日～11 月 1 日（Web 開催）

３） 黒田　正幸、石川　耕、前澤　善朗、三川信之、窪田　吉孝、青柳　靖之、浅田　咲世、

鬼武　彰宣、切無澤　美香、和田　淳、山本徳男、花岡　英紀、麻生　雅是、齋藤　康、横手　幸太郎（座長：斯波真理子，石橋俊）：LCAT 遺伝子導入脂肪細胞（LCAT-GMAC）による家族性 LCAT 欠損症の治療，シンポジウム 20，第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，7 月 17 日～7 月 31 日(Web 開催)

4） 小関正博：著名な低 HDL コレステロール血症をきたす原発性脂質異常症の臨床的特徴と鑑別，第 117 回日本内科学会総会・講演会　ポスター発表，2020 年 8 月 9 日（Web 開催）

5） 小倉正恒：【脂質がつなぐもの:生物工学的脂質研究が導く新しい学際研究と産業(後編)】HDL はまだ死んでいない，生物工学会誌 98(10)：536 - 539，2020.

6） 小倉正恒:令和時代の脂質異常症の診断と治療 update　動脈硬化予防における HDL-C 値の考え方，Medical View Point. Vol.41(8)，2，2020.

7） Yamamuro D, Yamazaki H, Osuga JI, Okada K, Wakabayashi T, Takei A, Takei S, Takahashi M, Nagashima S, Holleboom AG, Kuroda M, Bujo H, Ishibashi S. Esterification of 4β-hydroxycholesterol and other oxysterols in human plasma occurs independently of LCAT. J Lipid Res. 2020 Sep;61(9):1287-1299.

8） Yamamuro D, Yamazaki H, Osuga JI, Okada K, Wakabayashi T, Takei A, Takei S, Takahashi M, Nagashima S, Holleboom AG, Kuroda M, Bujo H, Ishibashi S. Esterification of 4β-hydroxycholesterol and other oxysterols in human plasma occurs independently of LCAT. J Lipid Res. 2020; 61: 1287-1299. doi: 10.1194/jlr.RA119000512.

9） Kuroda M, Bujo H, Yokote K, Murano T, Yamaguchi T, Ogura M, Ikewaki K, Koseki M, Takeuchi Y, Nakatsuka A, Hori M, Matsuki K, Miida T, Yokoyama S, Wada J, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Current Status of Familial LCAT Deficiency in Japan. J Atheroscler Thromb. in press.

【シトステロール血症】

1） Tada H：最新の方法論と将来展望②ゲノム疫学，第 84 回日本循環器学会学術集会，2020 年 7 月 27 日～8 月 2 日(Web 開催)

2） Tada H：本当は楽しい循環器遺伝学「ゲノム」アレルギーを無くそう！，第 84 回日本循環器学会学術集会，2020 年 7 月 27 日～8 月 2 日(Web 開催)

3） 池脇克則、佐々木誠、川尻剛照、多田隼人（座長：斯波真理子，石橋俊）：シトステロール血症の治療標的，シンポジウム 20 原発性脂質異常症の分子メカニズムと治療との関連，第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)

4） 高瀬暁，田中督記，岡崎佐智子，高梨幹生，李騁騁，石婧璇，飯塚陽子，門脇孝，山内敏正，岡崎啓明　：家族性高コレステロール血症と診断された症例に見出されたシトステロール血症，第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)

5） 多田隼人、高村雅之：脂質異常症　特集/ゲノム医療と分子標的治療の最新情報，臨床と研究　97 巻 4 号 51-57，2020

6） 多田隼人：LDL-C 値が高い患者に遭遇したら？，見直し！脂質異常症 63-68，2020

7） 塚本和久:シトステロール血症,今日の診断指針 第 8 版 （永井良三、総編集） 医学書院,pp 1199-1201,2020

8） 石垣　泰：脂質異常症－高 LDL コレステロール血症. 今日の治療指針　医学書院；2019：745-50

9） Yoshida H, Tada H, Ito K, Kishimoto Y, Yanai H, Okamura T, Ikewaki K, Inagaki K, Shoji T, Bujo H, Miida T, Yoshida M, Kuzuya M, Yamashita S. Reference Intervals of Serum Non-Cholesterol Sterols by Gender in Healthy Japanese Individuals, J Atheroscler Thromb. 2020 May 1;27(5):409-417

１０） Hayato Tada, Akihiro Nomura, Masatsune Ogura, Kazushige Dobashi, Kyoko Inagaki, Yasushi Ishigaki, Kimitoshi Nakamura, Katsunori Ikewaki, Kazuhisa Tsukamoto, Shizuya Yamashita, Masa-aki Kawashiri, Mariko Harada-Shiba. Diagnosis and management of sitosterolemia 2020. J Atheroscler Thromb, in press

１１） Kojima N, Tada H, Usui S, Sakata K, Hayashi K, Nohara A, Inazu A, Takamura M, Kawashiri MA, Serum sitosterol level predicting ABCG5 or ABCG8 genetic mutations, Clin Chim Acta. 2020 Aug;507:11-16

１２） Nomura A, Emdin CA, Won HH, Peloso GM, Natarajan P, Ardissino D, Danesh J, Schunkert H, Correa A, Bown MJ, Samani NJ, Erdmann J, McPherson R, Watkins H, Saleheen D, Elosua R, Kawashiri MA, Tada H, Gupta N, Shah SH, Rader DJ, Gabriel S, Khera AV, Kathiresan S, Heterozygous ABCG5 Gene

Deficiency and Risk of Coronary Artery Disease, Circ Genom Precis Med. 2020 Oct;13(5):417-423

１３） Tada H, Okada H, Nomura A, Yashiro S, Nohara A, Ishigaki Y, Takamura M, Kawashiri MA. Rare and Deleterious Mutations in ABCG5/ABCG8 Genes Contribute to Mimicking and Worsening of Familial Hypercholesterolemia Phenotype. Circ J. 2019; 83(9):1917-1924.

１４） Tada H, Nomura A, Ogura M, Ikewaki K, Ishigaki Y, Inagaki K, Tsukamoto K, Dobashi K, Nakamura K, Hori M, Matsuki K, Yamashita S, Yokoyama S, Kawashiri MA, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Desease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Diagnosis and Management of Sitosterolemia 2021. J Atheroscler Thromb.in press.

【タンジール病】

１） 小倉正恒（座長:松永彰,木原進士）： HDL 異常低値・異常高値の話題と原発性脂質異常症の診療・研究の方向性について，シンポジウム 6（日本動脈硬化学会との共催）原発性脂質異常症のスクリーニング，第 60 回日本臨床化学会・年次学術集会,2020 年 10 月 30 日～11 月 1 日（Web 開催）

２） 小倉正恒（座長：斯波真理子，石橋俊）：タンジール病の治療は可能か?,シンポジウム 20 原発性脂質異常症の分子メカニズムと治療との関連，第 52 回日本動脈硬化学会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)（総会プログラム・抄録集 143）

３） 武城英明（座長：小倉正恒，千葉仁志）： 低 HDL-C 血症の検査の進め方―LCAT 欠損症とタンジール病―，JSCC 国際学術シンポジウム「HDL 研究のトピックス」，第 60 回日本臨床化学会・年次学術集会,2020 年 10 月 30 日～11 月 1 日（Web 開催）

４） 小関正博：著名な低 HDL コレステロール血症をきたす原発性脂質異常症の臨床的特徴と鑑別，第 117 回日本内科学会総会・講演会，ポスター発表，2020 年 8 月 9 日（Web 開催）

５） 小倉正恒：【脂質がつなぐもの:生物工学的脂質研究が導く新しい学際研究と産業(後編)】HDL はまだ死んでいない，生物工学会誌 98(10)： 536 - 539，2020.

６） 小倉正恒:令和時代の脂質異常症の診断と治療 update 動脈硬化予防における HDL-C 値の考え方，Medical View Point. Vol.41(8)，2，2020.

７） Koseki M, Yamashita S, Ogura M, Ishigaki Y, Ono K, Tsukamoto K, Hori M, Matsuki K, Yokoyama S, Harada-Shiba M, on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Current Diagnosis and Management of Tangier Disease. J Atheroscler Thromb.in press.

【原発性高カイロミクロン血症】

１） Yamashita.S：Role of Pemafibrate in Cardiovascular Risk Reduction,〈Symposium: Lipid II〉Lipid Lowering Treatment, The 17th Asia-Oceania Congress of Endocrinology and the 8th Seoul International Congress of Endocrinology and Metabolism, 2020 年 10 月 28 日～10 月 31 日

２） Hiroaki Okazaki: “Critical Role of SREBP-1c Large-VLDL Pathway in Environment-induced Hypertriglyceridemia of apoA-V Deficiency” Presentations by the 2020 ATVB Journal Early Career Investigator Award Recipients (Daniel Steinberg Early Career Investigator Award in Atherosclerosis/Lipoproteins), Vascular Discovery: From Genes to Medicine Scientific Sessions 2020 (2020 年 5 月 Chicago, USA (virtual))

３） 山下静也：冠動脈疾患リスクとしての高 TG 血症とその治療～SPPARMα への期待～，ランチョンセミナー35 New Horizons of Residual Cardiovascular Risk，第 84 回日本循環器学会学術集会，2020 年 7 月 27 日～8 月 2 日(Web 開催)

４） 岡崎啓明（座長:松永彰,木原進士）： 著明な高トリグリセライド血症をみたら，シンポジウム 6（日本動脈硬化学会との共催）原発性脂質異常症のスクリーニング，第 60 回日本臨床化学会・年次学術集会,2020 年 10 月 30 日～11 月 1 日（東京・Web 開催）

５） 寺本 直弥、前澤 善朗、山口 崇、村野 武義、金子 ひより、南塚 拓也、馬場 雄介、林 愛子、木下 大輔、加藤 尚也、越坂 理也、中嶋 克行、村上 正巳、武城 英明、横手 幸太郎：抗 GPIHBP１抗体による高カイロミクロン血症の一例，第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)

６） 岡崎 啓明:中性脂肪の動脈硬化リスクに迫

る　中性脂肪と動脈硬化　分子遺伝学から考える，第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)

7）　岡崎 啓明、後藤田貴也(座長：斯波真理子，石橋俊)：原発性高カイロミクロン血症の治療標的，シンポジウム 20 原発性脂質異常症の分子メカニズムと治療との関連，第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2020 年 7 月 17 日～31 日(Web 開催)

8）　岡崎啓明：高中性脂肪血症の機序と対策，第 30 回臨床内分泌代謝 Update，2020 年 11 月（東京・Web 開催）

9）　岡崎啓明：環境と遺伝子~高 TG 血症はなぜ増悪するのか？，第 62 回日本脂質生化学会，2020 年 5 月　（東京・Web 開催）

10）小倉正恒:もっともっとくわしく知りたい! イラストでわかる脂質・脂肪酸・コレステロールのふしぎ 続発性脂質異常症，Nutrition Care 13(4) 335 - 338，2020.

11）小倉正恒：ω3 脂肪酸と動脈硬化予防，BIO INDUSTRY 37(10) 63 - 72，2020.

12）多田隼人、高村雅之：遺伝子研究・臨床研究から考察するスタチン残余リスクにおける高中性脂肪血症治療の意義，日本臨床生理学雑誌　Vol.50 No.3，101-107，2020

13）岡崎啓明:「血中脂質研究の今　環境と遺伝子　高 TG 血症はなぜ増悪するのか?」脂質生化学研究　62:8-11，2020.05

14）岡崎啓明：「糖尿病患者の脂質異常症」【糖尿病エキスパートブック　食事療法・栄養指導に活かす最新情報】「臨床栄養」136(6):853-858，2020.05

15）岡崎啓明：「TG 値が高い患者に遭遇したら?」jmedmook70「見直し!脂質異常症」2020.10

16）岡崎啓明：「原発性高カイロミクロン血症」新薬と臨牀 70(1)，2021（予定）

17）Tada H, Takamura M, Kawashiri MA, Genomics of hypertriglyceridemia, Adv Clin Chem. 2020;97:141-169

18）Chie Iitake, Daisaku Masuda, Masahiro Koseki, Shizuya Yamashita. Marked effects of novel selective peroxisome proliferator-activated receptor α modulator, pemafibrate in severe hypertriglyceridemia. Cardiovasc Diabetol 19:201, 2020 (https://doi.org/10.1186/s12933-020-01172-8

19）Shizuya Yamashita, Mitsuyo Okazaki, Takeshi Okada, Daisaku Masuda, Koutaro Yokote, Hidenori Arai, Eiichi Araki, Shun Ishibashi. Distinct differences in lipoprotein particle number evaluation between GP-HPLC and NMR: analysis in dyslipidemic patients administered a selective PPARα modulator, pemafibrate. J Atheroscler Thromb, in press

20）Shizuya Yamashita, Daisaku Masuda, Yuji Matsuzawa. Review: Pemafibrate, a new welective PPARα modulator: Drug concept and its clinical applications for dyslipidemia and metabolic diseases. Curr Atheroscler Rep. 2020 Jan 23;22(1):5. doi: 10.1007/s11883-020-0823-5.

21）Konishi H, Miyauchi K, Onishi A, Suzuki S, Fuchimoto D, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Daida H. Effect of pemafibrate (K-877), a novel selective peroxisome proliferator-activated receptor α modular (SPPARMα), in atherosclerosis model using low density lipoprotein receptor knock-out swine with balloon injury. PLoS One. 2020 Nov 17;15(11):e0241195. doi: 10.1371/journal.pone.0241195. eCollection 2020.PMID: 33201888

22）Sai E, Shimada K, Aikawa T, Aoshima C, Takamura K, Hiki M, Yokoyama T, Miyazaki T, Fujmoto S, Konishi H, Hirano KI, Daida H, Minamino T. Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy with Massive Myocardial Triglyceride which was Proven Using Proton-magnetic Resonance Spectroscopy. Intern Med. 2020 Nov 9. doi: 10.2169/internalmedicine.6126-20. Online ahead of print.PMID: 33162485

23）Takashi Yamamoto, Takanari Gotoda. Polygenic Architecture of Common Severe Hypertriglyceridemia.J Atheroscler Thromb, 2020 Dec 1;27(12):1255-1256. doi: 10.5551/jat.ED133. Epub 2020 Jun 4.PMID: 32493883 DOI: 10.5551/jat.ED133

24）Kawasaki M, Kambe A, Yamamoto Y, Arulmozhiraja S, Ito S, Nakagawa Y, Tokiwa H, Nakano S, Shimano H. Elucidation of Molecular Mechanism of a Selective PPARα Modulator, Pemafibrate, through Combinational Approaches of X-ray Crystallography, Thermodynamic Analysis, and First-Principle Calculations. Int J Mol Sci. 2020 Jan 6;21(1):361. doi: 10.3390/ijms21010361. PMID: 31935812; PMCID:PMC6981837.

25）Okazaki H, Gotoda T, Ogura M, Ishibashi S, Inagaki K, Daida H, Hayashi T, Hori M, Masuda D, Matsuki K, Yokoyama S,

Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Current Diagnosis and Management of Primary Chylomicronemia. J Atheroscler Thromb. in press.

【脳腱黄色腫症】

1） 小山信吾（座長：関島良樹）：脳腱黄色腫症の診断と病態に即した疾患修飾療法，シンポジウム 8，第 38 回日本神経治療学会学術大会，2020 年 10 月 29 日，東京

2） 稲葉雄二，関島良樹：小児期から認知されるべき疾患　脳腱黄色腫症．日本小児科学会雑誌　124(10)：1475-1483，2020

3） Koyama S, Sekijima Y, Ogura M, Hori M, Matsuki K, Miida T, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Cerebrotendinous Xanthomatosis: Molecular Pathogenesis, Clinical Spectrum, Diagnosis, and Disease-Modifying Treatments. J Atheroscler Thromb. in press.

【無βリポタンパク血症】

1） 高橋学、岡崎啓明、石橋俊（座長：斯波真理子，石橋俊）：無βリポタンパク血症の治療標的は存在するのか？，シンポジウム 20，原発性脂質異常症の分子メカニズムと治療との関連，第 52 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2020 年 7 月 17 日～31 日（Web 開催）

2） 矢作直也（大会長・企画：三井田孝）：著明な低脂血症をみたら，，シンポジウム 6（日本動脈硬化学会との共催）原発性脂質異常症のスクリーニング，第 60 回日本臨床化学会・年次学術集会，2020 年 10 月 30 日～11 月 1 日（東京・Web 開催）

3） Manabu Takahashi, Hiroaki Okazaki, Ken Ohashi, Masatsune Ogura, Shun Ishibashi, Sachiko Okazaki, Satoshi Hirayama, Mika Hori, Kota Matsuki, Shinji Yokoyama, Mariko Harada-Shiba, on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan. Current Diagnosis and Management of Abetalipoproteinemia. J Atheroscler Thromb. in press.

別紙４

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
斯波真理子	小児脂質異常症	水口雅，市橋光，崎山弘，伊藤秀一	今日の小児治療指針　第17版	医学書院		2020	253
小倉正恒	VI: 脂質異常症の治療 ３．LDL-Cを下げる	伊藤浩	そうだったんだ！脂質異常症(第２版)治療の新潮流を探る	文光堂	東京	2020	160-173
小倉正恒		小倉正恒	見直し！脂質異常症　あなたも名医！評価・処方の“いま”を押さえる	日本医事新報社	東京	2020	全１９７ページ（企画編集）
小倉正恒	５章.各疾患・ライフステージの心血管イベントリスク・治療の違いを知ろう！	小倉正恒	見直し！脂質異常症　あなたも名医！評価・処方の“いま”を押さえる	日本医事新報社	東京	2020	145-148
山下静也	Ⅱ　脂質異常症の病態と診断　3. LDLの目標値はなぜ病態で異なる？	伊藤浩	そうだったんだ！脂質異常症【第2版】治療の新潮流を探る	文光堂	東京	2020	61-67
山下静也	２．代謝・内分泌検査/B.脂質代謝　総コレステロール	大西宏明、Medical Practice編集委員会：矢崎義雄、小池和彦、小室一成、須永眞司、山内敏正	臨床検査ガイド2020年改訂版　これだけは必要な検査のすすめかた・データのよみかた	文光堂	東京	2020	287-294
石垣　泰	脂質異常症－高LDLコレステロール血症		今日の治療指針	医学書院		2019	745-750

野原 淳	2章　薬を知ろう！「4. 家族性高コレステロール血症ホモ接合体の治療, MTP阻害薬とアフェレシスについて教えて下さい」	小倉 正恒	見直し！脂質異常症 あなたも名医！評価・処方の“いま”を押さえる	日本医事新報社	東京	2020	52-62
野原 淳	I 症候編　1. 全身的にみられる症候　「脂質異常症」	永井 良三（総編集）, 浅利 靖 （ほか責任編集）	今日の診断指針 第８版	医学書院		2020	123-126
多田隼人	LDL-C値が高い患者に遭遇したら？	小倉 正恒	見直し！脂質異常症	日本医事新報社	東京	2020	63-68
塚本和久	シトステロール血症	永井良三、総編集	今日の診断指針 第8版	医学書院		2020	1199-1201
岡崎啓明	TG値が高い患者に遭遇したら?	小倉 正恒	見直し！脂質異常症	日本医事新報社	東京	2020	
内野卓也、塚本和久	脂質異常症の病態と診断、血液検査による評価	伊藤浩	そうだったんだ！脂質異常症	文光堂	東京	2020	77-82
原眞純、塚本和久	脂質異常症の治療計画	高血圧・循環器病予防療養指導士認定委員会	高血圧と循環器病の予防と管理 第二版	株式会社社会保険研究所		2020	259-265
塚本和久	脂質異常症―高LDLコレステロール血症	福井次矢、高木誠、小室一成	今日の治療指針 2021年版―私はこう治療している	医学書院		2021	774-777
山下静也	第VI章　内分泌・代謝系疾患　動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版(2017)/NEW 動脈硬化性疾患予防のための脂質異常症治療ガイド2018年版 (2018)	門脇 孝、小室一成、宮地良樹	日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2020-20212) 脂質異常症	メディカルレビュー社		2020	405-412
山下静也	第22章　脂質異常症用薬	監修：矢崎義雄、編集：松澤佑次、永井良三、伊藤貞嘉、松原和夫	ポケット判治療薬UP-TO-DATE 2020	メディカルレビュー社		2020	320-340

山下静也	第22章　脂質異常症用薬	監修：矢崎義雄、編集：松澤佑次、永井良三、伊藤貞嘉、松原和夫	ポケット判治療薬UP-TO-DATE 2021	メディカルレビュー社		2021	
川尻剛照			その患者、FHかもしれませんよ？	メディカ出版	大阪	2021	136
小関正博、坂田泰史	脂質代謝の正常と異常	伊藤浩 坂田泰史	臨床循環器学	文光堂	日本	2021	222-229

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
小倉正恒	家族性高コレステロール血症ホモ接合体の管理	糖尿病・内分泌代謝科	51(2)	157 - 163	2020
小倉正恒	もっともっとくわしく知りたい!イラストでわかる脂質・脂肪酸・コレステロールのふしぎ 続発性脂質異常症	Nutrition Care	13(4)	335 - 338	2020
小倉正恒	ω3脂肪酸と動脈硬化予防	BIO INDUSTRY	37(10)	63 - 72	2020
多田隼人,岡田寛史,高村雅之,川尻剛照	遺伝子研究からみた脂質異常症	糖尿病・内分泌代謝科	51(2)	85-91	2020
土橋一重	小児疾患の薬物治療ガイドライン総まとめ	月刊薬事	増刊号	1425-1431	2020
土橋一重	綜説　小児家族性高コレステロール血症診療ガイド	小児科	61	878-886	2020
土橋一重	小児期における肥満・脂質異常症の治療	診断と治療	108	1381-1385	2020
山下静也	LDLコレステロールが高い状態を放置しないで	日医ニュース	令和2年8月5日号	健康ぷらざ No.533:1	2020
岡崎啓明	糖尿病患者の脂質異常症	【糖尿病エキスパートブック　食事療法・栄養指導に活かす最新情報】「臨床栄養」	136(6)	853-858	2020
岡崎啓明	PCSK9阻害薬を処方すべき患者とは	【いま知っておきたい!内科最新トピックス】内科	126(3)	2020	617-620
岡崎啓明	PCSK9阻害薬	診断と治療	108(10)	2020	
稲垣恭子	Lp(a)と動脈硬化	Medical View Point	41(8)	2020	4

稲垣恭子	MTP 阻害薬 (microsomal triglyceride transfer protein inhibitor) :ロミタピド	糖尿病・内分泌代謝科	51 (2)	2020	151-156
野原 淳	【脂質異常症と動脈硬化update】「PCSK9阻害薬」	糖尿病・内分泌代謝科	51 (2)	2020	129-135
野原 淳	動脈硬化予防のための肥満・脂質異常症診療戦略　肥満・脂質異常の病態・診断基準	診断と治療	108(10)	2020	1325-1333
小倉正恒	【脂質がつなぐもの:生物工学的脂質研究が導く新しい学際研究と産業(後編)】HDLはまだ死んでいない	生物工学会誌	98(10)	536 - 539	2020
小倉正恒	令和時代の脂質異常症の診断と治療update　動脈硬化予防におけるHDL-C値の考え方	Medical View Point	41(8)	2	2020
多田隼人、高村雅之	脂質異常症　特集/ゲノム医療と分子標的治療の最新情報	臨床と研究	97(4)	51-57	2020
多田隼人、高村雅之	遺伝子研究・臨床研究から考察するスタチン残余リスクにおける高中性脂肪血症治療の意義	日本臨床生理学雑誌	Vol.50 No.3	101-107	2020
岡崎啓明	血中脂質研究の今　環境と遺伝子　高TG血症はなぜ増悪するのか?	脂質生化学研究	62	8-11	2020

岡崎啓明	原発性高カイロミクロン血症	新薬と臨牀	70(1)		2021
稲葉雄二，関島良樹	小児期から認知されるべき疾患　脳腱黄色腫症	日本小児科学会雑誌	124(10)	1475-1483	2020
塚本和久	脳心血管病予防に関する包括的リスク管理チャート2019年版について	総合健診	47(5)	564-573	2020
男澤悠貴、塚本和久	脂質異常症の診断基準・鑑別診断	診断と治療	108(10)	1335-1340	2020
山下静也	特集：動脈硬化予防のための肥満・脂質異常症診療戦略　13.脂質異常症の薬物療法：治療開始のタイミングと管理目標値	診断と治療	108(10)	1353-1361	2020
山下静也	脂質異常症の検査と治療の最前線	日本内科学会雑誌			
小関正博	あなたも名医！Jmed70　評価・処方の“いま”を押さえる　見直し！脂質異常症	日本医事新報社	隔月号70号	77-82	2020

山下静也、増田大作、小倉正恒、岡村智教、神﨑恒一、梶波康二、佐藤加代子、塚本和久、土橋一重、秋下雅弘、浅田祐士郎、荒井秀典、石橋 俊、江頭健輔、葛谷雅文、斯波真理子、島野 仁、平田健一、横手幸太郎、木下　誠、横出正之、吉田雅幸	高脂血症治療薬開発のガイドライン	平成31年度厚生労働行政推進調査事業費補助金（医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業）「脂質異常症改善薬の臨床評価に関するガイドライン の合理化・国際整合化に向けた研究」（研究代表者：山下静也）2020年度 報告書	in press	in press	
山下静也、花田浩之、増田大作、倭正也、中尾彰太、松岡哲也	りんくう総合医療センターにおけるCOVID-19対応―自己完結型確定診断システムの構築と院内感染防止対策―	日本冠疾患学会雑誌	2	19-28	2020
山下静也	2020年度日本内科学会生涯教育講演会　Cセッション　脂質異常症の検査と治療の最前線	日本内科学会 雑誌	110(3)	546-555	2021
山下静也	特集　ドクターにお聞きしました　コレステロールと中性脂肪	すこぶる	第217号 冬号2021	6-11	2021
山下静也	Ⅲ章. 代謝疾患　1. 脂質代謝異常 1）リポ蛋白代謝とその調節機構	生涯教育シリーズ101 『日本医師会雑誌』特別号	(2)	in press	2021
Harada-Shiba M, Ali S, Gipe DA, Gasparino E, Son V, Zhang Y, Pordy R, Catapano AL	A randomized study investigating the safety, tolerability, and pharmacokinetics of evinacumab, an ANGPTL3 inhibitor, in healthy Japanese and Caucasian subjects	Atherosclerosis	314	33-40	2020

Yamashita S, Masuda D, Akishita M, Arai H, Asada Y, Dobashi K, Egashira K, Harada-Shiba M, Hirata K, Ishibashi S, Kajinami K, Kinoshita M, Kozaki K, Kuzuya M, Ogura M, Okamura T, Sato K, Shimano H, Tsukamoto K, Yokode M, Yokote K, Yoshida M	Guidelines on the Clinical Evaluation of Medicinal Products for Treatment of Dyslipidemia	J Atheroscler Thromb	27(11)	1246-1254	2020
Blom DJ, Harada-Shiba M, Rubba P, Gaudet D, Kastelein J J.P, Charng M-J, Pordy R, Donahue S, Ali S, Dong Y, Khilla N, Baccara-Dinet M, Rosenson R	Efficacy and safety of Alirocumab in adults with homozygous familial hypercholesterolemia The ODYSSEY HoFH trial	Journal of the American College of Cardiology	76(2)	131-142	2020
Hori M, Takahashi A, Son C, Ogura M, Harada-Shiba M	The first Japanese cases of familial hypercholesterolemia due to a known pathogenic APOB gene variant, c.10580 G>A: p.(Arg3527Gln)	J Clin Lipidol	14(4)	482-486	2020
Tada H, Hori M, Nomura A, Hosomichi K, Nohara A, Kawashiri MA, Harada-Shiba M	A catalog of the pathogenic mutations of LDL receptor gene in Japanese familial hypercholesterolemia	J Clin Lipidol	14(3)	346-351	2020
Hori M, Takahashi A, Son C, Ogura M, Harada-Shiba M	The benign c.344G > A: p.(Arg115His) variant in the LDLR gene interpreted from a pedigree-based genetic analysis of familial hypercholesterolemia	Lipids Health Dis	19(1)	62	2020

Wilemon KA, Patel J, Aguilar-Salinas C, Ahmed CD, Alkhnifsawi M, Almahmeed W, Alonso R, Al-Rasadi K, Badimon L, Bernal LM, Bogsrud MP, Braun LT, Brunham L, Catapano AL, Cillikova K, Corral P, Cuevas R, Defesche JC, Descamps OS, de Ferranti S, Eisele JL, Elikir G, Folco E, Freiberger T, Fuggetta F, Gaspar IM, Gesztes AG, Groselj U, Hamilton-Craig I, Hanauer-Mader G, Harada-Shiba M, Hastings G, Hovingh GK, Izar MC, Jamison A, Karlsson GN, Kayikcioglu M, Koob S, Koseki M, Lane S, Lima-Martinez MM, Lopez G, Martinez TL, Marais D, Marion L, Mata P, Maurina I, Maxwell D, Mehta R, Mensah GA, Miserez AR, Neely D, Nicholls SJ, Nohara A, Nordestgaard BG, Ose L, Pallidis A, Pang J, Payne J, Peterson AL, Popescu MP, Puri R, Ray KK, Reda A, Sampietro T, Santos RD, Schalkers I, Schreier L, Shapiro MD, Sijbrands E, Soffer D, Stefanutti C, Stoll M, Sy RG, Tamayo ML, Tilney MK, Tokgozoglu L, Tomlinson B, Vallejo-Vaz AJ, Vazquez-Cardenas A, de Luca PV, Wald DS, Watts GF, Wenger NK, Wolf M, Wood D, Zegerius A, Gaziano TA, Gidding SS	Reducing the clinical and public health burden of familial hypercholesterolemia: A global call to action	JAMA cardiology	5(2)	217-229	2020

Tada H, Okada H, Nomura A, Nohara A, Takamura M, Kawashiri MA	A Healthy Family of Familial Hypobetalipoproteinemia Caused by a Protein-truncating Variant in the PCSK9 Gene	Intern Med	59(6)	783-787	2020
Tada H, Usui S, Sakata K, Takamura M, Kawashiri MA	Low-Density Lipoprotein Cholesterol Level cannot be too Low: Considerations from Clinical Trials, Human Genetics, and Biology	J Atheroscler Thromb	1;27(6)	489-498	2020

Tada H, Okada H, Yoshida S, Shimojima M, Nomura A, Tsuda T, Mori M, Takashima SI, Kato T, Usui S, Sakata K, Hayashi K, Fujino N, Inazu A, Takahara S, Imai Y, Matsubara T, Nohara A, Miwa K, Namura M, Terai H, Yoshida T, Araki T, Minamoto M, Aburao T, Ito Y, Nakanishi C, Kawasaki S, Todo Y, Koizumi J, Kita Y, Matsumoto H, Shintaku H, Hodatsu A, Ino H, Higashikata T, Takata M, Misawa K, Yamaguchi M, Noji Y, Osato K, Mabuchi T, Ichise T, Kaku B, Katsuda S, Fujimoto M, Uchiyama K, Fujioka K, Nakahashi T, Nozue T, Michishita I, Usuda K, Otowa K, Okeie K, Hirota S, Aburadani I, Kurokawa K, Takatori O, Hondo S, Oda H, Takata S, Murai H, Kinoshita M, Nagai H, Sekiguchi Y, Sakagami S, Omi W, Fujita C, Katsuki T, Ootsuji H, Igarashi A, Nakano M, Okura S, Maeno K, Mitamura Y, Sugimoto N, Yamamoto M, Akao H, Kajinami K, Takamura M, Kawashiri MA	Hokuriku-plus familial hypercholesterolaemia registry study: rationale and study design	BMJ Open	10;10(9)	e038623	2020
Tada H, Okada H, Nomura A, Nohara A, Usui S, Sakata K, Takamura M, Kawashiri MA	A reassessment of the Japanese clinical diagnostic criteria of familial hypercholesterolemia in a hospital-based cohort using comprehensive genetic analysis	Pract Lab Med		19;22:e00180	2020

Tada H, Shibayama J, Nishikawa T, Okada H, Nomura A, Usui S, Sakata K, Hashiba A, Inazu A, Takamura M, Kawashiri MA	Prevalence, self-awareness, and LDL cholesterol levels among patients highly suspected as familial hypercholesterolemia in a Japanese community	Pract Lab Med		19;22:e00181	2020
Philip J Barter, Shizuya Yamashita, Ulrich Laufs, Alvaro J Ruiz, Rody Sy, Mark David G. Fang, Emanuela Folco, Peter Libby, Yuji Matsuzawa, Raul D. Santos	Gaps in beliefs and practice in dyslipidaemia management in Japan, Germany, Colombia and the Philippines: insights from a web-based physician survey	Lipids in Health and Disease	19	131	2020
Gerald F. Watts, Samuel S. Gidding, Pedro Mata, Jing Pang, David R. Sullivan, Shizuya Yamashita, Frederick J. Raal, Raul D. Santos, Kausik K. Ray	Familial hypercholesterolaemia: evolving knowledge for designing adaptive models of care	Nat Rev Cardiol	17(6)	360-377	2020
Yoshida H, Tada H, Ito K, Kishimoto Y, Yanai H, Okamura T, Ikewaki K, Inagaki K, Shoji T, Bujo H, Miida T, Yoshida M, Kuzuya M, Yamashita S	Reference Intervals of Serum Non-Cholesterol Sterols by Gender in Healthy Japanese Individuals	J Atheroscler Thromb	1;27(5)	409-417	2020
Yamashita S, Arai H, Bujo H, Masuda D, Ohama T, Ishibashi T, Yanagi K, Doi Y, Nakagawa S, Yamashiro K, Tanabe K, Kita T, Matsuzaki M, Saito Y, Fukushima M, Matsuzawa Y; PROSPECTIVE Study Group	Probucol Trial for Secondary Prevention of Atherosclerotic Events in Patients with Coronary Heart Disease (PROSPECTIVE)	J Atheroscler Thromb		doi: 10.5551/jat.55327. [Epub ahead of print]	2020

Suwa S, Ogita M, Takahashi N, Wada H, Dohi T, Kasai T, Okazaki S, Shimada K, Miyauchi K, Bujo H, Daida H	Impact of LR11 as Residual Risk on Long-Term Clinical Outcomes in Patients with Coronary Artery Disease Treated with Statins after First Percutaneous Coronary Intervention	Int Heart J	30;61(3)	470-475	2020
Shimizu M, Miyazaki T, Takagi A, Sugita Y, Ouchi S, Aikawa T, Shiozawa T, Hiki M, Takahashi S, Hiki M, Shimada K, Daida H	Low coenzyme Q10 levels in patients with acute cardiovascular disease are associated with long-term mortality	Heart Vessels		doi: 10.1007/s00380-020-01698-7. Online ahead of print.PMID: 32939561	2020
Kamo Y, Fujimoto S, Aoshima C, Kawaguchi YO, Nozaki Y, Kudo A, Takahashi D, Takamura K, Hiki M, Tomizawa N, Kumamaru KK, Aoki S, Daida H.	A study on the prevalence, distribution and related factors of heart valve calcification using coronary CT angiography	Int J Cardiol Heart Vasc	1;29:100571	doi: 10.1016/j.ijcha PMID: 32642552	2020
Todate Y, Uwano I, Yashiro S, Chida A, Hasegawa Y, Oda T, Nagasawa K, Honma H, Sasaki M, Ishigaki Y	High Prevalence of Cerebral Small Vessel Disease on 7T Magnetic Resonance Imaging in Familial Hypercholesterolemia	J Atheroscler Thromb	26(12)	1045-1053	2019
Tada H, Okada H, Nomura A, Yashiro S, Nohara A, Ishigaki Y, Takamura M, Kawashiri MA	Rare and Deleterious Mutations in ABCG5/ABCG8 Genes Contribute to Mimicking and Worsening of Familial Hypercholesterolemia Phenotype	Circ J	83(9)	1917-1924	2019

Jun Kido, Hironobu Inoue, Hiroshi Shimotsu, Yutaka Yoshida,Yosuke Suzuki, Kimitoshi Nakamura, Fumio Endo, Shirou Matsumoto	Effect of L-Carnitine on Amino Acid Metabolism in Elderly Patients Undergoing Regular Hemodialysis	Critical Care Nephrology - Research Article	49	614-621 DOI: 10.1159/000505609	2020
Yamamuro D, Yamazaki H, Osuga JI, Okada K, Wakabayashi T, Takei A, Takei S, Takahashi M, Nagashima S, Holleboom AG, Kuroda M, Bujo H, Ishibashi S	Esterification of 4β-hydroxycholesterol and other oxysterols in human plasma occurs independently of LCAT	J Lipid Res	61(9)	1287-1299	2020
Hayato Tada, Akihiro Nomura, Masatsune Ogura, Kazushige Dobashi, Kyoko Inagaki, Yasushi Ishigaki, Kimitoshi Nakamura, Katsunori Ikewaki, Kazuhisa Tsukamoto, Shizuya Yamashita, Masa-aki Kawashiri, Mariko Harada-Shiba	Diagnosis and management of sitosterolemia 2020	J Atheroscler Thromb			
Kojima N, Tada H, Usui S, Sakata K, Hayashi K, Nohara A, Inazu A, Takamura M, Kawashiri MA	Serum sitosterol level predicting ABCG5 or ABCG8 genetic mutations	Clin Chim Acta	507	11-16	2020

Nomura A, Emdin CA, Won HH, Peloso GM, Natarajan P, Ardissino D, Danesh J, Schunkert H, Correa A, Bown MJ, Samani NJ, Erdmann J, McPherson R, Watkins H, Saleheen D, Elosua R, Kawashiri MA, Tada H, Gupta N, Shah SH, Rader DJ, Gabriel S, Khera AV, Kathiresan S	Heterozygous ABCG5 Gene Deficiency and Risk of Coronary Artery Disease	Circ Genom Precis Med	13(5)	417-423	2020
Tada H, Takamura M, Kawashiri MA	Genomics of hypertriglyceridemia	Adv Clin Chem	97	141-169	2020
Chie Iitake, Daisaku Masuda, Masahiro Koseki, Shizuya Yamashita	Marked effects of novel selective peroxisome proliferator-activated receptor α modulator, pemafibrate in severe hypertriglyceridemia	Cardiovasc Diabetol	19	201	2020
Shizuya Yamashita, Mitsuyo Okazaki, Takeshi Okada, Daisaku Masuda, Koutaro Yokote, Hidenori Arai, Eiichi Araki, Shun Ishibashi	Distinct differences in lipoprotein particle number evaluation between GP-HPLC and NMR: analysis in dyslipidemic patients administered a selective PPARα modulator, pemafibrate	J Atheroscler Thromb			
Shizuya Yamashita, Daisaku Masuda, Yuji Matsuzawa	Review: Pemafibrate, a new welective PPARα modulator: Drug concept and its clinical applications for dyslipidemia and metabolic diseases	Curr Atheroscler Rep	22(1)	doi: 10.1007/s11883-020-0823-5	2020

Konishi H, Miyauchi K, Onishi A, Suzuki S, Fuchimoto D, Shitara J, Endo H, Wada H, Doi S, Naito R, Ogita M, Dohi T, Kasai T, Daida H	Effect of pemafibrate (K-877), a novel selective peroxisome proliferator-activated receptor α modular (SPPARMα), in atherosclerosis model using low density lipoprotein receptor knock-out swine with balloon injury	PLoS One	15(11)	e0241195. doi: 10.1371/journal.pone.0241195. eCollection 2020.PMID: 33201888	2020
Sai E, Shimada K, Aikawa T, Aoshima C, Takamura K, Hiki M, Yokoyama T, Miyazaki T, Fujmoto S, Konishi H, Hirano KI, Daida H, Minamino T	Triglyceride Deposit Cardiomyovasculopathy with Massive Myocardial Triglyceride which was Proven Using Proton-magnetic Resonance Spectroscopy	Intern Med		doi: 10.2169/internalmedicine.6126-20. Online ahead of print.PMID: 33162485	2020
Takashi Yamamoto, Takanari Gotoda	Polygenic Architecture of Common Severe Hypertriglyceridemia	J Atheroscler Thromb	27(12)	1255-1256 doi: 10.5551/jat.ED133. Epub 2020 Jun 4. PMID: 32493883 DOI: 10.5551/jat.ED133	2020
Kawasaki M, Kambe A, Yamamoto Y, Arulmozhiraja S, Ito S, Nakagawa Y, Tokiwa H, Nakano S, Shimano H	Elucidation of Molecular Mechanism of a Selective PPARα Modulator, Pemafibrate, through Combinational Approaches of X-ray Crystallography, Thermodynamic Analysis, and First-Principle Calculations	Int J Mol Sci	21(1): 361	doi: 10.3390/ijms21010361. PMID: 31935812; PMCID:PMC6981837	2020
Yinghong Zhu, Tohru Ohama, Ryota Kawase, Jiuyang Chang, Hiroyasu Inui, Kotaro Kanno, Takeshi Okada, Daisaku Masuda, Masahiro Koseki, Makoto Nishida, Yasushi Sakata, Shizuya Yamashita	Progranulin deficiency leads to enhanced age-related cardiac hypertrophy through complement C1q-induced β-catenin activation	J Mol Cell Cardiol	138	197-211	2020

Kouji Kajinami, Kazuhisa Tsukamoto, Niihari Koba, Ikuo Inoue, Masashi Yamakawa, Shigeaki Suzuki, Tadanori Hamano, Hidetsugu Saito, Yoshiro Saito, Satohiro Masuda, Takeo Nakayama, Tomonori Okamura, Shizuya Yamashita, Takehiro Kagawa, Junji Kaneyama, Akira Kuriyama, Rumi Tanaka, Aya Hirata: Statin Intolerance Clinical Guidelines Working Group; The Japan Society of Hepatology, Japanese Society of Neurology, Japan Atherosclerosis Society, The Japanese Society for the Study of Xenobiotics	Statin intolerance clinical guide 2018	J Atheroscler Thromb	27(4)	375-396 doi: 10.5551/jat.50948	2020
Robert Ross, Ian Neeland, Shizuya Yamashita, Iris Shai, Jacob Seidell, Paolo Magni, Raul dos Santos, Benoit Arsenault, Ada Cuevas, Frank Hu, Bruce Griffin, Alberto Zambon, Philip Barter, Jean-Claude Fruchart, Robert Eckel, Yuji Matsuzawa, Jean-Pierre Després	Waist circumference as a vital sign in clinical practice: a Consensus Statement from the IAS and ICCR Working Group on Visceral Obesity	Nature Reviews Endocrinology	16(3)	177-189	2020

Daisaku Masuda, Arihiro Kiyosue, Atsushi Hirayama, Junichiro Shimauchi, J. Antonio G. López, Kazumasa Miyawaki, Shizuya Yamashita	Evolocumab effects on lipoproteins, measured by high-performance liquid chromatography	J Atheroscler Thromb	27(11)	1183-1207	2020
A Report from the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Disease Asia Pacific Peripheral Artery Disease Consensus Statement Project Committee:Maria Teresa B. Abola, Jonathan Golledge, Tetsuro Miyata, Seung-Woon Rha, Bryan Yan, Timothy, Marie Simonette Ganzon, Salim Harris, Pankaj Kumar, Rama Krishna Pinjala, Peter Robless, Hiroyoshi Yokoi, Raden Suhartono, Jiang Zhisheng, Elaine Alajar, April Bermudez delos Santos, Elmer Jasper Llanes, Marjorie Obrado, Noemi Pestaño, Felix Eduardo Punzalan C, Bernadette Tumanan. Steering Committee: Edward Janus, Rody G. Sy, Fatima R. Collado, Florimond A. Garcia, Shizuya Yamashita	Asia Pacific Consensus Statement on the management of peripheral artery disease	J Atheroscler Thromb			

Shizuya Yamashita, Daisaku Masuda, Yuji Matsuzawa	Editorial: New horizons for an old, mysterious drug probucol	J Atheroscler Thromb			
Daisaku Masuda, Yuko Miyata, Shingo Matsui, Shizuya Yamashita	Omega-3 fatty acid ethyl esters improve low-density lipoprotein subclasses without increasing low-density lipoprotein-cholesterol levels: A phase 4, randomized study	Atherosclerosis	292	163-170	2020
Daisaku Masuda, Shizuya Yamashita	Postprandial glucose and triglyceride increases along with the endothelial malfunction were attenuated by the administration of SGLT2 inhibitor, empagliflozin	J Atheroscler Thromb		doi: 10.5551/jat.ED124. [Epub ahead of print]	2020
Takeshi Okada, Mizuki Sumida, Tohru Ohama, Yuki Katayama, Hiroyasu Inui, Kotaro Kanno, Daisaku Masuda, Masahiro Koseki, Makoto Nishida, Norihiro Kayahara, Yasushi Sakata, Shizuya Yamashita	Development of an enzyme-linked immunosorbent assay for oxidized high density lipoprotein and its Clinical application for cardiovascular risk assessment	J Atheroscler Thromb			
Shizuya Yamashita	New life for old heart drug	TRI (Translational Research Center for Medical Innovation) Advances: Research Highlight			2020
Shizuya Yamashita, Yuji Matsuzawa	Adiposity measures and mortality in an Asian population	Nature Reviews Endocrinology			

Cesare R Sirtori, Shizuya Yamashita, Maria Francesca Greco, Alberto Corsini, Gerald Watts, Massimiliano Ruscica	Recent advances in synthetic pharmacotherapies for dyslipidemias	Eur J Prevent Cardiol	27(15)	1576-1596	2020
Kimura M, Horie T, Baba O, Ide Y, Tsuji S, Ruiz Rodriguez R, Watanabe T, Yamasaki T, Otani C, Xu S, Miyasaka Y, Nakashima Y, Kimura T, Ono K	Homeobox A4 suppresses vascular remodeling by repressing YAP/TEAD transcriptional activity	EMBO Rep	21(4)	e48389. doi: 10.15252/embr.201948389.	2020
Yamamoto H, Kihara Y, Fujimoto S, Daida H, Kobuke K, Iwanaga Y, Miyazaki S, Kawasaki T, Fujii T, Kuribayashi S	Predictive value of the coronary artery calcium score and advanced plaque characteristics: Post hoc analysis of the PREDICT registry	J Cardiovasc Comput Tomogr		9:S1934-5925(20)30371-3. doi: 10.1016/j.jcct.2020.06.198. Online ahead of print. PMID: 32826204	2020
Nishitani-Yokoyama M, Miyauchi K, Shimada K, Yokoyama T, Ouchi S, Aikawa T, Kunimoto M, Yamada M, Honzawa A, Okazaki S, Tsujita H, Kobashi S, Daida H	Preliminary Pilot Study of Combined Effects of Physical Activity and Achievement of LDL-Cholesterol Target on Coronary Plaque Volume Changes in Patients with Acute Coronary Syndrome	J Clin Med	9(5)	1578 doi: 10.3390/jcm9051578.PMID: 32455937	2020
Kodama S, Fujihara K, Horikawa C, Sato T, Iwanaga M, Yamada T, Kato K,Watanabe K, Shimano H, Izumi T, Sone H	Diabetes mellitus and risk of new-onset and recurrent heart failure: a systematic review and meta-analysis	ESC HeartFail	7(5)	2146-2174 doi: 10.1002/ehf2.12782. Epub 2020 Jul 29. PMID:32725969; PMCID: PMC7524078.	2020

Manda CM, Hokimoto T, Okura T, Isoda H, Shimano H, Wagatsuma Y	Handgrip strength predicts new prediabetes cases among adults: A prospective cohort study	Prev Med Rep	17	101056 doi: 10.1016/j.pmedr.2020.101056. PMID: 32071846; PMCID: PMC7016270.	2020
Tada H, Takamura M, Kawashiri MA	Familial Hypercholesterolemia: A Narrative Review on Diagnosis and Management Strategies for Childrен and Adolescents	Vasc Health Risk Manag	17	59-67	2021
Kido, J., Matsumoto, S., Ito, T., Hirose, S., Fukui, K., Kojima-Ishii, K., Mushimoto, Y., Yoshida, S., Ishige, M., Sakai, N., Nakamura, K.	Physical, cognitive, and social status of patients with urea cycle disorders in Japan	Molecular Genetics and Metabolism Reports	27	100724	2021
Okuyama, T., Eto, Y., Sakai, N., Nakamura, K., Yamamoto, T., Yamaoka, M., Ikeda, T., So, S., Tanizawa, K., Sonoda, H., Sato, Y.	A Phase 2/3 Trial of Pabinafusp Alfa, IDS Fused with Anti-Human Transferrin Receptor Antibody, Targeting Neurodegeneration in MPS-II	Molecular Therapy	29 (2)	671-679	2021
Katayama, D., Baba, H., Kuwabara, T., Kido, J., Mitsubuchi, H., Matsumoto, S., Nakamura, K.	SGLT2 inhibition alleviated hyperglycemia, glucose intolerance, and dumping syndrome-like symptoms in a patient with glycogen storage disease type Ia: a case report	Journal of Medical Case Reports	15		2021

Omote K, Yokota I, Nagai T, Sakuma I, Nakagawa Y, Kamiya K, Iwata H, Miyauchi K, Ozaki Y, Hibi K, Hiro T, Fukumoto Y, Mori H, Hokimoto S, Ohashi Y, Ohtsu H, Ogawa H, Daida H, Iimuro S, Shimokawa H, Saito Y, Kimura T, Matsuzaki M, Nagai R, Anzai T	High-Density Lipoprotein Cholesterol and Cardiovascular Events in Patients with Stable Coronary Artery Disease Treated with Statins: An Observation from the REAL-CAD Study	J Atheroscler Thromb			2021
Minami-Takano A, Iwata H, Miyosawa K, Shiozawa T, Hayashi H, Funamizu T, Ishii K, Nozaki Y, Tabuchi H, Sekita G, Shimada K, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Daida H, Minamino T	The association between impairment of HDL cholesterol efflux capacity and atrial remodeling in atrial fibrillation	Sci Rep	11	3547	2021
Goto M, Hagiwara A, Fujita S, Hori M, Kamagata K, Aoki S, Abe O, Sakamoto H, Sakano Y, Kyogoku S, Daida H	Influence of Mild White Matter Lesions on Voxel-based Morphometry	Magnetic resonance in medical sciences : MRMS : an official journal of Japan Society of Magnetic Resonance in Medicine	20	40-6	2021

Fukase T, Dohi T, Kato Y, Chikata Y, Takahashi N, Endo H, Doi S, Nishiyama H, Okai I, Iwata H, Okazaki S, Isoda K, Miyauchi K, Daida H, Minamino T	Long-term clinical outcomes and cause of death after endovascular treatment for femoropopliteal artery lesions	J Cardiol	77	417-23	2021
Aoshima C, Fujimoto S, Kawaguchi YO, Dohi T, Kamo Y, Takamura K, Hiki M, Kato Y, Okai I, Okazaki S, Kumamaru KK, Aoki S, Daida H	Plaque characteristics on coronary CT angiography associated with the positive findings of fractional flow reserve and instantaneous wave-free ratio	Heart Vessels	36	461-71	2021
Doi T, Hori M, Harada-Shiba M, Kataoka Y, Onozuka D, Nishimura K, Nishikawa R, Tsuda K, Ogura M, Son C, Miyamoto Y, Noguchi T, Shimokawa H, Yasuda S.	Patients with *LDLR* and *PCSK9* Gene Variants Experienced Higher Incidence of Cardiovascular Outcomes in Heterozygous Familial Hypercholesterolemia	J Am Heart Assoc	10	E018263	2021
Nishikawa R, Furuhashi M, Hori M, Ogura M, Harada-Shiba M, Okada T, Koseki M, Kujiraoka T, Hattori H, Ito R, Muranaka A, Kokubu N, Miura T.	A Resuscitated Case of Acute Myocardial Infarction with both Familial Hypercholesterolemia Phenotype Caused by Possibly Oligogenic Variants of the PCSK9 and ABCG5 Genes and Type I CD36 Deficiency	J Atheroscler Thromb	In press	In press	2021

Michikura M, Ogura M, Hori M, Furuta K, Hosoda K, Harada-Shiba M.	Achilles Tendon Softness as a New Tool for Diagnosing Familial Hypercholesterolemia	JACC Cardiovasc Imaging	In press	In press	2021
Jiuyang Chang, Masahiro, Koseki, Ayami Saga, Kotaro Kanno, Tomoaki Higo, Daisuke Okuzaki, Takeshi Okada, Hiroyasu Inui, Masumi Asaji, Yinghong Zhu, Yoshihiro Kamada, Masafumi Ono, Toshiji Saibara, Ikuyo Ichi, Tohru Ohama, Makoto Nishida, Shizuya Yamashita, Yasushi Sakata	Dietary oxysterol, 7-ketocholesterol, accelerates hepatic lipid accumulation and macrophage infiltration in obese mice	Front Endocrinol (Lausanne)		Mar 10;11:614692. doi: 10.3389/fendo.2020.614692. eCollection	2020
Shizuya Yamashita, Daisaku Masuda, Yuji Matsuzawa	New horizons for an old, mysterious drug probucol	J Atheroscler Thromb	28(2)	100-102	2021

Hidenori Arai, Hideaki Bujo, Daisaku Masuda, Toshiyuki Ishibashi, Satoshi Nakagawa, Koichi Yamashiro, Kenichiro Tanabe, Kenichi Kagimura, Hyun-Jae Kang, Moo Hyun Kim, Jidong Sung, Sang-Hyun Kim, Cheol-Ho Kim, Jeong Euy Park, Junbo Ge, Byung-Hee Oh, Toru Kita, Masunori Matsuzaki, Yasushi Saito, Masanori Fukushima, Yuji Matsuzawa, Shizuya Yamashita	Integrated analysis of two probucol trials for the secondary prevention of atherosclerotic cardiovascular events -PROSPECTIVE and IMPACT-	J Atheroscler Thromb	in press	in press	
Shizuya Yamashita, Daisaku Masuda, Mariko Harada-Shiba, Hidenori Arai, Hideaki Bujo, Shun Ishibashi, Hiroyuki Daida, Nobuhiko Koga, Shinichi Oikawa on Behalf of the FAME Study Group	Effectiveness and safety of lipid-lowering drug treatments in Japanese patients with familial hypercholesterolemia: Familial Hypercholesterolemia Expert Forum (FAME) Study	J Atheroscler Thromb	in press	in press	
Koutaro Yokote, Shizuya Yamashita, Hidenori Arai, Eiichi Araki, Mitsunori Matsushita, Toshiaki Nojima, Hideki Suganami, Shun Ishibashi	Effects of pemafibrate on glucose metabolism markers and liver function tests in patients with hypertriglyceridemia: A pooled analysis of six phase 2 and phase 3 randomized double-blind placebo-controlled clinical trials	Cardiovasc Diabeto	in press	in press	

Daisaku Masuda, Shizuya Yamashita	Editorial: Serum HDL-cholesterol level does not influence cardiovascular event rate under sufficient lowering of LDL-cholesterol by pitavatatin in patients with stable coronary artery disease	J Atheroscler Thromb		doi: 10.5551/jat.ED165. Online ahead of print	2021
Masatsune Ogura, Mariko Harada-Shiba, Daisaku Masuda, Hidenori Arai, Hideaki Bujo, Shun Ishibashi, Hiroyuki Daida, Nobuhiko Koga, Shinichi Oikawa, Shizuya Yamashita, on Behalf of the FAME Study Group	Factors Associated with Carotid Atherosclerosis and Achilles Tendon Thickness in Japanese Patients with Familial Hypercholesterolemia: A Subanalysis of the Familial Hypercholesterolemia Expert Forum (FAME) Study	J Atheroscler Thromb	in press	in press	
Nishikawa R, Furuhashi M, Hori M, Ogura M, Harada-Shiba M, Okada T, Koseki M, Kujiraoka T, Hattori H, Ito R, Muranaka A, Kokubu N and Miura T.	A Resuscitated Case of Acute Myocardial Infarction with both Familial Hypercholesterolemia Phenotype Caused by Possibly Oligogenic Variants of the PCSK9 and ABCG5 Genes and Type I CD36 Deficiency	J Atheroscler Thromb			2021
Nakamura M, Ako J, Arai H, Hirayama A, Nohara A, Murakami Y, Ozaki A and Harada-Shiba M	Lipid Management and 2-Year Clinical Outcomes in Japanese Patients with Acute Coronary Syndrome: EXPLORE-J	J Atheroscler Thromb			2021

Michikura M, Ogura M, Hori M, Furuta K, Hosoda K and Harada-Shiba M	Achilles Tendon Softness as a New Tool for Diagnosing Familial Hypercholesterolemia	JACC Cardiovasc Imaging			2021
Harada-Shiba M	How Can We Improve the Diagnosis Rate of Familial Hypercholesterolemia by Amending Diagnosis Criteria?	Circ J			2021
Doi T, Hori M, Harada-Shiba M, Kataoka Y, Onozuka D, Nishimura K, Nishikawa R, Tsuda K, Ogura M, Son C, Miyamoto Y, Noguchi T, Shimokawa H and Yasuda S	Patients With LDLR and PCSK9 Gene Variants Experienced Higher Incidence of Cardiovascular Outcomes in Heterozygous Familial Hypercholesterolemia	J Am Heart Assoc		10:e018263	2021

Nohara A, Tada H, Ogura M, Okazaki S, Ono K, Shimano H, Daida H, Dobashi K, Hayashi T, Hori M, Matsuki K, Minamino T, Yokoyama S, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Homozygous Familial Hypercholesterolemia.	J Atheroscler Thromb	In press	In press	2021
Kuroda M, Bujo H, Yokote K, Murano T, Yamaguchi T, Ogura M, Ikewaki K, Koseki M, Takeuchi Y, Nakatsuka A, Hori M, Matsuki K, Miida T, Yokoyama S, Wada J, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Current Status of Familial LCAT Deficiency in Japan.	J Atheroscler Thromb	In press	In press	2021

Tada H, Nomura A, Ogura M, Ikewaki K, Ishigaki Y, Inagaki K, Tsukamoto K, Dobashi K, Nakamura K, Hori M, Matsuki K, Yamashita S, Yokoyama S, Kawashiri MA, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Desease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Diagnosis and Management of Sitosterolemia 2021.	J Atheroscler Thromb	In press	In press	2021
Masahiro Kosek i, Shizuya Yamashita, Masatsune Ogura, Yasushi Ishigaki, Koh Ono, Kazuhisa Tsukamoto, Mika Hori, Kota Matsuki, Shinji Yokoyama, Mariko Harada-Shiba, on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan	Current Diagnosis and Management of Tangier Disease	J Atheroscler Thromb	In press	In press	2021

Okazaki H, Gotoda T, Ogura M, Ishibashi S, Inagaki K, Daida H, Hayashi T, Hori M, Masuda D, Matsuki K, Yokoyama S, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Current Diagnosis and Management of Primary Chylomicronemia.	J Atheroscler Thromb	In press	In press	2021
Koyama S, Sekijima Y, Ogura M, Hori M, Matsuki K, Miida T, Harada-Shiba M; Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan.	Cerebrotendinous Xanthomatosis: Molecular Pathogenesis, Clinical Spectrum, Diagnosis, and Disease-Modifying Treatments	J Atheroscler Thromb	In press	In press	2021

Manabu Takahashi, Hiroaki Okazaki, Ken Ohashi, Masatsune Ogura, Shun Ishibashi, Sachiko Okazaki, Satoshi Hirayama, Mika Hori, Kota Matsuki, Shinji Yokoyama, Mariko Harada-Shiba, on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan	Current Diagnosis and Management of Abetalipoproteinemia	J Atheroscler Thromb	In press	In press	2021

資料 1-1 班会議次第

日時：令和 2 年 1 月 5 日（日）9 時から 15 時
場所：日内会館（本郷 3 丁目）4 階会議室
参加人数：41 名（谷口倫子先生含む）

斯波班長挨拶
（＋遺伝学用語改訂について）
議題１．年度タイムスケジュールの確認
議題２．次回班会議の方式・日程・場所
議題３．成果申告書と計画書の提出報告
議題４．厚生労働科学研究費補助金経費使用について
議題５．患者会との連携についての報告
議題６．班独自の HP の現状報告
議題７．英文総説の公表スケジュールについて
議題８．患者向け資料作成と HP へのアップロード
議題９． AMED-臨床ゲノム情報統合データベース整備事業（溝上班）の報告
議題 10. 関連学会シンポジウム等での疾患啓発計画
議題 11. PROLIPID の拡充と現状・将来展望
議題 12. 指定難病患者データベース及び小児慢性特定疾病児童等データベースの
第三者利用
議題 13. 成人指定難病と小児慢性特定疾病の疾患の不一致
アポ A-I 欠損症・アポ E 欠損症（異常症）の診断基準作成と学会承認
議題 14. 診断基準改定案の学会承認・臨床調査個人票の班会議承認
議題 15. 診断・治療に必須だが未保険収載または効能追加要望項目の現状、進捗状況
議題 16. FH 健診スクリーニングの進捗状況
議題 17. FH、LCAT 欠損症に関する国際協調
議題 18. FH の新しい治療選択に関わる諸問題
議題 19. その他
厚生労働省健康局難病対策課　谷口倫子先生による総括・ご助言

資料 1－2　班会議（令和 2 年 9 月 6 日（日））会議次第

日時：令和 2 年 9 月 6 日（日）13 時から 15 時 30 分
場所：ZOOM を用いた WEB 会議
参加人数：42 名（武田真治先生含む）

斯波班長挨拶
議題 1．全担当疾患のレジストリシステム構築（PROLIPID の拡充）
議題 2. 指定難病患者及び小児慢性特定疾病児童等データベースの第三者利用
議題 3. 班独自のホームページの作成・公開
議題 4. 全担当疾患の総説の執筆と公開
議題 5. 患者向けの療養上の注意点等のまとめと班 HP での公開
議題 6. 関連学会シンポジウム等での疾患啓発の実施
議題 7. 現行診断基準の妥当性評価と次期改訂への準備
議題 8. 診断・治療に必須だが未保険収載または効能追加が望ましい項目の明確化
議題 9. 小児成人移行期医療の課題の明確化と対策
議題 10. FH ホモ接合体の臨床個人調査票に関する論点
議題 11. FH の新しい治療をめぐる諸問題
議題 12. FH の新しい診断基準・診療ガイドライン作成
議題 13. FH のスクリーニングのあり方に関する研究
国立保健医療科学院・研究事業推進官　武村真治先生による総括

資料 1－3　班会議（令和 3 年 1 月 11 日（月祝））会議次第予定

日時：令和 3 年 1 月 11 日（日）13 時から 15 時 30 分
場所：ZOOM を用いた WEB 会議
参加人数：42 名（武田真治先生含む）

斯波班長挨拶
議題 1．全担当疾患のレジストリシステム構築（PROLIPID の拡充）
議題 2. 指定難病患者及び小児慢性特定疾病児童等データベースの第三者利用
議題 3. 班独自のホームページの作成・公開
議題 4. 全担当疾患の総説の執筆と公開
議題 5. 患者向けの療養上の注意点等のまとめと班 HP での公開
議題 6. 関連学会シンポジウム等での疾患啓発の実施
議題 7. 現行診断基準の妥当性評価と次期改訂への準備
議題 8. 診断・治療に必須だが未保険収載または効能追加が望ましい項目の明確化
議題 9. 小児成人移行期医療の課題の明確化と対策
議題 10. FH ホモ接合体の臨床個人調査票に関する論点
議題 11. FH の新しい治療をめぐる諸問題
議題 12. FH の新しい診断基準・診療ガイドライン作成
議題 13. FH のスクリーニングのあり方に関する研究
議題 14. FH ホモ接合体の全例登録の可否について
議題 15. 難病患者に対する就労支援に関する周知

資料2

The official journal of the Japan Atherosclerosis Society and
the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases

Review

J Atheroscler Thromb, 2021; 28: 000-000. http://doi.org/10.5551/jat.RV17050

Homozygous Familial Hypercholesterolemia

Atsushi Nohara[1], Hayato Tada[2], Masatsune Ogura[3], Sachiko Okazaki[4], Koh Ono[5], Hitoshi Shimano[6], Hiroyuki Daida[7], Kazushige Dobashi[8], Toshio Hayashi[9], Mika Hori[10], Kota Matsuki[11], Tetsuo Minamino[12], Shinji Yokoyama[13], and Mariko Harada-Shiba[14] on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan[†]

[1]Department of Clinical Genetics, Ishikawa Prefectural Central Hospital, Kanazawa, Japan
[2]Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan
[3]Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan
[4]Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, Tokyo, Japan
[5]Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan
[6]Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Faculty of Medicine University of Tsukuba, Tsukuba, Japan
[7]Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan
[8]Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan
[9]School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan
[10]Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan
[11]Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan
[12]Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan
[13]Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan
[14]Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan

[†]**The Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan:** Mariko Harada-Shiba (Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Shun Ishibashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Shinji Yokoyama (Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan), Hitoshi Shimano (Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Faculty of Medicine University of Tsukuba, Tsukuba, Japan), Koutaro Yokote (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Hideaki Bujo (Department of Clinical-Laboratory and Experimental-Research Medicine, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Shizuya Yamashita (Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Kazuhisa Tsukamoto (Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan), Toshio Hayashi (School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan), Katsunori Ikewaki (Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan), Takanari Gotoda (Department of Metabolic Biochemistry, Faculty of Medicine, Kyorin University, Tokyo, Japan), Kazushige Dobashi (Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan), Yoshihiro Miyamoto (Open Innovation Center, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Misa Takegami (Department of Preventive Medicine and Epidemiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Yoshiki Sekijima (Department of Medicine (Neurology & Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan), Yasushi Ishigaki (Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan), Hiroaki Okazaki (Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Atsushi Nohara (Ishikawa Prefectural Central Hospital, Kanazawa, Japan), Shingo Koyama (Division of Neurology and Clinical Neuroscience, Department of Internal Medicine III, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan), Kyoko Inagaki (Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan), Koh Ono (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan), Masahiro Koseki (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan), Hiroyuki Daida (Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Manabu Takahashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Kimitoshi Nakamura (Department of Pediatrics, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan), Takashi Miida (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masa-aki Kawashiri (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan), Tetsuo Minamino (Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan), Sachiko Okazaki (Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Hayato Tada (Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan), Jun Wada (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University

Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Masatsune Ogura (Division of Lipid Metabolism, Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Hirotoshi Ohmura (Department of Cardiovascular Medicine, School of Medicine, Juntendo University, Tokyo, Japan), Mika Hori (Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan), Kota Matsuki (Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan), Masashi Yamamoto (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Yasuo Takeuchi (Division of Nephrology, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan), Atsuko Nakatsuka (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Daisaku Masuda (Department of Cardiology, Health Care Center, Rinku Innovation Center for Wellness Care and Activities (RICWA), Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Satoshi Hirayama (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masayuki Kuroda (Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, Chiba, Japan), Takashi Yamaguchi (Center of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Takeyoshi Murano (Clinical Laboratory Program, Faculty of Science, Toho University, Chiba, Japan).

Familial hypercholesterolemia (FH) is an inherited disorder with retarded clearance of plasma LDL caused by mutations of the genes involved in the LDL receptor-mediated pathway and most of them exhibit autosomal dominant inheritance. Homozygotes of FH (HoFH) may have plasma LDL-C levels, which are at least twice as high as those of heterozygous FH (HeFH) and therefore four times higher than normal levels. Prevalence of HoFH had been estimated as 1 in 1,000,000 before but more recent genetic analysis surveys predict 1 in 170,000 to 300,000. Since LDL receptor activity is severely impaired, HoFH patients do not or very poorly respond to medications to enhance activity, such as statins, and have a poorer prognosis compared to HeFH. HoFH should therefore be clinically distinguished from HeFH. Thorough family studies and genetic analysis are recommended for their accurate diagnosis.

Fatal cardiovascular complications could develop even in the first decade of life for HoFH, so aggressive lipid-lowering therapy should be initiated as early as possible. Direct removal of plasma LDL by lipoprotein apheresis has been the principal measure for these patients. However, this treatment alone may not achieve stable LDL-C target levels and combination with drugs should be considered. The lipid-lowering effects of statins and PCSK9 inhibitors substantially vary depending on the remaining LDL receptor activity of individual patients. On the other hand, the action an MTP inhibitor is independent of LDL receptor activity, and it is effective in most HoFH cases.

This review summarizes the key clinical issues of HoFH as well as insurance coverage available under the Japanese public healthcare system.

Key words: **Homozygous familial hypercholesterolemia, Family study, Genetic diagnosis, Lipoprotein apheresis, MTP inhibitor, PCSK9 inhibitor, Cutaneous and Tendon Xanthoma, Aortic Supra-valvular stenosis**

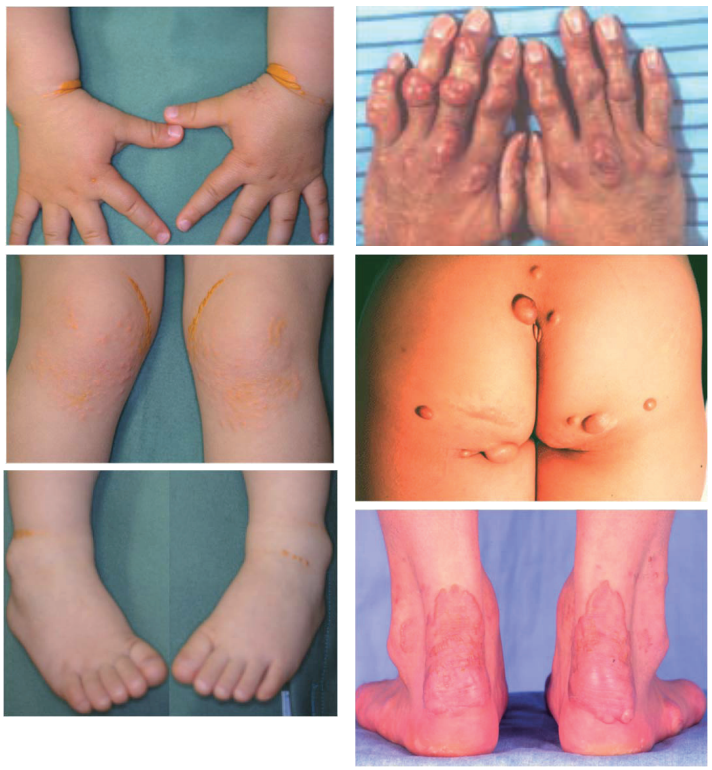
Introduction

Familial hypercholesterolemia (FH) is an inherited disorder of lipoprotein metabolism caused by mutations of the genes involved in the LDL receptor-mediated pathway for cellular uptake of LDL. Most FH patients show an autosomal dominant trait. Hyper-LDL-cholesterolemia remains throughout their lives and causes premature coronary heart disease unless properly treated[1-3].

Early diagnosis and initiation of lipid-lowering therapy is essential for preventing development of cardiovascular complications, even in Japan where cardiovascular disease is not the leading cause of death and its prevalence among FH patients seems to be somewhat lower than in Western countries. Heterozygous FH (HeFH) patients who carry the mutated gene in a single allele have plasma LDL cholesterol (LDL-C) levels double normal or higher and may experience the first cardiovascular event as

Address for correspondence: Atsushi Nohara, Department of Clinical Genetics, Ishikawa Prefectural Central Hospital, 2-1 Kuratsuki-Higashi, Kanazawa, Ishikawa 920-8530, Japan E-mail: atsushinohara@mac.com

Received: March 15, 2021 Accepted for publication: March 16, 2021



A 3-year-old patient: wrists, knees, ankles

Adult cases: fingers, buttocks, Achilles tendon

Fig. 1. Cutaneous and Tendon Xanthomas in HoFH

Presence of cutaneous xanthomas from childhood is strongly suggestive of HoFH, and tendon xanthomas are generally prominent in adults with HoFH.

early as their thirties. With mutations in both alleles, homozygous FH (HoFH) exhibits LDL-C levels twice those of HeFH, or even higher, and patients develop cardiovascular complications even in the first decade of their lives. Most HoFH is refractory to statins and other standard lipid-lowering drugs as most of them depend on remaining LDL receptor activity. Thus, HoFH has a poor prognosis compared to HeFH and therefore, earlier diagnosis and more aggressive treatments are required to prevent premature death.

1. Clinical Manifestations of HoFH

Familial hypercholesterolemia (FH) is a disease with a triad of clinical characteristics: elevated LDL-C, cutaneous and/or tendon xanthomas, and premature atherosclerotic cardiovascular disease (ASCVD). A genetic defect in LDL receptor function is the cause of FH, and activity of the LDL receptor is completely or almost completely absent in HoFH patients. HoFH includes homozygotes or compound/double heterozygotes of autosomal-dominant disease-causing mutations in the related genes, and their parents are HeFH, but there are rare exceptions that exhibit autosomal recessive inheritance[4, 5].

1) Elevated LDL-C Levels

HoFH patients have very high LDL-C levels from birth, which puts them at very high-risk of coronary heart disease. Plasma LDL-C levels are more than 500 mg/dL in many cases of genetically confirmed HoFH, but there is considerable variation in lipid levels among patients. Those with LDL-C levels over 370 mg/dL (or total cholesterol levels over 450 mg/dL) in the fasting steady state should consult with specialists as they are probably cases of HoFH.

2) Cutaneous and Tendinous Xanthomas (Fig. 1)

Characteristic cutaneous xanthomas that have developed since infancy are physical findings suggestive of HoFH. They are commonly found on the extensor surfaces of the elbows/knees and wrist/gluteal regions and parents often take a child to a

doctor for the first visit because of them[6]. Tendon xanthomas are pathognomonic for both HeFH and HoFH, but not apparent during childhood and gradually appear around puberty. Xanthomas can be repressed or made to regress with continuous aggressive lipid-lowering treatment.

3) ASCVD

The prognosis for untreated HoFH is extremely poor. It is difficult for patients to live beyond 30 years without treatment. The LDL-C accumulation threshold hypothesis, which uses a calculation of [LDL-C x years of life], has been proposed as a rational explanation for the coronary risk of FH, and according to it, the coronary threshold of HoFH would be around 11 years old even for individuals with lower LDL-C levels[7]. Angina or myocardial infarction from infancy, as well as aortic supravalvular and/or valvular stenosis are often noted in HoFH **(Fig. 2)**, and may become the main cause of death in patients. Even with substantially effective treatment, systemic atherosclerosis, with such manifestations as aortic aneurysms, peripheral artery disease, and cerebrovascular disease, develops along with aging. Aggressive LDL-lowering treatments should be started as young as possible to prevent these atherosclerotic complications.

2. Prevalence

In the 1970s, prevalence of HeFH was estimated as 1 in 500 in the general population, and accordingly, that of HoFH as 1 in 1,000,000 [8]. However, more recent molecular genetic studies have revealed that FH is more common than previously expected. HeFH is now estimated as 1 in 200 to 300 and HoFH as 1 in 170,000 to 300,000 in many countries including Japan[9-13].

3. Genetics

LDL receptor-related disease-causing mutations are identified only in 60 to 80% of clinically diagnosed HeFH[14-16]. Most of them are in the LDL receptor gene (*LDLR*), and those in apolipoprotein B-100 (coded as *APOB* gene), the main ligand for the LDL receptor, have also been reported mainly in Caucasian populations[17]. In 2003, gain-of-function mutations in *PCSK9*, the gene coding proprotein convertase subtilistin/kexin-type 9 and enhancer of LDL receptor degradation, were found. This was considered to be the second major FH-related gene, explaining 5% of HeFH in Japan[18].

Families with FH caused by mutations in *LDLR*, *APOB*, and *PCSK9* all show autosomal dominant inheritance. Since *LDLR* accounts for the majority of the FH mutations, most individuals with HoFH are "true homozygotes" or "compound heterozygotes" for two different mutations in *LDLR*. Some patients are "double heterozygotes", having combined mutations in *LDLR* and *PCSK9* [4], for example. The parents of HoFH children who are "true or compound heterozygotes" mostly show the HeFH phenotype. On the other hand, the family traits of HoFH "double heterozygotes" may not apparently exhibit simple Mendelian inheritance since the heterozygotes for PCSK9 show a variety of phenotypes.

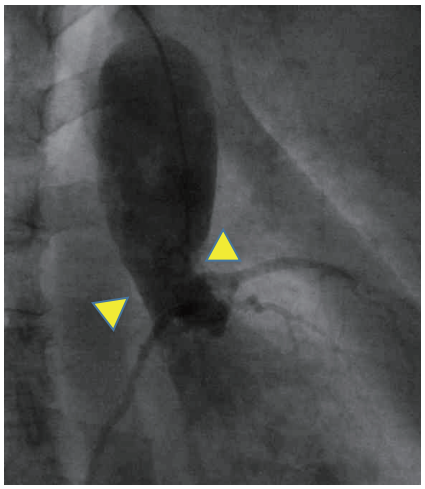


Fig. 2. Aortic Supra-valvular stenosis in HoFH

Supra-valvular stenosis is a pathognomonic finding of HoFH, and one of the causes of premature cardiac death in this disease.

It should be noted that HeFH is underdiagnosed and undertreated in the general population[3]. In the background of one suspected case of HoFH, there are many family members with HeFH , and they must be properly cared for in time to prevent their premature death.

Besides the mutations discussed above, those causing, autosomal recessive hypercholesterolemia (ARH), a rare unique type of FH have been reported in Japan[4, 5]. ARH is caused by mutations in a gene coding low-density lipoprotein receptor adaptor protein 1 (*LDLRAP1*). LDLRAP1 is an adaptor protein making a complex with clathrin and LDL receptors for efficient endocytosis of LDL receptors. Heterozygous carriers of this mutation do not exhibit the HeFH phenotype so it apparently shows autosomal recessive inheritance. If the parents in a probable case of HoFH have normolipidemia, ARH may be considered.

Disease-causing mutations cannot be identified in 20% to 40% of clinically diagnosed HeFH[19]. This may be due to still-unknown FH-related genes or limitations of analytic technologies. A clinical

Table 1. Diagnostic criteria for FH in children

1. Elevated serum LDL cholesterol levels: untreated LDL-C level of ≥ 140 mg/dL (If total cholesterol level is ≥ 220 mg/dL, measure LDL-C level)
2. Family history of FH or premature CAD (within second-degree relatives)
• Secondary hyperlipidemia should be ruled out.
• If a patient meets both of the above-mentioned criteria, FH is diagnosed.
• As LDL-C levels fluctuate during growth due to dietary and hormonal influences, careful examination is required.
• Clinical symptoms and findings including angina, xanthomas, and corneal arcus are rare in heterozygous FH children. Therefore, family history of FH is important in making diagnosis
• Premature CAD is defined as occurrence of CAD in men < 55 years old or in women < 65 years old.
• Homozygous FH should be suspected if patient has xanthomas.

Table 2. Diagnostic criteria for heterozygous FH in adults (15 years of age or older)

1. Hyper-LDL-cholesterolemia (an untreated LDL-C level of >=180 mg/dL)
2. Tendon xanthoma (tendon xanthoma on the backs of the hands, elbows, knees, etc. or Achilles tendon hypertrophy) or xanthoma tuberosum
3. Family history of FH or premature CAD (within the patient's second-degree relatives)
• The diagnosis should be made after excluding secondary hyperlipidemia.
• If a patient meets two or more of the above-mentioned criteria, the condition should be diagnosed as FH. In cases of suspected FH, obtaining a diagnosis using genetic testing is desirable.
• Xanthoma palpebrarum is not included in xanthoma tuberosum.
• Achilles tendon hypertrophy is diagnosed if the Achilles tendon thickness is >=9 mm on X- ray imaging.
• An LDL-C level of >=250 mg/dL strongly suggests FH.
• If a patient is already receiving drug therapy, the lipid level that led to treatment should be used as the reference for diagnosis.
• Premature CAD is defined as the occurrence of CAD in men < 55 years of age or women < 65 years of age, respectively.
• If FH is diagnosed, it is preferable to also examine the patient's family members.

diagnosis of typical HoFH cannot be excluded even if two pathogenic FH gene variants are not identified. A substantial portion of HeFH cases without "known" FH-gene mutations could be "polygenic hypercholesterolemia"[20] or "oligogenic FH"[21-23], though these concepts of FH have not become established. Although genetic analysis provides a definitive diagnosis of HoFH, the possibility of such cases cannot be excluded. Therefore, clinical assessment including thorough physical examination and familial studies is essential. For information, Japanese public healthcare insurance does not cover the expenses for HoFH genetic testing as of February 2021.

4. Pathophysiology

LDL receptor activity is completely or nearly all lost in HoFH. Severely elevated LDL-C levels from birth (more exactly, from fetal period[24]) often cause fatal cardiovascular disease even in infancy. As an example of cholesterol deposition in tissues, pathognomonic skin xanthomas develop from infancy in HoFH and tendon xanthomas become apparent later, and they are more prominent than those in HeFH.

5. Diagnostic Criteria in Japan

1) Clinical Diagnosis

A clinical diagnosis of HoFH can be made on the basis of skin or tendon xanthomas since infancy, and untreated LDL-C levels of twice those of HeFH or higher. Diagnostic criteria for FH in Japanese guidelines apply not only HeFH but also HoFH[1, 4] **(Table 1, Table 2)**. In cases with very high LDL-C and/or prominent xanthomas, HoFH should be suspected[25, 26].

Skin xanthomas since infancy are pathognomonic for HoFH, and sometimes the chief complaint for the first consultation with doctors[4] **(Fig. 1)**. Skin xanthomas in pediatric HoFH are frequently found in flexures of the wrist and ankles, and also in other regions having mechanical stress. Tendon xanthomas are more prominent than in HeFH[27], but become apparent later than skin xanthomas.

Typical HoFH exhibits total cholesterol levels of more than 600 mg/dL in total[1], but there is considerable overlapping of levels between HoFH and severe HeFH[28]. LDL-C levels over 370 mg/dL (or total cholesterol levels over 450 mg/dL) in the fasting steady state would be sufficient for a diagnosis of probable HoFH and the patient should be referred to

specialists. In pediatric patients, plasma LDL-C levels may fluctuate and should be measured multiple times.

Measurement of LDL receptor activity in the fibroblasts of patients provides useful information in diagnosing HoFH, but is currently not routinely available at the laboratories of commercial or research facilities in Japan. Assaying LDL receptor activity in lymphocytes is feasible[29] but less reliable than fibroblast measurements.

2) Genetic Diagnosis

Genetic testing is recommended for suspected HoFH cases, but is not covered by Japanese public healthcare insurance as of February 2021. Genetic diagnosis indicates the potential efficacy of drug treatment and thereby therapeutic strategies[30, 31]. Conversely, drug ineffectiveness (for example, refractory to PCSK9 inhibitors) may suggest the HoFH genotype so genetic tests should be considered in such cases[32].

The possibility of detecting an FH-causative mutation in HeFH is 60 to 80%. Therefore, diagnosis should be carefully made together with clinical examinations and detailed familial studies even in cases of suspected HoFH where the mutations detected are apparently in 0 alleles or only 1 allele, because a genetic test does not exclude the possibility of HoFH due to unknown gene mutations. Consultation with experienced specialists is required in such cases.

6. Screening/Follow-Up for ASCVD

Most HoFH patients may die of ASCVD before 30 years old if untreated[33, 34]. Once HoFH is suspected, extensive examination for ASCVD should be carried out. In HoFH, the potentially fatal disorders of angina pectoris, myocardial infarction, and aortic supra-valvular and valvular stenosis could occur even in childhood **(Fig. 2)**. Aortic supra-valvular and valvular stenosis in HoFH is sometimes difficult to treat and lethal[35]. If patients are left untreated until around 20 years old, ASCVD risk is extremely high. Heart and aortic disease proceeds and systemic atherosclerosis develops later in life.

Non-invasive tests such as cardiac ultrasonography, carotid ultrasonography, and electrocardiograms should be conducted first, and enhanced CT for the aorta and coronary artery and coronary angiography should be considered when necessary[36]. Exercise stress tests should be carefully performed with consideration for patient safety.

7. Differential Diagnosis

A differential diagnosis should be made using high LDL-C levels and prominent xanthomas. LDL-C may be elevated to HoFH levels by secondary hypercholesterolemia such as hypothyroidism or nephrotic syndrome. Xanthomas may develop due to hypercholesterolemia in primary biliary cholangitis. Sitosterolemia, caused by the ATP-binding cassette transporter ABCG5/ABCG8 gene (*ABCG5/ABCG8*) mutations[37], sometimes exhibits elevation of LDL-C and skin xanthomas comparable to HoFH during the suckling stage[38]. Although LDL-C elevation and skin xanthomas subside after weaning from breastfeeding, elevated levels of plasma plant-sterols (including sitosterol) persist in these patients. There is also cerebrotendinous xanthomatosis (CTX), an autosomal recessive disease caused by sterol 27-hydroxylase gene (*CYP27A*) mutations, which is characterized by prominent xanthomatosis in the tendon and brain and sometimes accompanied by central nervous symptoms (mental retardation, cognitive impairment, or motor ataxia)[39]. CTX is clinically diagnosed by elevated plasma cholestanol levels. A differential diagnosis should be carefully made because these diseases require specific therapeutic approaches.

8. Treatment of HoFH

HoFH patients may suffer fatal ASCVD from infancy so initiation of aggressive LDL-C lowering as early as possible is essential for preventing their premature deaths[1, 4] **(Fig. 3, Fig. 4)**. Specific therapeutic strategies for preventing ASCVD development in individual cases should be planned in addition to LDL lowering.

Patients as well as their families will be burdened by various sources of stress such as anxiety about prognosis, concern about heredity, and costs of treatments. Supportive information should be provided, including that on possible financial aid, the therapeutic options available, and genetic counseling. Financial aid is available under The Program for Designated Intractable Diseases of the Japanese public healthcare system. Pediatric FH patients can receive support separately under The Program of Medical Aid for Chronic Pediatric Diseases of Specified Categories, which covers both HeFH and HoFH. In practice, consultation with specialists should strongly be advised.

1) Adult HoFH (15 years of age or older)

The LDL-C management goal is less than 100 mg/dL in primary prevention, and less than 70 mg/dL in secondary prevention[1] in the Japanese guideline **(Fig. 3)**. Medication should start with statins at appropriate doses[40], followed by increasing them to maximal tolerated doses and combination with other

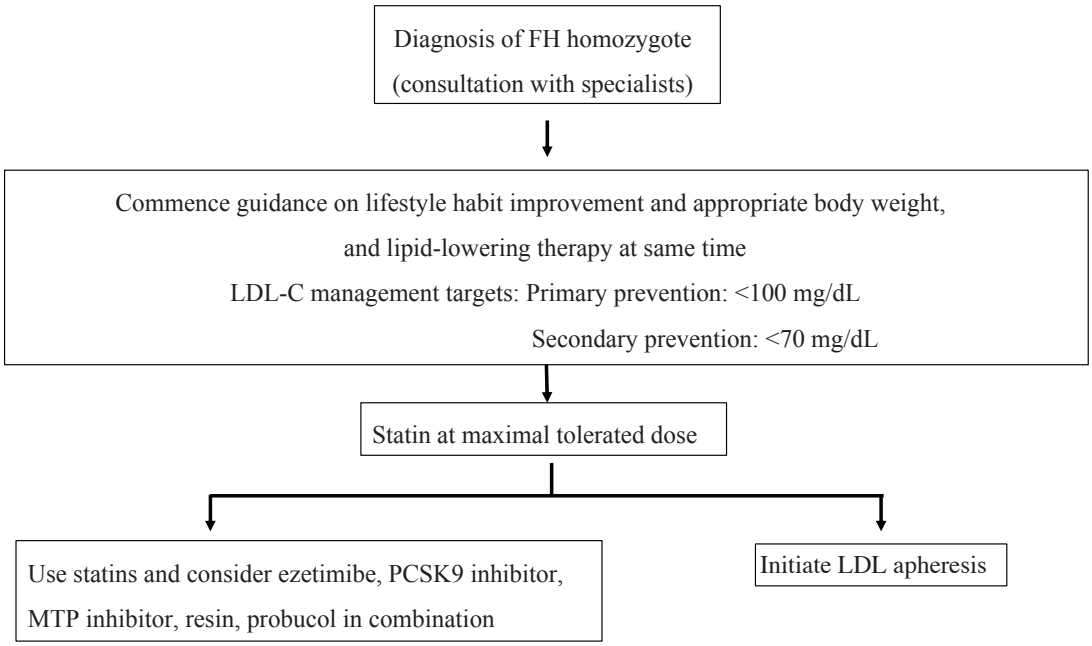


Fig. 3. Algorithm for treatment of adult (15 years of age or older) FH homozygotes

In HoFH, powerful LDL-C lowering therapy is required from a young age to prevent the onset and progression of CAD. Combination of lipid-lowering drugs, including MTP inhibitor, and lipoprotein apheresis is required in many patients with HoFH.
(Adapted from Guidelines for Diagnosis and Treatment of Familial Hypercholesterolemia 20171) "LDL apheresis" means "lipoprotein apheresis" in this review)

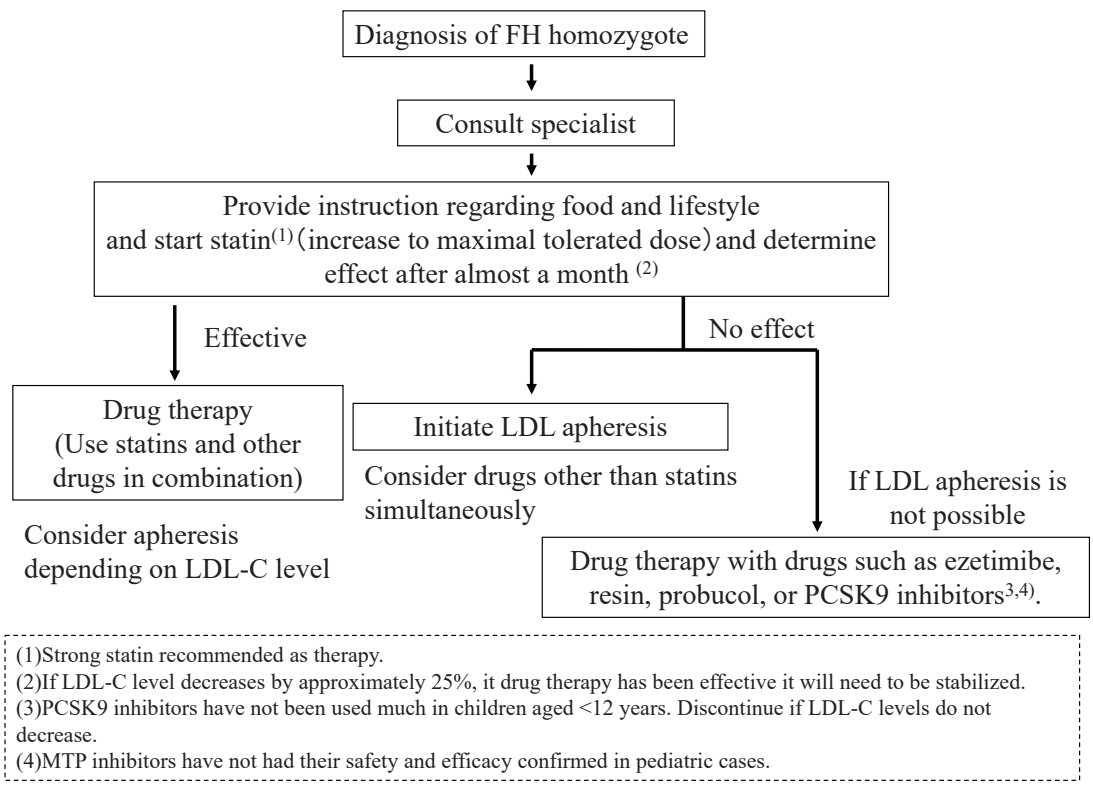


Fig. 4. Algorithm for treatment of pediatric FH homozygotes

Lifestyle interventions and maximally tolerated statin therapy should be started at the initial diagnosis. Since LDL-C targets are rarely achieved, lipoprotein apheresis therapy is recommended, and should be commenced by age 5 ideally.

drugs[41-43]. Achievement of these goals with drug treatment only is, however, not easy in HoFH.

Statins, ezetimibe and PCSK9 inhibitors all act by enhancing LDL receptor activity[44, 45], so their effectiveness depends on residual LDL receptor activity in the individual HoFH patient. Many HoFH patients are refractory to these drugs. However, if any of them are effective in lowering LDL-C, they should be continued together with the additional treatments described below.

MTP inhibitors (lomitapide) are a class of oral drug that is independent of LDL receptor activity. Clinically, they are indicated only for HoFH, and a decrease in LDL-C to approximately half of the pretreatment level can be achieved in many HoFH cases, if tolerated[46-49]. The main adverse effects are gastrointestinal symptoms and liver enzyme elevation accompanied by fat accumulation, similar to the symptoms observed in patients with MTP deficiency[50]. The MTP inhibitor should be started with the lowest dose, taking adequate measures in accordance with nutritional guidance (restricted fat and alcohol intake), and then the dose should be carefully increased gradually.

Lipoprotein apheresis directly removes LDL from plasma through selective absorption or filtration of LDL using an extra-corporal circulation system, and this has been the core therapy for HoFH to date[51-53]. LDL-C levels can be precisely decreased by this procedure, depending upon the treated plasma volume, when properly performed. Lipoprotein apheresis not only removes LDL but also has potential pleiotropic effects in preventing atherosclerosis through removal of cell adhesion molecules[54], coagulation factors[55], and inflammatory cytokines[56]. Lipoprotein apheresis for HoFH once every 1 to 2 weeks is covered by Japanese public healthcare insurance. The use of ACE inhibitors is contra-indicated for patients treated by lipoprotein apheresis with the Liposorber system and selective absorption of LDL by dextran sulfate-cellulose because shock may occur due to an increase in bradykinin activation.

Another option is liver transplantation. While this is highly invasive, it has been shown be a feasible therapeutic option for reversing atherosclerotic changes in HoFH patients that are uncontrollable with conservative therapy[57, 58].

2) Pediatric HoFH

Even in the suckling stage, children with HoFH must be referred to specialists for initiation of lipid-lowering therapy, as this is the key to a better prognosis[4]. The target LDL-C level should be the same as for adult HoFH in secondary prevention (though not clearly stated in the current pediatric guideline[4]). In pediatric HeFH, it is set at less than 140 mg/dL for primary prevention.

Statins and life-style interventions must be started at the time of diagnosis. Statins must be up-titrated and efficacy should be evaluated within a 1-month interval in order to titrate up to the maximal tolerated doses. Combination therapy with ezetimibe, bile sequestering resins, and PCSK9 inhibitors should be considered. These strategies may be effective in cases where there is a response in residual LDL receptor activity. Probucol should also be considered as it could reduce LDL in HoFH due to an unknown mechanism. Administration of an MTP inhibitor could be considered but only with extreme caution because no results of clinical trials in children have been reported. Drug therapy should be conducted until it becomes possible to commence lipoprotein apheresis.

In any case, lipoprotein apheresis must be considered since LDL-C targets are seldom achieved in HoFH only with drug treatment. This extracorporeal circulation therapy is generally commenced at the age of 5 or older, though it has reportedly been started in a patient who was 3.5 years old. In Japan, the main method is selective LDL absorption by dextran sulfate cellulose. However, with the aim of reducing extracorporeal volume, simple plasma exchange can be selected for children with a bodyweight under 30 kg.

3) Treatment during Pregnancy in HoFH

Female HoFH patients could be treated in the same way as for secondary prevention on reaching childbearing age. During pregnancy, LDL and VLDL are generally increased, and continuation of LDL-lowering therapy would be important. Statins and many other drugs are contraindicated during pregnancy and breastfeeding, and only bile sequestering resins can be used, taking proper care, but their LDL-lowering effects are limited[59]. It has been reported that lipoprotein apheresis is effective and feasible during pregnancy, and a case of cardiovascular death caused by suspension of apheresis during pregnancy[60] has been reported. Consultation with experienced specialists is recommended for pregnancy in HoFH.

Future Perspectives

Therapeutic options are still limited for HoFH, and all-out efforts should be made to achieve the best combination of feasible therapies in many cases. However, each therapeutic strategy has its advantages

and disadvantages so new therapies are awaited.

Inclisiran, a new siRNA drug that inhibits translation of PCSK9, is being developed[61]. As the effect of one injection lasts 6 months to 1 year, this drug may be a good option for HoFH patients who respond to PCSK9 inhibitors. Inclisiran was approved in the European Union in December 2020.

Evinacumab, an anti-ANGPTL3 antibody, is a new class of drug that is reportedly effective even in HoFH[62], and clinical trials are ongoing in Japan and other countries[63]. The LDL-C lowering effect of evinacumab is independent of LDL receptor activity.

Mipomersen (Kynamro), an antisense drug for the *APOB* gene, has moderate LDL-lowering effects but has the adverse effects of liver damage and injection site reactions. It was approved by the FDA for HoFH in 2013 [64] but rejected by the European Medicines Agency, and FDA approval was eventually withdrawn in 2019.

Gene therapy for HoFH has been investigated, but is still in the experimental stage. Since HoFH is a relatively rare disease, even if approved, demand for therapies would not be very high anywhere in the world. Lomitapide had been approved only for the treatment of HoFH in just 38 countries as of March 2021, including those in North and South America, the European Economic Area, and only Japan in East Asia. Lipoprotein-apheresis, which requires specific equipment, is available in a limited number of countries. Wider availability of therapeutic measures for HoFH should encourage its more active diagnosis worldwide.

Early diagnosis of FH is essential for preventing premature death in patients, whether they are hetero- or homozygotes[65-67]. Universal screening of plasma lipid levels during childhood has been trialed in some parts of Japan and we expect that such trials on local universal screening will lead to a nationwide system. In addition, reverse cascade screening, in which family members are screened on the basis of child probands, and continued worldwide registry research should improve the effectiveness of finding FH[68-76].

Acknowledgments and Notice of Grant Support

This work has been supported by Health, Labour and Welfare Sciences Research Grant for Research on Rare and Intractable Diseases (H30-nanji-ippan-003).

Conflicts of Interest

Atsushi Nohara has nothing to disclose. Hayato Tada has nothing to disclose. Masatsune Ogura has received honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc. Sachiko Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Koh Ono has nothing to disclose. Hitoshi Shimano has nothing to disclose. Hiroyuki Daida has received honoraria from Amgen Inc., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Kowa Co., Ltd., and MSD K.K., Novartis Pharma K.K., Bayer Yakuhin, Ltd. and received clinical research funding from Canon Medical Systems Corporation, Philips Japan, Ltd., Toho Holdings Co., Ltd., Asahi Kasei Corporation, and Inter Reha Co., Ltd. HD has also received scholarship grants from Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Sanofi K.K., MSD K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Pfizer Co., Ltd., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Astellas Pharma Inc., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi & Co., Ltd., Actelion Pharmaceuticals, Ltd., Actelion Ltd., Kowa Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. HD has also courses endowed by companies, including Philips Japan, Ltd., ResMed, Fukuda Denshi Co., Ltd., and Paramount Bed Co., Ltd. Kazushige Dobashi has nothing to disclose. Toshio Hayashi has nothing to disclose. Mika Hori has nothing to disclose. Kota Matsuki has nothing to disclose. Tetsuo Minamino has nothing to disclose. Shinji Yokoyama has nothing to disclose. Mariko Harada-Shiba has received stock holdings or options from Liid Pharma, honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc., Sanofi, and scholarship grants from Aegerion Pharmaceuticals, Inc., Recordati Rare Diseases Japan, and Kaneka Corporation. Katsunori Ikewaki has nothing to disclose. Yasushi Ishigaki has nothing to disclose. Shun Ishibashi has received honoraria from Kowa Co., Ltd., and a scholarship grant from Ono Pharmaceutical Co., Ltd. Kyoko Inagaki has nothing to disclose. Hirotoshi Ohmura has nothing to disclose. Hiroaki Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Masa-aki Kawashiri has nothing to disclose. Masayuki Kuroda has nothing to disclose. Masahiro Koseki has received clinical research funding from Kowa Company, Ltd., Rohto Pharmaceutical Co., Ltd. Takanari Gotoda has nothing to disclose. Shingo Koyama has nothing to disclose. Yoshiki Sekijima has nothing to disclose. Manabu Takahashi has nothing to disclose. Yasuo Takeuchi has nothing to disclose. Misa Takegami has nothing to disclose. Kazuhisa Tsukamoto has received honoraria from Bayer Yakuhin, Ltd., MSD Ltd., Takeda Pharmaceutical Company Ltd., and scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation., Bayer Yakuhin, Ltd., Sanofi K.K. Atsuko Nakatsuka has nothing to disclose. Kimitoshi

Nakamura has nothing to disclose. Satoshi Hirayama has nothing to disclose. Hideaki Bujo has nothing to disclose. Daisaku Masuda has received clinical research funding from MSD K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Co., Ltd. Takashi Miida has nothing to disclose. Yoshihiro Miyamoto has nothing to disclose. Takeyoshi Murano has nothing to disclose. Takashi Yamaguchi has nothing to disclose. Shizuya Yamashita has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K. Masashi Yamamoto has nothing to disclose. Koutaro Yokote has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K., Astellas Pharma Inc., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Amgen K.K., Takeda Pharmaceutical Company Limited, Sanofi K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., AstraZeneca K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Novartis Pharma K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Kyowa Kirin Co., Ltd., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Janssen Pharmaceutical K.K., and received clinical research funding from Taisho Pharmaceutical Co., Ltd. KY has also received scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., MSD K.K., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Kao Corporation, Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. Jun Wada has nothing to disclose.

References

1) Harada-Shiba M, Arai H, Ishigaki Y, Ishibashi S, Okamura T, Ogura M, Dobashi K, Nohara A, Bujo H, Miyauchi K, Yamashita S, Yokote K and Working Group by Japan Atherosclerosis Society for Making Guidance of Familial H. Guidelines for Diagnosis and Treatment of Familial Hypercholesterolemia 2017. J Atheroscler Thromb, 2018; 25: 751-770
2) Goldstein JL, Hobbs HH, Brown MS. Familial hypercholesterolemia. The Metabolic & Molecular Bases of Inherited Disease. eighth edition. Vol. 2, Mac Graw Hill. 2863-2913
3) Defesche JC, Gidding SS, Harada-Shiba M, Hegele RA, Santos RD, Wierzbicki AS. Familial hypercholesterolemia. Nat Rev Dis Primers, 2017, 3: 17093
4) Harada-Shiba M, Takagi A, Miyamoto Y, Tsushima M, Ikeda Y, Yokoyama S and Yamamoto A. Clinical features and genetic analysis of autosomal recessive hypercholesterolemia. J Clin Endocrinol Metab, 2003; 88: 2541-2547
5) Tada H, Kawashiri MA, Ikewaki K, Terao Y, Noguchi T, Nakanishi C, Tsuchida M, Takata M, Miwa K, Konno T, Hayashi K, Nohara A, Inazu A, Kobayashi J, Mabuchi H and Yamagishi M. Altered metabolism of low-density lipoprotein and very-low-density lipoprotein remnant in autosomal recessive hypercholesterolemia: results from stable isotope kinetic study in vivo. Circ Cardiovasc Genet, 2012; 5: 35-41
6) Harada-Shiba M, Ohta T, Ohtake A, Ogura M, Dobashi K, Nohara A, Yamashita S, Yokote K, Joint Working Group by Japan Pediatric S and Japan Atherosclerosis Society for Making Guidance of Pediatric Familial H. Guidance for Pediatric Familial Hypercholesterolemia 2017. J Atheroscler Thromb, 2018; 25: 539-553
7) Nordestgaard BG, Chapman MJ, Humphries SE, Ginsberg HN, Masana L, Descamps OS, Wiklund O, Hegele RA, Raal FJ, Defesche JC, Wiegman A, Santos RD, Watts GF, Parhofer KG, Hovingh GK, Kovanen PT, Boileau C, Averna M, Boren J, Bruckert E, Catapano AL, Kuivenhoven JA, Pajukanta P, Ray K, Stalenhoef AF, Stroes E, Taskinen MR, Tybjaerg-Hansen A and European Atherosclerosis Society Consensus P. Familial hypercholesterolaemia is underdiagnosed and undertreated in the general population: guidance for clinicians to prevent coronary heart disease: consensus statement of the European Atherosclerosis Society. Eur Heart J, 2013; 34: 3478-3490a
8) Goldstein JL, Schrott HG, Hazzard WR, Bierman EL and Motulsky AG. Hyperlipidemia in coronary heart disease. II. Genetic analysis of lipid levels in 176 families and delineation of a new inherited disorder, combined hyperlipidemia. J Clin Invest, 1973; 52: 1544-1568
9) Mabuchi H, Nohara A, Noguchi T, Kobayashi J, Kawashiri MA, Tada H, Nakanishi C, Mori M, Yamagishi M, Inazu A, Koizumi J and Hokuriku FHSG. Molecular genetic epidemiology of homozygous familial hypercholesterolemia in the Hokuriku district of Japan. Atherosclerosis, 2011; 214: 404-407
10) Benn M, Watts GF, Tybjærg-Hansen A, Nordestgaard BG. Mutations causative of familial hypercholesterolaemia: screening of 98 098 individuals from the Copenhagen General Population Study estimated a prevalence of 1 in 217. Eur Heart J, 2016; 37: 1384-1394
11) de Ferranti SD, Rodday AM, Mendelson MM, et al. Prevalence of Familial Hypercholesterolemia in the 1999 to 2012 United States National Health and Nutrition Examination Surveys (NHANES). Circulation, 2016; 133: 1067-1072
12) Beheshti SO, Madsen CM, Varbo A, Nordestgaard BG. Worldwide Prevalence of Familial Hypercholesterolemia: Meta-Analyses of 11 Million Subjects. J Am Coll Cardiol, 2020; 75: 2553-2566
13) Hu P, Dharmayat KI, Stevens CAT, Sharabiani MTA, Jones RS, Watts GF, Genest J, Ray KK, Vallejo-Vaz AJ. Prevalence of Familial Hypercholesterolemia Among the General Population and Patients With Atherosclerotic Cardiovascular Disease: A Systematic Review and Meta-Analysis. Circulation, 2020; 141: 1742-1759
14) Mabuchi H. Half a Century Tales of Familial Hypercholesterolemia (FH) in Japan. J Atheroscler Thromb, 2017; 24: 189-207
15) Tada H, Kawashiri MA, Nohara A, Inazu A, Mabuchi H

and Yamagishi M. Impact of clinical signs and genetic diagnosis of familial hypercholesterolaemia on the prevalence of coronary artery disease in patients with severe hypercholesterolaemia. Eur Heart J, 2017; 38: 1573-1579
16) Hori M, Ohta N, Takahashi A, Masuda H, Isoda R, Yamamoto S, Son C, Ogura M, Hosoda K, Miyamoto Y and Harada-Shiba M. Impact of LDLR and PCSK9 pathogenic variants in Japanese heterozygous familial hypercholesterolemia patients. Atherosclerosis, 2019; 289: 101-108
17) Hori M, Takahashi A, Son C, Ogura M, Harada-Shiba M. The first Japanese cases of familial hypercholesterolemia due to a known pathogenic APOB gene variant, c.10580 G>A: p.(Arg3527Gln). J Clin Lipidol, 2020; 14: 482-486
18) Noguchi T, Katsuda S, Kawashiri MA, Tada H, Nohara A, Inazu A, Yamagishi M, Kobayashi J and Mabuchi H. The E32K variant of PCSK9 exacerbates the phenotype of familial hypercholesterolaemia by increasing PCSK9 function and concentration in the circulation. Atherosclerosis, 2010; 210: 166-172
19) Tada H, Hori M, Nomura A, Hosomichi K, Nohara A, Kawashiri MA and Harada-Shiba M. A catalog of the pathogenic mutations of LDL receptor gene in Japanese familial hypercholesterolemia. J Clin Lipidol, 2020; 14: 346-351 e9
20) Talmud PJ, Shah S, Whittall R, Futema M, Howard P, Cooper JA, Harrison SC, Li K, Drenos F, Karpe F, Neil HA, Descamps OS, Langenberg C, Lench N, Kivimaki M, Whittaker J, Hingorani AD, Kumari M and Humphries SE. Use of low-density lipoprotein cholesterol gene score to distinguish patients with polygenic and monogenic familial hypercholesterolaemia: a case-control study. Lancet, 2013; 381: 1293-1301
21) Tada H, Kawashiri MA, Nomura A, Teramoto R, Hosomichi K, Nohara A, Inazu A, Mabuchi H, Tajima A, Yamagishi M. Oligogenic familial hypercholesterolemia, LDL cholesterol, and coronary artery disease. J Clin Lipidol, 2018; 12: 1436-1444
22) Tada H, Nohara A, Kawashiri MA. Monogenic, polygenic, and oligogenic familial hypercholesterolemia. Curr Opin Lipidol, 2019; 30: 300-306
23) Tada H, Okada H, Nomura A, Yashiro S, Nohara A, Ishigaki Y, Takamura M, Kawashiri MA. Rare and Deleterious Mutations in ABCG5/ABCG8 Genes Contribute to Mimicking and Worsening of Familial Hypercholesterolemia Phenotype. Circ J, 2019; 83: 1917-1924
24) de Gennes JL, Daffos F, Dairou F, Forestier F, Capella-Pavlosky M, Truffert J, Gaschard JC, Darbois Y. Direct fetal blood examination for prenatal diagnosis of homozygous familial hypercholesterolemia. Arteriosclerosis, 1985; 5: 440-442
25) Cuchel M, Bruckert E, Ginsberg HN, Raal FJ, Santos RD, Hegele RA, Kuivenhoven JA, Nordestgaard BG, Descamps OS, Steinhagen-Thiessen E, Tybjærg-Hansen A, Watts GF, Averna M, Boileau C, Borén J, Catapano AL, Defesche JC, Hovingh GK, Humphries SE, Kovanen PT, Masana L, Pajukanta P, Parhofer KG, Ray KK, Stalenhoef AF, Stroes E, Taskinen MR, Wiegman A, Wiklund O, Chapman MJ; European Atherosclerosis Society Consensus Panel on Familial Hypercholesterolaemia. Homozygous familial hypercholesterolaemia: new insights and guidance for clinicians to improve detection and clinical management. A position paper from the Consensus Panel on Familial Hypercholesterolaemia of the European Atherosclerosis Society. Eur Heart J, 2014; 35: 2146-2157
26) Wiegman A, Gidding SS, Watts GF, Chapman MJ, Ginsberg HN, Cuchel M, Ose L, Averna M, Boileau C, Borén J, Bruckert E, Catapano AL, Defesche JC, Descamps OS, Hegele RA, Hovingh GK, Humphries SE, Kovanen PT, Kuivenhoven JA, Masana L, Nordestgaard BG, Pajukanta P, Parhofer KG, Raal FJ, Ray KK, Santos RD, Stalenhoef AF, Steinhagen-Thiessen E, Stroes ES, Taskinen MR, Tybjærg-Hansen A, Wiklund O; European Atherosclerosis Society Consensus Panel. Familial hypercholesterolaemia in children and adolescents: gaining decades of life by optimizing detection and treatment. Eur Heart J, 2015; 36: 2425-2437
27) Kawashiri MA, Okada H, Tada H. Severe calcification of the Achilles' tendon. Eur Heart J, 2021 in press
28) Santos RD, Gidding SS, Hegele RA, Cuchel MA, Barter PJ, Watts GF, Baum SJ, Catapano AL, Chapman MJ, Defesche JC, Folco E, Freiberger T, Genest J, Hovingh GK, Harada-Shiba M, Humphries SE, Jackson AS, Mata P, Moriarty PM, Raal FJ, Al-Rasadi K, Ray KK, Reiner Z, Sijbrands EJ, Yamashita S and International Atherosclerosis Society Severe Familial Hypercholesterolemia P. Defining severe familial hypercholesterolaemia and the implications for clinical management: a consensus statement from the International Atherosclerosis Society Severe Familial Hypercholesterolemia Panel. Lancet Diabetes Endocrinol, 2016; 4: 850-861
29) Tada H, Kawashiri MA, Noguchi T, Mori M, Tsuchida M, Takata M, Nohara A, Inazu A, Kobayashi J, Yachie A, Mabuchi H, Yamagishi M. A novel method for determining functional LDL receptor activity in familial hypercholesterolemia: application of the CD3/CD28 assay in lymphocytes. Clin Chim Acta, 2009; 400: 42-47
30) Raal FJ, Hovingh GK, Blom D, Santos RD, Harada-Shiba M, Bruckert E, Couture P, Soran H, Watts GF, Kurtz C, Honarpour N, Tang L, Kasichayanula S, Wasserman SM, Stein EA. Long-term treatment with evolocumab added to conventional drug therapy, with or without apheresis, in patients with homozygous familial hypercholesterolaemia: an interim subset analysis of the open-label TAUSSIG study. Lancet Diabetes Endocrinol, 2017; 5: 280-290
31) Thedrez A, Blom DJ, Ramin-Mangata S, Blanchard V, Croyal M, Chemello K, Nativel B, Pichelin M, Cariou B, Bourane S, Tang L, Farnier M, Raal FJ, Lambert G. Homozygous Familial Hypercholesterolemia Patients With Identical Mutations Variably Express the LDLR (Low-Density Lipoprotein Receptor): Implications for the Efficacy of Evolocumab. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2018; 38: 592-598
32) Sturm AC, Knowles JW, Gidding SS, Ahmad ZS, Ahmed CD, Ballantyne CM, Baum SJ, Bourbon M, Carrié A, Cuchel M, de Ferranti SD, Defesche JC, Freiberger T, Hershberger RE, Hovingh GK, Karayan L, Kastelein JJP,

Kindt I, Lane SR, Leigh SE, Linton MF, Mata P, Neal WA, Nordestgaard BG, Santos RD, Harada-Shiba M, Sijbrands EJ, Stitziel NO, Yamashita S, Wilemon KA, Ledbetter DH, Rader DJ; Convened by the Familial Hypercholesterolemia Foundation. Clinical Genetic Testing for Familial Hypercholesterolemia: JACC Scientific Expert Panel. J Am Coll Cardiol, 2018; 72: 662-680

33) Gautschi M, Pavlovic M, Nuoffer JM. Fatal myocardial infarction at 4.5 years in a case of homozygous familial hypercholesterolaemia. JIMD Rep, 2012; 2: 45-50
34) Widhalm K, Binder CB, Kreissl A, Aldover-Macasaet E, Fritsch M, Kroisboeck S, Geiger H. Sudden death in a 4-year-old boy: a near-complete occlusion of the coronary artery caused by an aggressive low-density lipoprotein receptor mutation (W556R) in homozygous familial hypercholesterolemia. J Pediatr, 2011; 158: 167
35) Zhang R, Xie J, Zhou J, Xu L, Pan Y, Qu Y, Li R, Chong M, Song L, Wen W, Wu Y, Li J, Wang L, Yang Y. Supravalvular Aortic Stenosis and the Risk of Premature Death Among Patients With Homozygous Familial Hypercholesterolemia. Am J Cardiol, 2021 in press
36) Luirink IK, Kuipers IM, Hutten BA, Planken RN, Backx APCM, Groothoff JW, Wiegman A. Coronary computed tomography angiography and echocardiography in children with homozygous familial hypercholesterolemia. Atherosclerosis, 2019; 285: 87-92
37) Tada H, Nohara A, Inazu A, Sakuma N, Mabuchi H, Kawashiri MA. Sitosterolemia, Hypercholesterolemia, and Coronary Artery Disease. J Atheroscler Thromb, 2018; 25: 783-789
38) Tada H, Kawashiri MA, Takata M, Matsunami K, Imamura A, Matsuyama M, Sawada H, Nunoi H, Konno T, Hayashi K, Nohara A, Inazu A, Kobayashi J, Mabuchi H and Yamagishi M. Infantile Cases of Sitosterolaemia with Novel Mutations in the ABCG5 Gene: Extreme Hypercholesterolaemia is Exacerbated by Breastfeeding. JIMD Rep, 2015; 21: 115-122
39) Sekijima Y, Koyama S, Yoshinaga T, Koinuma M, Inaba Y. Nationwide survey on cerebrotendinous xanthomatosis in Japan. J Hum Genet, 2018; 63: 271-280
40) Stein EA, Dann EJ, Wiegman A, Skovby F, Gaudet D, Sokal E, Charng MJ, Mohamed M, Luirink I, Raichlen JS, Sundén M, Carlsson SC, Raal FJ, Kastelein JJP. Efficacy of Rosuvastatin in Children With Homozygous Familial Hypercholesterolemia and Association With Underlying Genetic Mutations. J Am Coll Cardiol, 2017; 70: 1162-1170
41) Gagné C, Gaudet D, Bruckert E; Ezetimibe Study Group. Efficacy and safety of ezetimibe coadministered with atorvastatin or simvastatin in patients with homozygous familial hypercholesterolemia. Circulation, 2002; 105: 2469-2475
42) Yamamoto A, Harada-Shiba M, Endo M, Kusakabe N, Tanioka T, Kato H, Shoji T. The effect of ezetimibe on serum lipids and lipoproteins in patients with homozygous familial hypercholesterolemia undergoing LDL-apheresis therapy. Atherosclerosis, 2006; 186: 126-131
43) Gotto AM Jr, Moon JE. Pharmacotherapies for lipid modification: beyond the statins. Nat Rev Cardiol, 2013; 10: 560-570
44) Santos RD, Stein EA, Hovingh GK, Blom DJ, Soran H, Watts GF, López JAG, Bray S, Kurtz CE, Hamer AW, Raal FJ. Long-Term Evolocumab in Patients With Familial Hypercholesterolemia. J Am Coll Cardiol, 2020; 75: 565-574
45) Blom DJ, Harada-Shiba M, Rubba P, Gaudet D, Kastelein JJP, Charng MJ, Pordy R, Donahue S, Ali S, Dong Y, Khilla N, Banerjee P, Baccara-Dinet M, Rosenson RS. Efficacy and Safety of Alirocumab in Adults With Homozygous Familial Hypercholesterolemia: The ODYSSEY HoFH Trial. J Am Coll Cardiol, 2020; 76: 131-142
46) Harada-Shiba M, Ikewaki K, Nohara A, Otsubo Y, Yanagi K, Yoshida M, Chang Q and Foulds P. Efficacy and Safety of Lomitapide in Japanese Patients with Homozygous Familial Hypercholesterolemia. J Atheroscler Thromb, 2017; 24: 402-411
47) Nohara A, Otsubo Y, Yanagi K, Yoshida M, Ikewaki K, Harada-Shiba M and Jurecka A. Safety and Efficacy of Lomitapide in Japanese Patients with Homozygous Familial Hypercholesterolemia (HoFH): Results from the AEGR-733-301 Long-Term Extension Study. J Atheroscler Thromb, 2019; 26: 368-377
48) Aljenedil S, Alothman L, Bélanger AM, Brown L, Lahijanian Z, Bergeron J, Couture P, Baass A, Ruel I, Brisson D, Khoury E, Gaudet D, Genest J. Lomitapide for treatment of homozygous familial hypercholesterolemia: The Quebec experience. Atherosclerosis, 2020; 310: 54-63
49) Underberg JA, Cannon CP, Larrey D, Makris L, Blom D, Phillips H. Long-term safety and efficacy of lomitapide in patients with homozygous familial hypercholesterolemia: Five-year data from the Lomitapide Observational Worldwide Evaluation Registry (LOWER). J Clin Lipidol, 2020; 14: 807-817
50) Yang XP, Inazu A, Yagi K, Kajinami K, Koizumi J, Mabuchi H. Abetalipoproteinemia caused by maternal isodisomy of chromosome 4q containing an intron 9 splice acceptor mutation in the microsomal triglyceride transfer protein gene. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 1999; 19: 1950-1955
51) Makino H, Koezuka R, Tamanaha T, Ogura M, Matsuki K, Hosoda K and Harada-Shiba M. Familial Hypercholesterolemia and Lipoprotein Apheresis. J Atheroscler Thromb, 2019; 26: 679-687
52) Luirink IK, Determeijer J, Hutten BA, Wiegman A, Bruckert E, Schmitt CP, Groothoff JW. Efficacy and safety of lipoprotein apheresis in children with homozygous familial hypercholesterolemia: A systematic review. J Clin Lipidol, 2019; 13: 31-39
53) Luirink IK, Hutten BA, Greber-Platzer S, Kolovou GD, Dann EJ, de Ferranti SD, Taylan C, Bruckert E, Saheb S, Oh J, Driemeyer J, Farnier M, Pape L, Schmitt CP, Novoa FJ, Maeser M, Masana L, Shahrani A, Wiegman A, Groothoff JW. Practice of lipoprotein apheresis and short-term efficacy in children with homozygous familial hypercholesterolemia: Data from an international registry. Atherosclerosis, 2020; 299: 24-31
54) von Bauer R, Oikonomou D, Sulaj A, Kopf S, Fleming T, Rudofsky G, Nawroth P. Pleiotropic Effect of

Lipoprotein-Apheresis on the Soluble Form of Activated Leukocyte Cell Adhesion Molecule (sALCAM) in Familial Hypercholesterolaemia. Exp Clin Endocrinol Diabetes, 2019; 127: 276-280
55) Ramunni A, Burzo M, Vernò L, Brescia P. Pleiotropic effects of LDL apheresis. Atheroscler Suppl, 2009; 10: 53-55
56) Lappegård KT, Enebakk T, Thunhaug H, Ludviksen JK, Mollnes TE, Hovland A. LDL apheresis activates the complement system and the cytokine network, whereas PCSK9 inhibition with evolocumab induces no inflammatory response. J Clin Lipidol, 2016; 10: 1481-1487
57) Cephus CE, Qureshi AM, Sexson Tejtel SK, Alam M, Moodie DS. Coronary artery disease in a child with homozygous familial hypercholesterolemia: Regression after liver transplantation. J Clin Lipidol, 2019; 13: 880-886
58) Ishigaki Y, Kawagishi N, Hasegawa Y, Sawada S, Katagiri H, Satomi S, Oikawa S. Liver Transplantation for Homozygous Familial Hypercholesterolemia. J Atheroscler Thromb, 2019; 26: 121-127
59) Botha TC, Pilcher GJ, Wolmarans K, Blom DJ, Raal FJ. Statins and other lipid-lowering therapy and pregnancy outcomes in homozygous familial hypercholesterolaemia: A retrospective review of 39 pregnancies. Atherosclerosis, 2018; 277: 502-507
60) Ogura M, Makino H, Kamiya C, Yoshimatsu J, Soran H, Eatough R, Perrone G, Harada-Shiba M and Stefanutti C. Lipoprotein apheresis is essential for managing pregnancies in patients with homozygous familial hypercholesterolemia: Seven case series and discussion. Atherosclerosis, 2016; 254: 179-183
61) Raal FJ, Kallend D, Ray KK, Turner T, Koenig W, Wright RS, Wijngaard PLJ, Curcio D, Jaros MJ, Leiter LA, Kastelein JJP; ORION-9 Investigators. Inclisiran for the Treatment of Heterozygous Familial Hypercholesterolemia. N Engl J Med, 2020; 382: 1520-1530
62) Raal FJ, Rosenson RS, Reeskamp LF, Hovingh GK, Kastelein JJP, Rubba P, Ali S, Banerjee P, Chan KC, Gipe DA, Khilla N, Pordy R, Weinreich DM, Yancopoulos GD, Zhang Y, Gaudet D; ELIPSE HoFH Investigators. Evinacumab for Homozygous Familial Hypercholesterolemia. N Engl J Med, 2020; 383: 711-720
63) Harada-Shiba M, Ali S, Gipe DA, Gasparino E, Son V, Zhang Y, Pordy R, Catapano AL. A randomized study investigating the safety, tolerability, and pharmacokinetics of evinacumab, an ANGPTL3 inhibitor, in healthy Japanese and Caucasian subjects. Atherosclerosis, 2020; 314: 33-40
64) Raal FJ, Santos RD, Blom DJ, Marais AD, Charng MJ, Cromwell WC, Lachmann RH, Gaudet D, Tan JL, Chasan-Taber S, Tribble DL, Flaim JD, Crooke ST. Mipomersen, an apolipoprotein B synthesis inhibitor, for lowering of LDL cholesterol concentrations in patients with homozygous familial hypercholesterolaemia: a randomised, double-blind, placebo-controlled trial. Lancet, 2010; 375: 998-1006
65) Luirink IK, Wiegman A, Kusters DM, Hof MH, Groothoff JW, de Groot E, Kastelein JJP, Hutten BA. 20-Year Follow-up of Statins in Children with Familial Hypercholesterolemia. N Engl J Med, 2019; 381: 1547-1556
66) Tada H, Okada H, Nomura A, Nohara A, Yamagishi M, Takamura M, Kawashiri MA. Prognostic Impact of Cascade Screening for Familial Hypercholesterolemia on Cardiovascular Events. J Clin Lipidol, 2021 in press
67) Representatives of the Global Familial Hypercholesterolemia Community, Wilemon KA, Patel J, Aguilar-Salinas C, Ahmed CD, Alkhnifsawi M, Almahmeed W, Alonso R, Al-Rasadi K, Badimon L, Bernal LM, Bogsrud MP, Braun LT, Brunham L, Catapano AL, Cillíková K, Corral P, Cuevas R, Defesche JC, Descamps OS, de Ferranti S, Eiselé JL, Elikir G, Folco E, Freiberger T, Fuggetta F, Gaspar IM, Gesztes ÁG, Grošelj U, Hamilton-Craig I, Hanauer-Mader G, Harada-Shiba M, Hastings G, Hovingh GK, Izar MC, Jamison A, Karlsson GN, Kayikçioglu M, Koob S, Koseki M, Lane S, Lima-Martinez MM, López G, Martinez TL, Marais D, Marion L, Mata P, Maurina I, Maxwell D, Mehta R, Mensah GA, Miserez AR, Neely D, Nicholls SJ, Nohara A, Nordestgaard BG, Ose L, Pallidis A, Pang J, Payne J, Peterson AL, Popescu MP, Puri R, Ray KK, Reda A, Sampietro T, Santos RD, Schalkers I, Schreier L, Shapiro MD, Sijbrands E, Soffer D, Stefanutti C, Stoll M, Sy RG, Tamayo ML, Tilney MK, Tokgözoglu L, Tomlinson B, Vallejo-Vaz AJ, Vazquez-Cárdenas A, de Luca PV, Wald DS, Watts GF, Wenger NK, Wolf M, Wood D, Zegerius A, Gaziano TA, Gidding SS. Reducing the Clinical and Public Health Burden of Familial Hypercholesterolemia: A Global Call to Action. JAMA Cardiol, 2020; 5: 217-229
68) Wu X, Pang J, Wang X, Peng J, Chen Y, Wang S, Watts GF, Lin J. Reverse cascade screening for familial hypercholesterolemia in high-risk Chinese families. Clin Cardiol, 2017; 40: 1169-1173
69) Vinson A, Guerra L, Hamilton L, Wilson DP. Reverse Cascade Screening for Familial Hypercholesterolemia. J Pediatr Nurs, 2019; 44: 50-55
70) Pérez de Isla L, Alonso R, Mata N, Fernández-Pérez C, Muñiz O, Díaz-Díaz JL, Saltijeral A, Fuentes-Jiménez F, de Andrés R, Zambón D, Piedecausa M, Cepeda JM, Mauri M, Galiana J, Brea Á, Sanchez Muñoz-Torrero JF, Padró T, Argueso R, Miramontes-González JP, Badimón L, Santos RD, Watts GF, Mata P. Predicting Cardiovascular Events in Familial Hypercholesterolemia: The SAFEHEART Registry (Spanish Familial Hypercholesterolemia Cohort Study). Circulation, 2017; 135: 2133-2144
71) Ceska R, Latkovskis G, Ezhov MV, Freiberger T, Lalic K, Mitchenko O, Paragh G, Petrulioniene Z, Pojskic B, Raslova K, Shek AB, Vohnout B, Altschmiedova T, Todorovova V. The Impact of the International Cooperation On Familial Hypercholesterolemia Screening and Treatment: Results from the ScreenPro FH Project. Curr Atheroscler Rep, 2019; 21: 36
72) Tada H, Okada H, Yoshida S, Shimojima M, Nomura A, Tsuda T, Mori M, Takashima SI, Kato T, Usui S, Sakata K, Hayashi K, Fujino N, Inazu A, Takahara S, Imai Y, Matsubara T, Nohara A, Miwa K, Namura M, Terai H, Yoshida T, Araki T, Minamoto M, Aburao T, Ito Y,

Nakanishi C, Kawasaki S, Todo Y, Koizumi J, Kita Y, Matsumoto H, Shintaku H, Hodatsu A, Ino H, Higashikata T, Takata M, Misawa K, Yamaguchi M, Noji Y, Osato K, Mabuchi T, Ichise T, Kaku B, Katsuda S, Fujimoto M, Uchiyama K, Fujioka K, Nakahashi T, Nozue T, Michishita I, Usuda K, Otowa K, Okeie K, Hirota S, Aburadani I, Kurokawa K, Takatori O, Hondo S, Oda H, Takata S, Murai H, Kinoshita M, Nagai H, Sekiguchi Y, Sakagami S, Omi W, Fujita C, Katsuki T, Ootsuji H, Igarashi A, Nakano M, Okura S, Maeno K, Mitamura Y, Sugimoto N, Yamamoto M, Akao H, Kajinami K, Takamura M, Kawashiri MA. Hokuriku-plus familial hypercholesterolaemia registry study: rationale and study design. BMJ Open, 2020; 10: e038623

73) Duell PB, Gidding SS, Andersen RL, Knickelbine T, Anderson L, Gianos E, Shrader P, Kindt I, O'Brien EC, McCann D, Hemphill LC, Ahmed CD, Martin SS, Larry JA, Ahmad ZS, Kullo IJ, Underberg JA, Guyton J, Thompson P, Wilemon K, Roe MT, Rader DJ, Cuchel M, Linton MF, Shapiro MD, Moriarty PM, Knowles JW. Longitudinal low density lipoprotein cholesterol goal achievement and cardiovascular outcomes among adult patients with familial hypercholesterolemia: The CASCADE FH registry. Atherosclerosis, 2019; 289: 85-93

74) Alves AC, Alonso R, Diaz-Diaz JL, Medeiros AM, Jannes CE, Merchan A, Vasques-Cardenas NA, Cuevas A, Chacra AP, Krieger JE, Arroyo R, Arrieta F, Schreier L, Corral P, Bañares VG, Araujo MB, Bustos P, Asenjo S, Stoll M, Dell'Oca N, Reyes M, Ressia A, Campo R, Magaña-Torres MT, Metha R, Aguilar-Salinas CA, Ceballos-Macias JJ, Morales ÁJR, Mata P, Bourbon M, Santos RD. Phenotypical, Clinical, and Molecular Aspects of Adults and Children With Homozygous Familial Hypercholesterolemia in Iberoamerica. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2020; 40: 2508-2515

75) Mehta R, Martagon AJ, Galan Ramirez GA, Antonio-Villa NE, Vargas-Vázquez A, Elias-Lopez D, Gonzalez-Retana G, Rodríguez-Encinas B, Ceballos-Macías JJ, Romero-Zazueta A, Martinez-Alvarado R, Morales-Portano JD, Alvarez-Lopez H, Sauque-Reyna L, Gomez-Herrera LG, Simental-Mendia LE, Garcia-Aguilar H, Ramirez-Cooremans E, Peña-Aparicio B, Mendoza-Zubieta V, Carrillo-Gonzalez PA, Ferreira-Hermosillo A, Caracas-Portilla N, Jimenez-Dominguez G, Ruiz-Garcia AY, Arriaga-Cazares HE, Gonzalez-Gonzalez JR, Mendez-Valencia CV, Padilla FG, Madriz-Prado R, De Los Rios-Ibarra MO, Vazquez-Cardenas A, Arjona-Villicaña RD, Acevedo-Rivera KJ, Allende-Carrera R, Alvarez JA, Amezcua-Martinez JC, de Los Reyes Barrera-Bustillo M, Carazo-Vargas G, Contreras-Chacon R, Figueroa-Andrade MH, Flores-Ortega A, Garcia-Alcala H, Garcia de Leon LE, Garcia-Guzman B, Garduño-Garcia JJ, Garnica-Cuellar JC, Gomez-Cruz JR, Hernandez-Garcia A, Holguin-Almada JR, Juarez-Herrera U, Lugo-Sobrevilla F, Marquez-Rodriguez E, Martinez-Sibaja C, Medrano-Rodriguez AB, Morales-Oyervides JC, Perez-Vazquez DI, Reyes-Rodriguez EA, Robles-Osorio ML, Rosas-Saucedo J, Torres-Tamayo M, Valdez-Talavera LA, Vera-Arroyo LE, Zepeda-Carrillo EA, Aguilar-Salinas CA; Mexican Familial Hypercholesterolemia Group. Familial hypercholesterolemia in Mexico: Initial insights from the national registry. J Clin Lipidol, 2021 in press

76) de Ferranti SD, Shrader P, Linton MF, Knowles JW, Hudgins LC, Benuck I, Kindt I, O'Brien EC, Peterson AL, Ahmad ZS, Clauss S, Duell PB, Shapiro MD, Wilemon K, Gidding SS, Neal W. Children with Heterozygous Familial Hypercholesterolemia in the United States: Data from the Cascade Screening for Awareness and Detection-FH Registry. J Pediatr, 2021; 229: 70-77

The official journal of the Japan Atherosclerosis Society and
the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases

Review

J Atheroscler Thromb, 2021; 28: 000-000. http://doi.org/10.5551/jat.RV17051

Current Status of Familial LCAT Deficiency in Japan

Masayuki Kuroda[1], Hideaki Bujo[2], Koutaro Yokote[3], Takeyoshi Murano[4], Takashi Yamaguchi[5], Masatsune Ogura[6], Katsunori Ikewaki[7], Masahiro Koseki[8], Yasuo Takeuchi[9], Atsuko Nakatsuka[10], Mika Hori[11], Kota Matsuki[12], Takashi Miida[13], Shinji Yokoyama[14], Jun Wada[10] and Mariko Harada-Shiba[15] on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan†

[1]Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, Chiba, Japan
[2]Department of Clinical-Laboratory and Experimental-Research Medicine, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan
[3]Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan
[4]Clinical Laboratory Program, Faculty of Science, Toho University, Funabashi, Chiba, Japan
[5]Center of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan
[6]Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan
[7]Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan
[8]Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan
[9]Division of Nephrology, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan
[10]Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan
[11]Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan
[12]Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan
[13]Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan
[14]Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan
[15]Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan

†**The Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan:** Mariko Harada-Shiba (Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Shun Ishibashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Shinji Yokoyama (Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan), Hitoshi Shimano (Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Faculty of Medicine University of Tsukuba, Tsukuba, Japan), Koutaro Yokote (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Hideaki Bujo (Department of Clinical-Laboratory and Experimental-Research Medicine, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Shizuya Yamashita (Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Kazuhisa Tsukamoto (Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan), Toshio Hayashi (School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan), Katsunori Ikewaki (Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan), Takanari Gotoda (Department of Metabolic Biochemistry, Faculty of Medicine, Kyorin University, Tokyo, Japan), Kazushige Dobashi (Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan), Yoshihiro Miyamoto (Open Innovation Center, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Misa Takegami (Department of Preventive Medicine and Epidemiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Yoshiki Sekijima (Department of Medicine (Neurology & Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan), Yasushi Ishigaki (Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan), Hiroaki Okazaki (Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Atsushi Nohara (Ishikawa Prefectural Central Hospital, Kanazawa, Japan), Shingo Koyama (Division of Neurology and Clinical Neuroscience, Department of Internal Medicine III, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan), Kyoko Inagaki (Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan), Koh Ono (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan), Masahiro Koseki (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan), Hiroyuki Daida (Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Manabu Takahashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Kimitoshi Nakamura (Department of Pediatrics, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan), Takashi Miida (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masa-aki Kawashiri (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medical Sciences,

Kanazawa University, Kanazawa, Japan), Tetsuo Minamino (Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan), Sachiko Okazaki (Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Hayato Tada (Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan), Jun Wada (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Masatsune Ogura (Division of Lipid Metabolism, Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Hirotoshi Ohmura (Department of Cardiovascular Medicine, School of Medicine, Juntendo University, Tokyo, Japan), Mika Hori (Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan), Kota Matsuki (Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan), Masashi Yamamoto (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Yasuo Takeuchi (Division of Nephrology, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan), Atsuko Nakatsuka (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Daisaku Masuda (Department of Cardiology, Health Care Center, Rinku Innovation Center for Wellness Care and Activities (RICWA), Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Satoshi Hirayama (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masayuki Kuroda (Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, Chiba, Japan), Takashi Yamaguchi (Center of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Takeyoshi Murano (Clinical Laboratory Program, Faculty of Science, Toho University, Chiba, Japan).

Lecithin cholesterol acyltransferase (LCAT) is a lipid-modification enzyme that catalyzes the transfer of the acyl chain from the second position of lecithin to the hydroxyl group of cholesterol (FC) on plasma lipoproteins to form cholesteryl acylester and lysolecithin. Familial LCAT deficiency is an intractable autosomal recessive disorder caused by inherited dysfunction of the LCAT enzyme. The disease appears in two different phenotypes depending on the position of the gene mutation: familial LCAT deficiency (FLD, OMIM 245900) that lacks esterification activity on both HDL and ApoB-containing lipoproteins, and fish-eye disease (FED, OMIM 136120) that lacks activity only on HDL. Impaired metabolism of cholesterol and phospholipids due to LCAT dysfunction results in abnormal concentrations, composition and morphology of plasma lipoproteins and further causes ectopic lipid accumulation and/or abnormal lipid composition in certain tissues/cells, and serious dysfunction and complications in certain organs. Marked reduction of plasma HDL-cholesterol (HDL-C) and corneal opacity are common clinical manifestations of FLD and FED. FLD is also accompanied by anemia, proteinuria and progressive renal failure that eventually requires hemodialysis. Replacement therapy with the LCAT enzyme should prevent progression of serious complications, particularly renal dysfunction and corneal opacity. A clinical research project aiming at gene/cell therapy is currently underway.

Key words: **Lecithin cholesterol acyltransferase, Low HDL-cholesterol, Abnormal LDL, Corneal opacity, Proteinuria, Enzyme replacement therapy**

Introduction

The enzyme that esterifies cholesterol in human blood plasma was discovered in 1962 [1]. The reaction was determined to be an acyl transfer reaction from phosphatidylcholine (lecithin) associated with HDL. The enzyme was named LCAT, and the physiological role proposed for it was creating a gradient of cholesterol content between the HDL surface and cell membrane to generate efflux of cell cholesterol[2]. At around the same time, a patient with deficiency of this enzyme was identified in Norway. A 33-year-old woman in a hospital in Oslo was suspected of having chronic nephritis due to proteinuria and exhibited corneal opacity, anemia, and slight hypoalbuminemia, though renal function was normal. Renal biopsy revealed presence of foam cells in the glomerular tufts. Plasma total cholesterol and triglyceride levels were high but most of the cholesterol was found not to be esterified and further biochemical analyses

Address for correspondence: Masayuki Kuroda, Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, 1–8–1 Inohana, Chuo-ku, Chiba 260–8677, Japan. E-mail: kurodam@faculty.chiba-u.jp

Received: March 16, 2021 Accepted for publication: March 19, 2021

demonstrated that the patient was deficient in LCAT activity. Similar signs and symptoms were also noted in her sister, suggesting a hereditary disorder. Therefore, the disorder was named familial LCAT deficiency (FLD, OMIM 245900) by Norum and Gjone[1]. The classical form of this disease exhibits plasma LCAT activity of less than 10% of normal whereas, in partial deficiency the decrease may be 15 to 40%. In FLD, there is lack of esterification activity on both HDL and ApoB-containing lipoproteins. Later, a subtype of this disease was found and named fish-eye disease (FED, OMIM 136120), where esterification is inactive only on HDL[3]. Both FLD and FED are caused by *LCAT* gene mutations. The profile and progression of the accompanying symptoms vary depending on the extent of LCAT activity impairment. In this review, the clinical and biochemical features, genetic backgrounds and current treatment of this hereditary disease are summarized and, referring to cases reported in Japan, clinical practice guidelines for Japan are proposed.

Background Mechanism for Clinical Findings of Familial LCAT Deficiency and Fish-Eye Disease

LCAT is the enzyme that acyl-esterifies cholesterol in plasma, which reduces unesterified cholesterol on the HDL surface to generate efflux of cell cholesterol to HDL. This comprises an important part of cholesterol transport from peripheral organs and cells to the liver for its catabolism. LCAT dysfunction disrupts this process, resulting in marked reduction of HDL-C and deformation of HDL particles due to lack of their major core lipid, cholesteryl acyl-ester. Impaired turnover of cellular cholesterol leads to its accumulation in cells in the cornea, bone marrow, liver, spleen, and glomerular basement membrane of the kidney[4, 5]. It is visible from the abnormal shape of erythrocytes[4, 5]. The clinical prognosis of LCAT deficiency is largely dependent on progression of renal dysfunction[4, 5]. Both FLD and FED are commonly screened for by low plasma HDL-C level and corneal opacity[4, 5].

1) Dyslipidemia

LCAT catalyzes acylesterification of cholesterol on plasma lipoproteins in the steady state, both on α-lipoproteins (HDL) (α-activity) and β-lipoproteins (LDL and VLDL) (β activity). The reaction requires the presence of helical apolipoproteins such as apolipoprotein (apo) A-I and E. It takes place on HDL, where particles are initially assembled as disc-like particles from extracellular helical apolipoproteins such as apoA-I with cellular phospholipid and cholesterol (nascent HDL or preβ-HDL), to generate the core and make particles spherical (mature HDL). This process maintains the efflux of cholesterol from cells to HDL. The reaction also takes place on apoB lipoproteins (β-lipoproteins), which should provide additional efflux of cell cholesterol. Lack of LCAT activity therefore causes a marked decrease in HDL-C and "immature" HDL remains in plasma appearing as rouleaux under electron microscopic observation. Owing to this abnormal HDL, plasma apoA-I and apoA-II, the first and second major apolipoproteins, also decrease. Thus, among FLD plasma lipoproteins, the percentage of esterified cholesterol in total cholesterol (CE/TC) is markedly low. There are also abnormal findings for LDL fractions in ultracentrifugation analysis[6] due to lack of the LCAT reaction, in which three subtypes of particles with different lipid compositions are evident. They are LpX particles, which are called FC-rich, PL-rich and TG-poor particles, and have a larger size (40 nm-60 nm). A large subtype of LDL rich in TG and PL (Lp8)[7] was identified by gel filtration HPLC analysis as a specific subtype for FLD. However, the exact mechanism for generating these abnormal LDL particles is not fully understood. Moreover, specific changes in LDL in FED are not clearly defined.

2) Corneal Opacity

FC and phospholipids accumulate excessively in the cornea due to lack of the LCAT reaction. Corneal turbidity is observed from early childhood in both FLD and FED, with patients presenting severe visual impairment and requiring corneal transplantation. Corneal opacity is frequently observed not only in LCAT deficiency but also in other HDL-deficiencies such as those related to apoA-I and ABCA1 (Tangier disease)[8]. Electron microscopic studies have shown that corneas from FLD patients are similar to those of patients with familial apoA1 deficiency[9-13]. In a patient with Tangier disease, very mild corneal clouding (usually requiring a slit-lamp examination for detection) has been reported, with less abundant extracellular corneal stromal deposits and cholesterol/phospholipid accumulation than in FED[14]. Since FED is usually not accompanied by renal dysfunction, the underlying mechanisms for corneal opacity and renal dysfunction may differ. Since the largest particle size capable of diffusing through the central stromal matrix is about 12 nm[15], it is unlikely that LDL and/or LpX infiltrate into the corneal stroma. On the other hand, small to normal-sized spherical HDL particles are found only in very small amounts in FLD and FED and Tangier disease[16-18]. As cholesterol is

synthesized in the cornea[19] reduced removal is a possible cause of its accumulation.

3) Hemolytic Anemia

Abnormally shaped erythrocytes, called target red blood cells, appear in LCAT deficiency due to the abnormal lipid composition of the cell membranes, which sometimes leads to hemolytic anemia, perhaps due to their fragility[20, 21]. The half-life of red blood cells is approximately half that of healthy people.

4) Splenomegaly

Splenomegaly with sea-blue histiocytosis has been reported[22, 23] in some FLD patients presenting abnormal lipid profiles. The histiocytes contained cytoplasmic vacuoles and membrane-like structures resembling rose petals, indicating that they were composed of phospholipid-containing membranes.

5) Proteinuria and Renal Dysfunction

Proteinuria is detected relatively early in the life of patients and frequently develops into progressive renal failure at 40 to 50 years of age, and eventually requires hemodialysis[24, 25]. It has been reported that proteinuria occurred in FLD patients at 3 years of age[26]. As kidney damage does not generally develop in FED, renal biopsy may be useful for differential diagnosis of the subtypes of LCAT deficiency. Renal lesions begin with deposition of lipid in the glomerular basement membrane, and later in the mesangium and capillary subendothelium. LpX particles, abnormal lipoprotein particles identified in the LDL fractions of FLD, have been considered to be a causative factor of renal damage in many studies[5, 27-29]. Recently, large TG-rich LDL (Lp8)[7] has been reported to be associated with the progression of renal dysfunction. It has also been reported that oxidized lecithin in the LDL of patients causes renal dysfunction[30]. In addition, lipoproteins containing apoE have been shown to be taken up by renal glomerular mesangial cells, causing excessive lipid deposition, possibly leading to renal dysfunction[31]. ApoE is a physiological LCAT activator in β-activity on LDL/VLDL particles[32], and effect of *apoE* genotype on clinical manifestations has been reported[33, 34], although further analyses are required to draw a definitive conclusion. In mice, LpX is taken up by glomerular endothelial cells, podocytes, and mesangial cells, it causes dysfunction in glomerular endothelial cells, and increases secretion of inflammatory cytokines[35]. Recent follow-up studies of families with an FLD mutation for a median of 12 years showed that eGFR deteriorated among homozygous family members at an average annual rate of 3.56 mL/min/1.73 m^2, whereas deterioration in heterozygous members and family controls was 1.33 and 0.68 mL/min/1.73 m^2, respectively[36]. A recent Italian cohort study in which 18 FLD patients (12 males and 6 females) were followed up for 12 ± 8.5 years reported that renal events (dialysis, kidney transplant, or death due to renal complications) occur at a median age of 46 years[37].

6) Atherosclerosis

Based on the inverse association between cardiovascular risk and plasma HDL-C levels found in epidemiological studies and the proposed function of LCAT in cholesterol transport, it is conceivable that the risk of cardiovascular events is increased in genetic low HDL-C patients. However, studies on FLD patients have produced inconsistent findings regarding a correlation between LCAT activity and atherosclerosis[38, 39]. Recently, Italian and Dutch research groups assessed subclinical atherosclerosis using carotid intima-media thickness in 74 patients with heterozygous mutations leading to the FLD and FED phenotypes[40]. Carriers of *LCAT* mutations leading to FLD exhibited less carotid atherosclerosis, whereas carriers of those leading to FED showed marginally more atherosclerosis. Thus, the clinical significance of the function of HDL[41] and other LCAT-associated lipoproteins[7] in the progression of atherosclerosis has not been established from the findings in FLD and FED. Also, no significant information in this regard has been reported in Japanese FLD and FED patients.

Disease Prevalence and Genetics

FLD and FED are autosomal recessive inherited diseases caused by mutations of the *LCAT* gene located in the short arm of chromosome 16. In Japan, the prevalence of these diseases is extremely low so the exact rate of mutation is unknown. **Fig. 1** shows previously identified *LCAT* gene mutations in patients according to The Human Gene Mutation Database[42], showing great diversity in the positions of mutations causing dysfunction of LCAT. An association between position and extent or nature of dysfunction has not been well established. A report by the Ministry of Health, Labor and Welfare Research Group described 13 types of mutations identified in Japan[43] by 2004. Since the report, a further 7 mutations of the *LCAT* gene have been identified as causative mutations of FLD or FED in Japan[34, 44-46]; 5 of them were novel mutations and 2 had already been reported in patients in other countries. Mutations occurring in Japanese are summarized in **Table 1**.

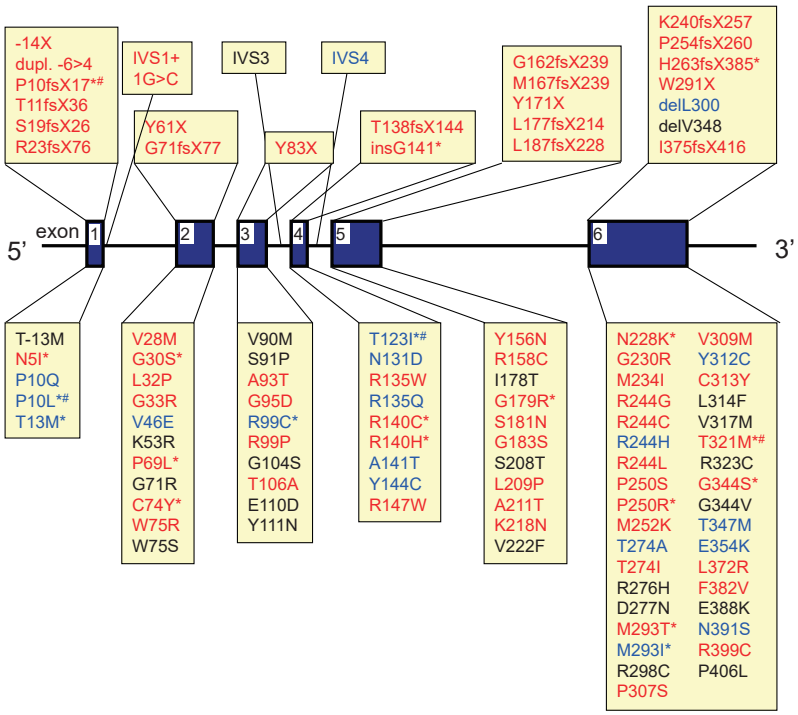


Fig. 1. Previously identified mutations in *LCAT* gene

The *LCAT* gene is composed of six exons. Mutations identified so far are depicted according to The Human Gene Mutation Database (HGMD®) (http://www.hgmd.cf.ac.uk/ac/index.php). Numbers of amino acid residues are expressed based on mature LCAT protein after signal peptide (24 amino acid residues) is cleaved. Mutations in red and bule are causative mutations identified in familial LCAT deficiency (FLD) and fish-eye disease (FED), respectively. The * symbol indicates a mutation reported in Japan, and the # symbol indicates a mutation identified in Japan as well as other countries. Mutations shown in black are variants of uncertain significance found by such as genome-wide nucleotide sequencing of clinical samples.

Table 1. Mutations identified in patients in Japan

Exon	Mutation	Codon	Amino acid substitution	Phenotype
1	c.86A>T	5	Asn>Ile	FLD
1	c.101insC	10	Pro10fsTer17	FLD
1	c.101C>T	10	Pro>Leu	FED
1	c.110C>T	13	Thr>Met	FED
2	c.160G>A	30	Gly>Ser	FLD
2	c.278C>T	69	Pro>Leu	FLD
2	c.293G>A	74	Cys>Tyr	FLD
3	c.367C>T	99	Arg>Cys	FED
4	c.440C>T	123	Thr>Ile	FED
4	c.490C>T	140	Arg>Cys	FLD
4	c.491G>A	140	Arg>His	FLD
4	c.493insGGC	141	ins Gly	FLD
5	c.607G>C	179	Gly>Arg	FLD
6	c.756C>A	228	Asn>Lys	FLD
6	c.821C>G	250	Pro>Arg	FLD
6	c.862del	264	His263fsTer385	FLD
6	c.950T>C	293	Met>Thr	FLD
6	c.951G>A	293	Met>Ile	FED
6	c.1034C>T	321	Thr>Met	FLD
6	c.1102G>A	344	Gly>Ser	FLD

Mutations identified in Japanese patients are summarized. Note that numbering of amino acid residues is based on mature LCAT protein in which 24 signal peptide sequence is removed.

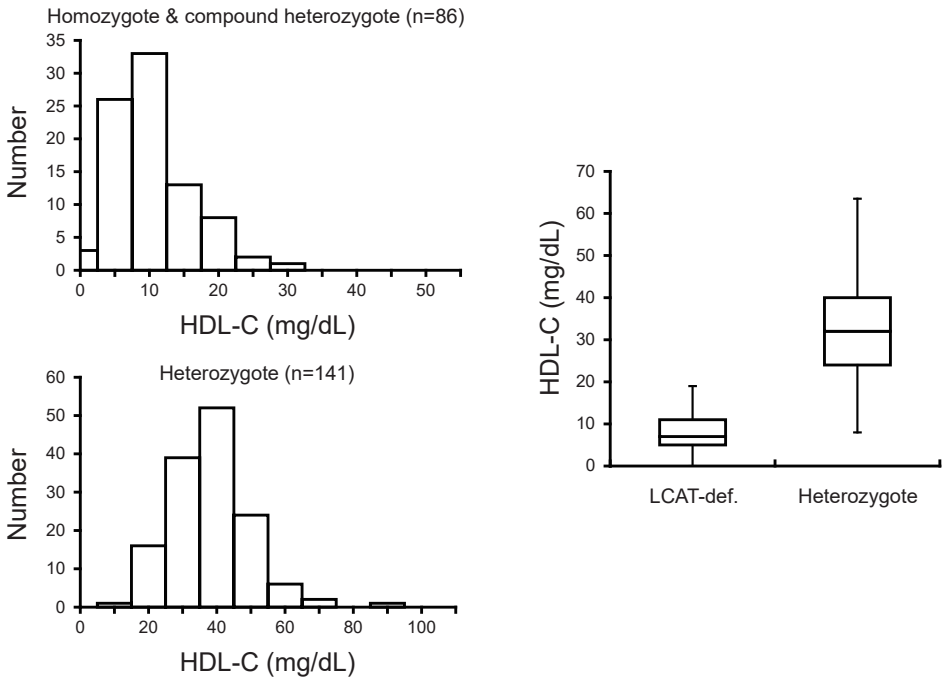


Fig. 2. Distribution of HDL-C in patients

Clinical levels of HDL-C available from published data (until Aug. 2019) for homozygous and compound heterozygous patients (n=86) and heterozygotes (n=141) have been collected and their distribution is shown in the figure. Note that their assay methods are not taken into consideration in the data distribution.

Clinical Examinations and Diagnostic Approach to LCAT Deficiency in Japan

The main clinical findings in FLD and FED are corneal opacity and low HDL-C. They are the key signs for suspecting these diseases. Proteinuria and/or anemia are also observed in many cases of FLD, but not in FED.

1) Lipid Examination

HDL-C values reported in the literature are summarized for homozygous and compound heterozygous FLD patients (n=86) in **Fig. 2** (until Aug. 2019). More than 72% of patients exhibited HDL-C levels less than 10 mg/dL. However, 3.5 % had levels higher than 20 mg/dL though the assay methods were not standardized. When a patient has an HDL-C level less than 25 mg/dL and corneal opacity, LCAT activity analysis should be considered (proposed by the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Diseases of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan in 2020). In assays, since α-activity represents LCAT activity using synthetic HDL (specific for HDL) as a substrate[47], measured levels are largely decreased in all plasma samples from patients with FLD or FED and may be below the detection limit in both. Cholesterol esterification rate (CER)[48] represents total esterification activity, including β-activity (specific for β-lipoproteins) and α-activity. As β-activity is also disrupted in FLD but not much in FED, measured levels are usually more decreased in FLD, compared with FED, which is useful for distinguishing FLD and FED. However, these assays are not routinely available in the clinical laboratories of regular hospitals in Japan. Therefore, the CE/TC ratio in plasma is a useful alternative for distinguishing FLD and FED. CE/TC is always reduced in FLD but not in FED and partial LCAT deficiency. ApoA-I and apoA-II are also significantly reduced due to the reduced HDL levels in FLD and FED. In the electrophoretic analysis of lipoproteins (agarose or polyacrylamide), LCAT dysfunction results in the appearance of abnormal lipoproteins, including LpX and IDL. Large and triglyceride-rich LDL (Lp8) is identified through HPLC gel filtration analysis of lipoproteins[7].

2) Ophthalmic Examination

Corneal opacity **(Fig. 3A)** is recognized in most LCAT deficiency patients. Grayish white granular spots are observed in corneal layers excluding the epithelium by the slit-lamp test. To assess the extent of corneal opacity, a contrast sensitivity test[49] is useful.

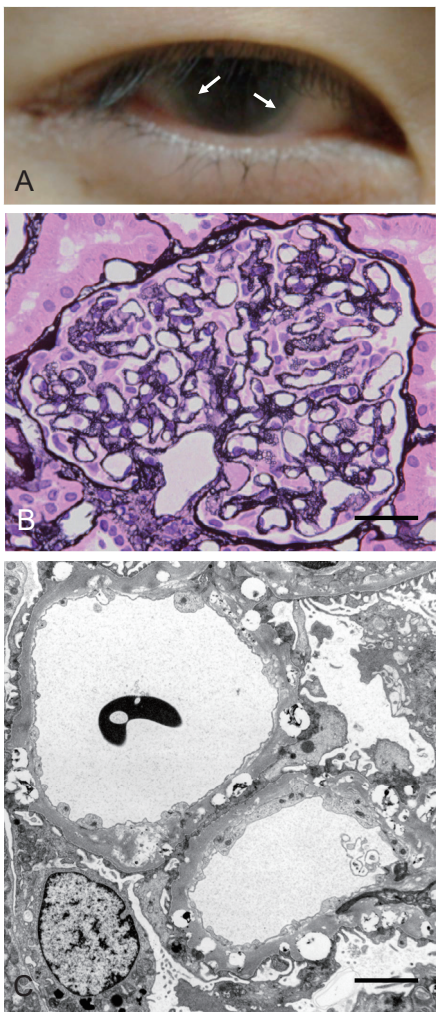


Fig. 3. Case with LCAT deficiency manifesting as corneal opacities and proteinuria (patient from ref. 31)

A) Corneal opacities in right eye (arrows).
B) Light microscopic findings for renal biopsy (Periodic acid methenamine silver stain). Thickened with bubbly, vacuolated, and honeycomb appearance. (Bar = 10 μm)
C) Electron microscopic findings for renal biopsy. Electron micrograph shows glomerular epimembranous, intramembranous, and subendothelial lipid droplets. Electron-lucent deposits with an electron-dense core can be observed in the glomerular basement membrane and mesangial matrix. (Bar = 2 μm)

3) Renal Examination

When proteinuria is present in patients with decreased LCAT activity who present with corneal opacity, renal biopsy may be considered **(Fig. 3B and 3C)**. Deposition of FC and phospholipids in the subendothelium of glomerular basement membrane is often observed. Accumulation of foam cells and thickening of Bowman's sac and glomerular basement membrane are also observed. Electron microscopy reveals an extensive high electron density membrane structure in the capillary lumen, basement membrane, and mesangial region[50].

4) Hematological Examination

Mild hemolytic anemia is present in many cases of FLD. A blood count shows a decreased hemoglobin level. HbA1c and haptoglobin levels are also decreased. Red blood cells with an abnormal appearance (called "target cells", "knizocytes", "stomatocytes", or "spherostomatocytes") are observed in FLD due to cholesterol accumulation in the cell membranes.

5) Gene Analysis

Genetic analysis is useful for the final diagnosis, combined with the results of the above examinations. The recessive inheritance format is determined through identification of mutations in the *LCAT* gene of the FLD or FED patients.

Differential Diagnosis

1) Hereditary Low HDL-Cholesterolemia (Tangier Disease, Familial Hypo-Alpha-Lipoproteinemia and ApoA-I Deficiency)

Patients with apoA-I deficiency and Tangier disease have a marked reduction in plasma HDL-C levels, which are generally lower than those in FLD and FED. Corneal opacity is also observed in these diseases[8]. The apo A-I level is about 30-50 mg/dL in patients with FLD or FED, but levels in Tangier disease are more markedly decreased (less than 10 mg/dL). Thus, the plasma apolipoprotein A-I concentration is useful for the differential diagnosis of these diseases. However, genetic analysis may be needed for final differentiation of diseases with hereditary low HDL-cholesterolemia.

2) Immune-Mediated LCAT Deficiency

There have been reports of patients exhibiting marked reduction in plasma HDL-C and renal dysfunction, similar to those in genetic LCAT deficiency, but are due to the presence of autoantibodies against LCAT protein[51, 52]. Immune-mediated LCAT deficiency is sometimes found through a gradual decrease in HDL-C. Testing for the antibodies and investigation of family history are necessary for differentiating this disorder from genetic LCAT deficiency, especially FLD.

3) Liver Disease (Liver Cirrhosis and Fulminant Hepatitis), Biliary Tract Obstruction, Malnutrition, or Cachexia

LCAT is an enzyme produced in the liver, so its biosynthesis is susceptible to hepatic damage. It is thus necessary to differentiate FLD and FED from

conditions where there is a secondary decrease in the enzyme due to serious liver dysfunction[53].

4) Drug-Induced Low HDL-Cholesterolemia (Probucol and Probucol/Fibrates)

Probucol has been found to reduce plasma HDL by inhibiting ABCA1 activity. In addition, it has been reported that plasma HDL is reduced to an extreme degree when probucol is taken with fibrate, even when fibrate is initiated after discontinuing probucol[54-56]. Patient histories need to be examined for use of these medications.

Since it is a designated intractable disease, diagnostic criteria for familial LCAT deficiency were previously proposed by the research group of the Ministry of Health, Labor and Welfare of Japan. The guidelines have been updated based on additionally accumulated Japanese clinical and laboratory data by a dyslipidemia research group supported by a grant from the Ministry of Health, Labor and Welfare **(Table 2)**.

Table 2. Diagnostic criteria for Japan proposed by research group of Ministry of Health, Labor and Welfare

A. Required item
1. Blood HDL-C level less than 25 mg/dL
2. Decrease in cholesteryl ester/TC ratio (CE/TC) (60% or less)

B. Symptom
1. Proteinuria, renal dysfunction
2. Corneal opacities

C. Laboratory findings
Blood and biochemical examination findings
1. Anemia (hemoglobin level, less than 11 g/dL)
2. Abnormalities in morphology of red blood cells (called "target cells", "knizocytes", "stomatocytes", or "spherostomatocytes")
3. Appearance of abnormal lipoproteins (LpX, IDL, or large TG rich LDL)

Ophthalmic examination findings
Decreased contrast sensitivity

D. Differential diagnosis
Differentiate from following diseases.
1. Other hereditary low HDL-cholesterolemia (Tangier disease, apolipoprotein AI deficiency)
2. Secondary LCAT deficiency (pathophysiology showing decreased protein synthesis such as liver disease (hepatic cirrhosis, fulminant hepatitis), biliary obstruction, malnutrition, cachexia, and autoimmune LCAT deficiency with underlying disease)
3. Secondary low HDL-cholesterolemia (After surgery, hepatopathy (especially cirrhosis, severe hepatitis, including convalescent stage), acute phase of systemic inflammatory disease, debilitating diseases such as cancer. history of oral probucol within the past 6 months, probucol and fibrate combination (including prescription after discontinuation of probucol))

E. Genetic testing
1. Mutation of *LCAT* gene

In a clinical sample in which two essential items are satisfied, the following determinations are made.
Definite: A disease that meets one or more of B and C and excludes any disease to be differentiated from in D, and satisfies E
Probable: Disease that meets one or more of B and C and excludes any disease that should be differentiated from in D

Current Treatment

There is no currently approved effective treatment for FLD and FED. Effective treatments would be replacement with normal or recombinant LCAT enzymes and gene therapy, and they are now under development. To mitigate renal dysfunction, a low-fat diet and renoprotective drugs, such as angiotensin converting enzyme (ACE) inhibitors or angiotensin II receptor blockers (ARB), are prescribed.

1) Diet

There has been a study on the FLD siblings where the younger brother, who was put on a low calorie intake (1900 Cal) with fat restriction (25 g/day), did not develop proteinuria while his elder brother having a total calorie intake of 2500 Cal and fat intake of 65 g/day did[57]. Together with those of other studies[46, 58], these findings indicate that development of renal dysfunction can be delayed by a low-fat diet. A low-fat diet may lead to a decrease in abnormal lipoproteins associated with LCAT deficiency as well as reduced renal damage, although it may not be effective in all cases[59].

2) Blood Transfusion Therapy

Fresh blood (whole blood or plasma) transfusion therapy has been reported to be effective for LCAT replacement[60, 61]. An increase in LCAT activity was observed, but it returned to the pre-transfusion level within one week, indicating that it is difficult to maintain a therapeutic level.

3) Drug Treatment

There is no definitive drug treatment for alleviating decreased or defective LCAT activity in FLD. Drug therapy, combined with diet, has been attempted with the purpose of preventing or mitigating the deterioration in renal function. ACE inhibitors reportedly reduced proteinuria after one

year of treatment[26]. Also, combination therapy of nicotinic acid and fenofibrate lead to a reduction in LpX and an associated reduction in albuminuria in a patient[62]. In addition, high-dose ARB with statin was reported to stabilize the progression of renal dysfunction[63]. Results for corticosteroid treatment (with ACE inhibitor) suggested that reduced inflammatory responses lead to a decrease in proteinuria in a patient[64].

4) Recombinant hLCAT Protein (rhLCAT) Replacement Therapy

A clinical trial on rhLCAT has been conducted in the United States[65]. High-dose rhLCAT (9.0 mg/kg) improved anemia and renal function to some degree with improvement in lipid parameters, including an increase in HDL-C but there was a return to the pre-treatment status by 2 weeks after administration, and the supply of rhLCAT became insufficient during the trial. As with other enzyme replacement therapies, it is necessary to continue administration. Another clinical trial has been conducted to evaluate the safety, pharmacokinetics and pharmacodynamics of rhLCAT in subjects with stable coronary artery disease (NCT02601560)[66]. It was reported that antibodies against rhLCAT appeared in some of the participants on the highest dose of rhLCAT.

5) Gene Therapy

A gene therapy-mediated continuous supply of LCAT would improve patient QOL by reducing the frequency of hospital visits and administration of therapy. No gene therapy has received regulatory approval anywhere. In Japan, the first in-human study on gene therapy/regenerative medicine via auto-transplantation of *LCAT* gene-transduced preadipocytes has been approved by the Ministry of Health, Labor and Welfare, under the Act on Securement of Safety of Regenerative Medicine[67]. The first patient has been followed up for more than three years since transplantation at Chiba University Hospital. It was well-tolerated. The second clinical trial was started in 2020 for the purpose of obtaining regulatory approval in Japan.

6) Organ Transplantation

Kidney transplantation to treat renal dysfunction and corneal transplantation to remedy visual impairment are performed, but the risk of recurrence is inevitably high. In recent years, single-donor sequential kidney and liver transplantation has been performed in one patient[68]. During the 5-year follow-up period, the function of the transplanted organs was maintained, but dyslipidemia recurred within 1 year after liver transplantation.

Future Perspectives

Our current understanding of familial LCAT deficiency and its complications is summarized in this review based on information from the literature, including that from Japan. More than 100 *LCAT* mutations have been identified in the world, but mechanisms of development of subsequent complications remain to be elucidated. A better understanding of the pathophysiology of this disease will be necessary to make further progress in treatment. We hope that this review will be helpful for clinicians in performing diagnosis and medical care for patients suspected of having the disease in Japan.

The diagnosis of the subtypes of this rare genetic disease, FLD and FED, requires the involvement of multiple departments such as lipid metabolism, nephrology, and ophthalmology. Also, the onset of severe renal dysfunction is relatively late (40 to 50 years old). These could be reasons for the delay in diagnosis. Measurement of LCAT activity and genetic testing for FLD and FED are not covered by National Health Insurance in Japan, and this also makes it difficult for physicians to diagnose patients with the disease.

Currently, LCAT enzyme replacement therapy by means of transfusion of a recombinant preparation or gene/cell therapy is under development. We hope that these treatments are put into practice in near future, and improve patients' survival and QOL.

Acknowledgments and Notice of Grant Support

This work has been supported by Health, Labour and Welfare Sciences Research Grant for Research on Rare and Intractable Diseases (H30-nanji-ippan-003).

Conflicts of Interest

Atsushi Nohara has nothing to disclose. Hayato Tada has nothing to disclose. Masatsune Ogura has received honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc. Sachiko Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Koh Ono has nothing to disclose. Hitoshi Shimano has nothing to disclose. Hiroyuki Daida has received honoraria from Amgen Inc., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Kowa Co., Ltd., and MSD K.K., Novartis Pharma K.K., Bayer Yakuhin, Ltd. and received clinical research funding from Canon Medical

Systems Corporation, Philips Japan, Ltd., Toho Holdings Co., Ltd., Asahi Kasei Corporation, and Inter Reha Co., Ltd. HD has also received scholarship grants from Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Sanofi K.K., MSD K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Pfizer Co., Ltd., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Astellas Pharma Inc., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi & Co., Ltd., Actelion Pharmaceuticals, Ltd., Actelion Ltd., Kowa Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. HD has also courses endowed by companies, including Philips Japan, Ltd., ResMed, Fukuda Denshi Co., Ltd., and Paramount Bed Co., Ltd. Kazushige Dobashi has nothing to disclose. Toshio Hayashi has nothing to disclose. Mika Hori has nothing to disclose. Kota Matsuki has nothing to disclose. Tetsuo Minamino has nothing to disclose. Shinji Yokoyama has nothing to disclose. Mariko Harada-Shiba has received stock holdings or options from Liid Pharma, honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc., Sanofi, and scholarship grants from Aegerion Pharmaceuticals, Inc., Recordati Rare Diseases Japan, and Kaneka Corporation. Katsunori Ikewaki has nothing to disclose. Yasushi Ishigaki has nothing to disclose. Shun Ishibashi has received honoraria from Kowa Co., Ltd., and a scholarship grant from Ono Pharmaceutical Co., Ltd. Kyoko Inagaki has nothing to disclose. Hirotoshi Ohmura has nothing to disclose. Hiroaki Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Masa-aki Kawashiri has nothing to disclose. Masayuki Kuroda has received clinical research funding from CellGenTech, Inc. Masahiro Koseki has received clinical research funding from Kowa Company, Ltd., Rohto Pharmaceutical Co., Ltd. Takanari Gotoda has nothing to disclose. Shingo Koyama has nothing to disclose. Yoshiki Sekijima has nothing to disclose. Manabu Takahashi has nothing to disclose. Yasuo Takeuchi has nothing to disclose. Misa Takegami has nothing to disclose. Kazuhisa Tsukamoto has received honoraria from Bayer Yakuhin, Ltd., MSD Ltd., Takeda Pharmaceutical Company Ltd., and scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation., Bayer Yakuhin, Ltd., Sanofi K.K. Atsuko Nakatsuka has nothing to disclose. Kimitoshi Nakamura has nothing to disclose. Satoshi Hirayama has nothing to disclose. Hideaki Bujo has nothing to disclose. Daisaku Masuda has received clinical research funding from MSD K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Co., Ltd. Takashi Miida has nothing to disclose. Yoshihiro Miyamoto has nothing to disclose. Takeyoshi Murano has nothing to disclose. Takashi Yamaguchi has nothing to disclose. Shizuya Yamashita has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K. Masashi Yamamoto has nothing to disclose. Koutaro Yokote has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K., Astellas Pharma Inc., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Amgen K.K., Takeda Pharmaceutical Company Limited, Sanofi K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., AstraZeneca K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Novartis Pharma K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Kyowa Kirin Co., Ltd., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Janssen Pharmaceutical K.K., and received clinical research funding from Taisho Pharmaceutical Co., Ltd. KY has also received scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., MSD K.K., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Kao Corporation, Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. Jun Wada has nothing to disclose.

References

1) Glomset JA, Parker F, Tjaden M, Williams RH. The esterification in vitro of free cholesterol in human and rat plasma. Biochim Biophys Acta, 1962; 58: 398-406
2) Glomset JA, Janssen ET, Kennedy R, Dobbins J. Role of plasma lecithin: cholesterol acyltransferase in the metabolism of high density lipoproteins. J Lipid Res, 1966; 7: 638-648
3) Carlson LA., Philipson B. Fish-eye disease: a new familial condition with massive corneal opacities and dyslipoproteinem. Lancet, 1979; 314: 921-924
4) Glomset JA, Assmann G, Gjone E, Norum KR. Lecithin cholesterol acyltransferase deficiency and fish eye disease. In: The Metabolic and Molecular Bases of Inherited Disease, 7th ed. by Scriver CR, Beaudet AL, Sly WS, Valle D, Stanbury JB, Wyngaarden JB, Fredrickson DS., McGraw-Hill Inc., New York, 1995, 1933-1951
5) Santamarina-Fojo S, Hoeg JM, Assman G, Brewer Jr HB. Lecithin cholesterol acyltransferase deficiency and fish eye disease. In: The metabolic and molecular bases of inherited disease, 8th ed. by Scriver CR, Beaudet AL, Sly WS, Valle D, Childs B, Kinzler KW, Vogelstein B., McGraw-Hill Inc., New York, 2001, 2817-2833
6) Forte T, Nichols A, Glomset J, Norum K. The ultrastructure of plasma lipoproteins in lecithin: cholesterol acyltransferase deficiency. Scand J Clin Lab Invest Suppl, 1974; 137: 121-132
7) Kuroda M, Holleboom AG, Stroes ES, Asada S, Aoyagi Y, Kamata K, Yamashita S, Ishibashi S, Saito Y, Bujo H. Lipoprotein subfractions highly associated with renal damage in familial lecithin:cholesterol acyltransferase deficiency. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2014; 34:

1756-1762
8) von Eckardstein A. Differential diagnosis of familial high density lipoprotein deficiency syndromes. Atherosclerosis, 2006; 186: 231-239
9) Cogan DG, Kruth HS, Datilis MB, Martin N. Corneal opacity in LCAT disease. Cornea, 1992; 11: 595-599
10) Philipson BT. Fish eye disease. Birth Defects Orig Artic Ser, 1982; 18: 441-448
11) Bethell W, McCulloch C, Ghosh M. Lecithin cholesterol acyl transferase deficiency. Light and electron microscopic finding from two corneas. Can J Ophthalmol, 1975; 10: 494-501
12) Viestenz A, Schlotzer-Schrehardt U, Hofmann-Rummelt C, Seitz B, Kuchle M. Histopathology of corneal changes in lecithin-cholesterol acyltransferase deficiency. Cornea, 2002; 21: 834-837
13) Koster H, Savoldelli M, Dumon MF, Dubourg L, Clerc M, Pouliquen Y. A fish-eye disease-like familial condition with massive corneal clouding and dyslipoproteinemia. Report of clinical, histologic, electron microscopic, and biochemical features. Cornea, 1992; 11: 452-464
14) Flores R, Jin X, Chang J, Zhang C, Cogan DG, Schaefer EJ, Kruth HS. LCAT, ApoD, and ApoA1 Expression and Review of Cholesterol Deposition in the Cornea. Biomolecules, 2019; 9: 785
15) McCulley JP. The circulation of fluid at the limbus (flow and diffusion at the limbus). Eye, 1989; 3: 114-120
16) Forte T, Norum KR, Glomset JA, Nichols AV. Plasma lipoproteins in familial lecithin: Cholesterol acyltransferase deficiency: Structure of low and high density lipoproteins as revealed by elctron microscopy. J Clin Investig, 1971; 50: 1141-1148
17) Forte TM, Carlson LA. Electron microscopic structure of serum lipoproteins from patients with fish eye disease. Arteriosclerosis, 1984; 4: 130-137
18) Rye KA, Clay MA, Barter PJ. Remodelling of high density lipoproteins by plasma factors. Atherosclerosis, 1999; 145: 227-238
19) Cenedella RJ, Fleschner CR. Cholesterol biosynthesis by the cornea. Comparison of rates of sterol synthesis with accumulation during early development. J Lipid Res, 1989; 30: 1079-1084
20) Godin DV, Gray GR, Frohlich J. Erythrocyte membrane alterations in lecithin:cholesterol acyltransferase deficiency. Scand J Clin Lab Invest Suppl, 1978; 150: 162-167
21) Suda T, Akamatsu A, Nakaya Y, Masuda Y, Desaki J. Alterations in erythrocyte membrane lipid and its fragility in a patient with familial lecithin:cholesterol acyltrasferase (LCAT) deficiency. J Med Invest, 2002; 49: 147-155
22) Jacobsen CD, Gjone E, Hovig T. Sea-blue histiocytes in familial lecithin: cholesterol acyltransferase deficiency. Scand J Haematol, 1972; 9: 106-113
23) Naghashpour M, Cualing H. Splenomegaly with sea-blue histiocytosis, dyslipidemia, and nephropathy in a patient with lecithin-cholesterol acyltransferase deficiency: a clinicopathologic correlation. Metabolism, 2009; 58: 1459-1464
24) Tsuchiya Y, Ubara Y, Hiramatsu R, Suwabe T, Hoshino J, Sumida K, Hasegawa E, Yamanouchi M, Hayami N, Marui Y, Sawa N, Hara S, Takaichi K, Oohashi K. A case of familial lecithin-cholesterol acyltransferase deficiency on hemodialysis for over 20 years. Clin Nephrol, 2011; 76: 492-498
25) Weber CL, Frohlich J, Wang J, Hegele RA, Chan-Yan C. Stability of lipids on peritoneal dialysis in a patient with familial LCAT deficiency. Nephrol Dial Transplant, 2007; 22: 2084-2088
26) Holleboom AG, Kuivenhoven JA, van Olden CC, Peter J, Schimmel AW, Levels JH, Valentijn RM, Vos P, Defesche JC, Kastelein JJ, Hovingh GK, Stroes ES, Hollak CE. Proteinuria in early childhood due to familial LCAT deficiency caused by loss of a disulfide bond in lecithin:cholesterol acyl transferase. Atherosclerosis, 2011; 216: 161-165
27) Calabresi L, Pisciotta L, Costantin A, Frigerio I, Eberini I, Alessandrini P, Arca M, Bon GB, Boscutti G, Busnach G, Frascà G, Gesualdo L, Gigante M, Lupattelli G, Montali A, Pizzolitto S, Rabbone I, Rolleri M, Ruotolo G, Sampietro T, Sessa A, Vaudo G, Cantafora A, Veglia F, Calandra S, Bertolini S, Franceschini G. The molecular basis of lecithin:cholesterol acyltransferase deficiency syndromes: a comprehensive study of molecular and biochemical findings in 13 unrelated Italian families. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2005; 25: 1972-1978
28) Ahsan L, Ossoli AF, Freeman L, Vaisman B, Amar MJ, Shamburek RD, Remaley AT. Role of lecithin: cholesterol acyltransferase in HDL metabolism and atherosclerosis. The HDL Handbook, 2014; 159-194
29) Borysiewicz LK, Soutar AK, Evans DJ, Thompson GR, Rees AJ. Renal failure in familial lecithin: cholesterol acyltransferase deficiency. Q J Med, 1982; 51: 411-426
30) Jimi S, Uesugi N, Saku K, Itabe H, Zhang B, Arakawa K, Takebayashi S. Possible induction of renal dysfunction in patients with lecithin:cholesterol acyltransferase deficiency by oxidized phosphatidylcholine in glomeruli. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 1999; 19: 794-801
31) Groene EF, Walli AK, Groene HJ, Miller B, Seidel D. The role of lipids in nephrosclerosis and glomerulosclerosis. Atherosclerosis, 1994; 107: 1-13
32) Zhao Y, Thorngate FE, Weisgraber KH, Williams DL, Parks JS. Apolipoprotein E is the major physiological activator of lecithin-cholesterol acyltransferase (LCAT) on apolipoprotein B lipoproteins. Biochemistry, 2005; 44: 1013-1025
33) Baass A, Wassef H, Tremblay M. Characterization of a new LCAT mutation causing familial LCAT deficiency (FLD) and the role of APOE as a modifier gene in FLD phenotype. Atherosclerosis, 2009; 207: 452-457
34) Katayama A, Wada J, Kataoka HU, Yamasaki H, Teshigawara S, Terami T, Inoue K, Kanzaki M, Murakami K, Nakatsuka A, Sugiyama H, Koide N, Bujo H, Makino H. Two novel mutations of lecithin:cholesterol acyltransferase (LCAT) gene and the influence of APOE genotypes on clinical manifestations. NDT Plus, 2011; 4: 299-302
35) Ossoli A, Neufeld EB, Thacker SG, Vaisman B, Pryor M, Freeman LA, Brantner CA, Baranova I, Francone NO, Demosky SJ Jr, Vitali C, Locatelli M, Abbate M, Zoja C, Franceschini G, Calabresi L, Remaley AT. Lipoprotein X Causes Renal Disease in LCAT Deficiency. PLoS One, 2016; 11: e0150083
36) Fountoulakis N, Lioudaki E, Lygerou D, Dermitzaki EK,

Papakitsou I, Kounali V, Holleboom AG, Stratigis S, Belogianni C, Syngelaki P, Stratakis S, Evangeliou A, Gakiopoulou H, Kuivenhoven JA, Wevers R, Dafnis E, Stylianou K. The P274S Mutation of Lecithin-Cholesterol Acyltransferase (LCAT) and Its Clinical Manifestations in a Large Kindred. Am J Kidney Dis, 2019; 74: 510-522
37) Pavanello C, Ossoli A, Arca M, D'Erasmo L, Boscutti G, Gesualdo L, Lucchi T, Sampietro T, Veglia F, Calabresi L. Progression of chronic kidney disease in familial LCAT deficiency: a follow-up of the Italian cohort. J Lipid Res, 2020; 61: 1784-1788
38) Tietjen I, Hovingh GK, Singaraja R, Radomski C, McEwen J, Chan E, Mattice M, Legendre A, Kastelein JJ, Hayden MR. Increased risk of coronary artery disease in Caucasians with extremely low HDL cholesterol due to mutations in ABCA1, APOA1, and LCAT. Biochim Biophys Acta, 2012; 1821: 416-424
39) Ossoli A, Simonelli S, Vitali C, Franceschini G, Calabresi L. Role of LCAT in Atherosclerosis. J Atheroscler Thromb, 2016; 23: 119-127
40) Oldoni F, Baldassarre D, Castelnuovo S, Ossoli A, Amato M, van Capelleveen J, Hovingh GK, De Groot E, Bochem A, Simonelli S, Barbieri S, Veglia F, Franceschini G, Kuivenhoven JA, Holleboom AG, Calabresi L. Complete and Partial LCAT Deficiency are Differentially Associated with Atherosclerosis. Circulation, 2018; 138: 1000-1007
41) Toh R. Assessment of HDL Cholesterol Removal Capacity: Toward Clinical Application. J Atheroscler Thromb, 2019; 26: 111-120
42) The Human Gene Mutation Database (HGMD®) http://www.hgmd.cf.ac.uk/ac/index.php
43) Maruyama T, Yamashita S, Matsuzawa Y, Bujo H, Takahashi K, Saito Y, Ishibashi S, Ohashi K, Shionoiri F, Gotoda T, Yamada N, Kita T; Research Committee on Primary Hyperlipidemia of the Ministry of Health and Welfare of Japan. Mutations in Japanese subjects with primary hyperlipidemia--results from the Research Committee of the Ministry of Health and Welfare of Japan since 1996--. J Atheroscler Thromb, 2004; 11: 131-145
44) Hirashio S, Izumi K, Ueno T, Arakawa T, Naito T, Taguchi T, Yorioka N. Point mutation (C to T) of the LCAT gene resulting in A140C substitution. J Atheroscler Thromb, 2010; 17: 1297-1301
45) Wang XL, Osuga J, Tazoe F, Okada K, Nagashima S, Takahashi M, Ohshiro T, Bayasgalan T, Yagyu H, Okada K, Ishibashi S. Molecular analysis of a novel LCAT mutation (Gly179→Arg) found in a patient with complete LCAT deficiency. J Atheroscler Thromb, 2011; 18: 713-719
46) Naito S, Kamata M, Furuya M, Hayashi M, Kuroda M, Bujo H, Kamata K. Amelioration of circulating lipoprotein profile and proteinuria in a patient with LCAT deficiency due to a novel mutation (Cys74Tyr) in the lid region of LCAT under a fat-restricted diet and ARB treatment. Atherosclerosis, 2013; 228: 193-197
47) Manabe M, Abe T, Nozawa M, Maki A, Hirata M, Itakura H. New substrate for determination of serum lecithin:cholesterol acyltransferase. J Lipid Res, 1987; 28: 1206-1215
48) Nagasaki T, Akanuma Y. A new colorimetric method for the determination of plasma lecithin-cholesterol acyltransferase activity. Clin Chim Acta, 1977; 75: 371-375
49) Kanai M, Koh S, Masuda D, Koseki M, Nishida K. Clinical features and visual function in a patient with Fish-eye disease: Quantitative measurements and optical coherence tomography. Am J Ophthalmol Case Rep, 2018; 10: 137-141
50) Najafian B, Lusco MA, Finn LS, Alpers CE, Fogo AB. AJKD Atlas of Renal Pathology: Lecithin-Cholesterol Acyltransferase (LCAT) Deficiency. Am J Kidney Dis, 2017; 70: e5-e6
51) Takahashi S, Hiromura K, Tsukida M, Ohishi Y, Hamatani H, Sakurai N, Sakairi T, Ikeuchi H, Kaneko Y, Maeshima A, Kuroiwa T, Yokoo H, Aoki T, Nagata M, Nojima Y. Nephrotic syndrome caused by immune-mediated acquired LCAT deficiency. J Am Soc Nephrol, 2013; 24: 1305-1312
52) Ishibashi R, Takemoto M, Tsurutani Y, Kuroda M, Ogawa M, Wakabayashi H, Uesugi N, Nagata M, Imai N, Hattori A, Sakamoto K, Kitamoto T, Maezawa Y, Narita I, Hiroi S, Furuta A, Miida T, Yokote K. Immune-mediated acquired lecithin-cholesterol acyltransferase deficiency: A case report and literature review. J Clin Lipidol, 2018; 12: 888-897
53) Jones DP, Sosa FR, Shartsis J, Shah PT, Skromak E, Beher WT. Serum cholesterol esterifying and cholesteryl ester hydrolyzing activities in liver diseases: relationships to cholesterol, bilirubin, and bile salt concentrations. J Clin Invest, 1971; 50: 259-265
54) Davignon J, Nestruck AC, Alaupovic P, Bouthillier D. Severe hypoalphalipoproteinemia induced by a combination of probucol and clofibrate. Adv Exp Med Biol, 1986; 201: 111-125
55) Yokoyama S, Yamamoto A, Kurasawa T. A little more information about aggravation of probucol-induced HDL-reduction by clofibrate. Atherosclerosis, 1988; 70: 179-181
56) Murphy MJ, Duncan A, Vallance BD, Packard CJ, O'Reilly DS. Iatrogenic profound hypoalphalipoproteinaemia: an unrecognised cause of very low HDL cholesterol. Postgrad Med J, 1995; 71: 498-500
57) Takata K, Kajiyama G, Horiuchi I, Watanabe T, Tokumo H, Hirata Y. A new case of familial lecithin: cholesterol acyltransferase (LCAT) deficiency--paradoxical findings regarding LCAT mass and activity in 23 members of a family. Jpn J Med, 1989; 28: 765-771
58) Gjone E. Familial lecithin: cholesterol acyltransferase deficiency--a clinical survey. Scand J Clin Lab Invest Suppl, 1974; 137: 73-82
59) Homma S, Murayama N, Kodama T, Yamada N, Takahashi K, Asano Y, Hosoda S, Murase T, Akanuma Y. Effects of long-term, low-fat diet on plasma apo E in familial LCAT deficiency. Nihon Jinzo Gakkai Shi, 1993; 35: 999-1006
60) Norum KR, Gjone E. The effect of plasma transfusion on the plasma cholesterol esters in patients with familial plasma lecithin:cholesterol acyltransferase deficiency. Scand J Clin Lab Invest, 1968; 22: 339-342
61) Murayama N, Asano Y, Kato K, Sakamoto Y, Hosoda S,

Yamada N, Kodama T, Murase T, Akanuma Y. Effects of plasma infusion on plasma lipids, apoproteins and plasma enzyme activities in familial lecithin: cholesterol acyltransferase deficiency. Eur J Clin Invest, 1984; 14: 122-129
62) Yee MS, Pavitt DV, Richmond W, Cook HT, McLean AG, Valabhji J, Elkeles RS. Changes in lipoprotein profile and urinary albumin excretion in familial LCAT deficiency with lipid lowering therapy. Atherosclerosis, 2009; 205: 528-532
63) Aranda P, Valdivielso P, Pisciotta L, Garcia I, Garcã A-Arias C, Bertolini S, Martã N-Reyes G, Gonzã Lez-Santos, Calandra S. Therapeutic management of a new case of LCAT deficiency with a multifactorial long-term approach based on high doses of angiotensin II receptor blockers (ARBs). Clin Nephrol, 2008; 69: 213-218
64) Miarka P, Idzior-Waluś B, Kuźniewski M, Waluś-Miarka M, Klupa T, Sułowicz W. Corticosteroid treatment of kidney disease in a patient with familial lecithin-cholesterol acyltransferase deficiency. Clin Exp Nephrol, 2011; 15: 424-429
65) Shamburek RD, Bakker-Arkema R, Auerbach BJ, Krause BR, Homan R, Amar MJ, Freeman LA, Remaley AT. Familial lecithin:cholesterol acyltransferase deficiency: First-in-human treatment with enzyme replacement. J Clin Lipidol, 2016; 10: 356-367
66) https://www.clinicaltrials.gov/ct2/show/NCT02601560
67) Kuroda M, Saito Y, Aso M, Yokote K. A Novel Approach to the Treatment of Plasma Protein Deficiency: Ex Vivo-Manipulated Adipocytes for Sustained Secretion of Therapeutic Proteins. Chem Pharm Bull (Tokyo), 2018; 66: 217-224
68) Ahmad SB, Miller M, Hanish S, Bartlett ST, Hutson W, Barth RN, LaMattina JC. Sequential kidney-liver transplantation from the same living donor for lecithin cholesterol acyl transferase deficiency. Clin Transplant, 2016; 30: 1370-1374

The official journal of the Japan Atherosclerosis Society and
the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases

Review

J Atheroscler Thromb, 2021; 28: 000-000. http://doi.org/10.5551/jat.RV17052

Diagnosis and Management of Sitosterolemia 2021

Hayato Tada[1], Akihiro Nomura[1], Masatsune Ogura[2], Katsunori Ikewaki[3], Yasushi Ishigaki[4], Kyoko Inagaki[5], Kazuhisa Tsukamoto[6], Kazushige Dobashi[7], Kimitoshi Nakamura[8], Mika Hori[9], Kota Matsuki[10], Shizuya Yamashita[11], Shinji Yokoyama[12], Masa-aki Kawashiri[1] and Mariko Harada-Shiba[13] on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan[†]

[1]Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan
[2]Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan
[3]Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan
[4]Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan
[5]Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan
[6]Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan
[7]Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan
[8]Department of Pediatrics, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan
[9]Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan
[10]Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan
[11]Rinku General Medical Center, Osaka, Japan
[12]Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan
[13]Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan

[†]**The Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan:** Mariko Harada-Shiba (Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Shun Ishibashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Shinji Yokoyama (Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan), Hitoshi Shimano (Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Faculty of Medicine University of Tsukuba, Tsukuba, Japan), Koutaro Yokote (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Hideaki Bujo (Department of Clinical-Laboratory and Experimental-Research Medicine, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Shizuya Yamashita (Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Kazuhisa Tsukamoto (Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan), Toshio Hayashi (School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan), Katsunori Ikewaki (Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan), Takanari Gotoda (Department of Metabolic Biochemistry, Faculty of Medicine, Kyorin University, Tokyo, Japan), Kazushige Dobashi (Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan), Yoshihiro Miyamoto (Open Innovation Center, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Misa Takegami (Department of Preventive Medicine and Epidemiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Yoshiki Sekijima (Department of Medicine (Neurology & Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan), Yasushi Ishigaki (Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan), Hiroaki Okazaki (Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Atsushi Nohara (Ishikawa Prefectural Central Hospital, Kanazawa, Japan), Shingo Koyama (Division of Neurology and Clinical Neuroscience, Department of Internal Medicine III, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan), Kyoko Inagaki (Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan), Koh Ono (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan), Masahiro Koseki (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan), Hiroyuki Daida (Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Manabu Takahashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Kimitoshi Nakamura (Department of Pediatrics, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan), Takashi Miida (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masa-aki Kawashiri (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan), Tetsuo Minamino (Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan), Sachiko Okazaki (Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo,

Tokyo, Japan), Hayato Tada (Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan), Jun Wada (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Masatsune Ogura (Division of Lipid Metabolism, Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Hirotoshi Ohmura (Department of Cardiovascular Medicine, School of Medicine, Juntendo University, Tokyo, Japan), Mika Hori (Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan), Kota Matsuki (Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan), Masashi Yamamoto (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Yasuo Takeuchi (Division of Nephrology, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan), Atsuko Nakatsuka (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Daisaku Masuda (Department of Cardiology, Health Care Center, Rinku Innovation Center for Wellness Care and Activities (RICWA), Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Satoshi Hirayama (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masayuki Kuroda (Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, Chiba, Japan), Takashi Yamaguchi (Center of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Takeyoshi Murano (Clinical Laboratory Program, Faculty of Science, Toho University, Chiba, Japan).

Sitosterolemia is an inherited metabolic disorder characterized by increased levels of plant sterols, such as sitosterol. This disease is caused by loss-of-function genetic mutations in ATP-binding cassette (ABC) subfamily G member 5 or member 8 (*ABCG5* or *ABCG8*, respectively), both of which play important roles in selective excretion of plant sterols from the liver and intestine, leading to failure to prevent absorption of food plant sterols. This disorder has been considered to be extremely rare. However, accumulated clinical data as well as genetics suggest the possibility of a much higher prevalence. Its clinical manifestations resemble those observed in patients with familial hypercholesterolemia (FH), including tendon xanthomas, hyper LDL-cholesterolemia, and premature coronary atherosclerosis. We provide an overview of this recessive genetic disease, diagnostic as well as therapeutic tips, and the latest diagnostic criteria in Japan.

Key words: **Sitosterolemia, ABCG5, ABCG8, Familial hypercholesterolemia**

Introduction

Sitosterolemia (OMIM #210250, and #618666) is an autosomal recessive disorder of lipid metabolism characterized by increased absorption and decreased biliary excretion of plant sterols and cholesterol, resulting in prominently elevated serum concentrations of plant sterols, such as sitosterol, campesterol, and stigmasterol **(Fig. 1)**[1, 2]. This condition was first described by Bhattacharyya and Connor in 1974 [3]. Patients with sitosterolemia primarily exhibit tendinous and tuberous xanthomas and premature coronary atherosclerosis, resembling these characteristics in patients with familial hypercholesterolemia (FH)[4-9]. Severity of the phenotypes of sitosterolemia appears to be more variable than for FH possibly due to its greater dependency on dietary sterol intake[10, 11]. In addition, they have a wider variety, which includes hemolysis, splenomegaly, platelet abnormalities, and arthralgia/arthritis[12]. This disease is caused by biallelic (homozygous/compound heterozygous) loss-of-function (LOF) mutations in either ATP-binding cassette (ABC) subfamily G member 5 or member 8 (*ABCG5* and *ABCG8*, respectively) that play an important role in excreting sterols from the liver and intestine **(Fig. 1)**[13, 14]. Therefore, increased absorption of plant sterols from the intestine and their decreased secretion from the liver are the primary cause of sitosterolemia[15, 16]. Several (adaptive) secondary changes in lipid metabolism have been found to be associated with the accelerated sterol absorption; for

Address for correspondence: Masa-aki Kawashiri, Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, 13-1 Takara-machi, Kanazawa, 920-8641, Japan E-mail: mk@med.kanazawa-u.ac.jp

Received: March 17, 2021 Accepted for publication: March 20, 2021

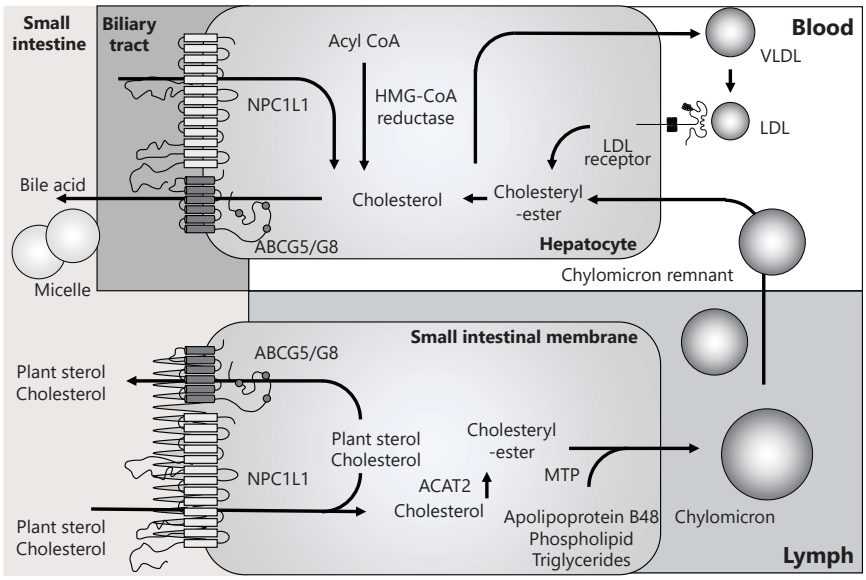


Fig. 1. Schema of sterol metabolism focusing on ABCG5/8 and NPC1L1

In the intestine, plant sterols and cholesterol are absorbed via NPC1L1, while they are excreted via ABCG5/8. The same pattern is observed in hepatocytes.

example, altered solubilization of sterols in intestinal micelles, increased activity of acyl CoA: cholesterol acyltransferase (ACAT), and changes in intracellular transport processes of sterols.

Sitosterolemia used to be considered an extremely rare disorder but recent studies indicate the possibility of a much higher prevalence in the general population[6-10].

Based on the pathophysiology of this disease, ezetimibe, an inhibitor of Niemann-Pick C1 Like 1 (NPC1L1) that mediates absorption of dietary cholesterol in the intestine[17], has been shown to be effective in reducing serum sitosterol as well as cholesterol in sitosterolemic patients, together with dietary management to restrict intake of these sterols[18, 19]. In this review article, we discuss the current understanding of sitosterolemia, its diagnostic criteria, and future perspectives.

Plant Sterols

Plant sterols (sitosterol, campesterol, and stigmasterol) are sterol molecules naturally contained at low levels in plant foods such as fruits, vegetables, nuts and cereals[20]. Sitosterol is usually the most abundant plant sterol in the diet[2] and the average Japanese diet and Western diets contain similar amounts of cholesterol and plant sterols. Although approximately 50% of dietary cholesterol is absorbed, less than 5% of plant sterols is absorbed in normal individuals[21-24], resulting in lower levels of plant sterols than cholesterol in the body. In a recent investigation of plasma concentrations of plant sterols in 667,718 subjects, they seemed to be dependent on age, gender, and apolipoprotein E genotype[25].

Accumulation of plant sterols in patients with sitosterolemia would contribute to atherogenesis. However, dietary intake of plant sterols is generally considered beneficial for normal individuals as they competitively inhibit cholesterol absorption, which is then selectively excreted resulting in lower cholesterol levels[26]. The European Atherosclerosis Society Consensus Panel currently recommends taking plant sterols for patients with a relatively high risk for cardiovascular disease and/or statin intolerance[20]. In addition, the proinflammatory properties of sitosterol appear to be much weaker than those of cholesterol[27].

Epidemiology

Sitosterolemia has long been considered an extremely rare disorder. Indeed, only 45 sitosterolemic subjects were reported in a review article published in 2003 [28]. Its autosomal recessive inheritance may have caused us to think it is a rare disease. However, the Exome Aggregation Consortium (ExAC) Exome Browser, a public genetic database, has suggested that 1 in ~220 general individuals have LOF mutations in the *ABCG5* or *ABCG8* gene[29]. Therefore, a rough estimate of the number of homozygous/compound

heterozygous patients with sitosterolemia is 1 in ~200,000 general individuals. Moreover, a recent study has shown that a certain proportion of patients clinically diagnosed as FH could in fact have sitosterolemia[30]. Accordingly, this disorder appears to be much more prevalent than previously thought.

Genetic Backgrounds and Pathophysiology

In 2001, the cause of this disease was identified as double LOF mutations in the *ABCG5* or *ABCG8* gene[13, 14]. So far, most patients with recognized sitosterolemia have come from consanguineous marriages, which has lead to homozygous mutations in the *ABCG5* or *ABCG8* gene. However, recent advances in genetic analysis have revealed that there are also a number of cases with compound heterozygous mutations in the *ABCG5* and *ABCG8* genes. Relatively common pathogenic mutations are c.1166G>A/p.Arg389His, and c.1256G>A/p.Arg419His in *ABCG5* gene[31-33].

The ABCG5 and ABCG8 proteins form heterodimers and act as a complex, which functions as a transporter of sterols in the bile and intestine. Accordingly, patients with sitosterolemia exhibit either homozygous or compound heterozygous mutations in the *ABCG5* or *ABCG8* gene. Besides the above mutations, Tada *et al.* previously reported a unique case of sitosterolemia caused by double heterozygous mutations in the *ABCG5* and *ABCG8* genes, suggesting that specific combinations of mutations and/or quite deleterious heterozygous mutations may cause sitosterolemia[34].

Recent genome-wide association studies (GWAS) indicated that the *ABCG5* and *ABCG8* genes are significantly associated with LDL cholesterol levels and increased prevalence of coronary artery disease (CAD)[35, 36], suggesting that these genes contribute to high LDL cholesterol and high plant sterol levels in plasma and risk for CAD among the general population as well. In addition, Tada *et al.* have recently shown that deleterious mutations of the *ABCG5* or *ABCG8* gene contribute substantially to mimicking and exacerbation of the FH phenotype[30].

Clinical Manifestations

Individuals suffering from sitosterolemia primarily present with tendinous and tuberous xanthomas and premature coronary atherosclerosis, resembling those in FH. Therefore, a certain proportion of patients with sitosterolemia could be misdiagnosed as FH due to tendon xanthomas and elevated LDL cholesterol[30]. However, the severity of LDL cholesterol elevation and xanthomas appears to be more variable in sitosterolemia than in FH. In a case of myocardial infarction in a 25-year-old woman previously described by Kawamura *et al.*[9], Achilles tendon xanthomas, as well as significantly elevated LDL cholesterol levels and sitosterol levels were found, and she was initially misdiagnosed as FH. However, consideration of the recessive pattern of inheritance, great responsiveness to dietary counseling together with statin plus ezetimibe (LDL cholesterol was reduced from 220 mg/dl to 55 mg/dl) lead to the accurate diagnosis of sitosterolemia.

Typical cases in infancy have also been described. LDL cholesterol levels in FH tend to be constantly high, whereas those in sitosterolemia may vary with the latest dietary intake of sterols. The most extreme cases have been infants who are breastfeeding. They have been found to have cutaneous xanthomas associated with significant elevation in LDL cholesterol levels, resembling those in homozygous FH,[6, 37, 38]. It has been noted that weaning alone can reduce their LDL cholesterol levels, causing the cutaneous xanthomas to regress, despite sitosterol levels that remain significantly elevated. These observations suggest that they are quite vulnerable to a sterol-rich diet, and that dietary management is very important in infants with sitosterolemia. However, we have experienced several independent infantile cases of transient hypercholesterolemia associated with breastfeeding without any signs of cutaneous xanthomas, where the patients turned out to be carriers of heterozygous mutations of the *ABCG5* gene (data not shown). Thus, it appears that some infantile cases of "breastfed hypercholesterolemia" can be explained by heterozygous mutations of the *ABCG5* gene.

In addition, a variety of other phenotypes, such as hemolysis, splenomegaly, platelet abnormalities, arthralgia/arthritis have been documented among patients with sitosterolemia, and some of them have been shown to be associated with accumulation of sitosterol in an animal model[39]. The underlying mechanism responsible for the hematologic abnormalities observed in some patients with sitosterolemia appears to be accumulation of circulating sterols in blood cell membranes, leading to abnormal morphology and function[40]. Regarding arthralgia/arthritis, the case of a sitosterolemic patient who also had a history of recurrent arthritis has been described. Whole exome sequencing analysis revealed that this patient had another concomitant genetic disorder that had caused familial Mediterranean fever where arthritis is documented as one of the major manifestations[7].

Since sitosterolemia is a recessive disorder, in

many cases there is a consanguineous marriage in the background. This could lead to the coincidence of other recessive genetic disorders, although there is no clear evidence suggesting an association between their genotypes or inheritance patterns and the severity or variety of sitosterolemia phenotypes. Comprehensive genetic analyses in such patients could shed light on the causal (genetic) backgrounds of their phenotypes.

Sitosterol or Cholesterol?

Sitosterolemia was named for the significant elevation in serum sitosterol level in this disease. As sitosterol and other plant sterols have been shown to accumulate in atherosclerotic lesions of patients with sitosterolemia[4, 41], lowering serum sitosterol has long been considered to be a target for therapy. However, a causative relationship between marked elevation of sitosterol in serum and its tissue deposition and development of atherosclerotic cardiovascular diseases remains to be demonstrated. The results of studies regarding an association between serum sitosterol levels and atherosclerosis have been controversial[42-45].

Currently available data as well as the fact that sitosterolemic patients with premature atherosclerotic cardiovascular diseases tend to exhibit hyper-LDL cholesterolemia suggest that LDL cholesterol, rather than sitosterol is the main causal factor for atherogenicity. Therefore, further studies assessing the role of sitosterol in the development of atherosclerosis are needed

Diagnostic Criteria

Diagnostic criteria for sitosterolemia in Japan are described in **Table 1**. Serum sitosterol levels could be measured using high-sensitive gas chromatography. Their reference ranges in Japanese individuals have been determined as 0.99 - 3.88 μg/mL in males, and 1.03 - 4.45 μg/mL in females[46]. It is vitally important to perform differential diagnosis to distinguish it from FH **(Fig. 2A)**, autosomal recessive hypercholesterolemia (ARH) **(Fig. 2B, 2C)** and cerebrotendinous xanthomatosis (CTX) **(Fig. 2D, 2E)**. It is not easy to make a differential clinical diagnosis of sitosterolemia **(Fig. 2F, 2G)** just based on physical manifestations[47-50].

Diagnostic Tips for Sitosterolemia

As stated above, patients with sitosterolemia typically exhibit tendinous and tuberous xanthomas and premature coronary atherosclerosis, resembling the manifestations of FH. Therefore, patients with premature coronary atherosclerosis should be examined to see whether they have a special genetic background including that for sitosterolemia. Absence of a family history of hypercholesterolemia as well as premature CAD is likely to indicate sitosterolemia rather than FH. However, it is of note that some patients with sitosterolemia have a family history of hypercholesterolemia and tendon xanthomas despite its recessive pattern of inheritance. The tendon xanthomas of sitosterolemia tend to be more severe than those of heterozygous FH, despite lower levels of LDL cholesterol. Thus, sitosterolemia should be considered in differential diagnosis for heterozygous FH, which is now considered a relatively frequent genetic metabolic disease. In addition, LDL cholesterol levels of sitosterolemic patients tend to vary dramatically depending on their latest dietary intake of plant sterols, and this would be useful information in making a clinical diagnosis of this disease. ARH and CTX are extremely rare autosomal recessive diseases, and almost all patients with these diseases are from consanguineous marriages. It is sometimes quite difficult to differentiate sitosterolemia from ARH based on a single assessment; however, responsiveness to dietary counseling differs between sitosterolemia and ARH. On the other hand, patients with CTX can be differentiated from those with sitosterolemia based on several factors, such as absence of hypercholesterolemia, chronic diarrhea during childhood, juvenile cataracts, and neurological symptoms[49].

Table 1. Diagnostic criteria

A. Clinical manifestations
1. Cutaneous or tendon xanthomas
2. Premature coronary artery disease (male < 45 yr, female < 55 yr)
B. Laboratory testing
1. Serum sitosterol ≥ 1 mg/dL (10 μg/mL)
C. Differential diagnosis
Exclude familial hypercholesterolemia and cerebrotendinous xanthomatosis
D. Genetic analysis
Pathogenic mutations in ABCG5 or ABCG8 gene

Definite: fulfills A-1, B-1, C, and D
Probable: fulfills A-1, B-1, and C
Possible: fulfills A-1, A-2, and B-1

Management of Sitosterolemia

Restriction of plant sterols as well as cholesterol should be the first line strategy. Sitosterolemic patients should avoid plant sterol-rich foods, such as corn oil,

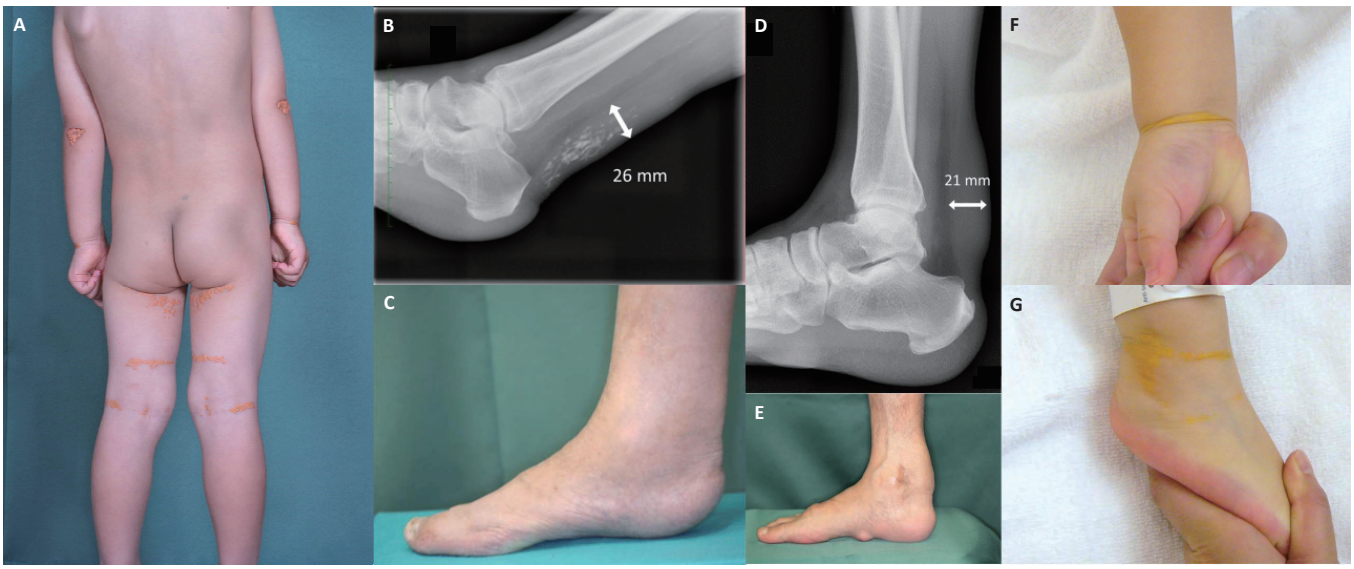


Fig. 2. Xanthomas in patients with dyslipidemias

(A) Systemic xanthomas in a patient with homozygous FH (3-year-old boy)
(B) X-ray of Achilles' tendon in a patient with ARH (67-year-male)
(C) Achilles' tendon xanthomas in a patient with ARH (67-year-male)
(D) X-ray of Achilles' tendon in a patient with CTX (63-year-male)
(E) Achilles' tendon xanthomas in a patient with CTX (63-year-male)
(F) Xanthomas at the ankle in a patient with sitosterolemia (1-year-old girl)
(G) Xanthomas at the wrist in a patient with sitosterolemia (1-year-old girl)

sesame seeds, peanuts, soybeans, rapeseed oil, sesame oil, rice oil, margarine, avocado, chocolate, and shellfish, whereas, other vegetables and fruits, such as potato, carrot, and apple contain less plant sterols[51]. In addition to plant sterols, they also need to avoid cholesterol-rich foods, including animal liver and eggs. Regarding medication, ezetimibe and bile-acid sequestrant resins have been established as standard therapies because the primary cause of this disease is increased absorption of plant sterols from the intestine and their decreased secretion from the liver[15]. Both could reduce sitosterol (~ 20% by ezetimibe, and ~ 30% by resins)[18, 52] and LDL cholesterol in sitosterolemia. Ezetimibe has also been shown to favorably increase platelet count[19].

Patients with sitosterolemia usually do not respond to statins because HMG-CoA reductase activity is already maximally inhibited[52]. However, statins are effective in reducing LDL cholesterol, at least in some sitosterolemic patients[9, 45], although they may increase sitosterol levels in others[53]. Considering the lack of a clear association between sitosterol levels and frequency of atherosclerotic cardiovascular disease[44], as well as the fact that some patients with sitosterolemia are treated with statins due to being misdiagnosed with FH[30], statins could at least be used for patients in a secondary prevention setting. For patients with advanced atherosclerotic lesions and resistance to the standard treatments mentioned above, LDL apheresis could be considered if applicable, although it is not officially covered by the Japanese national health insurance[8].

Liver transplantation was performed in a case of sitosterolemia with liver cirrhosis and reportedly resulted in a dramatic reduction in serum plant sterol levels[54]. Regarding target levels of LDL cholesterol, there is plenty of clinical evidence suggesting that lowering LDL cholesterol is associated with reduced risk for atherosclerotic cardiovascular diseases. In addition, sitosterolemia has been considered as a phenocopy of FH and therefore, the target LDL cholesterol level should be the same as that of FH. However, there has been no definite evidence for an association of sitosterol lowering and prevention of atherosclerotic cardiovascular diseases so far. Accordingly, LDL cholesterol, rather than sitosterol, should be the main biomarker when treating patients with sitosterolemia. Dietary restriction of plant sterols, ezetimibe, and bile-acid sequestrant resins have been shown to reduce both LDL cholesterol and sitosterol levels and thus these strategies should be considered as standard treatment for patients with sitosterolemia. The plant sterol content of foods and food ingredients varies widely from 7 mg/100 g in potatoes and

tomatoes to 686-952 mg/100 g in corn oil[55]. It is therefore rational to recommend patients with sitosterolemia and reduced function of ABCG5 or ABCG8 to avoid vegetables rich in plant sterols.

Conclusions and Perspectives

Sitosterolemia is a monogenic disorder that has been considered rather rare. However, its prevalence may currently be substantially underestimated[56], so we should be more careful to identify this disease among hypercholesterolemic patients with xanthomas. In particular, to raise awareness of sitosterolemia among pediatricians and dermatologists, education for them focusing on its typical manifestations is important. Measurement of serum sitosterol is not covered by Japanese national health insurance but we firmly believe that it is reasonable for it to be covered now that we have reference data for serum sitosterol levels among Japanese healthy individuals as well as patients with sitosterolemia. Ideally, prospective randomized controlled trials investigating if specific lowering of serum sitosterol leads to reduced risk for atherosclerotic cardiovascular diseases should be performed. More large-scale observational studies attempting to demonstrate an independent association between sitosterol levels and atherosclerotic cardiovascular diseases are also needed.

To establish the clinical importance of this disease for public health, more accurate prevalence and clinical manifestation data should be accumulated, supported by the health insurance system and comprehensive genetic analyses. Diagnostic criteria of sitosterolemia proposed by the Japanese Ministry of Health, Labor and Welfare scientific research team for hyperlipidemia would facilitate the accumulation of such data on this unique disorder.

Acknowledgments and Notice of Grant Support

This work has been supported by Health, Labour and Welfare Sciences Research Grant for Research on Rare and Intractable Diseases (H30-nanji-ippan-003).

Conflicts of Interest

Atsushi Nohara has nothing to disclose. Hayato Tada has nothing to disclose. Masatsune Ogura has received honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc. Sachiko Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Koh Ono has nothing to disclose. Hitoshi Shimano has nothing to disclose. Hiroyuki Daida has received honoraria from Amgen Inc., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Kowa Co., Ltd., and MSD K.K., Novartis Pharma K.K., Bayer Yakuhin, Ltd. and received clinical research funding from Canon Medical Systems Corporation, Philips Japan, Ltd., Toho Holdings Co., Ltd., Asahi Kasei Corporation, and Inter Reha Co., Ltd. HD has also received scholarship grants from Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Sanofi K.K., MSD K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Pfizer Co., Ltd., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Astellas Pharma Inc., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi & Co., Ltd., Actelion Pharmaceuticals, Ltd., Actelion Ltd., Kowa Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. HD has also courses endowed by companies, including Philips Japan, Ltd., ResMed, Fukuda Denshi Co., Ltd., and Paramount Bed Co., Ltd. Kazushige Dobashi has nothing to disclose. Toshio Hayashi has nothing to disclose. Mika Hori has nothing to disclose. Kota Matsuki has nothing to disclose. Tetsuo Minamino has nothing to disclose. Shinji Yokoyama has nothing to disclose. Mariko Harada-Shiba has received stock holdings or options from Liid Pharma, honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc., Sanofi, and scholarship grants from Aegerion Pharmaceuticals, Inc., Recordati Rare Diseases Japan, and Kaneka Corporation. Katsunori Ikewaki has nothing to disclose. Yasushi Ishigaki has nothing to disclose. Shun Ishibashi has received honoraria from Kowa Co., Ltd., and a scholarship grant from Ono Pharmaceutical Co., Ltd. Kyoko Inagaki has nothing to disclose. Hirotoshi Ohmura has nothing to disclose. Hiroaki Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Masa-aki Kawashiri has nothing to disclose. Masayuki Kuroda has nothing to disclose. Masahiro Koseki has received clinical research funding from Kowa Company, Ltd., Rohto Pharmaceutical Co., Ltd. Takanari Gotoda has nothing to disclose. Shingo Koyama has nothing to disclose. Yoshiki Sekijima has nothing to disclose. Manabu Takahashi has nothing to disclose. Yasuo Takeuchi has nothing to disclose. Misa Takegami has nothing to disclose. Kazuhisa Tsukamoto has received honoraria from Bayer Yakuhin, Ltd., MSD Ltd., Takeda Pharmaceutical Company Ltd., and scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation., Bayer Yakuhin, Ltd., Sanofi K.K. Atsuko Nakatsuka has nothing to disclose. Kimitoshi Nakamura has nothing to disclose. Satoshi Hirayama has nothing to disclose. Hideaki Bujo has nothing to disclose. Daisaku Masuda has received clinical research funding from MSD K.K., Ono Pharmaceutical Co.,

Ltd., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Co., Ltd. Takashi Miida has nothing to disclose. Yoshihiro Miyamoto has nothing to disclose. Takeyoshi Murano has nothing to disclose. Takashi Yamaguchi has nothing to disclose. Shizuya Yamashita has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K. Masashi Yamamoto has nothing to disclose. Koutaro Yokote has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K., Astellas Pharma Inc., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Amgen K.K., Takeda Pharmaceutical Company Limited, Sanofi K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., AstraZeneca K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Novartis Pharma K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Kyowa Kirin Co., Ltd., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Janssen Pharmaceutical K.K., and received clinical research funding from Taisho Pharmaceutical Co., Ltd. KY has also received scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., MSD K.K., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Kao Corporation, Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. Jun Wada has nothing to disclose.

References

1) Escolà-Gil JC, Quesada H, Julve J, Martín-Campos JM, Cedó L, Blanco-Vaca F. Sitosterolemia: diagnosis, investigation, and management. Curr Atheroscler Rep, 2014; 16: 424
2) Salen G, Shefer S, Nguyen L, Ness GC, Tint GS, Shore V. Sitosterolemia. J Lipid Res, 1992; 33: 945-955
3) Bhattacharyya AK, Connor WE. Beta-sitosterolemia and xanthomatosis. A newly described lipid storage disease in two sisters. J Clin Invest, 1974; 53: 1033-1043
4) Salen G, Horak I, Rothkopf M, Cohen JL, Speck J, Tint GS, Shore V, Dayal B, Chen T, Shefer S. Lethal atherosclerosis associated with abnormal plasma and tissue sterol composition in sitosterolemia with xanthomatosis. J Lipid Res, 1985; 26: 1126-1133
5) Kolovou G, Voudris V, Drogari E, Palatianos G, Cokkinos DV. Coronary bypass grafts in a young girl with sitosterolemia. Eur Heart J, 1996; 17: 965-966
6) Tada H, Kawashiri MA, Takata M, Matsunami K, Imamura A, Matsuyama M, Sawada H, Nunoi H, Konno T, Hayashi K, Nohara A, Inazu A, Kobayashi J, Mabuchi H, Yamagishi M. Infantile cases of sitosterolaemia with novel mutations in the ABCG5 Gene: Extreme hypercholesterolaemia is exacerbated by breastfeeding. JIMD Rep, 2015; 21: 115-122
7) Tada H, Kawashiri MA, Okada H, Endo S, Toyoshima Y, Konno T, Nohara A, Inazu A, Takao A, Mabuchi H, Yamagishi M, Hayashi K. A Rare Coincidence of Sitosterolemia and Familial Mediterranean Fever Identified by Whole Exome Sequencing. J Atheroscler Thromb, 2016; 23: 884-890
8) Sakuma N, Tada H, Mabuchi H, Hibino T, Kasuga H. Lipoprotein apheresis for sitosterolemia. Ann Intern Med, 2017; 167: 896-899
9) Kawamura R, Saiki H, Tada H, Hara A. Acute myocardial infarction in a 25-year-old woman with sitosterolemia. J Clin Lipidol, 2018; 12: 246-249
10) Hansel B, Carrié A, Brun-Druc N, Leclert G, Chantepie S, Coiffard AS, Kahn JF, Chapman MJ, Bruckert E. Premature atherosclerosis is not systematic in phytosterolemic patients: severe hypercholesterolemia as a confounding factor in five subjects. Atherosclerosis, 2014; 234: 162-168
11) Wang J, Joy T, Mymin D, Frohlich J, Hegele RA. Phenotypic heterogeneity of sitosterolemia. J Lipid Res, 2004; 45: 2361-2367
12) Bastida JM, Benito R, Janusz K, Díez-Campelo M, Hernández-Sánchez JM, Marcellini S, Girós M, Rivera J, Lozano ML, Hortal A, Hernández-Rivas JM, González-Porras JR. Two novel variants of the ABCG5 gene cause xanthelasmas and macrothrombocytopenia: a brief review of hematologic abnormalities of sitosterolemia. J Thromb Haemost, 2017; 15: 1859-1866
13) Lee MH, Lu K, Hazard S, Yu H, Shulenin S, Hidaka H, Kojima H, Allikmets R, Sakuma N, Pegoraro R, Srivastava AK, Salen G, Dean M, Patel SB. Identification of a gene, ABCG5, important in the regulation of dietary cholesterol absorption. Nat Genet, 2001; 27: 79-83
14) Lu K, Lee MH, Hazard S, Brooks-Wilson A, Hidaka H, Kojima H, Ose L, Stalenhoef AF, Mietinnen T, Bjorkhem I, Bruckert E, Pandya A, Brewer HB Jr, Salen G, Dean M, Srivastava A, Patel SB. Two genes that map to the STSL locus cause sitosterolemia: genomic structure and spectrum of mutations involving sterolin-1 and sterolin-2, encoded by ABCG5 and ABCG8, respectively. Am J Hum Genet, 2001; 69: 278-290
15) Salen G, Shore V, Tint GS, Forte T, Shefer S, Horak I, Horak E, Dayal B, Nguyen L, Batta AK, Lindgren FT, Kwiterovich PO Jr. Increased sitosterol absorption, decreased removal, and expanded body pools compensate for reduced cholesterol synthesis in sitosterolemia with xanthomatosis. J Lipid Res, 1989; 30: 1319-1330
16) Lütjohann D, Björkhem I, Beil UF, von Bergmann K. Sterol absorption and sterol balance in phytosterolemia evaluated by deuterium-labeled sterols: effect of sitostanol treatment. J Lipid Res, 1995; 36: 1763-1773
17) Yu L. The structure and function of Niemann-Pick C1-like 1 protein. Curr Opin Lipidol, 2008; 19: 263-269
18) Salen G, von Bergmann K, Lütjohann D, Kwiterovich P, Kane J, Patel SB, Musliner T, Stein P, Musser B; Multicenter Sitosterolemia Study Group. Ezetimibe effectively reduces plasma plant sterols in patients with sitosterolemia. Circulation, 2004; 109: 966-971
19) Othman RA, Myrie SB, Mymin D, Merkens LS, Roullet JB, Steiner RD, Jones PJ. Ezetimibe reduces plant sterol accumulation and favorably increases platelet count in sitosterolemia. J Pediatr, 2015; 166: 125-131

20) Gylling H, Plat J, Turley S, Ginsberg HN, Ellegård L, Jessup W, Jones PJ, Lütjohann D, Maerz W, Masana L, Silbernagel G, Staels B, Borén J, Catapano AL, De Backer G, Deanfield J, Descamps OS, Kovanen PT, Riccardi G, Tokgözoglu L, Chapman MJ; European Atherosclerosis Society Consensus Panel on Phytosterols. Plant sterols and plant stanols in the management of dyslipidaemia and prevention of cardiovascular disease. Atherosclerosis, 2014; 232: 346-360
21) Othman RA, Myrie SB, Jones PJ. Non-cholesterol sterols and cholesterol metabolism in sitosterolemia. Atherosclerosis, 2013; 231: 291-299
22) Bastida JM, Girós ML, Benito R, Janusz K, Hernández-Rivas JM, González-Porras JR. Sitosterolemia: Diagnosis, Metabolic and Hematological Abnormalities, Cardiovascular Disease and Management. Curr Med Chem, 2019; 26: 6766-6775
23) Hirai K, Shimazu C, Takezoe R, Ozeki Y. Cholesterol, phytosterol and polyunsaturated fatty acid levels in 1982 and 1957 Japanese diets. J Nutr Sci Vitaminol (Tokyo), 1986; 32: 363-372
24) Ostlund RE Jr, McGill JB, Zeng CM, Covey DF, Stearns J, Stenson WF, Spilburg CA. Gastrointestinal absorption and plasma kinetics of soy Delta(5)-phytosterols and phytostanols in humans. Am J Physiol Endocrinol Metab, 2002; 282: E911-916
25) Dayspring TD, Varvel SA, Ghaedi L, Thiselton DL, Bruton J, McConnell JP. Biomarkers of cholesterol homeostasis in a clinical laboratory database sample comprising 667,718 patients. J Clin Lipidol, 2015; 9: 807-881
26) Izar MC, Tegani DM, Kasmas SH, Fonseca FA. Phytosterols and phytosterolemia: gene-diet interactions. Genes Nutr, 2011; 6: 17-26
27) Kurano M, Iso-O N, Hara M, Noiri E, Koike K, Kadowaki T, Tsukamoto K. Plant sterols increased IL-6 and TNF-α secretion from macrophages, but to a lesser extent than cholesterol. J Atheroscler Thromb, 2011; 18: 373-383
28) Pullinger CR, Kane JP, Malloy MJ. Primary hypercholesterolemia: genetic causes and treatment of five monogenic disorders. Expert Rev Cardiovasc Ther, 2003; 1: 107-119
29) Lek M, Karczewski KJ, Minikel EV, Samocha KE, Banks E, Fennell T, O'Donnell-Luria AH, Ware JS, Hill AJ, Cummings BB, Tukiainen T, Birnbaum DP, Kosmicki JA, Duncan LE, Estrada K, Zhao F, Zou J, Pierce-Hoffman E, Berghout J, Cooper DN, Deflaux N, DePristo M, Do R, Flannick J, Fromer M, Gauthier L, Goldstein J, Gupta N, Howrigan D, Kiezun A, Kurki MI, Moonshine AL, Natarajan P, Orozco L, Peloso GM, Poplin R, Rivas MA, Ruano-Rubio V, Rose SA, Ruderfer DM, Shakir K, Stenson PD, Stevens C, Thomas BP, Tiao G, Tusie-Luna MT, Weisburd B, Won HH, Yu D, Altshuler DM, Ardissino D, Boehnke M, Danesh J, Donnelly S, Elosua R, Florez JC, Gabriel SB, Getz G, Glatt SJ, Hultman CM, Kathiresan S, Laakso M, McCarroll S, McCarthy MI, McGovern D, McPherson R, Neale BM, Palotie A, Purcell SM, Saleheen D, Scharf JM, Sklar P, Sullivan PF, Tuomilehto J, Tsuang MT, Watkins HC, Wilson JG, Daly MJ, MacArthur DG; Exome Aggregation Consortium. Analysis of protein-coding genetic variation in 60,706 humans. Nature, 2016; 536: 285-291
30) Tada H, Okada H, Nomura A, Yashiro S, Nohara A, Ishigaki Y, Takamura M, Kawashiri MA. Rare and deleterious mutations in ABCG5/ABCG8 genes contribute to mimicking and worsening of familial hypercholesterolemia phenotype. Circ J, 2019; 83: 1917-1924
31) Niu DM, Chong KW, Hsu JH, Wu TJ, Yu HC, Huang CH, Lo MY, Kwok CF, Kratz LE, Ho LT. Clinical observations, molecular genetic analysis, and treatment of sitosterolemia in infants and children. J Inherit Metab Dis, 2010; 33: 437-443
32) Yagasaki H, Nakane T, Toda T, Kobayashi K, Aoyama K, Ichikawa T, Sugita K. Carotid intima media thickness in a girl with sitosterolemia carrying a homozygous mutation in the ABCG5 gene. J Pediatr Endocrinol Metab, 2017; 30: 1007-1011
33) Su X, Shao Y, Lin Y, Zhao X, Zhang W, Jiang M, Huang Y, Zeng C, Liu L, Li X. Clinical features, molecular characteristics, and treatments of a Chinese girl with sitosterolemia: A case report and literature review. J Clin Lipidol, 2019; 13: 246-250
34) Tada H, Nomura A, Yamagishi M, Kawashiri MA. First case of sitosterolemia caused by double heterozygous mutations in ABCG5 and ABCG8 genes. J Clin Lipidol, 2018; 12: 1164-1168
35) Willer CJ, Schmidt EM, Sengupta S, Peloso GM, Gustafsson S, Kanoni S, Ganna A, Chen J, Buchkovich ML, Mora S, Beckmann JS, Bragg-Gresham JL, Chang HY, Demirkan A, Den Hertog HM, Do R, Donnelly LA, Ehret GB, Esko T, Feitosa MF, Ferreira T, Fischer K, Fontanillas P, Fraser RM, Freitag DF, Gurdasani D, Heikkilä K, Hyppönen E, Isaacs A, Jackson AU, Johansson Å, Johnson T, Kaakinen M, Kettunen J, Kleber ME, Li X, Luan J, Lyytikäinen LP, Magnusson PKE, Mangino M, Mihailov E, Montasser ME, Müller-Nurasyid M, Nolte IM, O'Connell JR, Palmer CD, Perola M, Petersen AK, Sanna S, Saxena R, Service SK, Shah S, Shungin D, Sidore C, Song C, Strawbridge RJ, Surakka I, Tanaka T, Teslovich TM, Thorleifsson G, Van den Herik EG, Voight BF, Volcik KA, Waite LL, Wong A, Wu Y, Zhang W, Absher D, Asiki G, Barroso I, Been LF, Bolton JL, Bonnycastle LL, Brambilla P, Burnett MS, Cesana G, Dimitriou M, Doney ASF, Döring A, Elliott P, Epstein SE, Ingi Eyjolfsson G, Gigante B, Goodarzi MO, Grallert H, Gravito ML, Groves CJ, Hallmans G, Hartikainen AL, Hayward C, Hernandez D, Hicks AA, Holm H, Hung YJ, Illig T, Jones MR, Kaleebu P, Kastelein JJP, Khaw KT, Kim E, Klopp N, Komulainen P, Kumari M, Langenberg C, Lehtimäki T, Lin SY, Lindström J, Loos RJF, Mach F, McArdle WL, Meisinger C, Mitchell BD, Müller G, Nagaraja R, Narisu N, Nieminen TVM, Nsubuga RN, Olafsson I, Ong KK, Palotie A, Papamarkou T, Pomilla C, Pouta A, Rader DJ, Reilly MP, Ridker PM, Rivadeneira F, Rudan I, Ruokonen A, Samani N, Scharnagl H, Seeley J, Silander K, Stančáková A, Stirrups K, Swift AJ, Tiret L, Uitterlinden AG, van Pelt LJ, Vedantam S, Wainwright N, Wijmenga C, Wild SH, Willemsen G, Wilsgaard T, Wilson JF, Young EH, Zhao JH, Adair LS, Arveiler D, Assimes TL,

Bandinelli S, Bennett F, Bochud M, Boehm BO, Boomsma DI, Borecki IB, Bornstein SR, Bovet P, Burnier M, Campbell H, Chakravarti A, Chambers JC, Chen YI, Collins FS, Cooper RS, Danesh J, Dedoussis G, de Faire U, Feranil AB, Ferrières J, Ferrucci L, Freimer NB, Gieger C, Groop LC, Gudnason V, Gyllensten U, Hamsten A, Harris TB, Hingorani A, Hirschhorn JN, Hofman A, Hovingh GK, Hsiung CA, Humphries SE, Hunt SC, Hveem K, Iribarren C, Järvelin MR, Jula A, Kähönen M, Kaprio J, Kesäniemi A, Kivimaki M, Kooner JS, Koudstaal PJ, Krauss RM, Kuh D, Kuusisto J, Kyvik KO, Laakso M, Lakka TA, Lind L, Lindgren CM, Martin NG, März W, McCarthy MI, McKenzie CA, Meneton P, Metspalu A, Moilanen L, Morris AD, Munroe PB, Njølstad I, Pedersen NL, Power C, Pramstaller PP, Price JF, Psaty BM, Quertermous T, Rauramaa R, Saleheen D, Salomaa V, Sanghera DK, Saramies J, Schwarz PEH, Sheu WH, Shuldiner AR, Siegbahn A, Spector TD, Stefansson K, Strachan DP, Tayo BO, Tremoli E, Tuomilehto J, Uusitupa M, van Duijn CM, Vollenweider P, Wallentin L, Wareham NJ, Whitfield JB, Wolffenbuttel BHR, Ordovas JM, Boerwinkle E, Palmer CNA, Thorsteinsdottir U, Chasman DI, Rotter JI, Franks PW, Ripatti S, Cupples LA, Sandhu MS, Rich SS, Boehnke M, Deloukas P, Kathiresan S, Mohlke KL, Ingelsson E, Abecasis GR; Global Lipids Genetics Consortium. Discovery and refinement of loci associated with lipid levels. Nat Genet, 2013; 45: 1274-1283

36) Lu X, Peloso GM, Liu DJ, Wu Y, Zhang H, Zhou W, Li J, Tang CS, Dorajoo R, Li H, Long J, Guo X, Xu M, Spracklen CN, Chen Y, Liu X, Zhang Y, Khor CC, Liu J, Sun L, Wang L, Gao YT, Hu Y, Yu K, Wang Y, Cheung CYY, Wang F, Huang J, Fan Q, Cai Q, Chen S, Shi J, Yang X, Zhao W, Sheu WH, Cherny SS, He M, Feranil AB, Adair LS, Gordon-Larsen P, Du S, Varma R, Chen YI, Shu XO, Lam KSL, Wong TY, Ganesh SK, Mo Z, Hveem K, Fritsche LG, Nielsen JB, Tse HF, Huo Y, Cheng CY, Chen YE, Zheng W, Tai ES, Gao W, Lin X, Huang W, Abecasis G; GLGC Consortium, Kathiresan S, Mohlke KL, Wu T, Sham PC, Gu D, Willer CJ. Exome chip meta-analysis identifies novel loci and East Asian-specific coding variants that contribute to lipid levels and coronary artery disease. Nat Genet, 2017; 49: 1722-1730
37) Park JH, Chung IH, Kim DH, Choi MH, Garg A, Yoo EG. Sitosterolemia presenting with severe hypercholesterolemia and intertriginous xanthomas in a breastfed infant: case report and brief review. J Clin Endocrinol Metab, 2014; 99: 1512-1518
38) Wang W, Jiang L, Chen PP, Wu Y, Su PY, Wang LY. A case of sitosterolemia misdiagnosed as familial hypercholesterolemia: A 4-year follow-up. J Clin Lipidol, 2018; 12: 236-239
39) Kanaji T, Kanaji S, Montgomery RR, Patel SB, Newman PJ. Platelet hyperreactivity explains the bleeding abnormality and macrothrombocytopenia in a murine model of sitosterolemia. Blood, 2013; 122: 2732-2742
40) Su Y, Wang Z, Yang H, Cao L, Liu F, Bai X, Ruan C. Clinical and molecular genetic analysis of a family with sitosterolemia and co‐existing erythrocyte and platelet abnormalities. Haematologica, 2006; 91: 1392-1395
41) Helske S, Miettinen T, Gylling H, Mäyränpää M, Lommi J, Turto H, Werkkala K, Kupari M, Kovanen PT. Accumulation of cholesterol precursors and plant sterols in human stenotic aortic valves. J Lipid Res, 2008; 49: 1511-1518
42) Wilund KR, Yu L, Xu F, Vega GL, Grundy SM, Cohen JC, Hobbs HH. No association between plasma levels of plant sterols and atherosclerosis in mice and men. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2004; 24: 2326-2332
43) Assmann G, Cullen P, Erbey J, Ramey DR, Kannenberg F, Schulte H. Plasma sitosterol elevations are associated with an increased incidence of coronary events in men: results of a nested case-control analysis of the Prospective Cardiovascular Münster (PROCAM) study. Nutr Metab Cardiovasc Dis, 2006; 16: 13-21
44) Genser B, Silbernagel G, De Backer G, Bruckert E, Carmena R, Chapman MJ, Deanfield J, Descamps OS, Rietzschel ER, Dias KC, März W. Plant sterols and cardiovascular disease: a systematic review and meta-analysis. Eur Heart J, 2012; 33: 444-451
45) Hansel B, Carrié A, Brun-Druc N, Leclert G, Chantepie S, Coiffard AS, Kahn JF, Chapman MJ, Bruckert E. Premature atherosclerosis is not systematic in phytosterolemic patients: severe hypercholesterolemia as a confounding factor in five subjects. Atherosclerosis, 2014; 234: 162-168
46) Yoshida H, Tada H, Ito K, Kishimoto Y, Yanai H, Okamura T, Ikewaki K, Inagaki K, Shoji T, Bujo H, Miida T, Yoshida M, Kuzuya M, Yamashita S. Reference intervals of serum non-cholesterol sterols by gender in healthy Japanese individuals. J Atheroscler Thromb, 2020; 27: 409-417
47) Mabuchi H. Half a Century Tales of Familial Hypercholesterolemia (FH) in Japan. J Atheroscler Thromb, 2017; 24: 189-207
48) Tada H, Inaba S, Pozharitckaia D, Kawashiri MA. Prominent tendon xanthomas and abdominal aortic aneurysm associated with cerebrotendinous xanthomatosis identified using whole exome sequencing. Intern Med, 2018; 57: 1119-1122
49) Sekijima Y, Koyama S, Yoshinaga T, Koinuma M, Inaba Y. Nationwide survey on cerebrotendinous xanthomatosis in Japan. J Hum Genet, 2018; 63: 271-280
50) Tada H, Kawashiri MA, Ikewaki K, Terao Y, Noguchi T, Nakanishi C, Tsuchida M, Takata M, Miwa K, Konno T, Hayashi K, Nohara A, Inazu A, Kobayashi J, Mabuchi H, Yamagishi M. Altered metabolism of low-density lipoprotein and very-low-density lipoprotein remnant in autosomal recessive hypercholesterolemia: results from stable isotope kinetic study in vivo. Circ Cardiovasc Genet, 2012; 5: 35-41
51) Moreau RA. Composition of Plant Sterols and Stanols in Supplemented Food Products. J AOAC Int, 2015; 98: 685-690
52) Nguyen LB, Cobb M, Shefer S, Salen G, Ness GC, Tint GS. Regulation of cholesterol biosynthesis in sitosterolemia: effects of lovastatin, cholestyramine, and dietary sterol restriction. J Lipid Res, 1991; 32: 1941-1948
53) Uusitupa MI, Miettinen TA, Happonen P, Ebeling T, Turtola H, Voutilainen E, Pyörälä K. Lathosterol and other noncholesterol sterols during treatment of

hypercholesterolemia with lovastatin alone and with cholestyramine or guar gum. Arterioscler Thromb, 1992; 12: 807-813
54) Miettinen TA, Klett EL, Gylling H, Isoniemi H, Patel SB. Liver transplantation in a patient with sitosterolemia and cirrhosis. Gastroenterology, 2006; 130: 542-547
55) Piironrn V, Lampi AM. Occurrence and levels of phytosterols in foods. In: Dutta PC, editor. Phytosterols as functional food components and nutraceuticals. New York: Marcel Dekker, Inc; 2004. Pp. 1-32
56) Tada H, Nohara A, Inazu A, Sakuma N, Mabuchi H, Kawashiri MA. Sitosterolemia, Hypercholesterolemia, and Coronary Artery Disease. J Atheroscler Thromb, 2018; 25: 783-789

The official journal of the Japan Atherosclerosis Society and
the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases

Review

J Atheroscler Thromb, 2021; 28: 000-000. http://doi.org/10.5551/jat.RV17053

Current Diagnosis and Management of Tangier Disease

Masahiro Koseki[1], Shizuya Yamashita[2], Masatsune Ogura[3], Yasushi Ishigaki[4], Koh Ono[5], Kazuhisa Tsukamoto[6], Mika Hori[3], Kota Matsuki[3], Shinji Yokoyama[7] and Mariko Harada-Shiba[8] on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan[†]

[1]Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan
[2]Department of Cardiology, Rinku General Medical Center, Osaka, Japan
[3]Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan
[4]Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan
[5]Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan
[6]Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan.
[7]Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan
[8]Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan

[†]**The Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan:** Mariko Harada-Shiba (Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Shun Ishibashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Shinji Yokoyama (Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan), Hitoshi Shimano (Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Faculty of Medicine University of Tsukuba, Tsukuba, Japan), Koutaro Yokote (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Hideaki Bujo (Department of Clinical-Laboratory and Experimental-Research Medicine, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Shizuya Yamashita (Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Kazuhisa Tsukamoto (Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan), Toshio Hayashi (School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan), Katsunori Ikewaki (Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan), Takanari Gotoda (Department of Metabolic Biochemistry, Faculty of Medicine, Kyorin University, Tokyo, Japan), Kazushige Dobashi (Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan), Yoshihiro Miyamoto (Open Innovation Center, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Misa Takegami (Department of Preventive Medicine and Epidemiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Yoshiki Sekijima (Department of Medicine (Neurology & Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan), Yasushi Ishigaki (Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan), Hiroaki Okazaki (Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Atsushi Nohara (Ishikawa Prefectural Central Hospital, Kanazawa, Japan), Shingo Koyama (Division of Neurology and Clinical Neuroscience, Department of Internal Medicine III, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan), Kyoko Inagaki (Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan), Koh Ono (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan), Masahiro Koseki (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan), Hiroyuki Daida (Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Manabu Takahashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Kimitoshi Nakamura (Department of Pediatrics, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan), Takashi Miida (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masa-aki Kawashiri (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan), Tetsuo Minamino (Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan), Sachiko Okazaki (Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Hayato Tada (Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan), Jun Wada (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Masatsune Ogura (Division of Lipid Metabolism, Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Hirotoshi Ohmura (Department of Cardiovascular Medicine, School of Medicine, Juntendo University, Tokyo, Japan), Mika Hori (Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan), Kota Matsuki (Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan), Masashi Yamamoto (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of

Medicine, Chiba, Japan), Yasuo Takeuchi (Division of Nephrology, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan), Atsuko Nakatsuka (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Daisaku Masuda (Department of Cardiology, Health Care Center, Rinku Innovation Center for Wellness Care and Activities (RICWA), Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Satoshi Hirayama (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masayuki Kuroda (Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, Chiba, Japan), Takashi Yamaguchi (Center of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Takeyoshi Murano (Clinical Laboratory Program, Faculty of Science, Toho University, Chiba, Japan).

Tangier disease is a genetic disorder characterized by an absence or extremely low level of high-density lipoprotein (HDL)-cholesterol (HDL-C). It is caused by a dysfunctional mutation of the ATP-binding cassette transporter A1 (*ABCA1*) gene, the mandatory gene for generation of HDL particles from cellular cholesterol and phospholipids, and it appears in an autosomal recessive hereditary profile. To date, 35 cases have been reported in Japan and 109 cases outside Japan. With dysfunctional mutations in both alleles (homozygotes or compound heterozygotes), the HDL-C level is mostly less than 5 mg/dL and there is 10 mg/dL or less of apolipoprotein A-I (apoA-I), the major protein component of HDL. In patients with Tangier disease, major physical findings are orange-colored pharyngeal tonsils, hepatosplenomegaly, corneal opacity, lymphadenopathy, and peripheral neuropathy. Although patients tend to have decreased low-density lipoprotein (LDL)-cholesterol (LDL-C) levels, premature coronary artery disease is frequently observed. No specific curative treatment is currently available, so early identification of patients and preventing atherosclerosis development are crucial. Management of risk factors other than low HDL-C is also important, such as LDL-C levels, hypertension and smoking. Additionally, treatment for glucose intolerance might be required because impaired insulin secretion from pancreatic beta cells has occasionally been reported.

Key words: **Tangier disease, HDL, Reverse cholesterol transport, ABCA1, Cholesterol efflux, Orange tonsil, Atherosclerosis**

Introduction

Tangier disease is an autosomal recessive disease characterized by extremely low levels or absence of high-density lipoprotein (HDL)-cholesterol (HDL-C) and apolipoprotein A-I (apoA-I)[1]. The disease was named after Tangier Island in Chesapeake Bay, Virginia, USA, where the first case was discovered in 1960 and reported in 1961[2]. In 1991, generation of HDL particles through the direct action of helical HDL apoproteins on cells was first reported[3], and this was found to be deficient in cells derived from a patient with Tangier disease in 1995[4]. Eventually, ATP binding cassette transporter A1 (*ABCA1*) was identified as the gene responsible for this action and for Tangier disease in 1999[5-7]. Sequential progress in the investigation of HDL biosynthesis showed that HDL particles generated through ABCA1-dependent interaction of apolipoproteins with cells are the main source of plasma HDL. Patients with homozygous or compound heterozygous mutations in the *ABCA1* gene display the phenotype of Tangier disease and heterozygotes have decreases in HDL-cholesterol to various extents.

1. Disease Frequency

The number of cases of Tangier disease reported by 2020 was 35 in Japan and 109 in other countries (possibly including duplicates), indicating that it is a rather rare disease[8, 9]. However, the frequency of dysfunctional mutations in the *ABCA1* gene in the general population is not clear. A recent article using the Exome Aggregation Consortium database reported that 1 in 400 individuals in the general population is a heterozygote for a loss-of-function variant in the *ABCA1* gene on the basis of allele frequencies (frameshift, nonsense and splicing only; not missense), indicating a global prevalence of Tangier disease of at

Address for correspondence: Masahiro Koseki, Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, 2-2 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871, Japan E-mail: koseki@cardiology.med.osaka-u.ac.jp

Received: March 18, 2021 Accepted for publication: March 21, 2021

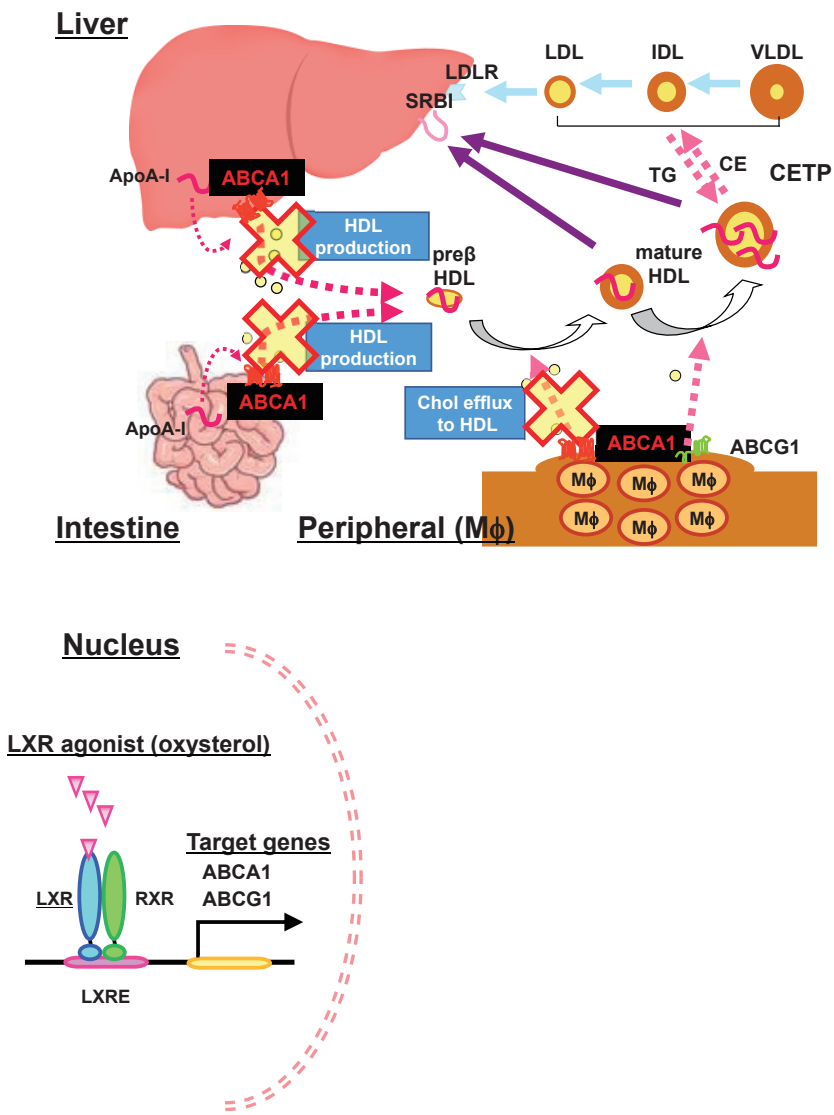


Fig. 1. Roles of ABCA1 in formation of HDL particles, reverse cholesterol transport and pathogenesis of Tangier disease

least 1 in 640,000[10]. It therefore seems that a substantial number of cases might go undiagnosed.

2. Genetic Backgrounds and Pathophysiology

ABCA1 is a member of the ATP-binding cassette transporter membrane protein family. It is an essential factor for generation of nascent HDL particles with extracellular helical apolipoproteins, through transport of cellular phospholipids and cholesterol (Fig. 1). This process is the major source of plasma HDL and one of the major mechanisms of cholesterol export from cells. It may be essential for final processing of cholesterol in mammalian somatic cells that are unable to catabolize cholesterol molecules. Peripheral cells sense intra-cellular cholesterol levels and increase ABCA1 expression for its excretion[11], while it undergoes bidirectional control in hepatocytes to prevent cholesterol recovered from peripheral cells flowing back into blood plasma[12, 13]. With functional deficiency in ABCA1, spherical HDL particles are not produced resulting in extremely low plasma HDL-C levels, which, in Tangier disease patients, are about one third of the normal level. The reason for this is unclear but it has been postulated that a substantial portion of cholesterol molecules in LDL in human plasma are those which have been acyl-esterified in HDL and transferred to VLDL/LDL and that a severe decrease in HDL cholesterol may lead to a decrease in LDL-C level.

In Tangier disease patients, cellular cholesterol export is impaired due to ABCA1 deficiency in peripheral cells, including macrophages and Schwann

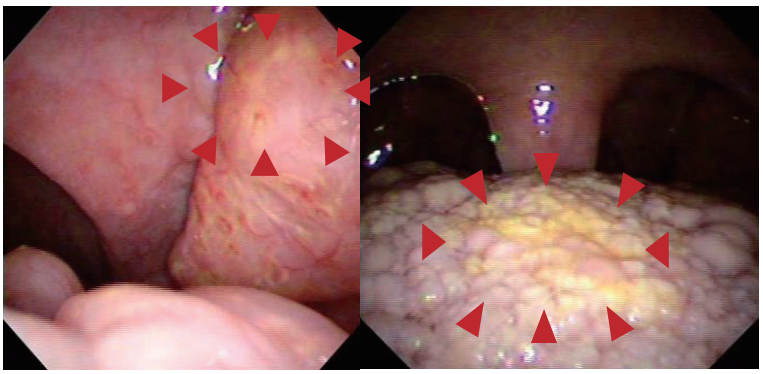


Fig. 2. Orange-colored tonsils observed in male patient with Tangier disease in his 50s
Arrow heads indicate palatine tonsil (left panel) and lingual tonsil (right panel). Reproduced from reference [8].

cells. Cholesterol therefore accumulates in these cells, causing orange-colored pharyngeal tonsillar swelling, corneal opacity, hepatosplenomegaly, lymphadenopathy and peripheral neuropathy. However, impairment of the initial stage of reverse cholesterol transport should be considered to be a risk for developing atherosclerotic diseases even though plasma LDL-C concentrations could be reduced.

ABCA1 appears to destabilize the raft structure, a cholesterol-rich domain of the plasma membrane[14, 15], its deficiency leads to an increase in "lipid" rafts and it has been suggested that this increases secretion of inflammatory cytokines[16]. It has also been reported that the insulinogenic index decreases due to cholesterol accumulation in pancreatic β-cells, which often accompanies glucose intolerance[17, 18]. These metabolic disorders are collectively involved in the development of premature coronary artery disease[8].

In early studies of Tangier disease, Schaefer et al. revealed the kinetics of plasma lipoprotein metabolism using externally labeled injected HDL and found that that apoA-I was catabolized at a much greater fractional rate in patients[19]. Their data, however, should be reinterpreted in terms of external HDL catabolism on the basis of ABCA1 deficiency. A recent study using human pluripotent stem cell-derived hepatocytes has demonstrated that ABCA1 deficiency increases angiopoietin-like protein 3 secretion, which is consistent with increased triglyceride in the plasma of Tangier patients[20].

3. Clinical Manifestations

3.1. Abnormal Plasma Lipoproteins

Plasma HDL-C is mostly low, at 5 mg/dL or less (mean of identified cases 3 ± 3 mg/dL), and the apoA-I concentration is 10 mg/dL or less[21]. Plasma LDL-C is also reduced, to around 37% of the average normal level. The appearance of remnant lipoprotein particles (intermediate products between VLDL and LDL) rich in triglycerides has been reported and this was found to result in abnormal small, dense LDL particles[21]. In subjects with heterozygous mutations of the *ABCA1* gene, plasma HDL-C and apoA-I levels are often reduced to about 50% of that in normal subjects, though the extent of HDL-C decline is not consistent.

3.2. Physical Findings

Impairment of HDL biogenesis results in reduced cholesterol export, which leads to lipid accumulation in cells. A typical finding of this disorder is orange-colored tonsils **(Fig. 2)**[8]. The tonsils of patients are lobulated and swollen and present a bright orange or yellow-grey surface. A history of recurrent tonsillitis or tonsillectomy is often noted. In addition, splenomegaly and associated thrombocytopenia and/or reticulocyte hyperplasia may be present **(Fig. 3)**. Hepatomegaly is also observed in about one-third of cases, but liver dysfunction is not usually present[22]. There is also cholesterol accumulation in other organs, such as lymph nodes, thymus, intestinal mucosa, and skin. Its accumulation in the cornea causes corneal opacity.

3.3. Peripheral Neuropathy

Various peripheral neuropathies, ranging from mild to severe, have been reported. Sensory, motor or mixed disorders appear transiently or persistently. Reduced deep perception and tendon reflexes are rare. Peripheral neuropathy appears as a recurrent asymmetric disorder of peripheral nerves including cranial nerves, as neuropathy with symmetry in the lower limbs, or syringomyelia-like peripheral neuropathy[23, 24].

3.4. Cardiovascular Diseases

It has been reported that 12 out of 35 patients

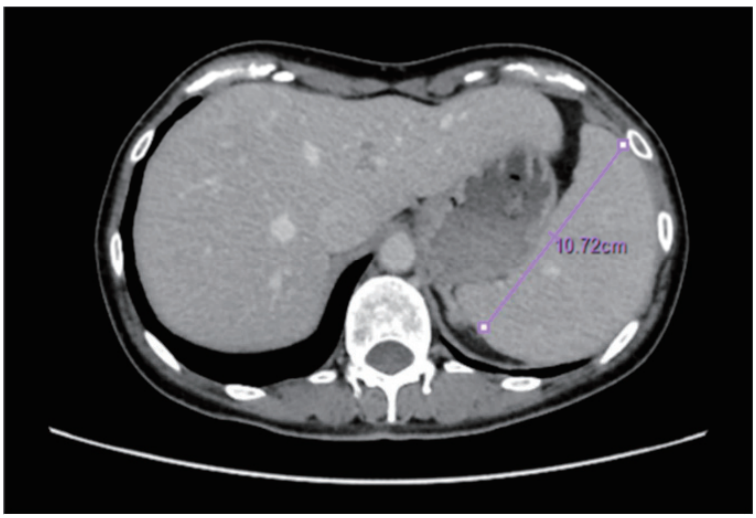


Fig. 3. Abdominal CT scan of splenomegaly in female patient with Tangier disease in her 40s
The photo was kindly provided by one of the co-authors, Prof. Yasushi Ishigaki (Iwate Medical University).

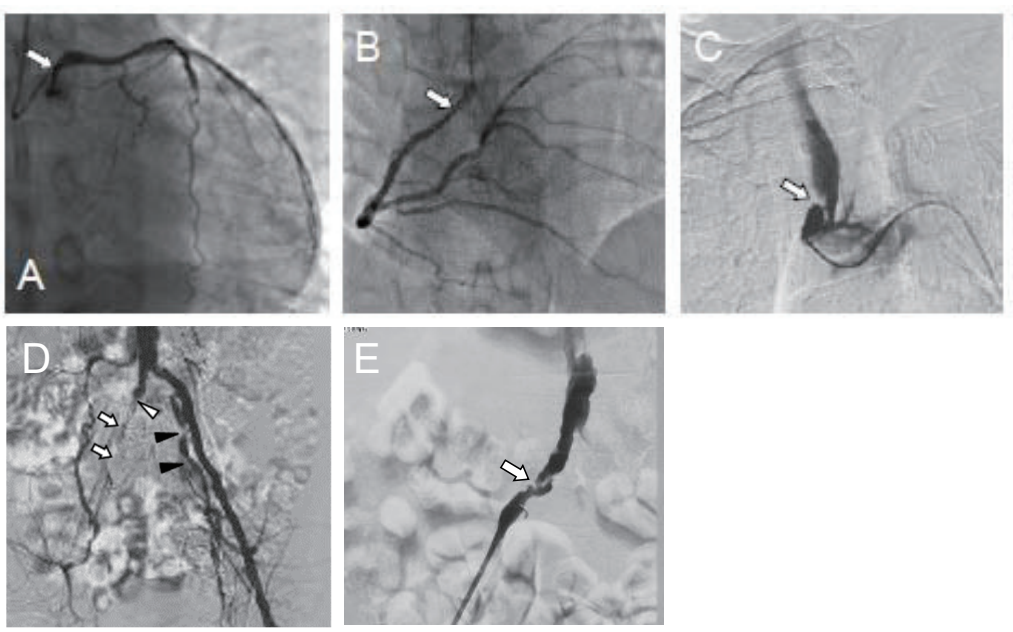


Fig. 4. Advanced systemic atherosclerotic lesions in male patient with Tangier disease in his 50s
Arrows indicate stenosis or occlusion of the artery.
A: left coronary artery, B: right coronary artery, C: brachiocephalic artery, D: left iliac artery, E: right external iliac artery [8].

(34.3%) in Japan and 34 out of 109 patients (31.2%) in other countries had some type of cardiovascular disease, suggesting accelerated atherogenicity in Tangier disease **(Fig. 4)**[8]. A previous case study using intravascular ultrasound (IVUS) revealed diffuse calcified coronary artery lesions[25], which might have been affected by HDL deficiency and glucose intolerance[17].

4. Diagnostic Criteria and Differential Diagnosis

Diagnostic criteria for Tangier disease are given in **Table 1** and the flow chart for differential diagnosis of hypo-HDL-cholesterolemia is shown in **Fig. 5**, based on discussions by the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Diseases of Japan's Ministry of Health, Labour and Welfare.

Inherited diseases that lead to hypo-HDL-

Table 1. Diagnostic criteria

A. Required laboratory test results
1. Plasma (serum) HDL-cholesterol less than 25 mg/dL
2. Plasma (serum) apoA-I concentration less than 20 mg/dL
B. Clinical symptoms
1. Orange-colored tonsillar swelling
2. Hepatomegaly and/or splenomegaly
3. Corneal opacity
4. Peripheral neuropathy
5. Cardiovascular disease
C. Differential diagnosis
The following diseases should be excluded;
LCAT deficiency, apoA-I deficiency and secondary hypo-HDL-cholesterolemia*
D. Genetic testing**
Identification of pathogenic mutations in the *ABCA1* gene
< Diagnostic category >
Definite: Patients should satisfy both of required laboratory test results (A) AND at least one clinical symptom of (B) AND should be excluded for the diseases of differential diagnosis (C) AND should be positive for genetic testing (D).
Probable: Patients should satisfy both of required laboratory test results (A) AND at least two clinical symptoms of (B) AND should be excluded for the diseases of differential diagnosis (C).
Tangier disease can be diagnosed if patients are categorized "Definite" or "Probable".

*Secondary hypo-HDL-cholesterolemia: After surgery, liver disorders (especially liver cirrhosis and severe hepatitis, including convalescent stage), acute phase of systemic inflammatory disease, debilitating diseases such as cancer, history of oral probucol within the past 6 months, and combined probucol and fibrate (including fibrate administration after discontinuation of probucol).
**When differential diagnosis is difficult, genetic testing for *ABCA1* mutations should be performed. The diagnosis can be definite if pathogenic mutations in the *ABCA1* gene are identified.

cholesterolemia (Familial hypoalphalipoproteinemia) include classical lecithin: cholesterol acyltransferase (LCAT) deficiency, fish-eye disease, and familial apoA-I deficiency. Corneal opacity is commonly observed in these diseases, but tonsillar swelling and peripheral neuropathy are specific to Tangier disease, and xanthomas are found only in familial apoA-I deficiency[24, 26].

Care should be taken to exclude secondary hypo-HDL-cholesterolemia, such as in severe liver diseases, especially liver cirrhosis, and drug-induced hypo-HDL-cholesterolemia, most frequently due to combination of probucol and fibrates. It should be noted that probucol may continue to influence lipid profiles for several months after discontinuation, so HDL-C may be significantly reduced by switching from probucol to fibrates or permafibrate, a selective peroxisome proliferator-activated receptor alpha modulator (SPPARMα), in some cases.

5. Current Management of Tangier Disease

Based on the patients identified in Japan to date, there seem to be no distinct differences in clinical or genetic profiles with patients in other countries[8, 9]. No curative treatment, such as gene therapy for the *ABCA1* gene, has yet been established. Since extremely enhanced risk of atherosclerotic diseases is the major clinical problem, patients should be carefully monitored for presence of atherosclerotic lesions through regular testing including exercise electrocardiography, echocardiography and computed tomography coronary angiography[8]. The management of atherosclerotic risk factors, such as hypertension, smoking and diabetes mellitus, is crucial,[27]. Plasma LDL-C levels are generally low in patients with Tangier disease but if this is not the case, they should be reduced through administration of statins or other means. Impairment of the insulinogenic index should be estimated using a 75 g oral glucose tolerance test[17].

Conclusions and Future Perspectives

Gene therapy for *ABCA1* gene may have the greatest potential for Tangier disease. There is the possibility that restoration of ABCA1 expression in the liver would raise serum HDL-C levels but this might not be enough to recover cellular cholesterol efflux and suppress extra lipid accumulation in cells in atherogenic lesions such as macrophages, smooth muscle cells and endothelial cells. It may not be easy to develop a fundamental therapy for Tangier disease.

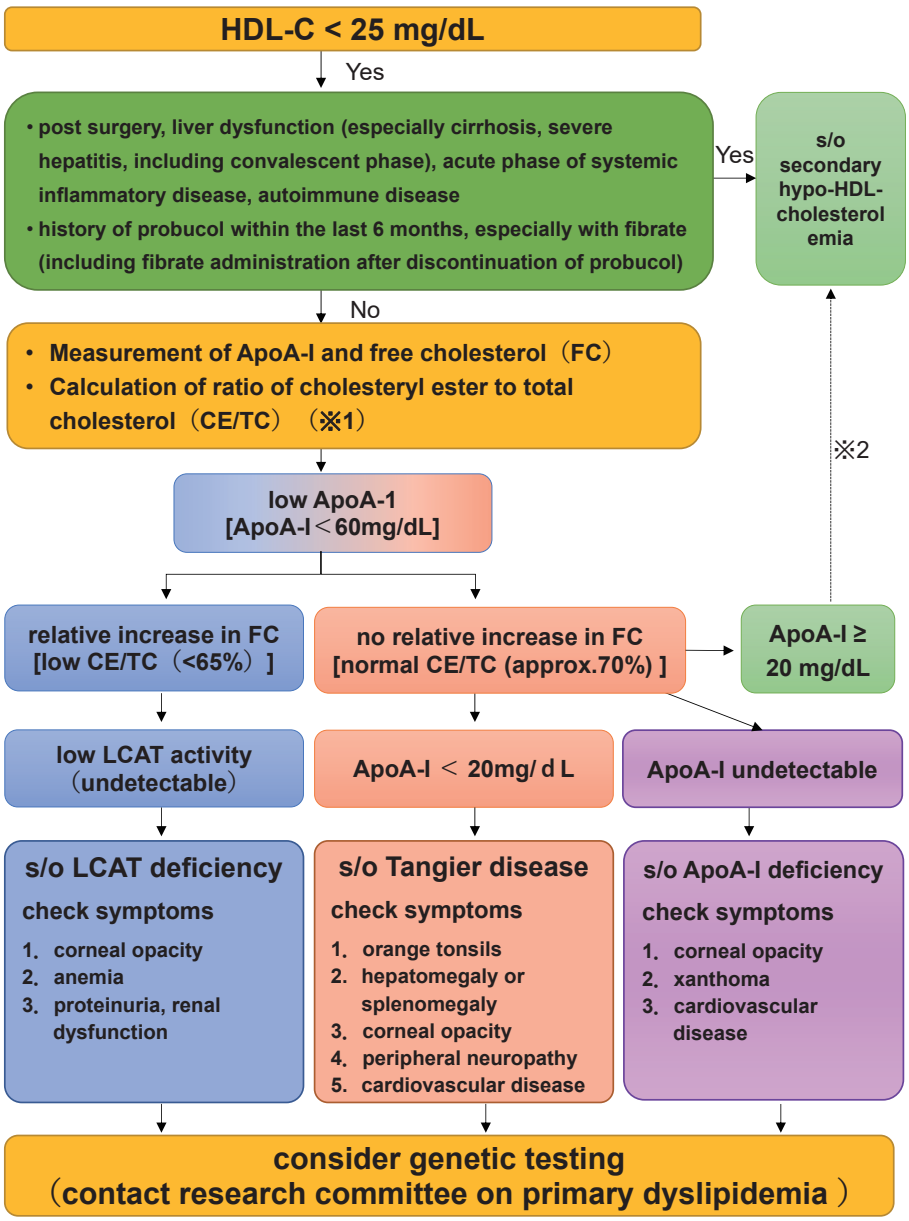


Fig. 5. Differential diagnosis flow chart for hypo-HDL-cholesterolemia

Acknowledgments and Notice of Grant Support

This work has been supported by Health, Labour and Welfare Sciences Research Grant for Research on Rare and Intractable Diseases (H30-nanji-ippan-003).

Conflicts of Interest

Atsushi Nohara has nothing to disclose. Hayato Tada has nothing to disclose. Masatsune Ogura has received honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc. Sachiko Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Koh Ono has nothing to disclose. Hitoshi Shimano has nothing to disclose. Hiroyuki Daida has received honoraria from Amgen Inc., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Kowa Co., Ltd., and MSD K.K., Novartis Pharma K.K., Bayer Yakuhin, Ltd. and received clinical research funding from Canon Medical Systems Corporation, Philips Japan, Ltd., Toho Holdings Co., Ltd., Asahi Kasei Corporation, and

Inter Reha Co., Ltd. HD has also received scholarship grants from Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Sanofi K.K., MSD K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Pfizer Co., Ltd., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Astellas Pharma Inc., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi & Co., Ltd., Actelion Pharmaceuticals, Ltd., Actelion Ltd., Kowa Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. HD has also courses endowed by companies, including Philips Japan, Ltd., ResMed, Fukuda Denshi Co., Ltd., and Paramount Bed Co., Ltd. Kazushige Dobashi has nothing to disclose. Toshio Hayashi has nothing to disclose. Mika Hori has nothing to disclose. Kota Matsuki has nothing to disclose. Tetsuo Minamino has nothing to disclose. Shinji Yokoyama has nothing to disclose. Mariko Harada-Shiba has received stock holdings or options from Liid Pharma, honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc., Sanofi, and scholarship grants from Aegerion Pharmaceuticals, Inc., Recordati Rare Diseases Japan, and Kaneka Corporation. Katsunori Ikewaki has nothing to disclose. Yasushi Ishigaki has nothing to disclose. Shun Ishibashi has received honoraria from Kowa Co., Ltd., and a scholarship grant from Ono Pharmaceutical Co., Ltd. Kyoko Inagaki has nothing to disclose. Hirotoshi Ohmura has nothing to disclose. Hiroaki Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Masa-aki Kawashiri has nothing to disclose. Masayuki Kuroda has nothing to disclose. Masahiro Koseki has received clinical research funding from Kowa Company, Ltd., Rohto Pharmaceutical Co., Ltd. Takanari Gotoda has nothing to disclose. Shingo Koyama has nothing to disclose. Yoshiki Sekijima has nothing to disclose. Manabu Takahashi has nothing to disclose. Yasuo Takeuchi has nothing to disclose. Misa Takegami has nothing to disclose. Kazuhisa Tsukamoto has received honoraria from Bayer Yakuhin, Ltd., MSD Ltd., Takeda Pharmaceutical Company Ltd., and scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation., Bayer Yakuhin, Ltd., Sanofi K.K. Atsuko Nakatsuka has nothing to disclose. Kimitoshi Nakamura has nothing to disclose. Satoshi Hirayama has nothing to disclose. Hideaki Bujo has nothing to disclose. Daisaku Masuda has received clinical research funding from MSD K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Co., Ltd. Takashi Miida has nothing to disclose. Yoshihiro Miyamoto has nothing to disclose. Takeyoshi Murano has nothing to disclose. Takashi Yamaguchi has nothing to disclose. Shizuya Yamashita has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K. Masashi Yamamoto has nothing to disclose. Koutaro Yokote has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K., Astellas Pharma Inc., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Amgen K.K., Takeda Pharmaceutical Company Limited, Sanofi K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., AstraZeneca K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Novartis Pharma K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Kyowa Kirin Co., Ltd., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Janssen Pharmaceutical K.K., and received clinical research funding from Taisho Pharmaceutical Co., Ltd. KY has also received scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., MSD K.K., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Kao Corporation, Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. Jun Wada has nothing to disclose.

References

1) Assmann G, Eckardstein A, Brewer HB. Familial analphalipoproteinemia: Tangier disease. The Metabolic and Molecular Bases of Inherited Diseases (McGraw Hill), 2001; 8th ed. vol 2: 2937-2960
2) Fredrickson DS, Altrocchi PH, Avioli LV, Goodman DS, Goodman HC. Tangier disease—Combined clinical staff conference at the National Institutes of Health. Ann Intern Med, 1961; 55: 1016-1031
3) Hara H, Yokoyama S. Interaction of free apolipoproteins with macrophages. Formation of high-density lipoprotein-like lipoproteins and reduction of cellular cholesterol. J Biol Chem, 1991; 266: 3080-3086
4) Francis GA, Knopp RH, Oram JF. Defective removal of cellular cholesterol and phospholipids by apolipoprotein A-I in Tangier disease. J Clin Invest, 1995; 96: 78-87
5) Brooks-Wilson A, Marcil M, Clee SM, Zhang LH, Roomp K, van Dam M, Yu L, Brewer C, Collins JA, Molhuizen HO, Loubser O, Ouelette BF, Fichter K, Ashbourne-Excoffon KJ, Sensen CW, Scherer S, Mott S, Denis M, Martindale D, Frohlich J, Morgan K, Koop B, Pimstone S, Kastelein JJ, Genest J Jr, Hayden MR. Mutations in ABC1 in Tangier disease and familial high-density lipoprotein deficiency. Nat Genet, 1999; 22: 336-345
6) Bodzioch M, Orsó E, Klucken J, Langmann T, Böttcher A, Diederich W, Drobnik W, Barlage S, Büchler C, Porsch-Ozcürümez M, Kaminski WE, Hahmann HW, Oette K, Rothe G, Aslanidis C, Lackner KJ, Schmitz G. The gene encoding ATP-binding cassette transporter 1 is mutated in Tangier disease. Nat Genet, 1999; 22: 347-351
7) Rust S, Rosier M, Funke H, Real J, Amoura Z, Piette JC, Deleuze JF, Brewer HB, Duverger N, Denèfle P, Assmann

G. Tangier disease is caused by mutations in the gene encoding ATP-binding cassette transporter 1. Nat Genet, 1999; 22: 352-355
8) Muratsu J, Koseki M, Masuda D, Yasuga Y, Tomoyama S, Ataka K, Yagi Y, Nakagawa A, Hamada H, Fujita S, Hattori H, Ohama T, Nishida M, Hiraoka H, Matsuzawa Y, Yamashita S. Accelerated atherogenicity in Tangier disease. J Atheroscler Thromb, 2018; 25: 1076-1085
9) Maruyama T, Yamashita S, Matsuzawa Y, Bujo H, Takahashi K, Saito Y, Ishibashi S, Ohashi K, Shionoiri F, Gotoda T, Yamada N, Kita T; Research Committee on Primary Hyperlipidemia of the Ministry of Health and Welfare of Japan. Mutations in Japanese subjects with primary hyperlipidemia; Results from the Research Committee of the Ministry of Health and Welfare of Japan since 1996. J Atheroscler Thromb, 2004; 11: 131-145
10) Hooper AJ, McCormick S, Hegele RA, Burnett JR. Clinical utility gene card for: Tangier disease. Eur J Hum Genet, 2017; 25: e1-e3
11) Costet P, Luo Y, Wang N, Tall AR. Sterol-dependent transactivation of the ABC1 promoter by the liver X receptor/retinoid X receptor. J Biol Chem, 2000; 275: 28240-28245
12) Tamehiro N, Shigemoto-Mogami Y, Kakeya T, Okuhira K, Suzuki K, Sato R, Nagao T, Nishimaki-Mogami T. Sterol regulatory element-binding protein-2- and liver X receptor-driven dual promoter regulation of hepatic ABC transporter A1 gene expression: mechanism underlying the unique response to cellular cholesterol status. J Biol Chem, 2007; 282: 21090-21099
13) Ohoka N, Okuhira K, Cui H, Wu W, Sato R, Naito M, Nishimaki-Mogami T. HNF4α increases liver-specific human ATP-binding cassette transporter A1 expression and cholesterol efflux to apolipoprotein A-I in response to cholesterol depletion. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2012; 32: 1005-1014
14) Ito J, Nagayasu Y, Yokoyama S. Cholesterol-sphingomyelin interaction in membrane and apolipoprotein-mediated cellular cholesterol efflux. J Lipid Res, 2000; 41: 894-904
15) Yamauchi Y, Iwamoto N, Rogers MA, Abe-Dohmae S, Fujimoto T, Chang CC, Ishigami M, Kishimoto T, Kobayashi T, Ueda K, Furukawa K, Chang TY, Yokoyama S. Deficiency in the lipid exporter ABCA1 impairs retrograde sterol movement and disrupts sterol sensing at the endoplasmic reticulum. J Biol Chem, 2015; 290: 23464-23477
16) Koseki M, Hirano K, Masuda D, Ikegami C, Tanaka M, Ota A, Sandoval JC, Nakagawa-Toyama Y, Sato SB, Kobayashi T, Shimada Y, Ohno-Iwashita Y, Matsuura F, Shimomura I, Yamashita S. Increased lipid rafts and accelerated lipopolysaccharide-induced tumor necrosis factor-alpha secretion in Abca1-deficient macrophages. J Lipid Res, 2007; 48: 299-306
17) Koseki M, Matsuyama A, Nakatani K, Inagaki M, Nakaoka H, Kawase R, Yuasa-Kawase M, Tsubakio-Yamamoto K, Masuda D, Sandoval JC, Ohama T, Nakagawa-Toyama Y, Matsuura F, Nishida M, Ishigami M, Hirano K, Sakane N, Kumon Y, Suehiro T, Nakamura T, Shimomura I, Yamashita S. Impaired insulin secretion in four Tangier disease patients with ABCA1 mutations. J Atheroscler Thromb, 2009; 16: 292-296
18) Brunham LR, Kruit JK, Pape TD, Timmins JM, Reuwer AQ, Vasanji Z, Marsh BJ, Rodrigues B, Johnson JD, Parks JS, Verchere CB, Hayden MR. Beta-cell ABCA1 influences insulin secretion, glucose homeostasis and response to thiazolidinedione treatment. Nat Med, 2007; 13: 340-347
19) Schaefer EJ, Blum CB, Levy RI, Jenkins LL, Alaupovic P, Foster DM, Brewer HB Jr. Metabolism of high-density lipoprotein apolipoproteins in Tangier disease. N Engl J Med, 1978; 299: 905-910
20) Bi X, Pashos EE, Cuchel M, Lyssenko NN, Hernandez M, Picataggi A, McParland J, Yang W, Liu Y, Yan R, Yu C, DerOhannessian SL, Phillips MC, Morrisey EE, Duncan SA, Rader DJ. ATP-binding cassette transporter A1 deficiency in human induced pluripotent stem cell-derived hepatocytes abrogates HDL biogenesis and enhances triglyceride secretion. EBioMedicine, 2017; 18: 139-145
21) Serfaty-Lacrosniere C, Civeira F, Lanzberg A, Isaia P, Berg J, Janus ED, Smith MP Jr, Pritchard PH, Frohlich J, Lees RS, Barnard FF, Ordovas JM, Schaefer EJ. Homozygous Tangier disease and cardiovascular disease. Atherosclerosis, 1994; 107: 85-98
22) Puntoni M, Sbrana F, Bigazzi F, Sampietro T. Tangier disease: epidemiology, pathophysiology, and management. Am J Cardiovasc Drugs, 2012; 12: 303-311
23) Zyss J, Béhin A, Couvert P, Bouhour F, Sassolas A, Kolev I, Denys V, Vial C, Lacour A, Carrié A, Stojkovic T. Clinical and electrophysiological characteristics of neuropathy associated with Tangier disease. J Neurol, 2012; 259, 1222-1226
24) Amanda AJ, Hegele RA, Burnett JR. Tangier disease: update for 2020. Curr Opin Lipidol, 2020; 31: 80-84
25) Komuro R, Yamashita S, Sumitsuji S, Hirano K, Maruyama T, Nishida M, Matsuura F, Matsuyama A, Sugimoto T, Ouchi N, Sakai N, Nakamura T, Funahashi T, Matsuzawa Y. Tangier disease with continuous massive and longitudinal diffuse calcification in the coronary arteries: demonstration by the sagittal images of intravascular ultrasonography. Circulation, 2000; 101: 2446-2448
26) Zanoni P, von Eckardstein A. Inborn errors of apolipoprotein A-I metabolism: implications for disease, research and development. Curr Opin Lipidol, 2020; 31: 62-70
27) Kinoshita M, Yokote K, Arai H, Iida M, Ishigaki Y, Ishibashi S, Umemoto S, Egusa G, Ohmura H, Okamura T, Kihara S, Koba S, Saito I, Shoji T, Daida H, Tsukamoto K, Deguchi J, Dohi S, Dobashi K, Hamaguchi H, Hara M, Hiro T, Biro S, Fujioka Y, Maruyama C, Miyamoto Y, Murakami Y, Yokode M, Yoshida H, Rakugi H, Wakatsuki A, Yamashita S; Committee for Epidemiology and Clinical Management of Atherosclerosis. Japan Atherosclerosis Society (JAS) Guidelines for Prevention of Atherosclerotic Cardiovascular Diseases 2017. J Atheroscler Thromb, 2018; 25: 846-984

The official journal of the Japan Atherosclerosis Society and
the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases

Review

J Atheroscler Thromb, 2021; 28: 000-000. http://doi.org/10.5551/jat.RV17054

Current Diagnosis and Management of Primary Chylomicronemia

Hiroaki Okazaki[1], Takanari Gotoda[2], Masatsune Ogura[3], Shun Ishibashi[4], Kyoko Inagaki[5], Hiroyuki Daida[6], Toshio Hayashi[7], Mika Hori[8], Daisaku Masuda[9], Kota Matsuki[10], Shinji Yokoyama[11] and Mariko Harada-Shiba[12] on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan[†]

[1]Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan
[2]Department of Metabolic Biochemistry, Faculty of Medicine, Kyorin University, Tokyo, Japan
[3]Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan
[4]Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan
[5]Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan
[6]Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan
[7]School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan
[8]Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan
[9]Department of Cardiology, Health Care Center, Rinku Innovation Center for Wellness Care and Activities (RICWA), Rinku General Medical Center, Osaka, Japan
[10]Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan
[11]Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan
[12]Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan

[†]**The Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan:** Mariko Harada-Shiba (Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Shun Ishibashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Shinji Yokoyama (Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan), Hitoshi Shimano (Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Faculty of Medicine University of Tsukuba, Tsukuba, Japan), Koutaro Yokote (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Hideaki Bujo (Department of Clinical-Laboratory and Experimental-Research Medicine, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Shizuya Yamashita (Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Kazuhisa Tsukamoto (Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan), Toshio Hayashi (School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan), Katsunori Ikewaki (Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan), Takanari Gotoda (Department of Metabolic Biochemistry, Faculty of Medicine, Kyorin University, Tokyo, Japan), Kazushige Dobashi (Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan), Yoshihiro Miyamoto (Open Innovation Center, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Misa Takegami (Department of Preventive Medicine and Epidemiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Yoshiki Sekijima (Department of Medicine (Neurology & Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan), Yasushi Ishigaki (Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan), Hiroaki Okazaki (Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Atsushi Nohara (Ishikawa Prefectural Central Hospital, Kanazawa, Japan), Shingo Koyama (Division of Neurology and Clinical Neuroscience, Department of Internal Medicine III, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan), Kyoko Inagaki (Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan), Koh Ono (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan), Masahiro Koseki (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan), Hiroyuki Daida (Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Manabu Takahashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Kimitoshi Nakamura (Department of Pediatrics, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan), Takashi Miida (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masa-aki Kawashiri (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan), Tetsuo Minamino (Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan), Sachiko Okazaki (Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Hayato Tada (Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan), Jun Wada (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University

Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Masatsune Ogura (Division of Lipid Metabolism, Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Hirotoshi Ohmura (Department of Cardiovascular Medicine, School of Medicine, Juntendo University, Tokyo, Japan), Mika Hori (Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan), Kota Matsuki (Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan), Masashi Yamamoto (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Yasuo Takeuchi (Division of Nephrology, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan), Atsuko Nakatsuka (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Daisaku Masuda (Department of Cardiology, Health Care Center, Rinku Innovation Center for Wellness Care and Activities (RICWA), Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Satoshi Hirayama (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masayuki Kuroda (Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, Chiba, Japan), Takashi Yamaguchi (Center of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Takeyoshi Murano (Clinical Laboratory Program, Faculty of Science, Toho University, Chiba, Japan).

Primary chylomicronemia (PCM) is a rare and intractable disease characterized by marked accumulation of chylomicrons in plasma. The levels of plasma triglycerides (TGs) typically range from 1,000 - 15,000 mg/dL or higher.

PCM is caused by defects in the lipoprotein lipase (LPL) pathway due to genetic mutations, autoantibodies, or unidentified causes. The monogenic type is typically inherited as an autosomal recessive trait with loss-of-function mutations in LPL pathway genes (*LPL*, *LMF1*, *GPIHBP1*, *APOC2*, and *APOA5*). Secondary/environmental factors (diabetes, alcohol intake, pregnancy, etc.) often exacerbate hypertriglyceridemia (HTG).

The signs, symptoms, and complications of chylomicronemia include eruptive xanthomas, lipemia retinalis, hepatosplenomegaly, and acute pancreatitis with onset as early as in infancy. Acute pancreatitis can be fatal and recurrent episodes of abdominal pain may lead to dietary fat intolerance and failure to thrive.

The main goal of treatment is to prevent acute pancreatitis by reducing plasma TG levels to at least less than 500-1,000 mg/dL. However, current TG-lowering medications are generally ineffective for PCM. The only other treatment options are modulation of secondary/environmental factors. Most patients need strict dietary fat restriction, which is often difficult to maintain and likely affects their quality of life.

Timely diagnosis is critical for the best prognosis with currently available management, but PCM is often misdiagnosed and undertreated. The aim of this review is firstly to summarize the pathogenesis, signs, symptoms, diagnosis, and management of PCM, and secondly to propose simple diagnostic criteria that can be readily translated into general clinical practice to improve the diagnostic rate of PCM. In fact, these criteria are currently used to define eligibility to receive social support from the Japanese government for PCM as a rare and intractable disease.

Nevertheless, further research to unravel the molecular pathogenesis and develop effective therapeutic modalities is warranted. Nationwide registry research on PCM is currently ongoing in Japan with the aim of better understanding the disease burden as well as the unmet needs of this life-threatening disease with poor therapeutic options.

Key words: **Chylomicronemia, Triglyceride, Pancreatitis, Diagnostic criteria, Treatment guide**

1. Definition of Chylomicronemia

Chylomicrons (CMs) are intestine-derived lipoproteins that transport dietary fat to peripheral tissues[1]. CMs are usually quickly cleared from plasma after an overnight fast. The hallmark of chylomicronemia is persistent elevation of CMs in the fasting state (>12h). Plasma triglyceride (TG) levels

Address for correspondence: Hiroaki Okazaki, Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113–8655, Japan E-mail: hokazaki-tky@umin.ac.jp

Received: March 17, 2021 Accepted for publication: March 20, 2021

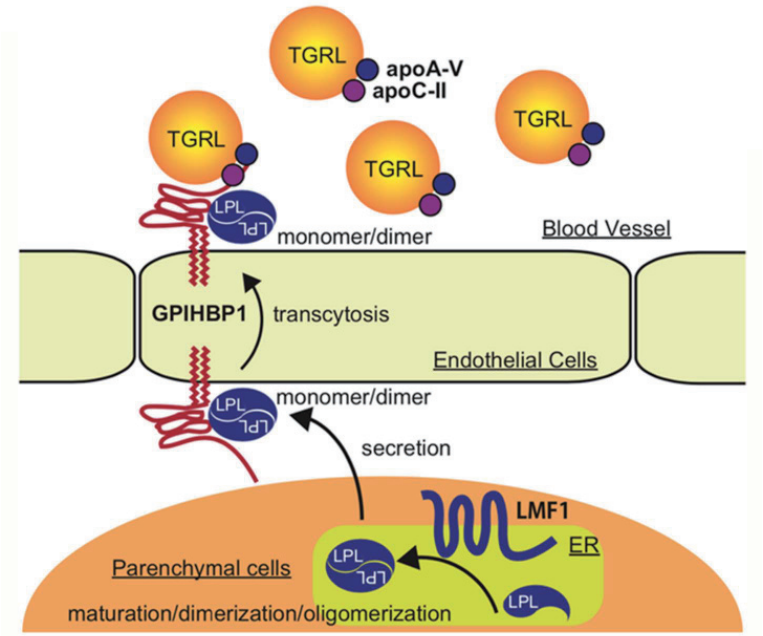


Fig. 1. Molecular basis of primary chylomicronemia

Lipoprotein lipase (LPL) hydrolyzes triglycerides (TGs) in TG-rich lipoproteins (TGRLs), such as very low-density lipoproteins (VLDLs) and chylomicrons (CMs) to liberate free fatty acids (FFAs), which are utilized by peripheral tissues (e.g., muscle, heart, and adipose tissues). Activity of LPL is regulated by a quaternary structure (monomer/dimer/oligomer) as well as by multiple LPL-pathway proteins[210-212]. LMF1 is required for the synthesis of LPL in parenchymal cells of these peripheral tissues. GPIHBP1 is a transmembrane protein that tethers LPL on the endothelial cell surface to provide a platform for TG hydrolysis. GPIHBP1 captures LPL in the subendothelial (interstitial) space of peripheral tissues, transports LPL from the subendothelial surface to the luminal surface of endothelial cells by transcytosis, and anchors LPL on the luminal surface facing the bloodstream to facilitate lipolysis. For the hydrolytic activity of LPL, two apolipoproteins, apoC-II and apoA-V, are required. ApoC-II is necessary for the enzymatic activity of LPL. ApoA-V primarily enhances the interaction between TGRL and LPL by forming TGRL-apoA-V-GPIHBP1-LPL complex via its dual binding affinity to TGRL and GPIHBP1. Defects in LPL pathway proteins (LPL, LMF1, GPIHBP1, apoC-II, apoA-V) due to genetic mutations or autoantibodies cause primary chylomicronemia (PCM). LPL activity can be measured after releasing LPL from the luminal surface into the circulation by i.v. injection with heparin.
Abbreviations: apoA-V, apolipoprotein A-V; apoC-II, apolipoprotein C-II; GPIHBP-1, glycosylphosphatidylinositol-anchored high-density lipoprotein-binding protein 1; LMF1, lipase maturation factor 1.

in chylomicronemia typically range from 1,000 to 15,000 mg/dL or higher[2]. As CMs start to accumulate in plasma when TG levels increase to more than 500 - 1,000 mg/dL[1], it is practical to screen and suspect chylomicronemia if plasma TGs >1,000 mg/dL[2, 3].

2. Metabolism of Chylomicrons

CMs are produced by the intestine after a meal and secreted into the circulation[1]. Their synthesis requires apoB-48 protein, which is transcribed from the edited mRNA of *APOB*, and microsomal triglyceride transfer protein (MTTP), which incorporates dietary TGs into CMs. More than 90% of lipids in CMs are TGs (derived from dietary fatty acids and TGs), which are hydrolyzed by lipoprotein lipase (LPL) on the endothelial cell surface of peripheral tissues (muscle, heart, adipose tissue, etc.) to liberate free fatty acids (FFAs). FFAs are used as an energy source in peripheral tissues, or stored as TGs in adipose tissues, or re-esterified and secreted as very low-density lipoprotein (VLDL)-TG by the liver. CMs are converted to CM remnants after TG hydrolysis by LPL and then cleared from plasma through endocytosis mainly by the liver.

3. Molecular Basis of Chylomicronemia

Plasma levels of CMs are affected by primary factors as well as secondary factors[2, 4, 5]. Primary factors consist of defects in the proteins that metabolize CMs, such as LPL and its related proteins (apolipoprotein(apo)C-II, apoA-V, glycosylphosphatidylinositol-anchored high density lipoprotein-binding protein 1 (GPIHBP1), lipase maturation factor 1 (LMF1)) **(Fig. 1)**. Secondary factors include conditions that impair CM metabolism, such as poor control of diabetes, excessive alcohol intake, and pregnancy. In primary chylomicronemia (PCM), chylomicronemia usually persists even after

management of secondary factors. PCM is caused by defects in LPL pathway genes (*LPL*, *APOC2*, *APOA5*, *GPIHBP1*, *LMF1*) due to genetic mutations or presence of autoantibodies against LPL pathway proteins (GPIHBP1, LPL, and apoC-II)[6-9].

4. Complications of Chylomicronemia

Chylomicronemia is a risk factor for acute pancreatitis[10]. Although the underlying mechanisms are not fully understood, the widely accepted hypothesis is that an excess of FFAs derived from lipolysis of chylomicron-TG by pancreatic lipase damages pancreatic acinar cells or endothelial cells of pancreatic capillaries, leading to activation of inflammatory processes[11]. In addition, high levels of plasma CM may increase the viscosity of pancreatic microcirculation and impair pancreatic blood flow, further exacerbating inflammation. Genetic predisposition may also contribute to the pathogenesis[12].

Based on this hypothesis, it is generally believed that chylomicronemia per se induces pancreatitis and, therefore, reducing plasma CM levels should lower the risk of pancreatitis[10]. The widely accepted treatment goal is to reduce plasma TG levels to at least less than 1,000 mg/dL[2, 4, 5, 12-14].

5. Primary Factors of Chylomicronemia

Five genes (*LPL*, *LMF1*, *GPIHBP1*, *APOC2*, *APOA5*) have been identified as the causative genes of monogenic chylomicronemia **(Fig. 1)**[4, 5]. All of them are required for the normal function of LPL. Homozygous, compound heterozygous, or double heterozygous loss-of-function mutations of these LPL pathway genes usually cause monogenic chylomicronemia with an autosomal recessive mode of inheritance[15]. Heterozygous mutations or pathological variants in HTG-susceptible genes, including those for hepatic lipase (HL) and apolipoprotein E, may also predispose to chylomicronemia[3, 5, 16-18].

Loss-of-function mutations in LPL-pathway genes have been identified in only less than 30-40% of patients suspected of monogenic chylomicronemia[19, 20]. In some cases, autoantibodies against LPL pathway proteins can cause PCM. Additional genetic factors or unknown causes may also underlie PCM.

•***LPL*** (LPL deficiency, OMIM: 238600): *LPL* is the most common causative gene of monogenic chylomicronemia. More than 220 pathogenic variants in *LPL* have been described (missense, nonsense, splicing variants, insertion/deletion of nucleotide(s), deletion/duplication/insertion/rearrangement of exon(s))[2, 4, 15, 20-22]. A list of mutations in *LPL* has been comprehensively summarized in exon-intron diagrams by Rabacchi C *et al.* and Rodrigues R *et al.*[20, 22]. LPL activity is usually tested in post-heparin plasma taken 10-15 min after iv. heparin injection (10-60 IU/kg body weight)[4, 23].

•***LMF1*** (LMF1 deficiency, OMIM: 246650): *LMF1* encodes LMF1, a transmembrane chaperone protein of parenchymal cells (muscle, adipose tissues, etc.). LMF1 is localized to the endoplasmic reticulum and is required for proper synthesis and secretion of LPL and HL. In addition to nonsense mutations that were originally reported, several other mutations, including missense loss-of-function mutations, have been identified in *LMF1*[24-29].

•***GPIHBP1*** (GPIHBP1 deficiency, OMIM: 615947): *GPIHBP1* encodes GPIHBP1, a transmembrane protein that tethers LPL on the endothelial cell surface to provide a platform for TG hydrolysis[30, 31]. GPIHBP1 captures LPL in the subendothelial (interstitial) space of peripheral tissues (skeletal muscles, heart, adipose tissues, etc.), transports LPL from the subendothelial surface to the luminal surface of endothelial cells by transcytosis, and anchors LPL on the luminal surface facing the bloodstream to facilitate lipolysis. So far, at least 23 pathogenic mutations in *GPIHBP1* have been reported in severe HTG patients, including those causing total GPIHBP1 deficiency[21, 32-36]. Mutations in *GPIHBP1* are comprehensively summarized in the exon-intron diagram by Rabacchi *et al.*[35]. GPIHBP1 deficiency may be differentiated from LPL deficiency in that LPL activity or protein in post-heparin plasma is not totally lacking in GPIHBP1 deficiency[37].

•***APOC2*** (apoC-II deficiency, OMIM: 207750): *APOC2* encodes apoC-II, a co-factor required for LPL activity. *APOC2* is the second most common causative gene of monogenic chylomicronemia. At least 24 mutations have been reported worldwide[2, 4, 5, 38-41], and are comprehensively summarized in the exon-intron diagram by Wolska *et al.*[41]. In some cases, plasma levels of apoC-II have been severely decreased but are detected with apparently normal electrophoretic patterns (so-called hypoapoC-II)[42-45]. In apoC-II deficiency, symptoms often develop at an older age (13-60 years) than in LPL deficiency[1, 4]. As apoC-II deficient patients tend to be subjected to strict fat restriction at an older age, they may have poorer dietary adherence and more frequent episodes of acute pancreatitis in adulthood than LPL deficient patients, often accompanied by high VLDL levels[2].

•***APOA5*** (apoA-V deficiency, OMIM: 144650): *APOA5* encodes apoA-V, a co-factor of LPL that enhances interaction between LPL and TG-rich lipoproteins (TGRLs)[46, 47]. ApoA-V has dual binding

affinity for both TGRL and GPIHBP1, thereby forming the TGRL-apoA-V-GPIHBP1-LPL complex to facilitate lipolysis[31, 48, 49]. So far, at least 21 mutations in *APOA5* have been reported, which are comprehensively summarized in exon-intron diagrams by Albers *et al.*[50-53]. In most cases, severe HTG develops later in life due to the combinatorial effects of primary (genetic) and secondary factors (aging, diabetes, pregnancy, HIV therapy, etc.)[53]. The underlying molecular mechanisms of apoA-V deficient HTG in terms of gene-environmental interactions has only begun to be elucidated[54, 55].

•**Autoantibodies against LPL pathway proteins**: Autoimmune chylomicronemia due to autoantibodies against LPL pathway proteins (GPIHBP1, LPL, apoC-II) has been reported[6-9]. Autoimmune chylomicronemia may be complicated by other autoimmune diseases and be ameliorated by steroid or immune-suppressive therapy.

6. Secondary Factors of Chylomicronemia

The following factors have been reported to induce chylomicronemia[3-5, 13, 35, 56-61]. Among them, excess alcohol consumption and diabetes mellitus are the two most common factors associated with severe HTG[18, 62, 63].

Pregnancy is another important factor that can induce chylomicronemia. Hormonal changes during pregnancy result in hyperlipidemia even in healthy subjects, as a physiological response to ensure nutrient supply to the fetus[64-66]. Plasma TG levels progressively increase in healthy subjects by 2- to 4-fold[67], and markedly increase in subjects with PCM[68-74]. Pregnancy increases TGRL (VLDL) production and decreases TGRL clearance[75-78].

•**Lifestyle-related factors**: Dietary factors such as excessive alcohol intake, high-fat diet, high-carbohydrate diet rich in fructose and other simple sugars. Less exercise and excessive intake of total calories, particularly in subjects who are overweight, have metabolic syndrome, or diabetes mellitus.

•**Pathophysiological conditions**: Pregnancy, obesity, metabolic syndrome, anorexia nervosa, glucose intolerance, diabetes mellitus with insulin resistance or insulin deficiency, endocrine diseases such as hypothyroidism, acromegaly, Cushing's syndrome, Nelson's syndrome, glycogen storage diseases, amyloidosis, renal disease (nephrotic syndrome, proteinuria, uremia, glomerulonephritis, etc.), liver disease, autoimmune disorders, lipodystrophies, Weber-Christian disease, multiple myeloma, paraproteinemia, and lymphoproliferative disorders, etc.

•**Medications**: Glucocorticoids, oral estrogens (contraceptives, postmenopausal replacement therapies), clomiphene, tamoxifen, exogenous testosterone; retinoids such as isotretinoin, bexarotene; immunosuppressants and anticancer drugs such as sirolimus, cyclosporine A, tacrolimus, capecitabine, cyclophosphamide, asparaginase; antihypertensives such as thiazides, loop diuretics, non-selective β -blockers; bile acid-sequestrants; antiviral drugs such as entecavir, ritonavir and other antiretroviral protease inhibitors; second-generation antipsychotics (atypical antipsychotics), such as dozapine, clozapine, olanzapine, risperidone, quetiapine; antidepressants such as mirtazapine, venlafaxine; selective serotonin reuptake inhibitors (sertraline, etc.); anticonvulsants, such as valproate; anesthetic drugs, such as propofol.

7. Classification of Chylomicronemia

Chylomicronemia was formerly classified as type 1 and 5 hyperlipoproteinemia (HLP) in the Fredrickson classification (WHO classification)[5, 79], where increased plasma lipoproteins are CM for type 1 and CM+VLDL for type 5 HLP. However, differentiation of type 1 and type 5 HLP is often difficult because of considerable overlaps in phenotypes and genetic backgrounds[3, 5, 17].

Differentiation of monogenic from polygenic chylomicronemia is also difficult[80]. Even when monogenic chylomicronemia is suspected, causative mutations have been identified in less than 30-40%[19, 20].

For practical reasons, we prefer to use the term PCM, which is defined as a condition with persistent elevation of TG >1,000 mg/dL even after management of secondary factors. The term familial chylomicronemia syndrome (FCS) is not used here, as monogenic chylomicronemia is typically autosomal recessive, and most cases are sporadic, without a family history. The term "familial" may confuse both patients and doctors, and may lead to underdiagnosis[3, 81].

8. Prevalence of Chylomicronemia

The prevalence of severe HTG (TG >10 mmol/L (885 mg/dL)) is estimated at ~1 in 600 in North America[5]. In a population of 440,240 subjects in the US, severe HTG (886-2,000 mg/dL) and very severe HTG (>2,000 mg/dL) were observed in 0.15% and 0.014%, respectively[36].

The monogenic type of chylomicronemia is very rare and its frequency is estimated at 1 to 2 per million in the general population[1, 4, 5]. The most common causative gene is *LPL*, followed by other LPL pathway

genes (*APOC2*, *GPIHBP1*, *APOA5*, and *LMF1*)[5, 15, 53].

Severe HTG is more often due to polygenic causes[3, 82]. Dron *et al.* reported that the etiology of severe HTG (TG >10 mmol/L (885 mg/dL)) is monogenic in 1.1%, polygenic in 46%, and genetically unidentified in the rest of cases[83]. Another study identified monogenic causes in 0.96% of patients with very severe HTG (TG >20 mmol/L (1770 mg/dL)) recorded at least once during regular medical care[22].

9. Prevalence of HTG-Induced Acute Pancreatitis

Regardless of the underlying etiology of HTG, the risk of acute pancreatitis increases as TG levels increase, particularly when they exceed 1,000 - 2,000 mg/dL[84].

HTG is the third leading cause (5-38%) of acute pancreatitis after alcohol and gallstones[1, 12, 85-87]. HTG is the leading cause (25~50%) of acute pancreatitis during pregnancy[12, 74, 88], which is most often seen in the third trimester (19%, 26%, 53% in the 1st, 2nd, and 3rd trimester, and 2% in postpartum period)[89]. The frequency of HTG-induced acute pancreatitis in pregnancy is estimated as 1 in 1000-12,000 pregnancies[14, 73, 74].

Risk of acute pancreatitis increases by ~4% for every 100 mg/dL increase in plasma TG[56, 84, 87, 90, 91]. According to the 2010 Endocrine Society guidelines, HTG can be classified into mild HTG (150-199 mg/dL), moderate HTG (200-999 mg/dL), severe HTG (sHTG, 1000-1999 mg/dL), or very severe HTG (vsHTG, >2000 mg/dL). The prevalence of pancreatitis in sHTG and vsHTG is about 10% and 20%, respectively[5, 13, 14, 87, 92].

Clinically, it remains difficult to predict if a HTG patient will develop acute pancreatitis or not. Some patients do not develop acute pancreatitis even at TG levels higher than 30,000 mg/dL[1, 2]. Conversely, patients can develop acute pancreatitis at TG levels of 5-10 mmol/L (442-885 mg/dL)[93]. The underlying etiology of monogenic chylomicronemia seems to confer a potent risk of acute pancreatitis[53, 94-96]. Compared to normolipidemic individuals, the risk of acute pancreatitis increased by 16-fold, 56-fold, and 361-fold in HTG (5-9 mmol/L (442-796 mg/dL)) without LPL deficiency, HTG (>9 mmol/L (796 mg/dL)) without LPL deficiency, and HTG (>9 mmol/L (796 mg/dL)) with LPL deficiency (genetically-confirmed), respectively[94]. Greater cumulative exposure of HTG to the pancreas due to genetic causes may impose higher pancreatitis risk[53, 94-97](See **sections 12 and 16(B)** for other suggested risk factors of acute pancreatitis among HTG subjects).

10. Signs, Symptoms, and Complications of Chylomicronemia

Depending on the severity of the mutation, signs, symptoms, and complications of chylomicronemia may manifest as early as in infancy, in childhood, or later in life[4, 95].

•**Abdominal pain, fat intolerance, failure to thrive**: Abdominal pain affects ~60% of monogenic chylomicronemia patients and can be mild to incapacitating[4, 95, 96]. Recurrent episodes of abdominal pain may lead to dietary fat intolerance and failure to thrive. Body weight may be lower because of restricted food intake.

•**Pancreatitis**: Acute pancreatitis can be severe, recurrent, and life-threatening[1, 4, 95]. Acute pancreatitis may lead to chronic pancreatitis and diabetes. Irrespective of its etiology, severe HTG should be carefully monitored for the possible complications of pancreatitis. Compared to polygenic chylomicronemia, monogenic chylomicronemia is associated with a higher risk of acute pancreatitis and tends to manifest severe phenotypes[86, 94, 95]. According to a survey of lipidologists, ~67% of monogenic patients were hospitalized for acute pancreatitis vs. ~14% of polygenic patients[95, 96]. It should be noted that high levels of plasma TG may interfere with assays of plasma pancreatic enzymes (lipase, amylase), resulting in falsely low levels[2, 98-100]. HTG-induced acute pancreatitis should not be misdiagnosed due to apparently low serum levels of pancreatic enzymes.

•**Lipemic plasma**: Lipemic plasma (milky-looking plasma) is characterized by a creamy CM layer floating above the bottom layer, after leaving serum standing overnight in a refrigerator (the "refrigerator" test)[1]. In type 5 HLP, the bottom layer contains VLDLs and has a lactescent appearance. In type 1 HLP, the bottom layer is clear without apparent VLDL accumulation. Type 1 HLP is more frequently observed than type 5 in monogenic chylomicronemia[19]. (See reference by Yuan G *et al.* for a photograph of lipemic plasma[56].)

•**Eruptive xanthomas**: Eruptive xanthomas affect 10-50% of the monogenic type[95, 96]. They appear when plasma TG levels increase to more than 2,000 mg/dL as yellow papules on the skin of the trunk, buttocks, and extremities (extensor surfaces of the arms and knees) as a result of TG uptake by macrophages (see references by Nayak KR *et al.* and Yuan G *et al.* for photographs)[2, 4, 56, 101]. Along with reduction in plasma TG levels, they gradually

Table 1. Diagnostic criteria for primary chylomicronemia

A. Entry Criterion:
A1 and A2 with exclusion of differential diagnosis in E
A1) Plasma TG level ≧1,000 mg/dL (after fasting for 12 hours or longer)
A2) Presence of chylomicrons in serum (from appearance of supernatant cream layer after allowing serum to stand for 24 hours or longer at 4℃, ultracentrifugation, or electrophoresis (agarose gel, polyacrylamide gel, or HPLC))
B. Clinical manifestations (major (B1-B4) and minor (B5, B6))
B1) Recurrent episodes of abdominal pain and/or acute pancreatitis
B2) Eruptive xanthomas
B3) Lipemia retinalis
B4) Hepatomegaly and/or splenomegaly
B5) Dyspnea
B6) Neurological symptoms (cognitive impairment, memory impairment, depression, etc.)
C. Laboratory findings
C1) LPL activity and/or protein in post heparin plasma, adipose tissue, or macrophages is absent or markedly decreased (＜10% of normal subjects)
C2) Plasma apoC-II is absent or markedly decreased (＜10% of normal subjects)
C3) Plasma apoA-V is absent or markedly decreased (＜10% of normal subjects)
C4) Autoantibodies against LPL, heparin, apoC-II, or GPIHBP1.
D. Genetic test
Identification of causative mutation(s) in *LPL*, *APOC2*, *GPIHBP1*, *LMF1*, or *APOA5*
E. Differential diagnosis
Type 3 hyperlipidemia, familial combined hyperlipidemia (FCHL), and secondary hyperlipidemia due to following: excess alcohol intake, nephrotic syndrome, anorexia nervosa, pregnancy, diabetes mellitus, lipodystrophies, Weber-Christian disease, hypothyroidism, acromegaly, Cushing's syndrome, Nelson's syndrome, multiple myeloma, systemic lupus erythematosis, malignant lymphoma, sarcoidosis, etc.; medications such as estrogens, steroids, diuretics, β-blockers, antipsychotics including selective serotonin reuptake inhibitors (SSRIs), retinoids such as isotretinoin, antiretroviral protease inhibitors, immunosuppressants, etc.
<Diagnosis>
Definite: Entry criterion (A) associated with at least one item from C or D
Probable: Entry criterion (A) associated with at least one item from B1-B4
Possible: Entry criterion (A) with or without item(s) from B5-B6

disappear over several weeks to a few months[2].

•**Lipemia retinalis**: Lipemia retinalis affects ~40% of the monogenic type[95, 96] and is characterized by retinal blood vessels with a milky appearance (a pale pink color) on fundoscopy (see references by Kumar J *et al.* and Yuan G *et al.* for photographs)[56, 102]. Vision is not impaired. It is usually visible when plasma TG levels increase to more than 4,000 mg/dL[2].

•**Hepatomegaly and splenomegaly**: Hepatomegaly and splenomegaly affect 10-50% of the monogenic type[95, 96] as a result of TG uptake by macrophages and other cell types in these tissues[1, 4]. Both conditions are reversible and rapidly improve within a week, along with reduction in plasma TG levels[2].

•**Other symptoms (fatigue, dyspnea, and neurological symptoms)**: Other clinical symptoms include fatigue, dyspnea, and neurological symptoms[1] such as memory impairment (transient memory loss), cognitive impairment, mild dementia, cloudy thought, brain fog, neurosis, irritability, anxiety, and depression[4, 95, 103-107]. Neurological symptoms affect ~8% of the monogenic type[95]. Although little is known about the underlying mechanisms of these symptoms, large surveillance studies among chylomicronemia patients have shown that they dominantly and adversely affect patients' quality of life and increase the burden of the disease[104-107].

11. Diagnosis of Chylomicronemia

Undertreatment and underdiagnosis of chylomicronemia are one of the major risks for acute pancreatitis[84, 87]. In order to achieve early diagnosis and treatment for chylomicronemia, simple diagnostic criteria that can be readily translated into general practice are required.

Based on TG levels that lead to suspicion of chylomicronemia (TG ＞1,000 mg/dL), clinical manifestations and the available data on diagnostic tests, here we propose diagnostic criteria for PCM

(Table 1).

It should be noted that PCM is genetically confirmed in less than 30-40% of patients suspected of monogenic chylomicronemia[19, 20]. Therefore, we have set three categories (definite, probable, and possible) so that PCM patients will not be missed even without a genetic diagnosis.

To achieve timely diagnosis and improve the diagnostic rate of PCM, screening of plasma TG levels in the following settings will be helpful. Clinicians across multiple disciplines, such as primary care physicians, gastroenterologists, gynecologists, and other doctors who have occasionally encountered severe HTG patients, should consult lipidologists concerning further diagnostic tests for chylomicronemia.

•**Health checkup or opportunistic blood test**: All patients who have TG levels of more than 1,000 mg/dL in universal lipid screening[108] or a routine clinic visit should be suspected of chylomicronemia[96, 109].

•**Acute abdomen (including pancreatitis)**: Those who have acute abdomen or are suspected of pancreatitis should have their plasma TG levels measured[96]. Plasma TG should be measured as early as possible after the onset of abdominal pain, as TG levels rapidly decrease within 24-48 hours of onset[110].

•**Pregnancy**: Many cases of monogenic chylomicronemia have been discovered in the third trimester of pregnancy[111-118]. HTG-induced acute pancreatitis in pregnancy can be lethal to both mother and fetus[119]. Gestational HTG may also increase the risk of hyperviscosity syndrome[120], pre-eclampsia[121], fetal macrosomia, and fetal pancreatitis-related complications (in-utero fetal death, preterm labor, and prematurity)[66]. Pregnant women who are suspected of pancreatitis should be tested for plasma TG. Pregnant women at high-risk for HTG-induced acute pancreatitis may benefit from plasma TG screening and monitoring on a weekly basis[122]. Such patients include: those with HTG or pancreatitis prior to or during pregnancy; high predisposition for HTG-induced acute pancreatitis due to diabetes mellitus, obesity, hypertension, hypothyroidism, renal disease, liver disease, family history of HTG, alcohol consumption, and medications that cause HTG; HTG with abdominal pain or other symptoms typical to chylomicronemia[84, 87, 122](See **sections 12 and 16(B)** for suggested risk factors of acute pancreatitis among HTG patients).

•**Family members of chylomicronemia patients**: Evaluation of plasma TG levels in family members is beneficial for early diagnosis and management of possible complications[96].

12. Features for Suspecting Monogenic Chylomicronemia

Clinical features that lead to suspicion of monogenic chylomicronemia have been suggested by previous studies and in expert opinions, but further validation in various cohorts is required[2-5, 15, 18, 53, 80, 96, 109, 123, 124]. These features may be useful not only for indicating the likelihood of monogenic chylomicronemia but also for predicting a higher risk of pancreatitis[53, 86, 94-96]:

- Intractable, severe HTG (TG >10 mmol/L or 1,000 mg/dL)
- Fasting severe HTG on multiple occasions
- Very severe HTG
- No history of normal to mild plasma TG levels (<200 mg/dL)
- Severe HTG with no secondary factors (except for pregnancy and oral estrogens)
- Severe HTG with pregnancy
- No response (TG decrease <20%) to hypolipidemic agents
- Severe HTG with type 1 rather than type 5 HLP
- History of recurrent abdominal pain or acute pancreatitis
- Younger age at onset
- Lower body mass index (BMI)
- Eruptive xanthomas
- Lipemia retinalis
- Hepatosplenomegaly
- Consanguinity

On the other hand, the polygenic type of chylomicronemia is more frequently associated with secondary/environmental factors, such as high-alcohol intake, diabetes mellitus, hypertension, and obesity[2, 18, 96].

13. Treatment of Chylomicronemia

The treatment goal of chylomicronemia is to lower plasma TG levels enough to reduce the risk of pancreatitis. Data from large healthcare databases suggest that sustained HTG (>500 mg/dL) increases the risk of pancreatitis (hazard ratio 1.79 [CI 95%: 1.10-1.28])[125] and lowering TG from >500 mg/dL to less than 200 mg/dL can reduce the incidence of acute pancreatitis from 1.1 to 0.4 per 100 person-year (adjusted OR 0.45 [CI 95%: 0.34-0.60])[126]. Due to the rareness of the disease, there have been no randomized control trials (RCTs) to determine treatment TG targets for prevention of pancreatitis. Mainly based on clinical experience, the opinion of

experts is to recommend maintaining plasma TG levels below 500-1,000 mg/dL to prevent pancreatitis[2, 4, 5, 12-14].

A) Control of Secondary Factors

Comorbid conditions that aggravate chylomicronemia should be thoroughly evaluated in order to rule them out. If any are present, they should be managed adequately. Bodyweight reduction, reduced calorie intake, and increased energy expenditure through regular physical exercise may help reduce plasma TG levels, particularly in overweight subjects. Regular physical exercise may also help in the non-obese[93, 127]. Bodyweight should be carefully controlled as rebound weight gain might elicit pancreatitis[13].

B) Dietary Therapy

Strict dietary control is currently the primary treatment modality for chylomicronemia, although it is often insufficient and difficult to maintain in the long term[128, 129]. Children and adolescents should be carefully monitored to ensure proper growth and development. Adjustment of social life might be a challenge throughout life[104-107].

•**Fat restriction**: The mainstay of dietary treatment is a low-fat diet. Restriction of total dietary fat to <15-20 g per day (<10-15 % of total energy intake) is usually required to reduce plasma CMs and prevent pancreatitis[128, 129]. Under fat restriction, adequate intake of essential fatty acids (EFA; 2-4% of daily calories) and fat-soluble vitamins (A, D, E, and K) should be ensured to avoid deficiency. Signs and symptoms typical of EFA deficiency include: inadequate growth in pediatric patients, dry or dull hair, dry or scaly skin, skin lesions, particularly raised bumps on the skin, soft and brittle nails, and impaired wound healing[129]. Food sources of EFAs include soybeans, tofu, flaxseeds, walnuts, and chia seeds for alpha-linolenic acid (ALA) and whole grains for linoleic acid (LA).

•**Medium-chain triglycerides (MCTs)**: In a very-low-fat diet, MCTs containing fatty acids of ≦ 10 carbon atoms in length may be used to provide sufficient calories in meals or infant formula[4, 36, 128, 129]. MCTs are absorbed directly into the circulation via the CM-independent pathway. MCTs may help reduce plasma TG levels[130]. In order to avoid possible adverse effects (diarrhea, abdominal pain, etc.), MCTs should be introduced slowly. The safety of long-term MCTs is not established and patients should be carefully monitored for possible complications such as hepatotoxicity. MCTs should not be confused with coconut oil, which contains lauric acid (C12) and other long-chain fatty acids[129].

•**Carbohydrate restriction**: Restriction of carbohydrates, particularly fructose and other simple and refined carbohydrates, is advisable for patients with increased VLDL levels such as those with diabetes mellitus, metabolic syndrome, and obesity. As both CMs and VLDLs are substrates for LPL, reduced production of VLDLs due to carbohydrate restriction enhances the catabolism of CMs by LPL[131]. In cases where carbohydrate intake needs to be adequate, such as in pregnancy-associated HTG, carbohydrate iv may be a better therapeutic choice, as oral carbohydrate intake may produce a greater rise in plasma TG than carbohydrate iv[122, 132].

•**Alcohol restriction**: Alcohol intake should be restricted[4, 128, 129].

C) Lipid-Lowering Medications

Current lipid-lowering medications (fibrates, n-3 polyunsaturated fatty acids (PUFAs), niacin, etc.) generally have little to no TG-lowering effects in patients with PCM, as they lower plasma TGs mainly by enhancing the LPL pathway and reducing VLDL levels. Treatment with n-3 PUFA or fish oil may be useful for lowering TG and preventing pancreatitis as suggested in patients with *APOA5* mutations[21]. However, the effect of n-3 PUFAs needs to be monitored carefully, as their effectiveness has only been suggested by small studies without controls[3, 5]. Fish oil supplements may increase the production of chylomicrons and are contraindicated according to an expert opinion[4]. In patients with autoantibodies against LPL pathway proteins (GPIHBP1, LPL, apoC-II), immune-suppressive agents may ameliorate HTG as well as the comorbid autoimmune diseases[7].

14. Treatment of HTG-Induced Acute Pancreatitis

The clinical course of HTG-induced acute pancreatitis may be more severe than acute pancreatitis due to other causes in terms of complications and mortality rates[12, 14, 133, 134], but more controlled studies are required to produce firm evidence. Meta analysis of acute pancreatitis is difficult due to the heterogeneity of scoring systems for its severity[86].

A) Standard Care for Acute Pancreatitis

Treatment of HTG-induced acute pancreatitis is based on standard care, including cessation of oral food intake, admission to hospital, intravenous hydration, hypocaloric parenteral nutrition avoiding excess calories and glucose infusions, pain management, prophylactic antibiotics, and protease inhibitors[12, 130, 135]. Any precipitating factors should be treated appropriately (e.g., insulin treatment for

diabetes). Patients should be carefully monitored for development of pancreatic complications (necrosis, abscesses, etc.).

B) Specific Therapy for HTG-Induced Acute Pancreatitis

When patients can tolerate, oral TG-lowering medications (fibrates, n-3 PUFAs, niacin, etc.) may be administered[12, 130, 135]. MCTs may help reduce plasma TG levels as well as the risk of pancreatitis[130]. With a few exceptions, current TG-lowering medications are not based on the etiology of chylomicronemia. In apoC-II deficiency, infusion of normal human plasma containing apoC-II can greatly reduce plasma TG levels, and plasmapheresis has been suggested as a treatment of choice for pancreatitis due to apoC-II deficiency[4, 58].

C) Management of Chronic Pancreatitis

As acute pancreatitis can lead to chronic complications, patients with a history of it are better monitored for complications such as chronic pancreatitis, pancreatic pseudocysts, pancreatic insufficiency, steatorrhea, and insulin-dependent diabetes mellitus[4, 86]. Although chronic complications are not invariably associated with HTG-induced acute pancreatitis[136], they are not uncommon despite modern medical care[95].

D) Other Therapeutic Options for HTG-Induced Acute Pancreatitis

•**Insulin (should be individualized)**: Insulin therapy is advised in patients with diabetes mellitus. Insulin stimulates LPL activity, thereby reducing plasma TG levels. Administration of insulin or insulin plus glucose may be considered in non-diabetic patients in the case of severe HTG-induced acute pancreatitis[14, 137-139]. Detailed protocols for insulin/glucose administration have been summarized elsewhere[137, 139].

•**Heparin (not usually recommended)**: Heparin infusion has been used as a therapeutic option but is not usually recommended as a monotherapy in treatment guides by experts[12, 14]. Heparin transiently increases plasma LPL levels by releasing LPL from the endothelial cell surface, which temporarily reduces plasma TG levels. However, heparin can also deplete LPL, causing a rebound increase in plasma TGs[140]. Heparin may increase the risk of pancreatic hemorrhage when pancreatic necrosis is present[66].

•**Heparin plus insulin (should be individualized)**: Combination of heparin and insulin may be a therapeutic option for severe HTG-induced acute pancreatitis[14]. Although heparin infusion alone is usually not advised, a recent study has suggested that combination of heparin and insulin may be effective[14]. Evaluation in RCTs is awaited.

•**Apheresis for HTG-induced acute pancreatitis (should be individualized)**: In the acute setting, apheresis (lipoprotein apheresis (LA), plasmapheresis, or plasma exchange (PEX), etc.)[141, 142] can rapidly reduce plasma TG levels (40-80%) by directly removing TGRLs, as reported in case reports, case series, and multi-center studies[12, 14, 36, 57]. However, it is not proven whether rapid TG reduction by apheresis leads to better clinical outcomes than other therapeutic modalities in terms of pancreatic complications and mortality[59]. Plasmapheresis is costly, has only a transient TG- lowering effect (usually for a day), and may have adverse reactions (e.g., allergic reactions, anaphylactic shock, infusion-related infections, thromboses, etc.)[14]. A recent systematic review and case-control studies indicated that while plasmapheresis decreased plasma TG, it did not conclusively affect the morbidity or mortality of acute pancreatitis[14, 86]. A recent RCT, the first one in HTG-induced acute pancreatitis, has demonstrated that although plasma apheresis lowers plasma TG more efficiently than insulin plus heparin, it is costly and does not lead to better clinical outcomes[143]. In the guideline of the American Society for Apheresis (ASFA), plasmapheresis is a category III indication with Grade 2C recommendation ("optimum role of apheresis therapy is not established. Decision making should be individualized"; "Weak recommendation, low-quality or very low-quality evidence due to observational studies or case series")[144], and generally not recommended by experts in treatment guides for chylomicronemia[4, 5]. Plasmapheresis may be a therapeutic option for: 1) severe HTG-induced acute pancreatitis with persistent TG elevation past the first 48-72h with no other therapeutic choice[57, 59, 86, 120]; 2) HTG-induced acute pancreatitis in pregnancy or postpartum with no other therapeutic choice[14, 36, 74, 120, 145-149]; or 3) severe HTG-induced acute pancreatitis with high levels of serum lipase, hypocalcemia, lactic acidosis, worsening inflammation or organ dysfunction[149, 150]. However, such advice is experience-based, not evidence-based.

•**Prophylactic apheresis to prevent HTG-induced acute pancreatitis (should be individualized)**: Prophylactic apheresis may be a therapeutic choice for preventing severe recurrent HTG-induced acute pancreatitis but evidence for it is limited to several case reports of HTG-induced acute pancreatitis[12, 14, 57, 151-154] and gestational HTG-induced acute pancreatitis[155, 156].

15. Treatment of HTG and HTG-induced Acute Pancreatitis in Pregnancy

There are currently no formal guidelines for gestational HTG and HTG-induced acute pancreatitis due to the rarity of these conditions and insufficient evidence. The treatment approach for gestational HTG and HTG-induced acute pancreatitis is well summarized by Wong *et al.* [66].

•**Dietary therapy (restriction of dietary fat, MCTs, n-3 PUFA)**: There have been reports of successful management of HTG and prevention of HTG-induced acute pancreatitis during pregnancy through early intervention with a low-fat or very-low fat diet, MCTs, and n-3 fatty acids[4, 66, 113, 122, 149, 157-162]. For pregnant women at high-risk of pregnancy-associated pancreatitis, extreme fat restriction to <2 g/day may be required during the 2nd and 3rd trimesters for successful delivery[1, 4, 122, 159]. Topical application of sunflower oil or corn oil in pregnancy with an extra-low-fat diet may help prevent EFA deficiency[122, 129, 159]. In pregnancy-induced HTG, carbohydrate may need to be restricted, but an adequate amount should be taken. Carbohydrate iv may be a better therapeutic choice during carbohydrate restriction, as carbohydrate per os may produce a greater rise in plasma TG than carbohydrate iv[122, 132]. The risk of MCTs to the fetus is thought to be low[66]. The safety of maternal n-3 fatty acid supplementation (DHA 2.2 g and EPA 1.1 g/day) for the mother and the fetus has been confirmed through a RCT[66].

•**TG-lowering medications (some are contraindicated in Japan)**: There have been several reports on the use of niacin, or fibrates (gemfibrozil and fenofibrate) for pregnancy-associated HTG [66,120,122,159,163-166]. However, the safety of niacin or fibrate use during pregnancy has not been established, and the use of fibrates during pregnancy is contraindicated in Japan.

•**Admission to hospital**: For gestational HTG, admission to hospital may be advised in the following cases: suspected pancreatitis, persistent abdominal pain, steep increase in plasma TG in the 3rd trimester, or TG >40 mmol/L (3540 mg/dL)[66, 122, 159]. Gestational acute pancreatitis is managed through standard care, which has been extensively reviewed by Papadakis EP *et al.*[73].

•**Other therapeutic options**: When uncontrollable, further management may include: insulin, insulin pus glucose, insulin plus heparin, or plasmapheresis[36, 66, 119, 120, 137-139, 149, 156, 161]. In a treatment guide for gestational HTG, the use of insulin is recommended only for hyperglycemic pregnant women, and the use of heparin is not recommended due to the paucity of clinical evidence [66].

16. Unanswered Questions

A) Molecular Basis and New Therapeutic Modalities

Unraveling the molecular basis of chylomicronemia may lead to the development of new therapeutic modalities[167].

Emerging therapeutic targets for chylomicronemia include: a microsomal triglyceride transfer protein (MTTP) inhibitor (lomitapide)[168-170]; an *APOB* antisense oligonucleotide (ASO) inhibitor (mipomersen)[171-173]; *APOC3* ASO inhibitors, e.g., volanesorsen[174], which has been approved by the EMA for genetically confirmed chylomicronemia at high-risk for pancreatitis[93]; diacylglycerol O-acyltransferase 1 (DGAT1) inhibitors (AZD7687, LCQ908 (Pradigastat))[175-177]; angiopoietin-like protein 3 (ANGPTL3) inhibitors, e.g., *ANGPTL3* ASOs (IONIS-ANGPTL3-LRx)[178] and ANGPTL3 antibody (evinacumab)[179-182].

For these new therapies, potential adverse effects need to be carefully evaluated, including fatty liver associated diseases for lomitapide and mipomersen[168-170, 172] as a consequence of their inhibition of VLDL secretion; thrombocytopenia for volanesorsen[174]; gastrointestinal adverse effects (diarrhea, nausea, etc.) for DGAT inhibitors[175-177], consistent with the fact that homozygous loss-of-function mutations of DGAT1 cause a congenital diarrheal disorder (OMIM: 615863)[183].

Other agents under development include CAT-2003, a niacin-eicosapentaenoic acid conjugate that blocks sterol regulatory element-binding protein (SREBP). Inhibition of SREBP-1c has ameliorated environment-induced severe HTG in mouse models of hyperlipidemia, including apoA-V deficient mice, by blocking secretion of large-sized VLDL particles[54, 55].

Orlistat, an inhibitor of intestinal lipase, may help reduce TG levels in PCM[21, 184, 185] but may have adverse effects such as oily stools and fat-soluble vitamin insufficiency[128].

Treatment that targets a specific genetic cause of PCM is not available. A gene therapy for LPL (alipogene tiparvovec) was approved by the EMA in 2012, but is costly and has been withdrawn from the market[94, 186].

B) Risk and Management of CM-Related Complications

Not all patients with severe HTG manifest pancreatitis. Suggested risk factors of acute pancreatitis among HTG patients include underlying genetic

etiology of monogenic type, underdiagnosis and undertreatment, younger age, higher baseline TG levels, prior history of acute pancreatitis, male, alcohol use, obesity, diabetes, hypertension, renal disease, liver disease, and hypothyroidism[84, 87, 94, 95]. Further elucidation and validation of the risk factors and genetic predisposition for HTG-induced acute pancreatitis is awaited[187-191]. Understanding the molecular basis of HTG-induced acute pancreatitis is necessary for developing diagnostic markers as well as effective therapeutic modalities.

There has been controversy as to the atherogenicity of HTG, including chylomicronemia[136, 192, 193]. Although it remains uncertain whether HTG is a causal factor or a mere marker of atherosclerosis[3, 91, 194-196], recent mendelian randomization studies have indicated an association between risk of cardiovascular diseases and variants in HTG-related genes, including causative genes of chylomicronemia (*APOA5*, *LPL*, etc.)[197-199]. Chylomicronemia, particularly when it is polygenic, may be associated with higher risk of cardiovascular diseases[53, 96, 200], which warrants further studies.

C) Genotype-Phenotype Relationship of PCM

The genetic etiology of chylomicronemia may influence the risk of complications such as pancreatitis and atherosclerotic diseases[86, 94-96]. The benefit, risk, and cost-effectiveness of genetic testing for chylomicronemia should be carefully evaluated[15, 109, 201-203]. Some expert reviews, which include the Consensus Panel report of the European Atherosclerosis Society, do not recommend routine genetic testing for severe HTG[3, 204].

D) Underdiagnosis and Undertreatment

Underdiagnosis of chylomicronemia is one of the major risks for pancreatitis[84, 87]. A web-based patient survey reported that patients with chylomicronemia typically visit 5 physicians (range, 1-30) on average before receiving a final diagnosis of chylomicronemia[106, 107]. Owing to the variety of symptoms and complications, patients with chylomicronemia may visit not only lipidologists and endocrinologists but also other diverse specialists, such as primary care physicians, pediatricians, obstetricians, emergency physicians, gastroenterologists, pancreatologists, and psychologists. Simple diagnostic criteria as well as cooperation among different medical specialists will be necessary to achieve timely diagnosis and treatment.

E) Unmet Needs and Burden of Disease

Due to the rarity of the disease, the clinical experience of each doctor is limited. Large registry studies[205, 206] as well as patient-oriented observational studies[104-107] from the patient's perspective are useful for understanding the unmet needs and burden of the disease from the physical, psychological, social, and financial viewpoints[104-107].

A recent web-based patient survey revealed physical, emotional, and cognitive symptoms that are relevant to patient's quality of life but have not been recognized by physicians[207, 208], including abdominal pain (41%), fatigue (23%), feeling sad/down/blue/depressed (18%), difficulty in concentrating (16%), impaired judgment (11%), brain fog (8%), forgetfulness (8%), and recent memory loss (5%)[106, 107]. This survey also revealed actual handicaps felt at school, in society, and work, and family-related issues[106, 107].

Self-monitoring of plasma TG may be an unmet need that could help patients with the long-term management of the disease. It may enable patients to individualize their low-fat diets, hopefully leading to fewer episodes of acute pancreatitis[209].

F) Support for Patients

The mainstay of the current treatment for chylomicronemia is dietary interventions. Supporting information and materials for patients on diets will help develop recipes and menu plans that would be more enjoyable and sustainable. Information and support for patients can be found at FCS Foundation (www.livingwithfcs.org; www.facebook.com/livingwithfcs), FCS Focus (fcsfocus.com), LPLD Alliance (UK) (www.lpldalliance.org), the National Organization for Rare Disorders (NORD) (https://rarediseases.org), and the Japan Intractable Diseases Information Center (https://www.nanbyou.or.jp/entry/4883). Supportive care from other healthcare professionals, such as medical social workers and mental health professionals, will be necessary to reduce the burden of the disease as well as to improve the quality of life of patients with chylomicronemia[105-107].

Acknowledgments and Notice of Grant Support

This work has been supported by Health, Labour and Welfare Sciences Research Grant for Research on Rare and Intractable Diseases (H30-nanji-ippan-003).

Conflicts of Interest

Atsushi Nohara has nothing to disclose. Hayato Tada has nothing to disclose. Masatsune Ogura has received honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc. Sachiko Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa

Company, Ltd. Koh Ono has nothing to disclose. Hitoshi Shimano has nothing to disclose. Hiroyuki Daida has received honoraria from Amgen Inc., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Kowa Co., Ltd., and MSD K.K., Novartis Pharma K.K., Bayer Yakuhin, Ltd. and received clinical research funding from Canon Medical Systems Corporation, Philips Japan, Ltd., Toho Holdings Co., Ltd., Asahi Kasei Corporation, and Inter Reha Co., Ltd. HD has also received scholarship grants from Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Sanofi K.K., MSD K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Pfizer Co., Ltd., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Astellas Pharma Inc., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi & Co., Ltd., Actelion Pharmaceuticals, Ltd., Actelion Ltd., Kowa Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. HD has also courses endowed by companies, including Philips Japan, Ltd., ResMed, Fukuda Denshi Co., Ltd., and Paramount Bed Co., Ltd. Kazushige Dobashi has nothing to disclose. Toshio Hayashi has nothing to disclose. Mika Hori has nothing to disclose. Kota Matsuki has nothing to disclose. Tetsuo Minamino has nothing to disclose. Shinji Yokoyama has nothing to disclose. Mariko Harada-Shiba has received stock holdings or options from Liid Pharma, honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc., Sanofi, and scholarship grants from Aegerion Pharmaceuticals, Inc., Recordati Rare Diseases Japan, and Kaneka Corporation. Katsunori Ikewaki has nothing to disclose. Yasushi Ishigaki has nothing to disclose. Shun Ishibashi has received honoraria from Kowa Co., Ltd., and a scholarship grant from Ono Pharmaceutical Co., Ltd. Kyoko Inagaki has nothing to disclose. Hirotoshi Ohmura has nothing to disclose. Hiroaki Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Masa-aki Kawashiri has nothing to disclose. Masayuki Kuroda has nothing to disclose. Masahiro Koseki has received clinical research funding from Kowa Company, Ltd., Rohto Pharmaceutical Co., Ltd. Takanari Gotoda has nothing to disclose. Shingo Koyama has nothing to disclose. Yoshiki Sekijima has nothing to disclose. Manabu Takahashi has nothing to disclose. Yasuo Takeuchi has nothing to disclose. Misa Takegami has nothing to disclose. Kazuhisa Tsukamoto has received honoraria from Bayer Yakuhin, Ltd., MSD Ltd., Takeda Pharmaceutical Company Ltd., and scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation., Bayer Yakuhin, Ltd., Sanofi K.K. Atsuko Nakatsuka has nothing to disclose. Kimitoshi Nakamura has nothing to disclose. Satoshi Hirayama has nothing to disclose. Hideaki Bujo has nothing to disclose. Daisaku Masuda has received clinical research funding from MSD K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Co., Ltd. Takashi Miida has nothing to disclose. Yoshihiro Miyamoto has nothing to disclose. Takeyoshi Murano has nothing to disclose. Takashi Yamaguchi has nothing to disclose. Shizuya Yamashita has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K. Masashi Yamamoto has nothing to disclose. Koutaro Yokote has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K., Astellas Pharma Inc., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Amgen K.K., Takeda Pharmaceutical Company Limited, Sanofi K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., AstraZeneca K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Novartis Pharma K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Kyowa Kirin Co., Ltd., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Janssen Pharmaceutical K.K., and received clinical research funding from Taisho Pharmaceutical Co., Ltd. KY has also received scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., MSD K.K., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Kao Corporation, Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. Jun Wada has nothing to disclose.

References

1) Brunzell JD, Deeb SS. Familial lipoprotein lipase deficiency, apoC-II deficiency, and hepatic lipase deficiency. The metabolic and molecular bases of inherited disease, 2001; 2: 2789-2816
2) Gotoda T, Shirai K, Ohta T, Kobayashi J, Yokoyama S, Oikawa S, Bujo H, Ishibashi S, Arai H, Yamashita S, Harada-Shiba M, Eto M, Hayashi T, Sone H, Suzuki H, Yamada N, Research Committee for Primary Hyperlipidemia, Research on Measures against Intractable Diseases by the Ministry of Health, Labour and Welfare in Japan. Diagnosis and management of type I and type V hyperlipoproteinemia. J Atheroscler Thromb, 2012; 19: 1-12
3) Hegele RA, Ginsberg HN, Chapman MJ, Nordestgaard BG, Kuivenhoven JA, Averna M, Borén J, Bruckert E, Catapano AL, Descamps OS, Hovingh GK, Humphries SE, Kovanen PT, Masana L, Pajukanta P, Parhofer KG, Raal FJ, Ray KK, Santos RD, Stalenhoef AFH, Stroes E, Taskinen M-RR, Tybjærg-Hansen A, Watts GF, Wiklund O, Panel EASC. The polygenic nature of hypertriglyceridaemia: implications for definition, diagnosis, and management. Lancet Diabetes Endocrinol, 2014; 2: 655-666
4) Burnett JR, Hooper AJ, Hegele RA. Familial Lipoprotein

Lipase Deficiency [Internet]. In: Adam MP, Ardinger HH, Pagon RA, Wallace SE, Bean LJ, Stephens K, Amemiya A, editors. GeneReviews®. Seattle (WA): University of Washington, Seattle; 1993 [cited 2019 Oct 28]. Available from: http: //www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK1308/
5) Brahm AJ, Hegele RA. Chylomicronaemia--current diagnosis and future therapies. Nat Rev Endocrinol, 2015; 11: 352-362
6) Kihara S, Matsuzawa Y, Kubo M, Nozaki S, Funahashi T, Yamashita S, Sho N, Tarui S. Autoimmune hyperchylomicronemia. N Engl J Med, 1989; 320: 1255-1259
7) Beigneux AP, Miyashita K, Ploug M, Blom DJ, Ai M, Linton MF, Khovidhunkit W, Dufour R, Garg A, McMahon MA, Pullinger CR, Sandoval NP, Hu X, Allan CM, Larsson M, Machida T, Murakami M, Reue K, Tontonoz P, Goldberg IJ, Moulin P, Charrière S, Fong LG, Nakajima K, Young SG. Autoantibodies against GPIHBP1 as a Cause of Hypertriglyceridemia. N Engl J Med, 2017; 376: 1647-1658
8) Inoue M, Kawamura M, Yamamoto H, Takahashi T, Kihara S. Juvenile-onset systemic lupus erythematosus with severe hypertriglyceridemia induced by anti-apolipoprotein C-II antibody. Pediatr Int, 2019; 61: 201-203
9) Miyashita K, Lutz J, Hudgins LC, Toib D, Ashraf AP, Song W, Murakami M, Nakajima K, Ploug M, Fong LG, Young SG, Beigneux AP. Chylomicronemia from GPIHBP1 autoantibodies. J Lipid Res, 2020; 61: 1365-1376
10) Havel RJ. Pathogenesis, differentiation and management of hypertriglyceridemia. Adv Intern Med, 1969; 15: 117-154
11) Navina S, Acharya C, DeLany JP, Orlichenko LS, Baty CJ, Shiva SS, Durgampudi C, Karlsson JM, Lee K, Bae KT, Furlan A, Behari J, Liu S, McHale T, Nichols L, Papachristou GI, Yadav D, Singh VP. Lipotoxicity causes multisystem organ failure and exacerbates acute pancreatitis in obesity. Sci Transl Med, 2011; 3: 107ra110
12) Valdivielso P, Ramírez-Bueno A, Ewald N. Current knowledge of hypertriglyceridemic pancreatitis. Eur J Intern Med, 2014; 25: 689-694
13) Berglund L, Brunzell JD, Goldberg AC, Goldberg IJ, Sacks F, Murad MH, Stalenhoef AFH, Endocrine society. Evaluation and treatment of hypertriglyceridemia: an Endocrine Society clinical practice guideline. J Clin Endocrinol Metab, 2012; 97: 2969-2989
14) Rawla P, Sunkara T, Thandra KC, Gaduputi V. Hypertriglyceridemia-induced pancreatitis: updated review of current treatment and preventive strategies. Clin J Gastroenterol, 2018; 11: 441-448
15) Hegele RA, Berberich AJ, Ban MR, Wang J, Digenio A, Alexander VJ, D'Erasmo L, Arca M, Jones A, Bruckert E, Stroes ES, Bergeron J, Civeira F, Witztum JL, Gaudet D. Clinical and biochemical features of different molecular etiologies of familial chylomicronemia. Journal of Clinical Lipidology, 2018; 12: 920-927.e4
16) Lewis GF, Xiao C, Hegele RA. Hypertriglyceridemia in the Genomic Era: A New Paradigm. Endocrine Reviews, 2015; 36: 131-147
17) Brown WV, Goldberg IJ, Young SG. JCL Roundtable: Hypertriglyceridemia due to defects in lipoprotein lipase function. J Clin Lipidol, 2015; 9: 274-280
18) Murase T, Okubo M, Ebara T, Mori Y. Severe hypertriglyceridemia in Japan: Differences in causes and therapeutic responses. J Clin Lipidol, 2017; 11: 1383-1392
19) Surendran RP, Visser ME, Heemelaar S, Wang J, Peter J, Defesche JC, Kuivenhoven JA, Hosseini M, Péterfy M, Kastelein JJP, Johansen CT, Hegele RA, Stroes ESG, Dallinga-Thie GM. Mutations in LPL, APOC2, APOA5, GPIHBP1 and LMF1 in patients with severe hypertriglyceridaemia. J Intern Med, 2012; 272: 185-196
20) Rabacchi C, Pisciotta L, Cefalù AB, Noto D, Fresa R, Tarugi P, Averna M, Bertolini S, Calandra S. Spectrum of mutations of the LPL gene identified in Italy in patients with severe hypertriglyceridemia. Atherosclerosis, 2015; 241: 79-86
21) Chokshi N, Blumenschein SD, Ahmad Z, Garg A. Genotype-phenotype relationships in patients with type I hyperlipoproteinemia. J Clin Lipidol, 2014; 8: 287-295
22) Rodrigues R, Artieda M, Tejedor D, Martínez A, Konstantinova P, Petry H, Meyer C, Corzo D, Sundgreen C, Klor HU, Gouni-Berthold I, Westphal S, Steinhagen-Thiessen E, Julius U, Winkler K, Stroes E, Vogt A, Hardt P, Prophet H, Otte B, Nordestgaard BG, Deeb SS, Brunzell JD. Pathogenic classification of LPL gene variants reported to be associated with LPL deficiency. J Clin Lipidol, 2016; 10: 394-409
23) Nilsson-Ehle P, Schotz MC. A stable, radioactive substrate emulsion for assay of lipoprotein lipase. J Lipid Res, 1976; 17: 536-541
24) Péterfy M, Ben-Zeev O, Mao HZ, Weissglas-Volkov D, Aouizerat BE, Pullinger CR, Frost PH, Kane JP, Malloy MJ, Reue K, Pajukanta P, Doolittle MH. Mutations in LMF1 cause combined lipase deficiency and severe hypertriglyceridemia. Nat Genet, 2007; 39: 1483-1487
25) Cefalù AB, Noto D, Arpi ML, Yin F, Spina R, Hilden H, Barbagallo CM, Carroccio A, Tarugi P, Squatrito S, Vigneri R, Taskinen M-R, Péterfy M, Averna MR. Novel LMF1 nonsense mutation in a patient with severe hypertriglyceridemia. J Clin Endocrinol Metab, 2009; 94: 4584-4590
26) Péterfy M, Bedoya C, Giacobbe C, Pagano C, Gentile M, Rubba P, Fortunato G, Di Taranto MD. Characterization of two novel pathogenic variants at compound heterozygous status in lipase maturation factor 1 gene causing severe hypertriglyceridemia. J Clin Lipidol, 2018; 12: 1253-1259
27) Serveaux Dancer M, Di Filippo M, Marmontel O, Valéro R, Piombo Rivarola MDC, Peretti N, Caussy C, Krempf M, Vergès B, Mahl M, Marçais C, Moulin P, Charrière S. New rare genetic variants of LMF1 gene identified in severe hypertriglyceridemia. J Clin Lipidol, 2018; 12: 1244-1252
28) Liu Y, Xu J, Tao W, Yu R, Zhang X. A Compound Heterozygous Mutation of Lipase Maturation Factor 1 is

Responsible for Hypertriglyceridemia of a Patient. J Atheroscler Thromb, 2019; 26: 136-144
29) Chen W-W, Yang Q, Li X-Y, Shi X-L, Pu N, Lu G-T, Tong Z-H, Chen J-M, Li W-Q. Identification of a novel and heterozygous LMF1 nonsense mutation in an acute pancreatitis patient with severe hypertriglyceridemia, severe obesity and heavy smoking. Lipids Health Dis, 2019; 18: 68
30) Ioka RX, Kang M-J, Kamiyama S, Kim D-H, Magoori K, Kamataki A, Ito Y, Takei YA, Sasaki M, Suzuki T, Sasano H, Takahashi S, Sakai J, Fujino T, Yamamoto TT. Expression cloning and characterization of a novel glycosylphosphatidylinositol-anchored high density lipoprotein-binding protein, GPI-HBP1. J Biol Chem, 2003; 278: 7344-7349
31) Beigneux AP, Davies BSJ, Gin P, Weinstein MM, Farber E, Qiao X, Peale F, Bunting S, Walzem RL, Wong JS, Blaner WS, Ding Z-M, Melford K, Wongsiriroj N, Shu X, de Sauvage F, Ryan RO, Fong LG, Bensadoun A, Young SG. Glycosylphosphatidylinositol-anchored high-density lipoprotein-binding protein 1 plays a critical role in the lipolytic processing of chylomicrons. Cell Metab, 2007; 5: 279-291
32) Rios JJ, Shastry S, Jasso J, Hauser N, Garg A, Bensadoun A, Cohen JC, Hobbs HH. Deletion of GPIHBP1 causing severe chylomicronemia. J Inherit Metab Dis, 2012; 35: 531-540
33) Adeyo O, Goulbourne CN, Bensadoun A, Beigneux AP, Fong LG, Young SG. Glycosylphosphatidylinositol-anchored high-density lipoprotein-binding protein 1 and the intravascular processing of triglyceride-rich lipoproteins. J Intern Med, 2012; 272: 528-540
34) Patni N, Brothers J, Xing C, Garg A. Type 1 hyperlipoproteinemia in a child with large homozygous deletion encompassing GPIHBP1. J Clin Lipidol, 2016; 10: 1035-1039.e2
35) Rabacchi C, D'Addato S, Palmisano S, Lucchi T, Bertolini S, Calandra S, Tarugi P. Clinical and genetic features of 3 patients with familial chylomicronemia due to mutations in GPIHBP1 gene. J Clin Lipidol, 2016; 10: 915-921.e4
36) Chyzhyk V, Kozmic S, Brown AS, Hudgins LC, Starc TJ, Davila AD, Blevins TC, Diffenderfer MR, He L, Geller AS, Rush C, Hegele RA, Schaefer EJ. Extreme hypertriglyceridemia: Genetic diversity, pancreatitis, pregnancy, and prevalence. J Clin Lipidol, 2019; 13: 89-99
37) Franssen R, Young SG, Peelman F, Hertecant J, Sierts JA, Schimmel AWM, Bensadoun A, Kastelein JJP, Fong LG, Dallinga-Thie GM, Beigneux AP. Chylomicronemia with low postheparin lipoprotein lipase levels in the setting of GPIHBP1 defects. Circ Cardiovasc Genet, 2010; 3: 169-178
38) Breckenridge WC, Little JA, Steiner G, Chow A, Poapst M. Hypertriglyceridemia associated with deficiency of apolipoprotein C-II. N Engl J Med, 1978; 298: 1265-1273
39) Yamamura T, Sudo H, Ishikawa K, Yamamoto A. Familial type I hyperlipoproteinemia caused by apolipoprotein C-II deficiency. Atherosclerosis, 1979; 34: 53-65
40) Okubo M, Toromanovic A, Ebara T, Murase T. Apolipoprotein C-II Tuzla: a novel large deletion in APOC2 caused by Alu-Alu homologous recombination in an infant with apolipoprotein C-II deficiency. Clin Chim Acta, 2015; 438: 148-153
41) Wolska A, Dunbar RL, Freeman LA, Ueda M, Amar MJ, Sviridov DO, Remaley AT. Apolipoprotein C-II: New findings related to genetics, biochemistry, and role in triglyceride metabolism. Atherosclerosis, 2017; 267: 49-60
42) Fojo SS, Beisiegel U, Beil U, Higuchi K, Bojanovski M, Gregg RE, Greten H, Brewer HB. Donor splice site mutation in the apolipoprotein (Apo) C-II gene (Apo C-IIHamburg) of a patient with Apo C-II deficiency. J Clin Invest, 1988; 82: 1489-1494
43) Streicher R, Geisel J, Weisshaar C, Avci H, Oette K, Müller-Wieland D, Krone W. A single nucleotide substitution in the promoter region of the apolipoprotein C-II gene identified in individuals with chylomicronemia. J Lipid Res, 1996; 37: 2599-2607
44) Okubo M, Hasegawa Y, Aoyama Y, Murase T. A G+1 to C mutation in a donor splice site of intron 2 in the apolipoprotein (apo) C-II gene in a patient with apo C-II deficiency. A possible interaction between apo C-II deficiency and apo E4 in a severely hypertriglyceridemic patient. Atherosclerosis, 1997; 130: 153-160
45) Takase S, Osuga J, Fujita H, Hara K, Sekiya M, Igarashi M, Takanashi M, Takeuchi Y, Izumida Y, Ohta K, Kumagai M, Nishi M, Kubota M, Masuda Y, Taira Y, Okazaki S, Iizuka Y, Yahagi N, Ohashi K, Yoshida H, Yanai H, Tada N, Gotoda T, Ishibashi S, Kadowaki T, Okazaki H. Apolipoprotein C-II deficiency with no rare variant in the APOC2 gene. J Atheroscler Thromb, 2013; 20: 481-493
46) Pennacchio LA, Olivier M, Hubacek JA, Cohen JC, Cox DR, Fruchart JC, Krauss RM, Rubin EM. An apolipoprotein influencing triglycerides in humans and mice revealed by comparative sequencing. Science, 2001; 294: 169-173
47) van der Vliet HN, Sammels MG, Leegwater AC, Levels JH, Reitsma PH, Boers W, Chamuleau RA. Apolipoprotein A-V: a novel apolipoprotein associated with an early phase of liver regeneration. J Biol Chem, 2001; 276: 44512-44520
48) Merkel M, Loeffler B, Kluger M, Fabig N, Geppert G, Pennacchio LA, Laatsch A, Heeren J. Apolipoprotein AV accelerates plasma hydrolysis of triglyceride-rich lipoproteins by interaction with proteoglycan-bound lipoprotein lipase. J Biol Chem, 2005; 280: 21553-21560
49) Merkel M, Heeren J. Give me A5 for lipoprotein hydrolysis! J Clin Invest, 2005; 115: 2694-2696
50) Marçais C, Verges B, Charrière S, Pruneta V, Merlin M, Billon S, Perrot L, Drai J, Sassolas A, Pennacchio LA, Fruchart-Najib J, Fruchart J-C, Durlach V, Moulin P. Apoa5 Q139X truncation predisposes to late-onset hyperchylomicronemia due to lipoprotein lipase impairment. J Clin Invest, 2005; 115: 2862-2869
51) Priore Oliva C, Pisciotta L, Li Volti G, Sambataro MP, Cantafora A, Bellocchio A, Catapano A, Tarugi P, Bertolini S, Calandra S. Inherited apolipoprotein A-V

deficiency in severe hypertriglyceridemia. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2005; 25: 411-417
52) Albers K, Schlein C, Wenner K, Lohse P, Bartelt A, Heeren J, Santer R, Merkel M. Homozygosity for a partial deletion of apoprotein A-V signal peptide results in intracellular missorting of the protein and chylomicronemia in a breast-fed infant. Atherosclerosis, 2014; 233: 97-103
53) D'Erasmo L, Di Costanzo A, Cassandra F, Minicocci I, Polito L, Montali A, Ceci F, Arca M. Spectrum of Mutations and Long-Term Clinical Outcomes in Genetic Chylomicronemia Syndromes. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2019; 39: 2531-2541
54) Okazaki H, Goldstein JL, Brown MS, Liang G. LXR-SREBP-1c-phospholipid transfer protein axis controls very low density lipoprotein (VLDL) particle size. J Biol Chem, 2010; 285: 6801-6810
55) Takanashi M, Kimura T, Li C, Tanaka M, Matsuhashi A, Yoshida H, Noda A, Xu P, Takase S, Okazaki S, Iizuka Y, Kumagai H, Ikeda Y, Gotoda T, Takahashi M, Yagyu H, Ishibashi S, Yamauchi T, Kadowaki T, Liang G, Okazaki H. Critical Role of SREBP-1c Large-VLDL Pathway in Environment-Induced Hypertriglyceridemia of Apo AV Deficiency. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2019; 39: 373-386
56) Yuan G, Al-Shali KZ, Hegele RA. Hypertriglyceridemia: its etiology, effects and treatment. CMAJ, 2007; 176: 1113-1120
57) Stefanutti C, Di Giacomo S, Vivenzio A, Labbadia G, Mazza F, D'Alessandri G, Russi G, De Silvestro G, Marson P. Therapeutic plasma exchange in patients with severe hypertriglyceridemia: a multicenter study. Artif Organs, 2009; 33: 1096-1102
58) Miller M, Stone NJ, Ballantyne C, Bittner V, Criqui MH, Ginsberg HN, Goldberg AC, Howard WJ, Jacobson MS, Kris-Etherton PM, Lennie TA, Levi M, Mazzone T, Pennathur S, American Heart Association Clinical Lipidology, Thrombosis, and Prevention Committee of the Council on Nutrition, Physical Activity, and Metabolism, Council on Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology, Council on Cardiovascular Nursing, Council on the Kidney in Cardiovascular Disease. Triglycerides and cardiovascular disease: a scientific statement from the American Heart Association. Circulation, 2011; 123: 2292-2333
59) Click B, Ketchum AM, Turner R, Whitcomb DC, Papachristou GI, Yadav D. The role of apheresis in hypertriglyceridemia-induced acute pancreatitis: A systematic review. Pancreatology, 2015; 15: 313-320
60) Inayat F, Zafar F, Riaz I, Younus F, Baig AS, Imran Z. Hypertriglyceridemic Pancreatitis: Is Insulin Monotherapy A Feasible Therapeutic Option? Cureus, 2018; 10: e3461
61) Skulas-Ray AC, Wilson PWF, Harris WS, Brinton EA, Kris-Etherton PM, Richter CK, Jacobson TA, Engler MB, Miller M, Robinson JG, Blum CB, Rodriguez-Leyva D, de Ferranti SD, Welty FK, American Heart Association Council on Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology; Council on Lifestyle and Cardiometabolic Health; Council on Cardiovascular Disease in the Young; Council on Cardiovascular and Stroke Nursing; and Council on Clinical Cardiology. Omega-3 Fatty Acids for the Management of Hypertriglyceridemia: A Science Advisory From the American Heart Association. Circulation, 2019; 140: e673-e691
62) Greenberg BH. Primary Type V Hyperlipoproteinemia: A Descriptive Study in 32 Families. Ann Intern Med, 1977; 87: 526-534
63) Tada H, Kawashiri M-A, Nakahashi T, Yagi K, Chujo D, Ohbatake A, Mori Y, Mori S, Kometani M, Fujii H, Nohara A, Inazu A, Mabuchi H, Yamagishi M, Hayashi K. Clinical characteristics of Japanese patients with severe hypertriglyceridemia. J Clin Lipidol, 2015; 9: 519-524
64) Basaran A. Pregnancy-induced hyperlipoproteinemia: review of the literature. Reprod Sci, 2009; 16: 431-437
65) Ghio A, Bertolotto A, Resi V, Volpe L, Di Cianni G. Triglyceride metabolism in pregnancy. Adv Clin Chem, 2011; 55: 133-153
66) Wong B, Ooi TC, Keely E. Severe gestational hypertriglyceridemia: A practical approach for clinicians. Obstet Med, 2015; 8: 158-167
67) Amundsen AL, Khoury J, Iversen PO, Bergei C, Ose L, Tonstad S, Retterstøl K. Marked changes in plasma lipids and lipoproteins during pregnancy in women with familial hypercholesterolemia. Atherosclerosis, 2006; 189: 451-457
68) Warth MR, Arky RA, Knopp RH. Lipid metabolism in pregnancy. II. Altered lipid composition in intermediage, very low, low and high-density lipoprotein fractions. J Clin Endocrinol Metab, 1975; 41: 649-655
69) Potter JM, Nestel PJ. The hyperlipidemia of pregnancy in normal and complicated pregnancies. Am J Obstet Gynecol, 1979; 133: 165-170
70) Salameh WA, Mastrogiannis DS. Maternal hyperlipidemia in pregnancy. Clin Obstet Gynecol, 1994; 37: 66-77
71) Alvarez JJ, Montelongo A, Iglesias A, Lasunción MA, Herrera E. Longitudinal study on lipoprotein profile, high density lipoprotein subclass, and postheparin lipases during gestation in women. J Lipid Res, 1996; 37: 299-308
72) Herrera E. Lipid metabolism in pregnancy and its consequences in the fetus and newborn. Endocrine, 2002; 19: 43-55
73) Papadakis EP, Sarigianni M, Mikhailidis DP, Mamopoulos A, Karagiannis V. Acute pancreatitis in pregnancy: an overview. Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol, 2011; 159: 261-266
74) Russi G. Severe dyslipidemia in pregnancy: The role of therapeutic apheresis. Transfus Apher Sci, 2015; 53: 283-287
75) Kekki M, Nikkilä EA. Plasma triglyceride turnover during use of oral contraceptives. Metab Clin Exp, 1971; 20: 878-889
76) Schaefer EJ, Foster DM, Zech LA, Lindgren FT, Brewer HB, Levy RI. The Effects of Estrogen Administration on Plasma Lipoprotein Metabolism in Premenopausal Females. The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, 1983; 57: 262-267
77) Desoye G, Schweditsch MO, Pfeiffer KP, Zechner R, Kostner GM. Correlation of hormones with lipid and

lipoprotein levels during normal pregnancy and postpartum. J Clin Endocrinol Metab, 1987; 64: 704-712
78) Lamon-Fava S, Diffenderfer MR, Barrett PHR, Wan WY, Postfai B, Nartsupha C, Dolnikowski GG, Schaefer EJ. Differential Effects of Estrogen and Progestin on Apolipoprotein B100 and B48 Kinetics in Postmenopausal Women. Lipids, 2018; 53: 167-175
79) Fredrickson DS, Lees RS. A SYSTEM FOR PHENOTYPING HYPERLIPOPROTEINEMIA. Circulation, 1965; 31: 321-327
80) Moulin P, Dufour R, Averna M, Arca M, Cefalù AB, Noto D, D'Erasmo L, Di Costanzo A, Marçais C, Alvarez-Sala Walther LA, Banach M, Borén J, Cramb R, Gouni-Berthold I, Hughes E, Johnson C, Pintó X, Reiner Ž, van Lennep JR, Soran H, Stefanutti C, Stroes E, Bruckert E. Identification and diagnosis of patients with familial chylomicronaemia syndrome (FCS): Expert panel recommendations and proposal of an "FCS score." Atherosclerosis, 2018; 275: 265-272
81) Brown WV, Goldberg I, Duell B, Gaudet D. Roundtable discussion: Familial chylomicronemia syndrome: Diagnosis and management. J Clin Lipidol, 2018; 12: 254-263
82) Brown WV, Gaudet D, Goldberg I, Hegele R. Roundtable on etiology of familial chylomicronemia syndrome. J Clin Lipidol, 2018; 12: 5-11
83) Dron JS, Wang J, Cao H, McIntyre AD, Iacocca MA, Menard JR, Movsesyan I, Malloy MJ, Pullinger CR, Kane JP, Hegele RA. Severe hypertriglyceridemia is primarily polygenic. J Clin Lipidol, 2019; 13: 80-88
84) Toth PP, Grabner M, Ramey N, Higuchi K. Clinical and economic outcomes in a real-world population of patients with elevated triglyceride levels. Atherosclerosis, 2014; 237: 790-797
85) Sekimoto M, Takada T, Kawarada Y, Hirata K, Mayumi T, Yoshida M, Hirota M, Kimura Y, Takeda K, Isaji S, Koizumi M, Otsuki M, Matsuno S, JPN. JPN Guidelines for the management of acute pancreatitis: epidemiology, etiology, natural history, and outcome predictors in acute pancreatitis. J Hepatobiliary Pancreat Surg, 2006; 13: 10-24
86) Carr RA, Rejowski BJ, Cote GA, Pitt HA, Zyromski NJ. Systematic review of hypertriglyceridemia-induced acute pancreatitis: A more virulent etiology? Pancreatology, 2016; 16: 469-476
87) Rashid N, Sharma PP, Scott RD, Lin KJ, Toth PP. Severe hypertriglyceridemia and factors associated with acute pancreatitis in an integrated health care system. J Clin Lipidol, 2016; 10: 880-890
88) Geng Y, Li W, Sun L, Tong Z, Li N, Li J. Severe acute pancreatitis during pregnancy: eleven years experience from a surgical intensive care unit. Dig Dis Sci, 2011; 56: 3672-3677
89) Ramin KD, Ramin SM, Richey SD, Cunningham FG. Acute pancreatitis in pregnancy. Am J Obstet Gynecol, 1995; 173: 187-191
90) Murphy MJ, Sheng X, MacDonald TM, Wei L. Hypertriglyceridemia and acute pancreatitis. JAMA Intern Med, 2013; 173: 162-164
91) Pedersen SB, Langsted A, Nordestgaard BG. Nonfasting Mild-to-Moderate Hypertriglyceridemia and Risk of Acute Pancreatitis. JAMA Intern Med, 2016; 176: 1834-1842
92) Scherer J, Singh VP, Pitchumoni CS, Yadav D. Issues in hypertriglyceridemic pancreatitis: an update. J Clin Gastroenterol, 2014; 48: 195-203
93) Authors/Task Force Members, ESC Committee for Practice Guidelines (CPG), ESC National Cardiac Societies. 2019 ESC/EAS guidelines for the management of dyslipidaemias: Lipid modification to reduce cardiovascular risk. Atherosclerosis, 2019; 290: 140-205
94) Gaudet D, de Wal J, Tremblay K, Déry S, van Deventer S, Freidig A, Brisson D, Méthot J. Review of the clinical development of alipogene tiparvovec gene therapy for lipoprotein lipase deficiency. Atheroscler Suppl, 2010; 11: 55-60
95) Gaudet D, Blom D, Bruckert E, Stroes E, Kastelein J, John K, Malloy M, Moulin P, Retterstøll K, Hughes S, Tsimikas S, Witztum J. Acute Pancreatitis is Highly Prevalent and Complications can be Fatal in Patients with Familial Chylomicronemia: Results From a Survey of Lipidologist. Journal of Clinical Lipidology, 2016; 10: 680-681
96) Paquette M, Bernard S, Hegele RA, Baass A. Chylomicronemia: Differences between familial chylomicronemia syndrome and multifactorial chylomicronemia. Atherosclerosis, 2019; 283: 137-142
97) Zafrir B, Jubran A, Hijazi R, Shapira C. Clinical features and outcomes of severe, very severe, and extreme hypertriglyceridemia in a regional health service. Journal of Clinical Lipidology, 2018; 12: 928-936
98) Fallat RW, Vester JW, Glueck CJ. Suppression of amylase activity by hypertriglyceridemia. JAMA, 1973; 225: 1331-1334
99) Melnick S, Nazir S, Gish D, Aryal MR. Hypertriglyceridemic pancreatitis associated with confounding laboratory abnormalities. J Community Hosp Intern Med Perspect, 2016; 6: 31808
100) Singh A, Shrestha M, Anand C. Acute pancreatitis with normal amylase and lipase--an ED dilemma. Am J Emerg Med, 2016; 34: 940.e5-7
101) Nayak KR, Daly RG. Images in clinical medicine. Eruptive xanthomas associated with hypertriglyceridemia and new-onset diabetes mellitus. N Engl J Med, 2004; 350: 1235
102) Kumar J, Wierzbicki AS. Images in clinical medicine. Lipemia retinalis. N Engl J Med, 2005; 353: 823
103) Stefanutti C, Labbadia G, Morozzi C. Severe hypertriglyceridemia-related acute pancreatitis. Ther Apher Dial, 2013; 17: 130-137
104) Ahmad Z, Halter R, Stevenson M. Building a better understanding of the burden of disease in familial chylomicronemia syndrome. Expert Rev Clin Pharmacol, 2017; 10: 1-3
105) Gelrud A, Williams KR, Hsieh A, Gwosdow AR, Gilstrap A, Brown A. The burden of familial chylomicronemia syndrome from the patients' perspective. Expert Rev Cardiovasc Ther, 2017; 15: 879-887
106) Davidson M, Stevenson M, Hsieh A, Ahmad Z, Crowson C, Witztum JL. The burden of familial

chylomicronemia syndrome: interim results from the IN-FOCUS study. Expert Rev Cardiovasc Ther, 2017; 15: 415-423
107) Davidson M, Stevenson M, Hsieh A, Ahmad Z, Roeters van Lennep J, Crowson C, Witztum JL. The burden of familial chylomicronemia syndrome: Results from the global IN-FOCUS study. J Clin Lipidol, 2018; 12: 898-907.e2
108) Expert Panel on Integrated Guidelines for Cardiovascular Health and Risk Reduction in Children and Adolescents, National Heart, Lung, and Blood Institute. Expert panel on integrated guidelines for cardiovascular health and risk reduction in children and adolescents: summary report. Pediatrics, 2011; 128 Suppl 5: S213-256
109) Buonuomo PS, Rabacchi C, Macchiaiolo M, Trenti C, Fasano T, Tarugi P, Bartuli A, Bertolini S, Calandra S. Incidental finding of severe hypertriglyceridemia in children. Role of multiple rare variants in genes affecting plasma triglyceride. Journal of Clinical Lipidology, 2017; 11: 1329-1337.e3
110) Dominguez-Muñoz JE, Malfertheiner P, Ditschuneit HH, Blanco-Chavez J, Uhl W, Büchler M, Ditschuneit H. Hyperlipidemia in acute pancreatitis. Relationship with etiology, onset, and severity of the disease. Int J Pancreatol, 1991; 10: 261-267
111) Watts GF, Morton K, Jackson P, Lewis B. Management of patients with severe hypertriglyceridaemia during pregnancy: report of two cases with familial lipoprotein lipase deficiency. Br J Obstet Gynaecol, 1992; 99: 163-166
112) Ma Y, Liu MS, Ginzinger D, Frohlich J, Brunzell JD, Hayden MR. Gene-environment interaction in the conversion of a mild-to-severe phenotype in a patient homozygous for a Ser172-->Cys mutation in the lipoprotein lipase gene. J Clin Invest, 1993; 91: 1953-1958
113) Glueck CJ, Streicher P, Wang P, Sprecher D, Falko JM. Treatment of severe familial hypertriglyceridemia during pregnancy with very-low-fat diet and n-3 fatty acids. Nutrition, 1996; 12: 202-205
114) Saravanan P, Blumenthal S, Anderson C, Stein R, Berkelhammer C. Plasma exchange for dramatic gestational hyperlipidemic pancreatitis. J Clin Gastroenterol, 1996; 22: 295-298
115) Suga S, Tamasawa N, Kinpara I, Murakami H, Kasai N, Onuma T, Ikeda Y, Takagi A, Suda T. Identification of homozygous lipoprotein lipase gene mutation in a woman with recurrent aggravation of hypertriglyceridaemia induced by pregnancy. J Intern Med, 1998; 243: 317-321
116) McGladdery SH, Frohlich JJ. Lipoprotein lipase and apoE polymorphisms: relationship to hypertriglyceridemia during pregnancy. J Lipid Res, 2001; 42: 1905-1912
117) Bartha I, Dinya T, Seres I, Paragh G, Ross C, Hayden MR, Biró S, Vargha G. Acute hypertriglyceridemic pancreatitis during pregnancy due to homozygous lipoprotein lipase gene mutation. Clin Chim Acta, 2009; 400: 137-138
118) Xie S-L, Chen T-Z, Huang X-L, Chen C, Jin R, Huang Z-M, Zhou M-T. Genetic Variants Associated with Gestational Hypertriglyceridemia and Pancreatitis. PLoS ONE, 2015; 10: e0129488
119) Gürsoy A, Kulaksizoglu M, Sahin M, Ertugrul DT, Ozer F, Tutuncu NB, Demirag NG. Severe hypertriglyceridemia-induced pancreatitis during pregnancy. J Natl Med Assoc, 2006; 98: 655-657
120) Goldberg AS, Hegele RA. Severe hypertriglyceridemia in pregnancy. J Clin Endocrinol Metab, 2012; 97: 2589-2596
121) Gallos ID, Sivakumar K, Kilby MD, Coomarasamy A, Thangaratinam S, Vatish M. Pre-eclampsia is associated with, and preceded by, hypertriglyceridaemia: a meta-analysis. BJOG, 2013; 120: 1321-1332
122) Al-Shali K, Wang J, Fellows F, Huff MW, Wolfe BM, Hegele RA. Successful pregnancy outcome in a patient with severe chylomicronemia due to compound heterozygosity for mutant lipoprotein lipase. Clin Biochem, 2002; 35: 125-130
123) Stroes E, Moulin P, Parhofer KG, Rebours V, Löhr J-M, Averna M. Diagnostic algorithm for familial chylomicronemia syndrome. Atheroscler Suppl, 2017; 23: 1-7
124) Tremblay K, Gaudet D, Khoury E, Brisson D. Dissection of Clinical and Gene Expression Signatures of Familial versus Multifactorial Chylomicronemia. J Endocr Soc, 2020; 4: bvaa056
125) Christian JB, Arondekar B, Buysman EK, Johnson SL, Seeger JD, Jacobson TA. Clinical and economic benefits observed when follow-up triglyceride levels are less than 500 mg/dL in patients with severe hypertriglyceridemia. J Clin Lipidol, 2012; 6: 450-461
126) Christian JB, Arondekar B, Buysman EK, Jacobson TA, Snipes RG, Horwitz RI. Determining triglyceride reductions needed for clinical impact in severe hypertriglyceridemia. Am J Med, 2014; 127: 36-44.e1
127) Huffman KM, Hawk VH, Henes ST, Ocampo CI, Orenduff MC, Slentz CA, Johnson JL, Houmard JA, Samsa GP, Kraus WE, Bales CW. Exercise effects on lipids in persons with varying dietary patterns-does diet matter if they exercise? Responses in Studies of a Targeted Risk Reduction Intervention through Defined Exercise I. Am Heart J, 2012; 164: 117-124
128) Williams L, Wilson DP. Editorial commentary: Dietary management of familial chylomicronemia syndrome. J Clin Lipidol, 2016; 10: 462-465
129) Williams L, Rhodes KS, Karmally W, Welstead LA, Alexander L, Sutton L, patients and families living with FCS. Familial chylomicronemia syndrome: Bringing to life dietary recommendations throughout the life span. J Clin Lipidol, 2018; 12: 908-919
130) Ewald N, Hardt PD, Kloer H-U. Severe hypertriglyceridemia and pancreatitis: presentation and management. Curr Opin Lipidol, 2009; 20: 497-504
131) Brunzell JD, Hazzard WR, Porte D, Bierman EL. Evidence for a common, saturable, triglyceride removal mechanism for chylomicrons and very low density lipoproteins in man. J Clin Invest, 1973; 52: 1578-1585
132) DenBesten L, Reyna RH, Connor WE, Stegink LD. The different effects on the serum lipids and fecal steroids of high carbohydrate diets given orally or intravenously. J Clin Invest, 1973; 52: 1384-1393
133) Deng L-H, Xue P, Xia Q, Yang X-N, Wan M-H. Effect

of admission hypertriglyceridemia on the episodes of severe acute pancreatitis. World J Gastroenterol, 2008; 14: 4558-4561
134) Nawaz H, Koutroumpakis E, Easler J, Slivka A, Whitcomb DC, Singh VP, Yadav D, Papachristou GI. Elevated serum triglycerides are independently associated with persistent organ failure in acute pancreatitis. Am J Gastroenterol, 2015; 110: 1497-1503
135) Tsuang W, Navaneethan U, Ruiz L, Palascak JB, Gelrud A. Hypertriglyceridemic pancreatitis: presentation and management. Am J Gastroenterol, 2009; 104: 984-991
136) Kawashiri M, Higashikata T, Mizuno M, Takata M, Katsuda S, Miwa K, Nozue T, Nohara A, Inazu A, Kobayashi J, Koizumi J, Mabuchi H. Long-term course of lipoprotein lipase (LPL) deficiency due to homozygous LPL(Arita) in a patient with recurrent pancreatitis, retained glucose tolerance, and atherosclerosis. J Clin Endocrinol Metab, 2005; 90: 6541-6544
137) Mikhail N, Trivedi K, Page C, Wali S, Cope D. Treatment of severe hypertriglyceridemia in nondiabetic patients with insulin. Am J Emerg Med, 2005; 23: 415-417
138) Khan R, Jehangir W, Regeti K, Yousif A. Hypertriglyceridemia-Induced Pancreatitis: Choice of Treatment. Gastroenterology Res, 2015; 8: 234-236
139) Inayat F, Zafar F, Baig AS, Chaudhry NA, Aslam A, Khan ZH, Iqbal MJ. Hypertriglyceridemic Pancreatitis Treated with Insulin Therapy: A Comparative Review of 34 Cases. Cureus, 2018; 10: e3501
140) Weintraub M, Rassin T, Eisenberg S, Ringel Y, Grosskopf I, Iaina A, Charach G, Liron M, Rubinstein A. Continuous intravenous heparin administration in humans causes a decrease in serum lipolytic activity and accumulation of chylomicrons in circulation. J Lipid Res, 1994; 35: 229-238
141) Schuff-Werner P, Fenger S, Kohlschein P. Role of lipid apheresis in changing times. Clin Res Cardiol Suppl, 2012; 7: 7-14
142) Stefanutti C, Julius U. Treatment of primary hypertriglyceridemia states--General approach and the role of extracorporeal methods. Atheroscler Suppl, 2015; 18: 85-94
143) He W-H, Yu M, Zhu Y, Xia L, Liu P, Zeng H, Zhu Y, Lv N-H. Emergent Triglyceride-lowering Therapy With Early High-volume Hemofiltration Against Low-Molecular-Weight Heparin Combined With Insulin in Hypertriglyceridemic Pancreatitis: A Prospective Randomized Controlled Trial. J Clin Gastroenterol, 2016; 50: 772-778
144) Schwartz J, Winters JL, Padmanabhan A, Balogun RA, Delaney M, Linenberger ML, Szczepiorkowski ZM, Williams ME, Wu Y, Shaz BH. Guidelines on the use of therapeutic apheresis in clinical practice-evidence-based approach from the Writing Committee of the American Society for Apheresis: the sixth special issue. J Clin Apher, 2013; 28: 145-284
145) Thompson GR. Lipoprotein apheresis. Curr Opin Lipidol, 2010; 21: 487-491
146) Ewald N, Kloer H-U. Treatment options for severe hypertriglyceridemia (SHTG): the role of apheresis. Clin Res Cardiol Suppl, 2012; 7: 31-35
147) Basar R, Uzum AK, Canbaz B, Dogansen SC, Kalayoglu-Besisik S, Altay-Dadin S, Aral F, Ozbey NC. Therapeutic apheresis for severe hypertriglyceridemia in pregnancy. Arch Gynecol Obstet, 2013; 287: 839-843
148) Safi F, Toumeh A, Abuissa Qadan MA, Karaz R, AlAkdar B, Assaly R. Management of familial hypertriglyceridemia-induced pancreatitis during pregnancy with therapeutic plasma exchange: a case report and review of literature. Am J Ther, 2014; 21: e134-136
149) Gupta N, Ahmed S, Shaffer L, Cavens P, Blankstein J. Severe hypertriglyceridemia induced pancreatitis in pregnancy. Case Rep Obstet Gynecol, 2014; 2014: 485493
150) Newman CB, Blaha MJ, Boord JB, Cariou B, Chait A, Fein HG, Ginsberg HN, Goldberg IJ, Murad MH, Subramanian S, Tannock LR. Lipid Management in Patients with Endocrine Disorders: An Endocrine Society Clinical Practice Guideline. The Journal of Clinical Endocrinology & Metabolism, 2020; 105: 3613-3682
151) Piolot A, Nadler F, Cavallero E, Coquard JL, Jacotot B. Prevention of recurrent acute pancreatitis in patients with severe hypertriglyceridemia: value of regular plasmapheresis. Pancreas, 1996; 13: 96-99
152) Hovland A, Hardersen R, Mollnes TE, Lappegård KT. Selective whole blood lipoprotein apheresis to prevent pancreatitis in drug refractory hypertriglyceridemia. JOP, 2010; 11: 467-469
153) Schaap-Fogler M, Schurr D, Schaap T, Leitersdorf E, Rund D. Long-term plasma exchange for severe refractory hypertriglyceridemia: a decade of experience demonstrates safety and efficacy. J Clin Apher, 2009; 24: 254-258
154) Saleh MA, Mansoor E, Cooper GS. Case of familial hyperlipoproteinemia type III hypertriglyceridemia induced acute pancreatitis: Role for outpatient apheresis maintenance therapy. World J Gastroenterol, 2017; 23: 7332-7336
155) Niro J, Sapin V, Constantin J-M, Cotte B, Lebel A, Roszyk L, R Eglizot null, Tauveron I, Jacquetin B, Lémery D, Gallot D. [Management of gestational hypertriglyceridemia by plasmapheresis]. Gynecol Obstet Fertil, 2007; 35: 1133-1135
156) Sivakumaran P, Tabak SW, Gregory K, Pepkowitz SH, Klapper EB. Management of familial hypertriglyceridemia during pregnancy with plasma exchange. J Clin Apher, 2009; 24: 42-46
157) Mizushima T, Ochi K, Matsumura N, Ichimura M, Ishibashi T, Tsuboi K, Harada H. Prevention of hyperlipidemic acute pancreatitis during pregnancy with medium-chain triglyceride nutritional support. Int J Pancreatol, 1998; 23: 187-192
158) Athyros VG, Giouleme OI, Nikolaidis NL, Vasiliadis TV, Bouloukos VI, Kontopoulos AG, Eugenidis NP. Long-term follow-up of patients with acute hypertriglyceridemia-induced pancreatitis. J Clin Gastroenterol, 2002; 34: 472-475
159) Tsai EC, Brown JA, Veldee MY, Anderson GJ, Chait A, Brunzell JD. Potential of essential fatty acid deficiency with extremely low fat diet in lipoprotein lipase

deficiency during pregnancy: A case report. BMC Pregnancy Childbirth, 2004; 4: 27
160) Greenberg JA, Bell SJ, Ausdal WV. Omega-3 Fatty Acid supplementation during pregnancy. Rev Obstet Gynecol, 2008; 1: 162-169
161) Nelson-Piercy C, Crook MA. Severe hypertriglyceridemia complicating pregnancy, management by dietary intervention and omega-3 fatty acid supplementation. Nutrition, 2009; 25: 1098-1099
162) Takaishi K, Miyoshi J, Matsumura T, Honda R, Ohba T, Katabuchi H. Hypertriglyceridemic acute pancreatitis during pregnancy: prevention with diet therapy and omega-3 fatty acids in the following pregnancy. Nutrition, 2009; 25: 1094-1097
163) Saadi HF, Kurlander DJ, Erkins JM, Hoogwerf BJ. Severe hypertriglyceridemia and acute pancreatitis during pregnancy: treatment with gemfibrozil. Endocr Pract, 1999; 5: 33-36
164) Abu Musa AA, Usta IM, Rechdan JB, Nassar AH. Recurrent hypertriglyceridemia-induced pancreatitis in pregnancy: a management dilemma. Pancreas, 2006; 32: 227-228
165) Hill AJ, Pacheco LD, Saade G, Hankins GDV. Familial hypertriglyceridemia in pregnancy. Int J Gynaecol Obstet, 2014; 125: 80-81
166) Lim R, Rodger SJ, Hawkins TL-A. Presentation and management of acute hypertriglyceridemic pancreatitis in pregnancy: A case report. Obstet Med, 2015; 8: 200-203
167) Hegele RA, Tsimikas S. Lipid-Lowering Agents. Circ Res, 2019; 124: 386-404
168) Cuchel M, Meagher EA, du Toit Theron H, Blom DJ, Marais AD, Hegele RA, Averna MR, Sirtori CR, Shah PK, Gaudet D, Stefanutti C, Vigna GB, Du Plessis AME, Propert KJ, Sasiela WJ, Bloedon LT, Rader DJ, Phase 3 HoFH Lomitapide Study investigators. Efficacy and safety of a microsomal triglyceride transfer protein inhibitor in patients with homozygous familial hypercholesterolaemia: a single-arm, open-label, phase 3 study. Lancet, 2013; 381: 40-46
169) Sacks FM, Stanesa M, Hegele RA. Severe hypertriglyceridemia with pancreatitis: thirteen years' treatment with lomitapide. JAMA Intern Med, 2014; 174: 443-447
170) Blom DJ, Averna MR, Meagher EA, du Toit Theron H, Sirtori CR, Hegele RA, Shah PK, Gaudet D, Stefanutti C, Vigna GB, Larrey D, Bloedon LT, Foulds P, Rader DJ, Cuchel M. Long-Term Efficacy and Safety of the Microsomal Triglyceride Transfer Protein Inhibitor Lomitapide in Patients With Homozygous Familial Hypercholesterolemia. Circulation, 2017; 136: 332-335
171) Raal FJ, Santos RD, Blom DJ, Marais AD, Charng M-J, Cromwell WC, Lachmann RH, Gaudet D, Tan JL, Chasan-Taber S, Tribble DL, Flaim JD, Crooke ST. Mipomersen, an apolipoprotein B synthesis inhibitor, for lowering of LDL cholesterol concentrations in patients with homozygous familial hypercholesterolaemia: a randomised, double-blind, placebo-controlled trial. Lancet, 2010; 375: 998-1006
172) Panta R, Dahal K, Kunwar S. Efficacy and safety of mipomersen in treatment of dyslipidemia: a meta-analysis of randomized controlled trials. J Clin Lipidol, 2015; 9: 217-225
173) Gryn SE, Hegele RA. Novel therapeutics in hypertriglyceridemia. Curr Opin Lipidol, 2015; 26: 484-491
174) Witztum JL, Gaudet D, Freedman SD, Alexander VJ, Digenio A, Williams KR, Yang Q, Hughes SG, Geary RS, Arca M, Stroes ESG, Bergeron J, Soran H, Civeira F, Hemphill L, Tsimikas S, Blom DJ, O'Dea L, Bruckert E. Volanesorsen and Triglyceride Levels in Familial Chylomicronemia Syndrome. N Engl J Med, 2019; 381: 531-542
175) Denison H, Nilsson C, Löfgren L, Himmelmann A, Mårtensson G, Knutsson M, Al-Shurbaji A, Tornqvist H, Eriksson JW. Diacylglycerol acyltransferase 1 inhibition with AZD7687 alters lipid handling and hormone secretion in the gut with intolerable side effects: a randomized clinical trial. Diabetes Obes Metab, 2014; 16: 334-343
176) Meyers CD, Tremblay K, Amer A, Chen J, Jiang L, Gaudet D. Effect of the DGAT1 inhibitor pradigastat on triglyceride and apoB48 levels in patients with familial chylomicronemia syndrome. Lipids Health Dis, 2015; 14: 8
177) Meyers CD, Amer A, Majumdar T, Chen J. Pharmacokinetics, pharmacodynamics, safety, and tolerability of pradigastat, a novel diacylglycerol acyltransferase 1 inhibitor in overweight or obese, but otherwise healthy human subjects. J Clin Pharmacol, 2015; 55: 1031-1041
178) Graham MJ, Lee RG, Brandt TA, Tai L-J, Fu W, Peralta R, Yu R, Hurh E, Paz E, McEvoy BW, Baker BF, Pham NC, Digenio A, Hughes SG, Geary RS, Witztum JL, Crooke RM, Tsimikas S. Cardiovascular and Metabolic Effects of ANGPTL3 Antisense Oligonucleotides. N Engl J Med, 2017; 377: 222-232
179) Dewey FE, Gusarova V, Dunbar RL, O'Dushlaine C, Schurmann C, Gottesman O, McCarthy S, Van Hout CV, Bruse S, Dansky HM, Leader JB, Murray MF, Ritchie MD, Kirchner HL, Habegger L, Lopez A, Penn J, Zhao A, Shao W, Stahl N, Murphy AJ, Hamon S, Bouzelmat A, Zhang R, Shumel B, Pordy R, Gipe D, Herman GA, Sheu WHH, Lee I-T, Liang K-W, Guo X, Rotter JI, Chen Y-DI, Kraus WE, Shah SH, Damrauer S, Small A, Rader DJ, Wulff AB, Nordestgaard BG, Tybjærg-Hansen A, van den Hoek AM, Princen HMG, Ledbetter DH, Carey DJ, Overton JD, Reid JG, Sasiela WJ, Banerjee P, Shuldiner AR, Borecki IB, Teslovich TM, Yancopoulos GD, Mellis SJ, Gromada J, Baras A. Genetic and Pharmacologic Inactivation of ANGPTL3 and Cardiovascular Disease. N Engl J Med, 2017; 377: 211-221
180) Gaudet D, Gipe DA, Pordy R, Ahmad Z, Cuchel M, Shah PK, Chyu K-Y, Sasiela WJ, Chan K-C, Brisson D, Khoury E, Banerjee P, Gusarova V, Gromada J, Stahl N, Yancopoulos GD, Hovingh GK. ANGPTL3 Inhibition in Homozygous Familial Hypercholesterolemia. N Engl J Med, 2017; 377: 296-297
181) Ahmad Z, Banerjee P, Hamon S, Chan K-C, Bouzelmat A, Sasiela WJ, Pordy R, Mellis S, Dansky H, Gipe DA, Dunbar RL. Inhibition of Angiopoietin-Like Protein 3

With a Monoclonal Antibody Reduces Triglycerides in Hypertriglyceridemia. Circulation, 2019; 140: 470-486
182) Raal FJ, Rosenson RS, Reeskamp LF, Hovingh GK, Kastelein JJP, Rubba P, Ali S, Banerjee P, Chan K-C, Gipe DA, Khilla N, Pordy R, Weinreich DM, Yancopoulos GD, Zhang Y, Gaudet D, ELIPSE HoFH Investigators. Evinacumab for Homozygous Familial Hypercholesterolemia. N Engl J Med, 2020; 383: 711-720
183) Haas JT, Winter HS, Lim E, Kirby A, Blumenstiel B, DeFelice M, Gabriel S, Jalas C, Branski D, Grueter CA, Toporovski MS, Walther TC, Daly MJ, Farese RV. DGAT1 mutation is linked to a congenital diarrheal disorder. J Clin Invest, 2012; 122: 4680-4684
184) Nakou ES, Filippatos TD, Agouridis AP, Kostara C, Bairaktari ET, Elisaf MS. The effects of ezetimibe and/or orlistat on triglyceride-rich lipoprotein metabolism in obese hypercholesterolemic patients. Lipids, 2010; 45: 445-450
185) Blackett P, Tryggestad J, Krishnan S, Li S, Xu W, Alaupovic P, Quiroga C, Copeland K. Lipoprotein abnormalities in compound heterozygous lipoprotein lipase deficiency after treatment with a low-fat diet and orlistat. J Clin Lipidol, 2013; 7: 132-139
186) Gaudet D, Méthot J, Déry S, Brisson D, Essiembre C, Tremblay G, Tremblay K, de Wal J, Twisk J, van den Bulk N, Sier-Ferreira V, van Deventer S. Efficacy and long-term safety of alipogene tiparvovec (AAV1-LPLS447X) gene therapy for lipoprotein lipase deficiency: an open-label trial. Gene Ther, 2013; 20: 361-369
187) Cohn JA, Friedman KJ, Noone PG, Knowles MR, Silverman LM, Jowell PS. Relation between mutations of the cystic fibrosis gene and idiopathic pancreatitis. N Engl J Med, 1998; 339: 653-658
188) Schneider A, Barmada MM, Slivka A, Martin JA, Whitcomb DC. Clinical characterization of patients with idiopathic chronic pancreatitis and SPINK1 Mutations. Scand J Gastroenterol, 2004; 39: 903-904
189) Chen J-M, Férec C. Chronic pancreatitis: genetics and pathogenesis. Annu Rev Genomics Hum Genet, 2009; 10: 63-87
190) Whitcomb DC. Genetic aspects of pancreatitis. Annu Rev Med, 2010; 61: 413-424
191) Tremblay K, Dubois-Bouchard C, Brisson D, Gaudet D. Association of CTRC and SPINK1 gene variants with recurrent hospitalizations for pancreatitis or acute abdominal pain in lipoprotein lipase deficiency. Front Genet, 2014; 5: 90
192) Benlian P, De Gennes JL, Foubert L, Zhang H, Gagné SE, Hayden M. Premature atherosclerosis in patients with familial chylomicronemia caused by mutations in the lipoprotein lipase gene. N Engl J Med, 1996; 335: 848-854
193) Ebara T, Okubo M, Horinishi A, Adachi M, Murase T, Hirano T. No evidence of accelerated atherosclerosis in a 66-yr-old chylomicronemia patient homozygous for the nonsense mutation (Tyr61-->stop) in the lipoprotein lipase gene. Atherosclerosis, 2001; 159: 375-379
194) Maki KC, Guyton JR, Orringer CE, Hamilton-Craig I, Alexander DD, Davidson MH. Triglyceride-lowering therapies reduce cardiovascular disease event risk in subjects with hypertriglyceridemia. J Clin Lipidol, 2016; 10: 905-914
195) Shah NP, Cho L, Ahmed HM. Familial Chylomicronemia Syndrome: Clinical Characteristics and Long-Term Cardiovascular Outcomes. J Am Coll Cardiol, 2018; 72: 1177-1179
196) Bhatt DL, Steg PG, Miller M, Brinton EA, Jacobson TA, Ketchum SB, Doyle RT, Juliano RA, Jiao L, Granowitz C, Tardif J-C, Ballantyne CM, REDUCE-IT Investigators. Cardiovascular Risk Reduction with Icosapent Ethyl for Hypertriglyceridemia. N Engl J Med, 2019; 380: 11-22
197) Musunuru K, Kathiresan S. Genetics of Common, Complex Coronary Artery Disease. Cell, 2019; 177: 132-145
198) Triglyceride Coronary Disease Genetics Consortium and Emerging Risk Factors Collaboration, Sarwar N, Sandhu MS, Ricketts SL, Butterworth AS, Di Angelantonio E, Boekholdt SM, Ouwehand W, Watkins H, Samani NJ, Saleheen D, Lawlor D, Reilly MP, Hingorani AD, Talmud PJ, Danesh J. Triglyceride-mediated pathways and coronary disease: collaborative analysis of 101 studies. Lancet, 2010; 375: 1634-1639
199) Do R, Stitziel NO, Won H-H, Jørgensen AB, Duga S, Angelica Merlini P, Kiezun A, Farrall M, Goel A, Zuk O, Guella I, Asselta R, Lange LA, Peloso GM, Auer PL, NHLBI Exome Sequencing Project, Girelli D, Martinelli N, Farlow DN, DePristo MA, Roberts R, Stewart AFR, Saleheen D, Danesh J, Epstein SE, Sivapalaratnam S, Hovingh GK, Kastelein JJ, Samani NJ, Schunkert H, Erdmann J, Shah SH, Kraus WE, Davies R, Nikpay M, Johansen CT, Wang J, Hegele RA, Hechter E, Marz W, Kleber ME, Huang J, Johnson AD, Li M, Burke GL, Gross M, Liu Y, Assimes TL, Heiss G, Lange EM, Folsom AR, Taylor HA, Olivieri O, Hamsten A, Clarke R, Reilly DF, Yin W, Rivas MA, Donnelly P, Rossouw JE, Psaty BM, Herrington DM, Wilson JG, Rich SS, Bamshad MJ, Tracy RP, Cupples LA, Rader DJ, Reilly MP, Spertus JA, Cresci S, Hartiala J, Tang WHW, Hazen SL, Allayee H, Reiner AP, Carlson CS, Kooperberg C, Jackson RD, Boerwinkle E, Lander ES, Schwartz SM, Siscovick DS, McPherson R, Tybjaerg-Hansen A, Abecasis GR, Watkins H, Nickerson DA, Ardissino D, Sunyaev SR, O'Donnell CJ, Altshuler D, Gabriel S, Kathiresan S. Exome sequencing identifies rare LDLR and APOA5 alleles conferring risk for myocardial infarction. Nature, 2015; 518: 102-106
200) Tremblay K, Méthot J, Brisson D, Gaudet D. Etiology and risk of lactescent plasma and severe hypertriglyceridemia. J Clin Lipidol, 2011; 5: 37-44
201) Fu J, Kwok S, Sinai L, Abdel-Razek O, Babula J, Chen D, Farago E, Fernandopulle N, Leith S, Loyzer M, Lu C, Malkani N, Morris N, Schmidt M, Stringer R, Whitehead H, Ban MR, Dubé JB, McIntyre A, Johansen CT, Cao H, Wang J, Hegele RA. Western Database of Lipid Variants (WDLV): a catalogue of genetic variants in monogenic dyslipidemias. Can J Cardiol, 2013; 29: 934-939
202) Berberich AJ, Hegele RA. The role of genetic testing in dyslipidaemia. Pathology, 2019; 51: 184-192

203) Ng DM, Burnett JR, Bell DA, Hegele RA, Hooper AJ. Update on the diagnosis, treatment and management of rare genetic lipid disorders. Pathology, 2019; 51: 193-201
204) Garg A, Garg V, Hegele RA, Lewis GF. Practical definitions of severe versus familial hypercholesterolaemia and hypertriglyceridaemia for adult clinical practice. Lancet Diabetes Endocrinol, 2019; 7: 880-886
205) Steinhagen-Thiessen E, Stroes E, Soran H, Johnson C, Moulin P, Iotti G, Zibellini M, Ossenkoppele B, Dippel M, Averna MR, GENIALL Investigators. The role of registries in rare genetic lipid disorders: Review and introduction of the first global registry in lipoprotein lipase deficiency. Atherosclerosis, 2017; 262: 146-153
206) Ng DM, Hooper AJ, Bellgard MI, Burnett JR. The role of patient registries for rare genetic lipid disorders. Curr Opin Lipidol, 2018; 29: 156-162
207) Huang C-Q, Dong B-R, Wu H-M, Zhang Y-L, Wu J-H, Lu Z-C, Flaherty JH. Association of cognitive impairment with serum lipid/lipoprotein among Chinese nonagenarians and centenarians. Dement Geriatr Cogn Disord, 2009; 27: 111-116
208) Morley JE, Banks WA. Lipids and cognition. J Alzheimers Dis, 2010; 20: 737-747
209) Hauenschild A, Ewald N, Schnell-Kretschmer H, Porsch-Oezcueruemez M, Kloer H-U, Hardt PD. Successful long-term treatment of severe hypertriglyceridemia by feedback control with lipid self-monitoring. Ann Nutr Metab, 2008; 52: 215-220
210) Lookene A, Zhang L, Hultin M, Olivecrona G. Rapid subunit exchange in dimeric lipoprotein lipase and properties of the inactive monomer. J Biol Chem, 2004; 279: 49964-49972
211) Beigneux AP, Allan CM, Sandoval NP, Cho GW, Heizer PJ, Jung RS, Stanhope KL, Havel PJ, Birrane G, Meiyappan M, Gill JE, Murakami M, Miyashita K, Nakajima K, Ploug M, Fong LG, Young SG. Lipoprotein lipase is active as a monomer. Proc Natl Acad Sci USA, 2019; 116: 6319-6328
212) Gunn KH, Roberts BS, Wang F, Strauss JD, Borgnia MJ, Egelman EH, Neher SB. The structure of helical lipoprotein lipase reveals an unexpected twist in lipase storage. Proc Natl Acad Sci USA, 2020; 117: 10254-10264

The official journal of the Japan Atherosclerosis Society and
the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases

Review

J Atheroscler Thromb, 2021; 28: 000-000. http://doi.org/10.5551/jat.RV17055

Cerebrotendinous Xanthomatosis: Molecular Pathogenesis, Clinical Spectrum, Diagnosis, and Disease-Modifying Treatments

Shingo Koyama[1], Yoshiki Sekijima[2, 3], Masatsune Ogura[4], Mika Hori[5], Kota Matsuki[6], Takashi Miida[7] and Mariko Harada-Shiba[8] on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan[†]

[1]Division of Neurology and Clinical Neuroscience, Department of Internal Medicine III, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan
[2]Department of Medicine (Neurology and Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan
[3]Institute for Biomedical Sciences, Shinshu University, Matsumoto, Japan
[4]Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan
[5]Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan
[6]Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Aomori, Japan
[7]Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan
[8]Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan

[†]**The Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan:** Mariko Harada-Shiba (Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Shun Ishibashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Shinji Yokoyama (Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan), Hitoshi Shimano (Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Faculty of Medicine University of Tsukuba, Tsukuba, Japan), Koutaro Yokote (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Hideaki Bujo (Department of Clinical-Laboratory and Experimental-Research Medicine, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Shizuya Yamashita (Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Kazuhisa Tsukamoto (Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan), Toshio Hayashi (School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan), Katsunori Ikewaki (Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan), Takanari Gotoda (Department of Metabolic Biochemistry, Faculty of Medicine, Kyorin University, Tokyo, Japan), Kazushige Dobashi (Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan), Yoshihiro Miyamoto (Open Innovation Center, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Misa Takegami (Department of Preventive Medicine and Epidemiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Yoshiki Sekijima (Department of Medicine (Neurology & Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan), Yasushi Ishigaki (Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan), Hiroaki Okazaki (Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Atsushi Nohara (Ishikawa Prefectural Central Hospital, Kanazawa, Japan), Shingo Koyama (Division of Neurology and Clinical Neuroscience, Department of Internal Medicine III, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan), Kyoko Inagaki (Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan), Koh Ono (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan), Masahiro Koseki (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan), Hiroyuki Daida (Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Manabu Takahashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Kimitoshi Nakamura (Department of Pediatrics, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan), Takashi Miida (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masa-aki Kawashiri (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan), Tetsuo Minamino (Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan), Sachiko Okazaki (Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Hayato Tada (Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan), Jun Wada (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Masatsune Ogura (Division of Lipid Metabolism, Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Hirotoshi Ohmura (Department of Cardiovascular Medicine, School of Medicine, Juntendo University, Tokyo, Japan), Mika Hori (Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan), Kota Matsuki (Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki,

Japan), Masashi Yamamoto (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Yasuo Takeuchi (Division of Nephrology, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan), Atsuko Nakatsuka (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Daisaku Masuda (Department of Cardiology, Health Care Center, Rinku Innovation Center for Wellness Care and Activities (RICWA), Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Satoshi Hirayama (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masayuki Kuroda (Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, Chiba, Japan), Takashi Yamaguchi (Center of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Takeyoshi Murano (Clinical Laboratory Program, Faculty of Science, Toho University, Chiba, Japan).

Cerebrotendinous xanthomatosis (CTX) is an autosomal recessive lipid storage disorder caused by mutations in the *CYP27A1* gene, which encodes the mitochondrial enzyme sterol 27-hydroxylase. Decreased sterol 27-hydroxylase activity results in impaired bile acid synthesis, leading to reduced production of bile acids, especially chenodeoxycholic acid (CDCA), as well as elevated serum cholestanol and urine bile alcohols. The accumulation of cholestanol and cholesterol mainly in the brain, lenses, and tendons results in the characteristic clinical manifestations of CTX. Clinical presentation is characterized by systemic symptoms including neonatal jaundice or cholestasis, refractory diarrhea, juvenile cataracts, tendon xanthomas, osteoporosis, coronary heart disease, and a broad range of neuropsychiatric manifestations. The combinations of symptoms vary from patient to patient and the presenting symptoms, especially in the early disease phase, may be nonspecific, which leads to a substantial diagnostic delay or underdiagnosis. Replacement of CDCA has been approved as a first-line treatment for CTX, and can lead to biochemical and clinical improvements. However, the effect of CDCA treatment is limited once significant neuropsychiatric manifestations are established. The age at diagnosis and initiation of CDCA treatment correlate with the prognosis of patients with CTX. Therefore, early diagnosis and subsequent treatment initiation are essential.

Key words: **Cerebrotendinous xanthomatosis, CTX, CYP27A1, Cholestanol, Chenodeoxycholic acid**

Introduction

Cerebrotendinous xanthomatosis (CTX: OMIM#213700), first described by van Bogaert *et al.* in 1937, is a rare autosomal-recessive lipid storage disease caused by deficiency of the mitochondrial cytochrome P 450 enzyme, sterol 27-hydroxylase (CYP27A1, EC 1.14.15.15) due to mutations in the *CYP27A1* gene[1]. Clinical presentation is characterized by neonatal jaundice or cholestasis, refractory diarrhea, juvenile cataracts, tendon xanthomas, osteoporosis, coronary heart disease, and progressive neuropsychiatric disturbances including mental retardation or dementia, psychiatric symptoms, pyramidal and cerebellar signs, progressive myelopathy, peripheral neuropathy, extrapyramidal manifestations, and seizures[2-9]. CTX is associated with considerable variability in clinical manifestations among patients and even within the same family[2]. The broad and diverse clinical symptoms cause a substantial diagnostic delay[2-4, 9]. Replacement treatment with chenodeoxycholic acid (CDCA) in the early stage of the disease has been reported to improve or even prevent clinical symptoms of CTX[10, 11]; however, after significant neurological pathology is established, the effect of the treatment is limited and deterioration of clinical manifestations may continue[3, 8, 12, 13]. Therefore, it is crucial to treat CTX patients at the initial stage of the disease. In this article, we provide the current understanding of the underlying pathomechanisms, clinical manifestations, diagnosis, and treatment of CTX.

Pathophysiology

CTX is caused by mutations in the *CYP27A1* gene encoding sterol 27-hydroxylase, a key enzyme in the bile acid synthesis pathway. A schematic

Address for correspondence: Yoshiki Sekijima, Department of Medicine (Neurology and Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan E-mail address: sekijima@shinshu-u.ac.jp

Received: March 17, 2021 Accepted for publication: March 21, 2021

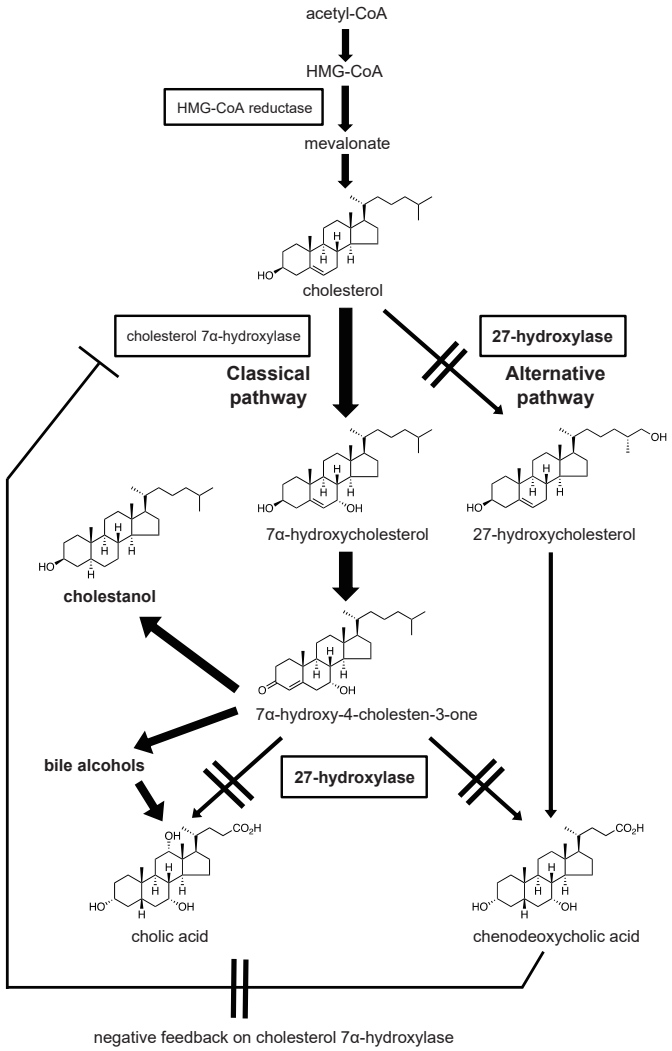


Fig. 1. Impaired bile acid synthesis in cerebrotendinous xanthomatosis (CTX)

In CTX, mutations in the *CYP27A1* gene lead to sterol 27-hydroxylase deficiency, resulting in reduced production of chenodeoxycholic acid and upregulation of the rate-limiting enzyme in the bile acid synthesis pathway, cholesterol 7α-hydroxylase. Increased levels of serum cholestanol and urinary bile alcohols are biological markers in CTX. HMG-CoA: 3-hydroxy-3-methylglutaryl-CoA.

representation of the bile acid synthesis pathway is shown in **Fig. 1**. The classical pathway is initiated by 7α-hydroxylation of cholesterol, catalyzed by the rate-limiting enzyme cholesterol 7α-hydroxylase. The alternative pathway is initiated by 27-hydroxylation of cholesterol, which is catalyzed by sterol 27-hydroxylase. Decreased activity of sterol 27-hydroxylase leads to impaired bile acid synthesis in both the classical and alternative pathways[14], resulting in reduced production of bile acids, especially CDCA, and to a lesser extent cholic acid[15]. The absence of a negative feedback effect of CDCA on cholesterol 7α-hydroxylase accelerates these metabolic abnormalities, leading to increased levels of the bile acid intermediate 7α-hydroxy-4-cholesten-3-one as a precursor for cholestanol and bile alcohols[16]. Elevated serum cholestanol and urine bile alcohols are the biochemical diagnostic hallmarks in CTX. Consequently, increased cholesterol metabolites, such as cholestanol, accumulate mainly in the brain, lenses, and tendons, leading to the characteristic clinical manifestations of CTX. Elevated levels of cholestanol have been found in the serum and tissues, including those of the central nervous system, tendon xanthomas, and atheromatous lesions, in CTX patients. Although the cholestanol-to-cholesterol ratios of various tissues were higher than that of serum, cholesterol was more abundant than cholestanol in both serum and tissues[17]. Cholestanol is widely used as a diagnostic marker but the usefulness of 7α-hydroxy-4-cholesten-3-one

quantification in both the diagnosis and monitoring of CTX has also been reported[18]. It has also been shown that quantification of a panel of plasma ketosterol bile acid precursors (7α-hydroxy-4-cholesten-3-one, 7α,12α-dihydroxy-4-cholesten-3-one, and 7α,12α-dihydroxy-5β-cholestan-3-one) provides a more sensitive biochemical approach when compared with measurement of cholestanol[19].

In 1968, Menkes *et al.* discovered accumulation of cholestanol and cholesterol in the cerebrum and cerebellum of patients with CTX[20]. Although the mechanism by which cholestanol accumulates in the brain remains unclear, one possible explanation is that the bile acid precursor 7α-hydroxy-4-cholesten-3-one, which passes through the blood-brain barrier (BBB) more efficiently than cholestanol, can be converted to cholestanol by neurons, astrocytes, microglia, and human monocyte-derived macrophages[21, 22]. Another possible explanation is impairment of the BBB. Increased levels of cholestanol and apolipoprotein B were observed in the cerebrospinal fluid of patients with CTX, indicating disrupted function of the BBB[23]. It has also been proposed that large plasma bile alcohol glucuronides play a role in the abnormal BBB permeability in CTX, leading to increased transport of cholestanol and cholesterol in the brain[24].

Although the major pathway for production of cholestanol in CTX has been clarified, little is known about its metabolism. Under normal conditions, the 7α-hydroxy-4-cholesten-3-one-dependent pathway accounts for only about 30% of cholestanol biosynthesis in the brain, and cerebral cholestanol is mainly formed from cholesterol[25]. Using *Cyp27a1* and *Cyp46a1* knockout mice, Mast *et al.* demonstrated that CYP46A1 plays an important role in cholestanol removal from the brain and that CYP27A1 deficiency results in a preferential increase in cholestanol in the cerebellum[25].

CTX patients develop premature atherosclerosis and xanthomas despite normal serum cholesterol concentrations. However, abundant deposits of cholesterol are detected in addition to cholestanol in the respective lesions in CTX[17]. Although the mechanism leading to premature arteriosclerosis and tendon xanthomas in CTX remains unclear, reduced capacity for reverse cholesterol transport has been proposed as a possible cause[26-31]. Sterol 27-hydroxylase, which is expressed in macrophages, endothelial cells, and tenocytes as well as in the liver, seems to contribute to the transport of peripheral cholesterol to the liver by transforming intracellular cholesterol into 27-hydroxycholesterol, which has a higher capacity for passing through lipophilic membranes compared with cholesterol[26-28]. In addition, 27-hydroxycholesterol is an endogenous ligand for liver X receptor (LXR). LXR activation induces upregulation of ATP-binding cassette transporter A1 (ABCA1) expression, leading to increased cholesterol efflux[29-31]. Fu *et al.* demonstrated that upregulation of ABCA1 in response to cholesterol loading was impaired in primary fibroblasts derived from a CTX patient[29]. In addition, since 27-hydroxycholesterol was found to be the major oxysterol in human atherosclerotic lesions[28], extrahepatic sterol 27-hydroxylase is thought to be an anti-atherosclerotic enzyme. Absence of the two above defense mechanisms may contribute to premature atherosclerosis and xanthoma formation in CTX.

Epidemiology

CTX patients have been reported worldwide but prevalence of the disease is considered to be underestimated[32]. Based on the carrier frequency of the pathogenic *CYP27A1* c.1183C>T (p.R395C) mutation in 115 control subjects, the prevalence of CTX in the USA among Caucasians of European ancestry was estimated to be 3-5:100,000 individuals[32]. Pilo-de-la-Fuente *et al.* estimated a minimum prevalence of 1/1,8000,000 individuals in Spain[3]. Estimates of the incidence of CTX vary among locations. A recent genetic epidemiological study based on the Exome Aggregation Consortium (ExAC) cohort, a large cohort of over 60,000 unrelated subjects, evaluated the allele frequency of 57 known and 29 predicted CTX-causing variants and estimated the incidence of CTX to be 1:134,970-1:461,358 in Europeans, 1:263,222-1:468,624 in Africans, 1:71,677-1:148,914 in Americans, 1:64,247-1:64,712 in East Asians, and 1:36,072-1:75,601 in South Asians[33]. Prevalence among Jews of Moroccan origin and the Druze sect in Israel has been reported to be particularly high[34, 35].

Molecular Genetics

In 1991, human sterol 27-hydroxylase cDNA was isolated from a liver cDNA library. The *CYP27A1* gene consists of nine exons and eight introns and spans 18.6 kb of DNA on chromosome 2q33-qter[36, 37]. Sterol 27-hydroxylase consists of a 33-residue mitochondrial signal sequence followed by a mature protein of 498 amino acids containing putative binding sites for heme and adrenodoxin[1]. Cali *et al.* first identified two *CYP27A1* missense mutations, p.R395C and p.R479C, in patients with CTX and demonstrated that a loss-of-function mechanism is responsible for CTX[1].

CYP27A1 is the only gene known to be

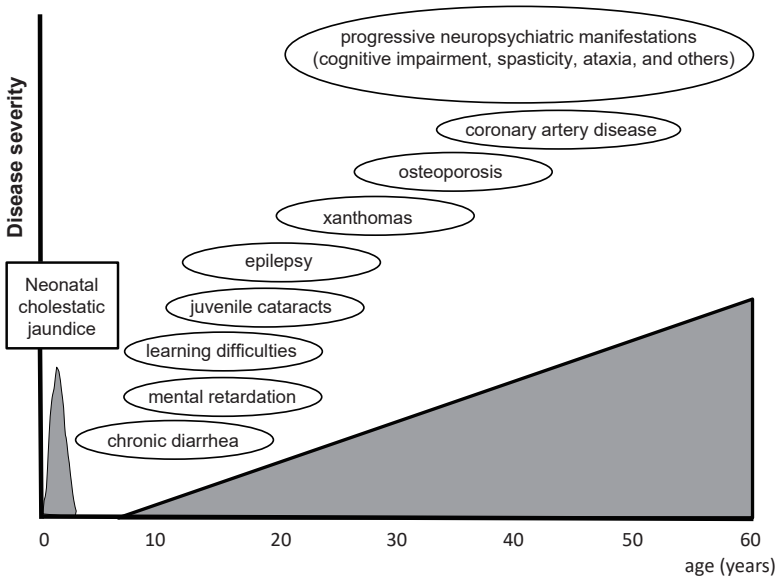


Fig. 2. Representative clinical course of classical form CTX
Figure shows typical ages of onset of CTX-related symptoms.

associated with CTX. Therefore, the diagnostic gold standard is genetic analysis of the *CYP27A1* gene[4, 38]. The diagnosis is confirmed by the presence of biallelic pathogenic *CYP27A1* mutations[4, 38]. To date, over 99 pathogenic mutations, including missense mutations, nonsense mutations, splice-site mutations, and insertion/deletion mutations, have been reported worldwide[6]. A relatively high frequency of *CYP27A1* mutations in particular ethnic groups has been reported: c.1016C>T (p.T339M), c.1183C>T (p.R395C), and c.1263+1G>A in the Netherlands[13], c.646G>C (p.A216P), c.1183C>T (p.R395C), c.1184+1G>A, c.1263+1G>A, and a 1.9 kb deletion including exons 7-9 in Italy[38], c.1183C >T (p.R395C) in northwestern Spain and c.1213C>T (p.R405W) in southern Spain[3], c.1214G>A (p.R405Q), c.1421G>A (p.R474Q), c.435G>T (p.G145=), and c.1420C>T (p.R474W) in Japan[9], which seems to be reasonable considering the allele frequency reported in the ExAC[33]. The allele frequencies of these variants in six global populations according to the ExAC database (version 0.3) are shown in **Supplementary Table 1**. Although no genotype-phenotype correlation has been reported[2, 3, 13], our nationwide survey revealed possible associations between c.1421G>A (p.R474Q) and classical form CTX, c.1241G>A (p.R405Q) and spinal form CTX, and c.435G>T (p.G145=) and non-neurological form CTX despite considerable phenotypic variation among patients with the same genotype[9].

Clinical Features

Clinical Phenotypes

Clinical presentation of CTX is characterized by diverse systemic and neuropsychiatric manifestations and combinations of symptoms vary from patient to patient. Systemic symptoms include neonatal jaundice or cholestasis, chronic diarrhea, juvenile cataracts, xanthomas, osteoporosis, and coronary heart disease. The neurological and psychiatric manifestations of CTX vary widely. Intellectual disability as well as pyramidal and cerebellar signs are the most frequent and are cardinal clinical features[2-4, 7, 9]. In addition, CTX patients can present with extrapyramidal manifestations, peripheral neuropathy, epilepsy, and psychiatric disturbances. Autonomic involvement has also been reported[39].

A representative clinical course of classical form CTX, the most common form of this condition, is shown in **Fig. 2**. Patients with classical form CTX develop neuropsychiatric symptoms attributed to the cerebrum, cerebellum, and/or brainstem, in combination with various systemic manifestations. The concept of spinal form CTX, also called spinal xanthomatosis, was proposed by Virrips *et al.* in 1999[40]. Patients exhibit clinical symptoms and signs related to involvement of the corticospinal tracts and dorsal columns of the spinal cord, without intellectual impairment, cerebellar signs, or peripheral neuropathy, at the time of presentation of the spinal cord syndrome[40]. Although most patients with spinal form

CTX also exhibit various systemic and neurological symptoms, spinal form CTX without other neurological manifestations has been reported[41-46]. Spinal form CTX has a relatively mild clinical course compared with classical form CTX[40].

We have proposed non-neurological form CTX[9] as another clinical phenotype. Although patients with the non-neurological form may develop neurological symptoms later in life, two genetically confirmed CTX patients in their fifties showed no evidence of neurological manifestations ≥ 20 years after disease onset. Therefore, we regarded the non-neurological form as a distinct clinical phenotype of CTX[9].

All CTX patients exhibit increased serum cholestanol levels at the time of diagnosis[2-4, 9]. While a significant relationship between serum cholestanol and clinical phenotype or disability was not detected[3], Sekijima *et al.* showed that classical form patients had significantly higher levels of cholestanol than spinal form patients[9].

Systemic Manifestations/Neonatal Jaundice or Cholestasis

Prolonged neonatal jaundice or cholestasis could be the earliest clinical presentation of CTX[47]. Laboratory findings have revealed conjugated hyperbilirubinemia with raised transaminases and alkaline phosphatase, whereas levels of γ-glutamyl transferase were normal or minimally elevated[47-50], which is the characteristic feature of inborn errors of bile acid synthesis[51]. In one study, hepatomegaly or hepatosplenomegaly was evident[50]. Liver biopsy specimens have revealed nonspecific chronic active hepatitis with giant cell transformation, piecemeal or focal bridging necrosis, and fibrosis, in addition to intralobular cholestasis[47-50]. Cirrhosis was detected in an explanted liver[50]. In addition, retrospective cohort studies have demonstrated that about 8–16% of patients had a past medical history of neonatal cholestatic jaundice[4, 13, 47]. Furthermore, family histories have revealed fetal deaths or jaundice-related infantile deaths among siblings of affected individuals[47].

Von Bahr *et al.* described a patient with genetically confirmed CTX who had fatal cholestatic liver damage[48]. Recently, Gong *et al.* reported on eight patients who presented with neonatal cholestasis. Among their cohort, this was fatal in four and one underwent liver transplantation. Although neonatal cholestasis associated with CTX has been generally assessed as transient and self-limiting with patient survival, a substantial proportion of patients could experience a more severe clinical course than previously recognized[50]. The mechanism by which mutations in the *CYP27A1* gene lead to cholestasis may involve nuclear receptors such as farnesoid X receptor (FXR). CDCA is a potent stimulator of FXR[52]. Marked reduction of CDCA in CTX leads to decreased activation of FXR, which results in reduced expression of the bile salt export pump, causing a decrease in canalicular bile salt transportation[48, 52].

Systemic Manifestations/Chronic Diarrhea

Chronic unexplained diarrhea begins in infancy and continues into adulthood[2]. It may be the earliest symptom of CTX and could start within the first year of life[53]. Gastrointestinal tract investigations in patients with diarrhea did not produce any abnormal findings[54]. Also, rectal biopsy did not demonstrate any accumulation of cholestenol or cholesterol and fatty acids could not be detected in the feces[54]. Usually, diarrhea ceases immediately after starting treatment with CDCA[11]. Although the pathogenesis of diarrhea is still unclear, presence of bile alcohol in the lumen of the gut and/or intraluminal deficiency of CDCA are the most likely causes[54].

Systemic Manifestations/Ocular Manifestations

Juvenile cataracts are one of the earliest clinical signs and often precede tendon xanthomas and neurological symptoms, and are usually noted in the second decade of life. Lens nuclei from CTX patients had a greater cholestanol content compared with the senile lens nuclei used as a control[55]. Although stabilization of cataracts with CDCA treatment has been reported[11], complete resolution is unlikely[56] and operations should be considered. Early onset of cataracts is uncommon and therefore, juvenile cataracts are arguably an important cue for early diagnosis of CTX. A screening for CTX among 170 patients with idiopathic bilateral cataracts diagnosed between the ages of 2 and 21 years identified 3 cases[57].

In addition to cataracts, ophthalmological manifestations include optic neuropathy with optic disc paleness, premature retinal vessel sclerosis, and cholesterol-like deposits[58]. Optic neuropathy with features suggestive of optic neuritis has also been reported[59].

Systemic Manifestations/Xanthomas

Xanthomas usually appear during the second or third decade of life. They typically occur on the Achilles tendon, but may be found on the elbow, neck, knee, and the bottom of the foot **(Fig. 3)**. The patellar and finger extensor tendons are also common sites for development of tendon xanthomas[60-64]. Xanthomas in the lung[65] and choroid plexus have also

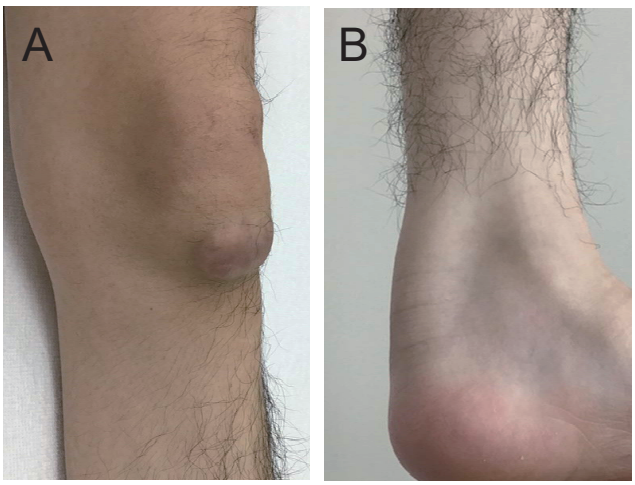


Fig. 3. Xanthomas in a patient with CTX

Figure shows xanthoma on the knee (A) and one on the Achilles tendon (B).

been reported[60, 66, 67]. It is noteworthy that presence of xanthomas is a characteristic feature of the disease, but it is not mandatory for CTX diagnosis[68]. Biopsy specimens of xanthomas show lipid crystal clefts with infiltration of foamy macrophages[64, 69]. In gallium-67 scintigraphy, there can be abnormal uptake in Achilles tendons[70], even if Achilles tendon xanthomas were not evident in a physical examination or on MRI[44]. In addition, positron emission tomography (PET) using ^{18}F-2-deoxy-2-fluoro-glucose (FDG) showed abnormally high radioactivity in the Achilles tendons and adjacent regions[5]. Although CDCA treatment does not significantly reduce tendon xanthomas[10], a decrease in size has been reported in some subjects[71, 72].

Systemic Manifestations/Skeletal System Involvement

Osteoporosis and increased bone fractures are CTX-associated systemic manifestations. However, the underlying pathogenesis of osteoporosis in this condition is still unknown. Decreased levels of serum 25-hydroxyvitamin D were detected in CTX patients[73-75]. In contrast, however, Federico *et al.* reported that levels of 25-hydroxyvitamin D were substantially within the normal range[76], indicating that a deficiency in vitamin D metabolites may not be the only factor responsible for the development of osteoporosis in CTX[74]. An alternative hypothesis for explaining the cause of osteoporosis is impairment of intestinal calcium absorption due to changes in the quantity and composition of bile acids[76]. In general, osteoporosis has been considered to occur in the later stages of the disease[4, 9]. However, teenage CTX patients could have early osteoporosis and a history of bone fracture[77]. CDCA treatment has been shown to improve bone mineral density (BMD)[74, 76].

Skeletal deformities including kyphosis, pectus excavates, pes equinovarus, and pes cavus were found in CTX patients[77] and Ginanneschi *et al.* reported that pes cavus occurrence was not significantly different in groups with and without peripheral nerve abnormalities[78].

Systemic Manifestations/Cardiovascular System Involvement

Premature atherosclerosis and cardiovascular disease have been reported as systemic manifestations in CTX patients even in their thirties[79-82]. Myocardial infarction is a cause of premature death in this condition[82]. Kuriyama *et al.* reviewed 144 cases of CTX and reported that 15 patients (10.4%) had cardiovascular disease, consisting of coronary artery disease in ten patients, ischemic changes on electrocardiogram in four, and mitral valve insufficiency in one patient[79]. Coronary artery disease was evident in 8 of 40 CTX patients (20%) in a nationwide survey on CTX in Japan[9]. In this survey, the mean age at onset of coronary artery disease was 52.5. ± 5.8 years (mean ± standard deviation (SD))[9]. Duell *et al.* reported that 3 of 43 CTX patients (7%) had premature cardiovascular disease, consisting of myocardial infarction in two patients, and angina pectoris in one patient in the USA[8]. Abdominal aortic aneurysm, coronary artery dissection, aneurysmal coronary artery disease, advanced carotid atherosclerotic lesions, and thickening of the interatrial septum compatible with lipomatous hypertrophy have also been reported in CTX [81, 83-86].

Systemic Manifestations/Pulmonary Involvement

Elevated levels of cholestanol in bronchoalveolar lavage fluid as well as in serum have been reported in CTX patients without pulmonary symptoms, or radiological and pulmonary function abnormalities. Transbronchial lung biopsy specimens have revealed foamy macrophages and small granulomas in alveolar septa[87].

Neuropsychiatric Manifestations/Intellectual disability

Among CTX patients, 48–74% present with intellectual disability[2-4, 9], which is one of the most frequent neurological symptoms. It is particularly important to take developmental delays, mental retardation, and learning difficulties beginning in childhood into consideration for early diagnosis of CTX[2-4, 7, 9, 53]. Cognitive decline, presenting in adolescence or early adulthood, is also frequently observed[2, 3, 9]. Although a neuropsychological profile

of patients with CTX remains undetermined, a fronto-temporal dementia phenotype exhibiting behavioral and personality changes[88], extensive cerebral cortex symptoms including left-right disorientation, constructional apraxia, and temporal and spatial disorientation in addition to frontal lobe dysfunction[89], and a corticobasal syndrome phenotype[90] have been reported.

Neuropsychiatric Manifestations/Pyramidal and Cerebellar Signs

Pyramidal and/or cerebellar signs typically emerge in the third or fourth decade and lead to gait disturbance in CTX patients[2, 4, 9]. Pyramidal and cerebellar signs have been detected in 64–92% and 36–83% of patients with CTX, respectively[2-4, 9]. Pyramidal signs such as spasticity, hyperreflexia, and extensor plantar response can be cardinal clinical signs especially in patients with spinal form CTX[40-46]. Owing to dorsal column involvement, simultaneous occurrence of impaired position and vibration sensation in the lower extremities can lead to spastic-ataxic gait in this form[41, 45]. Mignarri *et al.* have reported the usefulness of transcranial magnetic stimulation in detecting corticospinal tract damage[91]. Cerebellar signs include nystagmus, ataxic dysarthria, as well as limb and truncal ataxia[69, 92-94]. Pyramidal signs frequently coexist with cerebellar signs[2, 3].

Neuropsychiatric Manifestations/Extrapyramidal Manifestations

CTX patients can present with a wide range of movement disorders including parkinsonism[90, 95, 96], dystonia[97-99], myoclonus[98, 100, 101], and postural tremor[100, 102]. When movement disorders are diagnosed, patients have a tendency to present with other CTX-associated systemic and neuropsychiatric manifestations[103]. Parkinsonism usually occurs later in life[7, 95, 103] and is the most frequently reported type of movement disorder in CTX, followed by dystonia, myoclonus, and postural tremor[103]. Parkinsonism seems to be a treatment-resistant feature in CTX[13], with CDCA treatment seemingly having no effect. In addition, CTX patients may develop parkinsonism during treatment with CDCA[103]. The effect of L-dopa is controversial[90, 95, 103-105]. In addition to the characteristic brain MRI findings of CTX, signal hyperintensities on T2-weighted images in the substantia nigra, globus pallidus, and striatum [90, 95, 96, 103] have been described and functional dopaminergic imaging has demonstrated a pre-synaptic dopaminergic deficit in CTX patients presenting with parkinsonism[90, 95, 96, 104, 105]. Although movement disorders are considered a late disease manifestation, Zubarioglu *et al.* reported that all six patients who were diagnosed before 18 years of age had intention tremor[77].

Neuropsychiatric Manifestations/Peripheral Nervous System Involvement

Peripheral neuropathy is an established clinical feature of CTX; however, it is still being debated whether the underlying pathogenesis of CTX-related polyneuropathy is demyelinating or axonal in origin. Based on the presence of onion bulbs, which are generally considered a hallmark of chronic demyelination, the pathological process has been interpreted as demyelinating[106, 107]. On the other hand, Verrips *et al.* reported that axonal degeneration was the predominant process on the basis of nerve conduction velocity (NCV) studies and sural nerve biopsy specimens showing features of axonal degeneration[108]. In addition to axonal polyneuropathy and demyelination polyneuropathy, a mixed type of neuropathy has been reported, indicating that CTX could exhibit any type of neuropathy[109]. CTX-related polyneuropathy seems to be predominantly motor neuropathy[78, 109]. Although neurophysiologically confirmed neuropathy frequently occurs in CTX, signs and symptoms related to polyneuropathy are often absent or difficult to appreciate because central nervous system involvement may dominate the clinical picture[4, 78, 109]. The disease severity of polyneuropathy varies greatly among patients, ranging from asymptomatic presentations to severe polyneuropathy[78, 109, 110]. Thickening of the nerve roots and trunks of the lumbosacral plexus or cauda equina has been reported[90, 111].

Neuropsychiatric Manifestations/Muscle Involvement

Controversy exists regarding whether muscle involvement is a characteristic feature in CTX. Federico *et al.* noted mild myopathic changes[112], while Verrips *et al.* reported that muscle biopsies demonstrated neurogenic changes without any definite myopathic characteristics[108]. The results for mitochondrial respiratory chain enzymatic activity are also controversial[108, 113]. Abnormal findings from ultrastructural studies of muscles include changes in the mitochondria and membranous system, and an increased amount of lipid droplets, lipofuscin, and glycogen; however, the significance of these findings remains to be determined[39, 108, 112].

Neuropsychiatric Manifestations/Epilepsy

In CTX, 10–33% of patients have epileptic seizures[2-4, 7, 9]. Epilepsy can develop at any stage in life and is often seen in the early phase of the disease[7].

Epilepsy could be a diagnostic cue in some cases[114-116]. A CTX patient presenting with infantile spasms has also been reported, but this is a rare case[117]. Electroencephalographic abnormalities are frequently observed in cases of CTX even without clinical signs of seizures[11, 118]. In addition to slow background activity composed of theta and delta waves, bursts of high voltage slow activity are frequently demonstrated. Spike and sharp wave complexes can also be detected[10, 11, 118]. CDCA treatment leads to improvement or normalization of electroencephalographic findings[10, 11, 60, 118], and epilepsy in CTX seems to respond well to anti-epileptic agents[12, 114-116, 119]. CDCA treatment could lead to improved seizure control[12, 60, 120], even in patients with drug-resistant epilepsy[121].

Neuropsychiatric Manifestations/Behavioral manifestations

Psychiatric and behavioral manifestations include personality changes with irritability and aggressivity, depression, delusional syndrome, catatonia, psychosis, attention-deficit hyperactivity disorder, oppositional-defiant disorder, and autism spectrum disorder[13, 122]. Behavioral disorders and affective/mood disorders associated with learning difficulties or mental retardation appearing during childhood or adolescence should lead to biochemical investigations to exclude CTX.

Radiological, Pathological, and Neurophysiological Examinations

Neuroimaging

The most distinctive neuroradiological findings are signal hyperintensities on T2-weighted and/or FLAIR images in the dentate nuclei and adjacent cerebellar white matter[123, 124]. Abnormal signal changes in the dentate nuclei can be more clearly detected on FLAIR images than on T2-weighted images[123]. It was found that abnormal hyperintensities on T2-weighted and/or FLAIR images could be detected in the globus pallidus, internal capsule, substantia nigra, cerebral peduncles, inferior olive, and periventricular white matter, with a tendency to spare the U-fibers and corpus callosum[125]. Supratentorial and/or infratentorial atrophy are also observed[123, 124, 126] **(Fig. 4)**. Cortical volume, rather than white matter volume, was correlated with clinical status and cortical atrophy could be detected in all neocortical regions, with a preference for the fronto-parietal cotrtex[126]. In addition, cerebellar vacuolation, which is detected as hypointense lesions on both T1-weighted and FLAIR images, has been recently indicated as a marker of a poor prognosis in CTX[127, 128], while absence of dentate nuclei signal alteration is considered an indicator of a better prognosis[128]. Furthermore, calcifications were detected in the dentate nuclei in a subgroup of patients[128] and the hot cross bun sign in the pons, a characteristic finding of multiple system atrophy, has been reported[69].

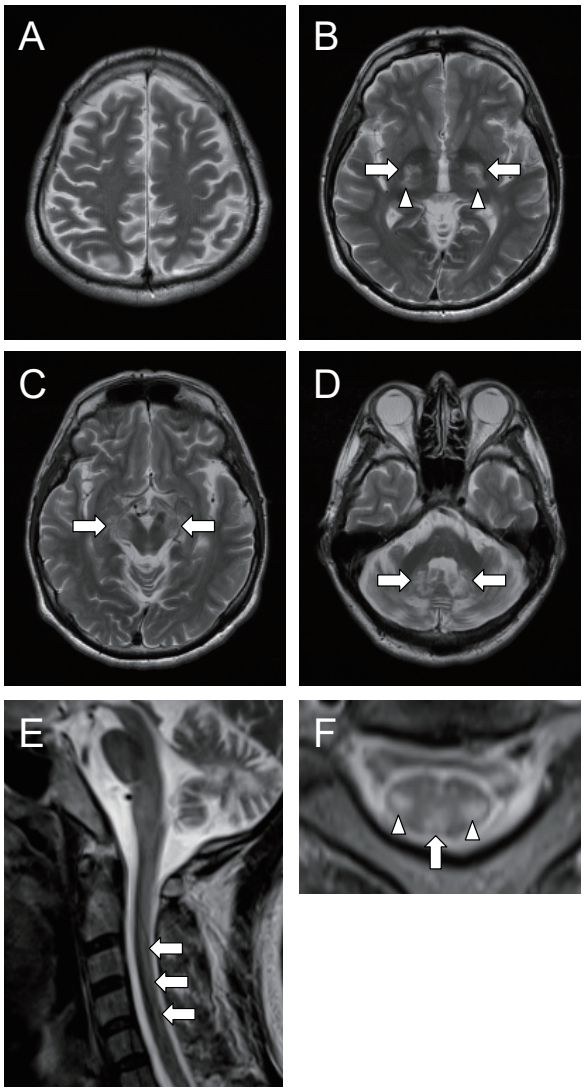


Fig. 4. Brain magnetic resonance imaging (MRI)

Axial T2-weighted images of the brain showing abnormal hyperintensities in the globus pallidus (arrows in B), internal capsules (arrowheads in B), cerebral peduncles (arrows in C), and dentate nuclei (arrows in D). Diffuse cerebral (A) and cerebellar (D) atrophy are evident. Sagittal T2-weighted image of the spinal cord exhibiting longitudinally extensive hyperintense lesions (arrows in E). Axial T2-weighted image at the C3 level showing involvement of lateral corticospinal tracts (arrowheads in F) and gracile tracts (arrow in F).

In patients with spinal cord involvement, a spinal cord MRI demonstrated longitudinally extensive

hyperintense lesions involving lateral corticospinal tracts and gracile tracts on T2-weighted images[40, 44-46]. It is noteworthy that absence of signal changes on spinal cord MRI cannot rule out the possibility of spinal form CTX[42, 43].

On magnetic resonance spectroscopy (MRS), decreases in N-acetylaspartate (NAA) intensities and increases in lactate signals point to axonal damage and brain mitochondrial dysfunction, respectively[123]. In addition to decreased NAA intensities, lipid peaks were evident on MRS using a short TE[129]. Increased levels of myo-inositol indicate gliosis and astrocytic proliferation[129, 130].

Cerebellar glucose hypometabolism in ^{18}F-2-deoxy-2-fluoro-glucose positron emission tomography (FDG-PET) and cerebellar hypoperfusion in single photon emission computed tomography (SPECT) with ^{99m}Tc-ethylcysteinate dimer (ECD) have been reported despite normal cerebellar morphology[88, 131, 132]. In addition to in the cerebellum, SPECT using ^{99m}Tc-ECD and ^{123}I-*N*-isopropyl-*p*-iodoamphetamine (^{123}I-IMP) revealed cerebral hypoperfusion, predominantly in the fronto-parietal lobes[88, 89, 132]. Gray matter atrophy patterns were correlated with hypoperfusion in SPECT using ^{99m}Tc- ECD[133].

Diffusion tensor imaging (DTI) revealed that fractional anisotropy (FA) reduction preceded structural alterations detected by voxel-based morphometry and correlated with cognitive function[133]. Widespread reductions of FA and decreased track-density were demonstrated[120, 134].

Neuropathology

At macroscopic examination, nonspecific brain and cerebellar atrophy and a yellowish soft tissue in the cerebellum, cerebrum, choroid plexus, cerebral peduncles, and globus pallidus were observed[135-138]. In the cerebral peduncles, cystic necrosis of the corticospinal tracts has been reported[139]. Microscopic examinations have revealed lipid crystal clefts, neuronal loss, demyelination, reactive astrocytosis, and foamy macrophages in the affected regions, especially in the dentate nucleus and surrounding area, as well as in the cerebrum, basal ganglia, brainstem, and, spinal cord[65, 124, 135-139]. In patients with spinal cord involvement, extensive symmetric loss of myelin and axons was detected particularly in the lateral corticospinal tracts and gracile tracts of the spinal cord[40].

Neurophysiological Examinations

In addition to NCV studies and electroencephalography, abnormalities have been found in neurophysiological examinations. The P100 peak latency of visual evoked potentials (VEPs) was delayed[109, 140, 141] and the Ⅰ to Ⅲ, Ⅲ to Ⅴ, and Ⅰ to Ⅴ interpeak latencies of brain stem evoked potentials (BAEPs) were prolonged[109, 140, 141]. Central conduction time in somatosensory evoked potentials (SSEPs)[109, 142] and motor evoked potentials (MEPs)[89, 91, 141] were increased, with lower extremity predominance.

Diagnosis

Importance of Early Diagnosis and Treatment

CTX is a treatable metabolic disorder; however, once significant neurological symptoms are established, clinical deterioration can occur despite normalization of cholestanol levels after treatment with CDCA[3]. Even with therapy, only 28% of the patients remained stable, whereas 60% continued to deteriorate and 20% died, in a cohort of 25 patients with CTX in Spain[3]. Duell *et al.* reported that clinical deterioration during follow up was observed in patients who had significant neurological symptoms when they were diagnosed at the age of 25 years or older[8]. Yahalom *et al.* and Stelten *et al.* have shown that the age of diagnosis and initiation of CDCA treatment correlates with the prognosis of patients with CTX[12, 13]. Berginer *et al.* reported two siblings with CTX who began CDCA treatment from 2 and 7 years of age, respectively, and did not develop any neurological manifestations during a 14-year follow-up period[142]. These findings strongly suggest that early diagnosis and treatment are crucial in CTX. However, retrospective cohort studies on CTX have revealed a substantial diagnostic delay of 15–25 years[2-4, 9].

Juvenile cataracts are usually the earliest clinical sign that precedes tendon xanthomas and neurological symptoms. Cruysberg *et al.* emphasized that the combination of juvenile cataracts and chronic diarrhea is noteworthy in the early diagnosis of CTX[143]. It is recommended that all patients with cataracts before the age of 30 years are screened for CTX, especially if they also have CTX-related conditions such as chronic diarrhea, tendon xanthomas, and/or neuropsychiatric symptoms[8]. Verrips *et al.* emphasized that presence of tendon xanthomas is not obligatory for a diagnosis of CTX and recommended that presence of two of the four clinical features of premature cataracts, intractable diarrhea, progressive neurological signs and symptoms, and tendon xanthomas prompt thorough biochemical screening for CTX[68]. It is also important to consider intellectual disability, usually presenting at school age, for early diagnosis of CTX[4]. In addition, because affected relatives may be asymptomatic, biochemical examination of all siblings of a patient with CTX is recommended[2, 4].

Table 1. Diagnostic criteria for cerebrotendinous xanthomatosis (Sekijima *et al.*[9])

A. Symptoms
1. Tendon xanthoma
2. Progressive neurological dysfunction[a] or mental retardation
3. Juvenile cataract
4. Juvenile coronary artery disease
5. Chronic unexplained diarrhea
6. Juvenile osteoporosis
7. Prolonged neonatal cholestasis
B. Biochemical finding
Elevated serum cholestanol level
C. Genetic testing
Pathogenic mutation in *CYP27A1* gene (homozygosity or compound heterozygosity)
D. Differential diagnosis
Increased serum cholestanol level due to following diseases should be excluded
· Familial hypercholesterolemia
· Sitosterolemia
· Obstructive biliary tract disease
· Hypothyroidism
Diagnostic category
Definite: At least one of symptom in A and B+C+D
Probable: At least one of symptom in A and B+D
Possible: At least one of symptom in A and B

[a] Representative progressive neurological dysfunction includes cognitive dysfunction, cerebellar symptoms, pyramidal symptoms, extrapyramidal symptoms, seizure, peripheral neuropathy, and sensory disturbance attributed to spinal cord.

To identify and treat CTX patients at an initial stage of the disease, Mignarri *et al.* created a suspicion index and developed a diagnostic algorithm for early diagnosis of CTX[4]. Their suspicion index comprised weighted scores assigned to indicators such as family history characteristics and common systemic and neurological symptoms. They suggested that their proposed algorithm would be useful for early diagnosis, even in patients before the onset of disabling neurological symptoms including ataxia, spasticity, and psychiatric disturbances[4].

Diagnostic Criteria

In the absence of generally accepted diagnostic criteria for CTX, we recently proposed new diagnostic criteria with emphasis on early diagnosis **(Table 1)**[9]. They include clinical symptoms, biochemical findings, genetic analysis, and differential diagnosis. We established three diagnostic categories in accordance with levels of certainty: definite, probable, and possible CTX. The diagnosis of possible CTX is made when there is at least one CTX-related clinical symptom and elevated levels of serum cholestanol (≥ 4.5 μg/mL, mean ± SD: 2.35 ± 0.73 μg/mL). Excluding other conditions with elevated levels of cholestanol is necessary for diagnosis of probable CTX. A definite diagnosis of CTX is confirmed by the presence of biallelic mutations in the *CYP27A1* gene.

Differential Diagnosis

Differential diagnosis of CTX differs substantially according to presenting symptoms. Inborn errors of bile acid metabolism including CTX lead to neonatal cholestasis or hepatitis[144, 145], which can be the first manifestation in this disease. In patients with juvenile bilateral cataracts and/or progressive mental deterioration, CTX should be considered[2, 57]. When xanthomas are evident, differential diagnosis includes familial hypercholesterolemia (FH) and sitosterolemia. FH is characterized by elevated levels of LDL cholesterol, the presence of tendon xanthomas, and premature coronary artery disease, and mutations in *LDLR*, *APOB*, and *PCSK9* have been reported to cause FH[146]. Sitosterolemia is an autosomal recessive sterol storage disorder characterized by elevated levels of LDL cholesterol and plant sterols such as sitosterol and campesterol, tendinous and tuberous xanthomas, and premature atherosclerosis. It is caused by biallelic mutations in either *ABCG5* or *ABCG8*[147]. The presence of juvenile cataracts, chronic unexplained diarrhea, and progressive neuropsychiatric manifestations can distinguish CTX from these two disorders. Other

conditions with elevated levels of cholestanol include obstructive biliary tract diseases and hypothyroidism. In patients with cerebellar ataxia, CTX patients might be misdiagnosed as spinocerebellar atrophy, multiple system atrophy, or Marinesco-Sjögren syndrome[68]. CTX should be included in the differential diagnosis of spastic paraplegia[42, 44].

Clinical Management

CDCA has been approved as first-line treatment for CTX. In a landmark study published in 1984, Berginer *et al.* demonstrated the long-term efficacy of oral CDCA treatment[10]. In addition to a decrease in serum cholestanol and elimination of abnormal urinary and biliary excretion of bile alcohols, CDCA treatment led to an improvement in electroencephalographic findings and neurological manifestations including intellectual impairment, pyramidal and cerebellar signs, and peripheral neuropathy[10, 11]. CDCA treatment is recommended at a dose of 750 mg/day for adults and 15 mg/kg/day for children in three divided oral doses[10, 11]. It has been shown to result in a gradual decline in serum cholestanol during the first 2 years[148, 149]. Assessment of cholestanol levels may be useful in monitoring patient adherence to treatment. However, it should be noted that a decreased level of cholestanol does not necessarily suggest a good prognosis[3]. In Japan, CDCA has been approved for dissolution of gallstones, but not for the treatment of CTX.

Although CDCA is a relatively safe drug, gastrointestinal manifestations and drug-induced liver damage may occur[44, 60, 150]. Huidekoper *et al.* reported an infantile patient with CTX who developed jaundice with hepatomegaly within 6 weeks after initiating CDCA administration at a dosage of 15mg/kg/day[151]. After treatment with CDCA was stopped, liver size and function rapidly normalized. CDCA supplementation was then restarted and maintained at 5 mg/kg/day with no further evidence of liver dysfunction and adequate metabolic control. Duell *et al.* reported that 9% of patients required dose adjustment for CDCA owing to moderate drug-induced liver damage[8]. These findings suggest that clinical and laboratory monitoring and dosage adjustment for CDCA are essential in the treatment of CTX, especially in infants and young children[8, 151].

CDCA was initially preferred to cholic acid because it was more effective in reducing cholesterol 7α-hydroxylase and had a stronger negative feedback effect on it[127, 152]. Cholic acid has been shown to be effective in the treatment of other genetic defects in bile acid synthesis[153]. Since CDCA is intrinsically hepatotoxic, cholic acid is considered the safer option in CTX, especially in infancy[49]. Mandia *et al.* reported potential efficacy for cholic acid in adult patients with CTX, including individuals whose CDCA treatment was discontinued due to supply difficulties[127]. Treatment with cholic acid not only significantly reduced cholestanol levels in all patients but also led to improvement or stabilization of systemic and/or neurological manifestations[127]. No adverse effects were reported in patients undergoing cholic acid treatment, suggesting that cholic acid may be a suitable alternative treatment, especially in patients with adverse effects related to CDCA, such as drug-induced liver damage[60, 127].

Treatment with ursodeoxycholic acid, which does not inhibit cholesterol 7α-hydroxylase, has been shown to be ineffective[10, 154]. When ursodeoxycholic acid was substituted for CDCA, plasma cholestanol returned to pretreatment levels[10].

The effectiveness of 3-hydroxy-3-methylglutaryl (HMG)-CoA reductase inhibitors (statins) remains controversial. Lewis *et al.* reported that mevinolin normalized serum cholestanol and reduced the size of xanthomas[155], whereas Batta *et al.* found that lovastatin did not affect abnormal bile acid synthesis or reduce plasma cholestanol levels[154]. Although synergistic effects of combination therapy with CDCA and HMG-CoA reductase inhibitors on serum cholestanol or urine bile alcohols have been observed[71, 81, 149], absence of an additive effect has also been reported[148]. After switching from combined therapy of CDCA and HMG-CoA reductase inhibitors to HMG-CoA reductase inhibitor monotherapy, clinical symptoms such as xanthomas and neurological manifestations, and electroencephalographic findings were re-exacerbated with reappearance of abnormal bile alcohol excretion or elevated plasma cholestanol [71, 156]. Therefore, HMG-CoA reductase inhibitors could be beneficial when combined with CDCA, but long-term clinical benefits should be proven.

Low-density lipoprotein (LDL) is a major carrier of serum cholestanol. LDL-apheresis, usually combined with CDCA and HMG-CoA reductase inhibitors, has been performed to reduce serum cholestanol[157-160] Levels of serum cholestanol or 7α -hydroxy-4-cholesten-3-one decreased after each LDL-apheresis, but returned to their initial levels within 1–2 weeks[159, 161], suggesting that LDL-apheresis at a frequency of at least once every 2 weeks is necessary. The effects of LDL-apheresis on clinical manifestations are still controversial despite the decrease in cholestanol. In addition, the invasiveness of this procedure and its necessity for the long-term management of the disease should be taken into

account[161].

Symptomatic treatments for epilepsy[115, 120], psychiatric manifestations[122], and movement disorders such as dystonia[97, 98] and parkinsonism[90, 95] should be considered. Cataract extraction is also usually required[57].

After treatment with CDCA, improvements in neurophysiological examinations including NCV studies[78], VEP[72, 78], SSEP[72], MEP[72, 91], and EEG[10, 11] have been reported. Besides conventional MRI, DTI and tractography, MRS, and SPECT imaging might have potential as neuroimaging modalities for monitoring treatment response[120, 132-134, 162, 163].

Conclusions and Perspectives

CTX is considered a rare inherited metabolic disorder. However, it may be under- or misdiagnosed, although effective treatment is available. There is a crucial "point of no return" in CTX, after which treatment initiation can no longer prevent the progression of the disease[12]. The earlier the diagnosis is made and the sooner treatment is started, the more likely it is that the significant neurological manifestations that diminish the quality of life of patients with CTX can be improved or even prevented. Neonatal jaundice, chronic unexplained diarrhea, developmental delays, mental retardation, and learning difficulties are non-specific symptoms, but they could be diagnostic cues for pediatricians. Ophthalmologists have an opportunity to diagnose CTX, because bilateral cataracts are one of the earliest clinical symptoms and juvenile-onset bilateral cataracts could be useful as a screening marker for CTX[57]. Furthermore, it could be beneficial to screen newborns for CTX in the future[164].

Acknowledgments and Notice of Grant Support

This work has been supported by Health, Labour and Welfare Sciences Research Grant for Research on Rare and Intractable Diseases (H30-nanji-ippan-003).

Conflicts of Interest

Atsushi Nohara has nothing to disclose. Hayato Tada has nothing to disclose. Masatsune Ogura has received honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc. Sachiko Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Koh Ono has nothing to disclose. Hitoshi Shimano has nothing to disclose. Hiroyuki Daida has received honoraria from Amgen Inc., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Kowa Co., Ltd., and MSD K.K., Novartis Pharma K.K., Bayer Yakuhin, Ltd. and received clinical research funding from Canon Medical Systems Corporation, Philips Japan, Ltd., Toho Holdings Co., Ltd., Asahi Kasei Corporation, and Inter Reha Co., Ltd. HD has also received scholarship grants from Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Sanofi K.K., MSD K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Pfizer Co., Ltd., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Astellas Pharma Inc., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi & Co., Ltd., Actelion Pharmaceuticals, Ltd., Actelion Ltd., Kowa Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. HD has also courses endowed by companies, including Philips Japan, Ltd., ResMed, Fukuda Denshi Co., Ltd., and Paramount Bed Co., Ltd. Kazushige Dobashi has nothing to disclose. Toshio Hayashi has nothing to disclose. Mika Hori has nothing to disclose. Kota Matsuki has nothing to disclose. Tetsuo Minamino has nothing to disclose. Shinji Yokoyama has nothing to disclose. Mariko Harada-Shiba has received stock holdings or options from Liid Pharma, honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc., Sanofi, and scholarship grants from Aegerion Pharmaceuticals, Inc., Recordati Rare Diseases Japan, and Kaneka Corporation. Katsunori Ikewaki has nothing to disclose. Yasushi Ishigaki has nothing to disclose. Shun Ishibashi has received honoraria from Kowa Co., Ltd., and a scholarship grant from Ono Pharmaceutical Co., Ltd. Kyoko Inagaki has nothing to disclose. Hirotoshi Ohmura has nothing to disclose. Hiroaki Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Masa-aki Kawashiri has nothing to disclose. Masayuki Kuroda has nothing to disclose. Masahiro Koseki has received clinical research funding from Kowa Company, Ltd., Rohto Pharmaceutical Co., Ltd. Takanari Gotoda has nothing to disclose. Shingo Koyama has nothing to disclose. Yoshiki Sekijima has nothing to disclose. Manabu Takahashi has nothing to disclose. Yasuo Takeuchi has nothing to disclose. Misa Takegami has nothing to disclose. Kazuhisa Tsukamoto has received honoraria from Bayer Yakuhin, Ltd., MSD Ltd., Takeda Pharmaceutical Company Ltd., and scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation., Bayer Yakuhin, Ltd., Sanofi K.K. Atsuko Nakatsuka has nothing to disclose. Kimitoshi Nakamura has nothing to disclose. Satoshi Hirayama has nothing to disclose. Hideaki Bujo has nothing to disclose. Daisaku Masuda has received clinical research funding from MSD K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Co., Ltd. Takashi Miida has nothing to disclose. Yoshihiro

Miyamoto has nothing to disclose. Takeyoshi Murano has nothing to disclose. Takashi Yamaguchi has nothing to disclose. Shizuya Yamashita has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K. Masashi Yamamoto has nothing to disclose. Koutaro Yokote has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K., Astellas Pharma Inc., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Amgen K.K., Takeda Pharmaceutical Company Limited, Sanofi K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., AstraZeneca K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Novartis Pharma K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Kyowa Kirin Co., Ltd., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Janssen Pharmaceutical K.K., and received clinical research funding from Taisho Pharmaceutical Co., Ltd. KY has also received scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., MSD K.K., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Kao Corporation, Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. Jun Wada has nothing to disclose.

References

1) Cali JJ, Hsieh CL, Francke U, Russell DW: Mutations in the bile acid biosynthetic enzyme sterol 27-hydroxylase underlie cerebrotendinous xanthomatosis. J Biol Chem, 1991; 266: 7779-7783
2) Verrips A, Hoefsloot LH, Steenbergen GC, Theelen JP, Wevers RA, Gabreëls FJ, van Engelen BG, van den Heuvel LP: Clinical and molecular genetic characteristics of patients with cerebrotendinous xanthomatosis. Brain, 2000; 123: 908-919
3) Pilo-de-la-Fuente B, Jimenez-Escrig A, Lorenzo JR, Pardo J, Arias M, Ares-Luque A, Duarte J, Muñiz-Pérez S, Sobrido MJ: Cerebrotendinous xanthomatosis in Spain: clinical, prognostic, and genetic survey. Eur J Neurol, 2011; 18: 1203-1211
4) Mignarri A, Gallus GN, Dotti MT, Federico A: A suspicion index for early diagnosis and treatment of cerebrotendinous xanthomatosis. J Inherit Metab Dis, 2014; 37: 421-429
5) Nie S, Chen G, Cao X, Zhang Y: Cerebrotendinous xanthomatosis: a comprehensive review of pathogenesis, clinical manifestations, diagnosis, and management. Orphanet J Rare Dis, 2014; 9: 179
6) Salen G, Steiner RD: Epidemiology, diagnosis, and treatment of cerebrotendinous xanthomatosis (CTX). J Inherit Metab Dis, 2017; 40: 771-781
7) Wong JC, Walsh K, Hayden D, Eichler FS: Natural history of neurological abnormalities in cerebrotendinous xanthomatosis. J Inherit Metab Dis, 2018; 41: 647-656
8) Duell PB, Salen G, Eichler FS, DeBarber AE, Connor SL, Casaday L, Jayadev S, Kisanuki Y, Lekprasert P, Malloy MJ, Ramdhani RA, Ziajka PE, Quinn JF, Su KG, Geller AS, Diffenderfer MR, Schaefer EJ: Diagnosis, treatment, and clinical outcomes in 43 cases with cerebrotendinous xanthomatosis. J Clin Lipidol, 2018; 12: 1169-1178
9) Sekijima Y, Koyama S, Yoshinaga T, Koinuma M, Inaba Y: Nationwide survey on cerebrotendinous xanthomatosis in Japan. J Hum Genet, 2018; 63: 271-280
10) Berginer VM, Salen G, Shefer S: Long-term treatment of cerebrotendinous xanthomatosis with chenodeoxycholic acid. N Engl J Med, 1984; 311: 1649-1652
11) van Heijst AF, Verrips A, Wevers RA, Cruysberg JR, Renier WO, Tolboom JJ: Treatment and follow-up of children with cerebrotendinous xanthomatosis. Eur J Pediatr, 1998; 157: 313-316
12) Yahalom G, Tsabari R, Molshatzki N, Ephraty L, Cohen H, Hassin-Baer S: Neurological outcome in cerebrotendinous xanthomatosis treated with chenodeoxycholic acid: early versus late diagnosis. Clin Neuropharmacol, 2013; 36: 78-83
13) Stelten BML, Huidekoper HH, van de Warrenburg BPC, Brilstra EH, Hollak CEM, Haak HR, Kluijtmans LAJ, Wevers RA, Verrips A: Long-term treatment effect in cerebrotendinous xanthomatosis depends on age at treatment start. Neurology, 2019; 92: e83-e95
14) DeBarber AE, Luo J, Star-Weinstock M, Purkayastha S, Geraghty MT, Chiang JP, Merkens LS, Pappu AS, Steiner RD: A blood test for cerebrotendinous xanthomatosis with potential for disease detection in newborns. J Lipid Res, 2014; 55: 146-154
15) Salen G: Cholestanol deposition in cerebrotendinous xanthomatosis. A possible mechanism. Ann Intern Med, 1971; 75: 843-851
16) Björkhem I, Skrede S, Buchmann MS, East C, Grundy S: Accumulation of 7 alpha-hydroxy-4-cholesten-3-one and cholesta-4,6-dien-3-one in patients with cerebrotendinous xanthomatosis: effect of treatment with chenodeoxycholic acid. Hepatology, 1987; 7: 266-271
17) Bhattacharyya AK, Lin DS, Connor WE: Cholestanol metabolism in patients with cerebrotendinous xanthomatosis: absorption, turnover, and tissue deposition. J Lipid Res, 2007; 48: 185-192
18) DeBarber AE, Connor WE, Pappu AS, Merkens LS, Steiner RD: ESI-MS/MS quantification of 7alpha-hydroxy-4-cholesten-3-one facilitates rapid, convenient diagnostic testing for cerebrotendinous xanthomatosis. Clin Chim Acta, 2010; 41: 43-48
19) DeBarber AE, Luo J, Giugliani R, Souza CF, Chiang JP, Merkens LS, Pappu AS, Steiner RD: A useful multi-analyte blood test for cerebrotendinous xanthomatosis. Clin Biochem, 2014; 47: 860-863
20) Menkes JH, Schimschock JR, Swanson PD: Cerebrotendinous xanthomatosis. The storage of cholestanol within the nervous system. Arch Neurol, 1968; 19: 47-53
21) Panzenboeck U, Andersson U, Hansson M, Sattler W,

Meaney S, Björkhem I: On the mechanism of cerebral accumulation of cholestanol in patients with cerebrotendinous xanthomatosis. J Lipid Res, 2007; 48: 1167-1174
22) Båvner A, Shafaati M, Hansson M, Olin M, Shpitzen S, Meiner V, Leitersdorf E, Björkhem I: On the mechanism of accumulation of cholestanol in the brain of mice with a disruption of sterol 27-hydroxylase. J Lipid Res, 2010; 51: 2722-2730
23) Salen G, Berginer V, Shore V, Horak I, Horak E, Tint GS, Shefer S: Increased concentrations of cholestanol and apolipoprotein B in the cerebrospinal fluid of patients with cerebrotendinous xanthomatosis. Effect of chenodeoxycholic acid. N Engl J Med, 1987; 316: 1233-1238
24) Batta AK, Salen G, Shefer S, Tint GS, Batta M: Increased plasma bile alcohol glucuronides in patients with cerebrotendinous xanthomatosis: effect of chenodeoxycholic acid. J Lipid Res, 1987; 28: 1006-1012
25) Mast N, Anderson KW, Lin JB, Li Y, Turko IV, Tatsuoka C, Bjorkhem I, Pikuleva IA: Cytochrome P450 27A1 Deficiency and Regional Differences in Brain Sterol Metabolism Cause Preferential Cholestanol Accumulation in the Cerebellum. J Biol Chem, 2017; 292: 4913-4924
26) Babiker A, Andersson O, Lund E, Xiu RJ, Deeb S, Reshef A, Leitersdorf E, Diczfalusy U, Björkhem I: Elimination of cholesterol in macrophages and endothelial cells by the sterol 27-hydroxylase mechanism. Comparison with high density lipoprotein-mediated reverse cholesterol transport. J Biol Chem, 1997; 272: 26253-26261
27) von Bahr S, Movin T, Papadogiannakis N, Pikuleva I, Rönnow P, Diczfalusy U, Björkhem I: Mechanism of accumulation of cholesterol and cholestanol in tendons and the role of sterol 27-hydroxylase (CYP27A1). Arterioscler Thromb Vasc Biol, 2002; 22: 1129-1135
28) Björkhem I, Andersson O, Diczfalusy U, Sevastik B, Xiu RJ, Duan C, Lund E: Atherosclerosis and sterol 27-hydroxylase: evidence for a role of this enzyme in elimination of cholesterol from human macrophages. Proc Natl Acad Sci U S A, 1994; 91: 8592-8596
29) Fu X, Menke JG, Chen Y, Zhou G, MacNaul KL, Wright SD, Sparrow CP, Lund EG: 27-Hydroxycholesterol Is an Endogenous Ligand for Liver X Receptor in Cholesterol-loaded Cells. J Biol Chem, 2001; 276: 38378-38387
30) Tall AR, Costet P, Wang N: Regulation and mechanisms of macrophage cholesterol efflux. J Clin Invest, 2002; 110: 899-904
31) Marengo B, Bellora F, Ricciarelli R, De Ciucis C, Furfaro A, Leardi R, Colla R, Pacini D, Traverso N, Moretta A, Pronzato MA, Bottino C, Domenicotti C: Oxysterol mixture and, in particular, 27-hydroxycholesterol drive M2 polarization of human macrophages. Biofactors, 2016; 42: 80-92
32) Lorincz MT, Rainier S, Thomas D, Fink JK: Cerebrotendinous xanthomatosis: possible higher prevalence than previously recognized. Arch Neurol, 2005; 62: 1459-1463
33) Appadurai V, DeBarber A, Chiang PW, Patel SB, Steiner RD, Tyler C, Bonnen PE: Apparent underdiagnosis of Cerebrotendinous Xanthomatosis revealed by analysis of ~60,000 human exomes. Mol Genet Metab, 2015; 116: 298-304
34) Berginer VM, Abeliovich D: Genetics of cerebrotendinous xanthomatosis (CTX): an autosomal recessive trait with high gene frequency in Sephardim of Moroccan origin. Am J Med Genet, 1981; 10: 151-157
35) Falik-Zaccai TC, Kfir N, Frenkel P, Cohen C, Tanus M, Mandel H, Shihab S, Morkos S, Aaref S, Summar ML, Khayat M: Population screening in a Druze community: the challenge and the reward. Genet Med, 2008; 10: 903-909
36) Cali JJ, Russell DW: Characterization of human sterol 27-hydroxylase. A mitochondrial cytochrome P-450 that catalyzes multiple oxidation reaction in bile acid biosynthesis. J Biol Chem, 1991; 266: 7774-7778
37) Leitersdorf E, Reshef A, Meiner V, Levitzki R, Schwartz SP, Dann EJ, Berkman N, Cali JJ, Klapholz L, Berginer VM: Frameshift and splice-junction mutations in the sterol 27-hydroxylase gene cause cerebrotendinous xanthomatosis in Jews or Moroccan origin. J Clin Invest, 1993; 91: 2488-2496
38) Gallus GN, Dotti MT, Federico A: Clinical and molecular diagnosis of cerebrotendinous xanthomatosis with a review of the mutations in the CYP27A1 gene. Neurol Sci, 2006; 27: 143-149
39) Chen SF, Tsai NW, Chang CC, Lu CH, Huang CR, Chuang YC, Chang WN: Neuromuscular abnormality and autonomic dysfunction in patients with cerebrotendinous xanthomatosis. BMC Neurol, 2011; 11: 63
40) Verrips A, Nijeholt GJ, Barkhof F, Van Engelen BG, Wesseling P, Luyten JA, Wevers RA, Stam J, Wokke JH, van den Heuvel LP, Keyser A, Gabreëls FJ: Spinal xanthomatosis: a variant of cerebrotendinous xanthomatosis. Brain, 1999; 122: 1589-1595
41) Bartholdi D, Zumsteg D, Verrips A, Wevers RA, Sistermans E, Hess K, Jung HH: Spinal phenotype of cerebrotendinous xanthomatosis--a pitfall in the diagnosis of multiple sclerosis. J Neurol, 2004; 251: 105-107
42) Nicholls Z, Hobson E, Martindale J, Shaw PJ: Diagnosis of spinal xanthomatosis by next-generation sequencing: identifying a rare, treatable mimic of hereditary spastic paraparesis. Pract Neurol, 2015; 15: 280-283
43) Saute JA, Giugliani R, Merkens LS, Chiang JP, DeBarber AE, de Souza CF: Look carefully to the heels! A potentially treatable cause of spastic paraplegia. J Inherit Metab Dis, 2015; 38: 363-364
44) Abe R, Sekijima Y, Kinoshita T, Yoshinaga T, Koyama S, Kato T, Ikeda SI: Spinal form cerebrotendinous xanthomatosis patient with long spinal cord lesion. J Spinal Cord Med, 2016; 39: 726-729
45) Yanagihashi M, Kano O, Terashima T, Kawase Y, Hanashiro S, Sawada M, Ishikawa Y, Shiraga N, Ikeda K, Iwasaki Y: Late-onset spinal form xanthomatosis without brain lesion: a case report. BMC Neurol, 2016; 16: 21
46) Mutlu D, Tuncer A, Gocmen R, Yalcin-Cakmakli G, Saygı S, Elibol B: Diagnostic challenge: A case of late-

onset spinal form cerebrotendinous xanthomatosis. Neurology, 2019; 92: 438-439
47) Clayton PT, Verrips A, Sistermans E, Mann A, Mieli-Vergani G, Wevers R: Mutations in the sterol 27-hydroxylase gene (CYP27A) cause hepatitis of infancy as well as cerebrotendinous xanthomatosis. J Inherit Metab Dis, 2002; 25: 501-513
48) von Bahr S, Björkhem I, Van't Hooft F, Alvelius G, Nemeth A, Sjövall J, Fischler B: Mutation in the sterol 27-hydroxylase gene associated with fatal cholestasis in infancy. J Pediatr Gastroenterol Nutr, 2005; 40: 481-486
49) Pierre G, Setchell K, Blyth J, Preece MA, Chakrapani A, McKiernan P: Prospective treatment of cerebrotendinous xanthomatosis with cholic acid therapy. J Inherit Metab Dis, 2008; 31: S241-245
50) Gong JY, Setchell KDR, Zhao J, Zhang W, Wolfe B, Lu Y, Lackner K, Knisely AS, Wang NL, Hao CZ, Zhang MH, Wang JS: Severe Neonatal Cholestasis in Cerebrotendinous Xanthomatosis: Genetics, Immunostaining, Mass Spectrometry. J Pediatr Gastroenterol Nutr, 2017; 65: 561-568
51) Sundaram SS, Bove KE, Lovell MA, Sokol RJ: Mechanisms of disease: Inborn errors of bile acid synthesis. Nat Clin Pract Gastroenterol Hepatol, 2008; 5: 456-468
52) Edwards PA, Kast HR, Anisfeld AM: BAREing it all: the adoption of LXR and FXR and their roles in lipid homeostasis. J Lipid Res, 2002; 43: 2-12
53) Degos B, Nadjar Y, Amador Mdel M, Lamari F, Sedel F, Roze E, Couvert P, Mochel F: Natural history of cerebrotendinous xanthomatosis: a paediatric disease diagnosed in adulthood. Orphanet J Rare Dis, 2016; 11: 41
54) van Heijst AF, Wevers RA, Tangerman A, Cruysberg JR, Renier WO, Tolboom JJ: Chronic diarrhoea as a dominating symptom in two children with cerebrotendinous xanthomatosis. Acta Paediatr, 1996; 85: 932-936
55) McKenna P, Morgan SJ, Bosanquet RC, Laker MF: A case of cerebrotendinous xanthomatosis. II: The sterol content of a cataractous lens. Br J Ophthalmol, 1990; 74: 629-630
56) Tibrewal S, Duell PB, DeBarber AE, Loh AR: Cerebrotendinous xanthomatosis: early diagnosis on the basis of juvenile cataracts. J AAPOS, 2017; 21: 505-507
57) Freedman SF, Brennand C, Chiang J, DeBarber A, Del Monte MA, Duell PB, Fiorito J, Marshall R: Prevalence of Cerebrotendinous Xanthomatosis Among Patients Diagnosed With Acquired Juvenile-Onset Idiopathic Bilateral Cataracts. JAMA Ophthalmol, 2019; Epub ahead of print
58) Dotti MT, Rufa A, Federico A: Cerebrotendinous xanthomatosis: heterogeneity of clinical phenotype with evidence of previously undescribed ophthalmological findings. J Inherit Metab Dis, 2001; 24: 696-706
59) Miyamoto M, Ishii N, Mochizuki H, Shiomi K, Kaida T, Chuman H, Nakazato M: Optic Neuropathy with Features Suggestive of Optic Neuritis in Cerebrotendinous Xanthomatosis. Case Rep Neurol Med, 2019; 2019: 2576826
60) Waterreus RJ, Koopman BJ, Wolthers BG, Oosterhuis HJ: Cerebrotendinous xanthomatosis (CTX): a clinical survey of the patient population in The Netherlands. Clin Neurol Neurosurg, 1987; 89: 169-175
61) Dotti MT, Salen G, Federico A: Cerebrotendinous xanthomatosis as a multisystem disease mimicking premature ageing. Dev Neurosci, 1991; 13: 371-376
62) Tian D, Zhang ZQ: 2 Novel deletions of the sterol 27-hydroxylase gene in a Chinese Family with Cerebrotendinous Xanthomatosis. BMC Neurol, 2011; 11: 130
63) Varman KM, Dunbar K, Usifo K, Stevens CA: Cerebrotendinous Xanthomatosis: A Treatable Genetic Disease Not to Be Missed. J Clin Rheumatol, 2016; 22: 92-93
64) Koopal C, Visseren FL, Marais AD, Westerink J, Spiering W: Tendon xanthomas: Not always familial hypercholesterolemia. J Clin Lipidol, 2016; 10: 1262-1265
65) Sperhake JP, Matschke J, Orth U, Gal A, Püschel K: Sudden death due to cerebrotendinous xanthomatosis confirmed by mutation analysis. Int J Legal Med, 2000; 113: 110-113
66) Vanrietvelde F, Lemmerling M, Mespreuve M, Crevits L, De Reuck J, Kunnen M: MRI of the brain in cerebrotendinous xanthomatosis (van Bogaert-Scherer-Epstein disease). Eur Radiol, 2000; 10: 576-578
67) Brienza M, Fiermonte G, Cambieri C, Mignarri A, Dotti MT, Fiorelli M: Enlarging brain xanthomas in a patient with cerebrotendinous xanthomatosis. J Inherit Metab Dis, 2015; 38: 981-982
68) Verrips A, van Engelen BG, Wevers RA, van Gee Mondelli l BM, Cruysberg JR, van den Heuvel LP, Keyser A, Gabreëls FJ: Presence of diarrhea and absence of tendon xanthomas in patients with cerebrotendinous xanthomatosis. Arch Neurol, 2000; 57: 520-524
69) Jain RS, Sannegowda RB, Agrawal A, Hemrajani D, Jain R, Mathur T: 'Hot cross bun' sign in a case of cerebrotendinous xanthomatosis: a rare neuroimaging observation. BMJ Case Rep, 2013; doi: 10.1136/bcr-2012-006641
70) Okada J, Oonishi H, Tamada H, Kizaki T, Yasumi K, Matuo T: Gallium uptake in cerebrotendinous xanthomatosis. Eur J Nucl Med, 1995; 22: 1069-1072
71) Nakamura T, Matsuzawa Y, Takemura K, Kubo M, Miki H, Tarui S: Combined treatment with chenodeoxycholic acid and pravastatin improves plasma cholestanol levels associated with marked regression of tendon xanthomas in cerebrotendinous xanthomatosis. Metabolism, 1991; 40: 741-746
72) Mondelli M, Sicurelli F, Scarpini C, Dotti MT, Federico A: Cerebrotendinous xanthomatosis: 11-year treatment with chenodeoxycholic acid in five patients. An electrophysiological study. J Neurol Sci, 2001; 190: 29-33
73) Berginer VM, Shany S, Alkalay D, Berginer J, Dekel S, Salen G, Tint GS, Gazit D: Osteoporosis and increased bone fractures in cerebrotendinous xanthomatosis. Metabolism, 1993; 42: 69-74
74) Martini G, Mignarri A, Ruvio M, Valenti R, Franci B, Del Puppo M, Federico A, Nuti R, Dotti MT: Long-term bone density evaluation in cerebrotendinous

xanthomatosis: evidence of improvement after chenodeoxycholic acid treatment. Calcif Tissue Int, 2013; 92: 282-286
75) Zübarioğlu T, Bilen İP, Kıykım E, Doğan BB, Enver EÖ, Cansever MŞ, Zeybek AÇA: Evaluation of the effect of chenodeoxycholic acid treatment on skeletal system findings in patients with cerebrotendinous xanthomatosis. Turk Pediatri Ars, 2019; 54: 113-118
76) Federico A, Dotti MT, Loré F, Nuti R: Cerebrotendinous xanthomatosis: pathophysiological study on bone metabolism. J Neurol Sci, 1993; 115: 67-70
77) Zubarioglu T, Kiykim E, Yesil G, Demircioglu D, Cansever MS, Yalcinkaya C, Aktuglu-Zeybek C: Early diagnosed cerebrotendinous xanthomatosis patients: clinical, neuroradiological characteristics and therapy results of a single center from Turkey. Acta Neurol Belg, 2019; 119: 343-350
78) Ginanneschi F, Mignarri A, Mondelli M, Gallus GN, Del Puppo M, Giorgi S, Federico A, Rossi A, Dotti MT: Polyneuropathy in cerebrotendinous xanthomatosis and response to treatment with chenodeoxycholic acid. J Neurol, 2013; 260: 268-274
79) Kuriyama M, Fujiyama J, Yoshidome H, Takenaga S, Matsumuro K, Kasama T, Fukuda K, Kuramoto T, Hoshita T, Seyama Y, Okatu Y, Osame M: Cerebrotendinous xanthomatosis: clinical and biochemical evaluation of eight patients and review of the literature. J Neurol Sci, 1991; 102: 225-232
80) Fujiyama J, Kuriyama M, Arima S, Shibata Y, Nagata K, Takenaga S, Tanaka H, Osame M: Atherogenic risk factors in cerebrotendinous xanthomatosis. Clin Chim Acta, 1991; 200: 1-11
81) Burnett JR, Moses EA, Croft KD, Brown AJ, Grainger K, Vasikaran SD, Leitersdorf E, Watts GF: Clinical and biochemical features, molecular diagnosis and long-term management of a case of cerebrotendinous xanthomatosis. Clin Chim Acta, 2001; 306: 63-69
82) Valdivielso P, Calandra S, Durán JC, Garuti R, Herrera E, González P: Coronary heart disease in a patient with cerebrotendinous xanthomatosis. J Intern Med, 2004; 255: 680-683
83) Tada H, Inaba S, Pozharitckaia D, Kawashiri MA: Prominent Tendon Xanthomas and Abdominal Aortic Aneurysm Associated with Cerebrotendinous Xanthomatosis Identified Using Whole Exome Sequencing. Intern Med, 2018; 57: 1119-1122
84) Souto MJS, Almeida-Santos MA, Ferreira EJP, Gonçalves LFG, Oliveira JLM, Sousa ACS: Spontaneous Coronary Artery Dissection in a Patient with Cerebrotendinous Xanthomatosis. Arq Bras Cardiol, 2020; 115: 18-21
85) Potkin BN, Hoeg JM, Connor WE, Salen G, Quyyumi AA, Brush JE Jr, Roberts WC, Brewer HB Jr: Aneurysmal coronary artery disease in cerebrotendinous xanthomatosis. Am J Cardiol, 1988; 61: 1150-1152
86) Dotti MT, Mondillo S, Plewnia K, Agricola E, Federico A: Cerebrotendinous xanthomatosis: evidence of lipomatous hypertrophy of the atrial septum. J Neurol, 1998; 245: 723-726
87) Kawabata M, Kuriyama M, Mori S, Sakashita I, Osame M: Pulmonary manifestations in cerebrotendinous xanthomatosis. Intern Med, 1998; 37: 922-926
88) Guyant-Maréchal L, Verrips A, Girard C, Wevers RA, Zijlstra F, Sistermans E, Vera P, Campion D, Hannequin D: Unusual cerebrotendinous xanthomatosis with fronto-temporal dementia phenotype. Am J Med Genet A, 2005; 139A: 114-117
89) Mukaino A, Tsuda M, Yamashita S, Kosaka T, Wada K, Ando Y: Cerebrotendinous xanthomatosis presenting with extensive cerebral cortex symptoms: A case report. Clin Neurol Neurosurg, 2018; 174: 217-219
90) Rubio-Agusti I, Kojovic M, Edwards MJ, Murphy E, Chandrashekar HS, Lachmann RH, Bhatia KP: Atypical parkinsonism and cerebrotendinous xanthomatosis: report of a family with corticobasal syndrome and a literature review. Mov Disord, 2012; 27: 1769-1774
91) Mignarri A, Rossi S, Ballerini M, Gallus GN, Del Puppo M, Galluzzi P, Federico A, Dotti MT: Clinical relevance and neurophysiological correlates of spasticity in cerebrotendinous xanthomatosis. J Neurol, 2011; 258: 783-790
92) Siebner HR, Berndt S, Conrad B: Cerebrotendinous xanthomatosis without tendon xanthomas mimicking Marinesco-Sjoegren syndrome: a case report. J Neurol Neurosurg Psychiatry, 1996; 60: 582-585
93) Ly H, Bertorini TE, Shah N: An adult male with progressive spastic paraparesis and gait instability. J Clin Neuromuscul Dis, 2014; 16: 98-103
94) Alhariri A, Hamilton K, Oza V, Cordoro K, Sobreira NL, Malloy M, Slavotinek A: Clinical report: A patient with a late diagnosis of cerebrotendinous xanthomatosis and a response to treatment. Am J Med Genet A, 2017; 173: 2275-2279
95) Su CS, Chang WN, Huang SH, Lui CC, Pan TL, Lu CH, Chuang YC, Huang CR, Tsai NW, Hsieh MJ, Chang CC: Cerebrotendinous xanthomatosis patients with and without parkinsonism: clinical characteristics and neuroimaging findings. Mov Disord, 2010; 25: 452-458
96) Kirmi O, Murphy E, Carecchio M, Sulkin T, Rankin J, Robertson F: Teaching neuroimages: progressive asymmetric parkinsonism and tendon xanthomas. Neurology, 2011; 77: e97-98
97) Posada IJ, Ramos A: Botulinum toxin-responsive oromandibular dystonia in cerebrotendinous xanthomatosis. Parkinsonism Relat Disord, 2011; 17: 570-572
98) Lagarde J, Roze E, Apartis E, Pothalil D, Sedel F, Couvert P, Vidailhet M, Degos B: Myoclonus and dystonia in cerebrotendinous xanthomatosis. Mov Disord, 2012; 27: 1805-1810
99) Yoshinaga T, Sekijima Y, Koyama S, Maruyama K, Yoshida T, Kato T, Ikeda S: Clinical and radiological findings of a cerebrotendinous xanthomatosis patient with a novel p.A335V mutation in the CYP27A1 gene. Intern Med, 2014; 53: 2725-2729
100) Szlago M, Gallus GN, Schenone A, Patiño ME, Sfaelo Z, Rufa A, Da Pozzo P, Cardaioli E, Dotti MT, Federico A: The first cerebrotendinous xanthomatosis family from Argentina: a new mutation in CYP27A1 gene. Neurology, 2008; 70: 402-404
101) Dutta AK, Danda S, Muthusamy K, Alexander M, Sudhakar SV, Hansdak S, Bandyopadhyay R, Bakhya

Shree GB, Rekha L: Cerebrotendinous xanthomatosis: Possibility of founder mutation in CYP27A1 gene (c.526delG) in Eastern Indian and Surinamese population. Mol Genet Metab Rep, 2015; 3: 33-35
102) Isenhardt K, Schmitt R, Nagel A, Drach L, Schlote W: Inherited cholesterol lipidosis: cerebrotendinous xanthomatosis (van Bogaert Scherer Epstein disease). A clinicopathological study. Clin Neuropathol, 2005; 24: 276-283
103) Stelten BML, van de Warrenburg BPC, Wevers RA, Verrips A: Movement disorders in cerebrotendinous xanthomatosis. Parkinsonism Relat Disord, 2019; 58: 12-16
104) Mignarri A, Falcini M, Vella A, Giorgio A, Gallus GN, Del Puppo M, Vattimo A, Federico A, Dotti MT: Parkinsonism as neurological presentation of late-onset cerebrotendinous xanthomatosis. Parkinsonism Relat Disord, 2012; 18: 99-101
105) Schotsmans K, De Cauwer H, Baets J, Ceyssens S, van den Hauwe L, Deconinck T, Helsen G: Cerebrotendinous xanthomatosis presenting with asymmetric parkinsonism: a case with I-123-FP-CIT SPECT imaging. Acta Neurol Belg, 2012; 112: 287-289
106) Ohnishi A, Yamashita Y, Goto I, Kuroiwa Y, Murakami S, Ikeda M: De- and remyelination and onion bulb in cerebrotendinous xanthomatosis. Acta Neuropathol, 1979; 45: 43-45
107) Argov Z, Soffer D, Eisenberg S, Zimmerman Y: Chronic demyelinating peripheral neuropathy in cerebrotendinous xanthomatosis. Ann Neurol, 1986; 20: 89-91
108) Verrips A, van Engelen BG, ter Laak H, Gabreëls-Festen A, Janssen A, Zwarts M, Wevers RA, Gabreëls FJ: Cerebrotendinous xanthomatosis. Controversies about nerve and muscle: observations in ten patients. Neuromuscul Disord, 2000; 10: 407-414
109) Pilo B, de Blas G, Sobrido MJ, Navarro C, Grandas F, Barrero FJ, Moya MA, Jimenez-Escrig A: Neurophysiological study in cerebrotendinous xanthomatosis. Muscle Nerve, 2011; 43: 531-536
110) Wang Z, Yuan Y, Zhang W, Zhang Y, Feng L: Cerebrotendinous xanthomatosis with a compound heterozygote mutation and severe polyneuropathy. Neuropathology, 2007; 27: 62-66
111) Hashimoto T, Sennari Y, Okada K, Adachi H: Cerebrotendinous Xanthomatosis with Nodular-hypertrophy of the Lumbosacral Roots. Intern Med, 2018; 57: 1669-1670
112) Federico A, Dotti MT, Volpi N: Muscle mitochondrial changes in cerebrotendinous xanthomatosis. Ann Neurol, 1991; 30: 734-735
113) Dotti MT, Manneschi L, Federico A: Mitochondrial enzyme deficiency in cerebrotendinous xanthomatosis. J Neurol Sci, 1995; 129: 106-108
114) Arlazoroff A, Roitberg B, Werber E, Shidlo R, Berginer VM: Epileptic seizure as a presenting symptom of cerebrotendinous xanthomatosis. Epilepsia, 1991; 32: 657-661
115) Koyama S, Kawanami T, Tanji H, Arawaka S, Wada M, Saito N, Kato T: A case of cerebrotendinous xanthomatosis presenting with epilepsy as an initial symptom with a novel V413D mutation in the CYP27A1 gene. Clin Neurol Neurosurg, 2012; 114: 1021-1023
116) Pedroso JL, Pinto WB, Souza PV, Santos LT, Abud IC, Avelino MA, Barsottini OG: Early-onset epilepsy as the main neurological manifestation of cerebrotendinous xanthomatosis. Epilepsy Behav, 2012; 24: 380-381
117) Larson A, Weisfeld-Adams JD, Benke TA, Bonnen PE: Cerebrotendinous Xanthomatosis Presenting with Infantile Spasms and Intellectual Disability. JIMD Rep, 2017; 35: 1-5
118) Berginer VM, Radwan H, Korczyn AD, Kott E, Salen G, Shefer S: EEG in cerebrotendinous xanthomatosis (CTX). Clin Electroencephalogr, 1982; 13: 89-96
119) Wakamatsu N, Hayashi M, Kawai H, Kondo H, Gotoda Y, Nishida Y, Kondo R, Tsuji S, Matsumoto T: Mutations producing premature termination of translation and an amino acid substitution in the sterol 27-hydroxylase gene cause cerebrotendinous xanthomatosis associated with parkinsonism. J Neurol Neurosurg Psychiatry, 1999; 67: 195-198
120) Catarino CB, Vollmar C, Küpper C, Seelos K, Gallenmüller C, Bartkiewicz J, Biskup S, Hörtnagel K, Klopstock T: Brain diffusion tensor imaging changes in cerebrotendinous xanthomatosis reversed with treatment. J Neurol, 2018; 265: 388-393
121) Kauffman MA, Gonzalez-Morón D, Consalvo D, Kochen S: Cerebrotendinous xanthomatosis revealed in drug-resistant epilepsy diagnostic workup. Am J Med Sci, 2012; 343: 332-333
122) Fraidakis MJ: Psychiatric manifestations in cerebrotendinous xanthomatosis. Transl Psychiatry, 2013; 3: e302
123) De Stefano N, Dotti MT, Mortilla M, Federico A: Magnetic resonance imaging and spectroscopic changes in brains of patients with cerebrotendinous xanthomatosis. Brain, 2001; 124: 121-131
124) Barkhof F, Verrips A, Wesseling P, van Der Knaap MS, van Engelen BG, Gabreëls FJ, Keyser A, Wevers RA, Valk J: Cerebrotendinous xanthomatosis: the spectrum of imaging findings and the correlation with neuropathologic findings. Radiology, 2000; 217: 869-876
125) Ahmed RM, Murphy E, Davagnanam I, Parton M, Schott JM, Mummery CJ, Rohrer JD, Lachmann RH, Houlden H, Fox NC, Chataway J: A practical approach to diagnosing adult onset leukodystrophies. J Neurol Neurosurg Psychiatry, 2014; 85: 770-781
126) Guerrera S, Stromillo ML, Mignarri A, Battaglini M, Marino S, Di Perri C, Federico A, Dotti MT, De Stefano N: Clinical relevance of brain volume changes in patients with cerebrotendinous xanthomatosis. J Neurol Neurosurg Psychiatry, 2010; 81: 1189-1193
127) Mandia, Besson G, Lamari F, Castelnovo G, Curot J, Duval F, Giral P, Lecerf JM, Roland D, Pierdet H, Douillard C, Nadjar Y: Cholic acid as a treatment for cerebrotendinous xanthomatosis in adults. J Neurol, 2019; 266: 2043-2050
128) Mignarri A, Dotti MT, Federico A, De Stefano N, Battaglini M, Grazzini I, Galluzzi P, Monti L: The spectrum of magnetic resonance findings in cerebrotendinous xanthomatosis: redefinition and evidence of new markers of disease progression. J

Neurol, 2017; 264: 862-874
129) Embiruçu EK, Otaduy MC, Taneja AK, Leite CC, Kok F, Lucato LT: MR spectroscopy detects lipid peaks in cerebrotendinous xanthomatosis. Am J Neuroradiol, 2010; 31: 1347-1349
130) Mignarri A, Dotti MT, Del Puppo M, Gallus GN, Giorgio A, Cerase A, Monti L: Cerebrotendinous xanthomatosis with progressive cerebellar vacuolation: six-year MRI follow-up. Neuroradiology, 2012; 54: 649-651
131) Ragno M, Di Marzio F, Fuccio C, Pianese L, Cozzolino V, Carboni T, Cinti A, D'Andreamatteo G, Trojano L, Mignarri A, Gallus GN, Dotti MT: Cerebellar hypometabolism with normal structural findings in Cerebrotendinous xanthomatosis. A case report. Clin Neurol Neurosurg, 2015; 139: 221-223
132) Caroppo P, D'Agata F, Mignarri A, Stromillo ML, Dotti MT, Mongini T: Brain metabolism changes after therapy with chenodeoxycholic acid in a case of cerebrotendinous xanthomatosis. Neurol Sci, 2013; 34: 1693-1696
133) Chang CC, Lui CC, Wang JJ, Huang SH, Lu CH, Chen C, Chen CF, Tu MC, Huang CW, Chang WN: Multi-parametric neuroimaging evaluation of cerebrotendinous xanthomatosis and its correlation with neuropsychological presentations. BMC Neurol, 2010; 10: 59
134) Seidel S, Kasprian G, Prayer D, Krssák M, Sycha T, Auff E: Visualisation of treatment response in a case of cerebrotendinous xanthomatosis. J Neurol Neurosurg Psychiatry, 2011; 82: 703-704
135) Soffer D, Benharroch D, Berginer V: The neuropathology of cerebrotendinous xanthomatosis revisited: a case report and review of the literature. Acta Neuropathol, 1995; 90: 213-220
136) Kato H, Koyabu S, Aoki S, Tamai T, Sugawa M, Watanabe M, Shiraishi T: An autopsy case of gallbladder cancer developing in a Japanese man with cerebrotendinous xanthomatosis: genetic analysis of the sterol 27-hydroxylase and p53 genes. Pathology, 2003; 35: 141-144
137) Pilo de la Fuente B, Ruiz I, Lopez de Munain A, Jimenez-Escrig A: Cerebrotendinous xanthomatosis: neuropathological findings. J Neurol, 2008; 255: 839-842
138) Isenhardt K, Schmitt R, Nagel A, Drach L, Schlote W: Inherited cholesterol lipidosis: cerebrotendinous xanthomatosis (van Bogaert Scherer Epstein disease). A clinicopathological study. Clin Neuropathol, 2005; 24: 276-283
139) Wallon D, Guyant-Maréchal L, Laquerrière A, Wevers RA, Martinaud O, Kluijtmans LA, Yntema HG, Saugier-Veber P, Hannequin D: Clinical imaging and neuropathological correlations in an unusual case of cerebrotendinous xanthomatosis. Clin Neuropathol, 2010; 29: 361-364
140) Tokimura Y, Kuriyama M, Arimura K, Fujiyama J, Osame M: Electrophysiological studies in cerebrotendinous xanthomatosis. J Neurol Neurosurg Psychiatry, 1992; 55: 52-55
141) Mondelli M, Rossi A, Scarpini C, Dotti MT, Federico A: Evoked potentials in cerebrotendinous xanthomatosis and effect induced by chenodeoxycholic acid. Arch Neurol, 1992; 49: 469-475
142) Berginer VM, Gross B, Morad K, Kfir N, Morkos S, Aaref S, Falik-Zaccai TC: Chronic diarrhea and juvenile cataracts: think cerebrotendinous xanthomatosis and treat. Pediatrics, 2009; 123: 143-147
143) Cruysberg JR, Wevers RA, Tolboom JJ: Juvenile cataract associated with chronic diarrhea in pediatric cerebrotendinous xanthomatosis. Am J Ophthalmol, 1991; 112: 606-607
144) Sundaram SS, Bove KE, Lovell MA, Sokol RJ: Mechanisms of disease: Inborn errors of bile acid synthesis. Nat Clin Pract Gastroenterol Hepatol, 2008; 5: 456-468
145) Clayton PT: Disorders of bile acid synthesis. J Inherit Metab Dis, 2011; 34: 593-604
146) Soutar AK, Naoumova RP: Mechanisms of disease: genetic causes of familial hypercholesterolemia. Nat Clin Pract Cardiovasc Med, 2007; 4: 214-225
147) Tada H, Nohara A, Inazu A, Sakuma N, Mabuchi H, Kawashiri MA: Sitosterolemia, Hypercholesterolemia, and Coronary Artery Disease. J Atheroscler Thromb, 2018; 25: 783-789
148) Salen G, Batta AK, Tint GS, Shefer S: Comparative effects of lovastatin and chenodeoxycholic acid on plasma cholestanol levels and abnormal bile acid metabolism in cerebrotendinous xanthomatosis. Metabolism, 1994; 43: 1018-1022
149) Verrips A, Wevers RA, Van Engelen BG, Keyser A, Wolthers BG, Barkhof F, Stalenhoef A, De Graaf R, Janssen-Zijlstra F, Van Spreeken A, Gabreëls FJ: Effect of simvastatin in addition to chenodeoxycholic acid in patients with cerebrotendinous xanthomatosis. Metabolism, 1999; 48: 233-238
150) Kuriyama M, Tokimura Y, Fujiyama J, Utatsu Y, Osame M: Treatment of cerebrotendinous xanthomatosis: effects of chenodeoxycholic acid, pravastatin, and combined use. J Neurol Sci, 1994; 125: 22-28
151) Huidekoper HH, Vaz FM, Verrips A, Bosch AM: Hepatotoxicity due to chenodeoxycholic acid supplementation in an infant with cerebrotendinous xanthomatosis: implications for treatment. Eur J Pediatr, 2016; 175: 143-146
152) Ellis E, Axelson M, Abrahamsson A, Eggertsen G, Thörne A, Nowak G, Ericzon BG, Björkhem I, Einarsson C: Feedback regulation of bile acid synthesis in primary human hepatocytes: evidence that CDCA is the strongest inhibitor. Hepatology, 2003; 38: 930-938
153) Setchell KD, Heubi JE: Defects in bile acid biosynthesis--diagnosis and treatment. J Pediatr Gastroenterol Nutr, 2006; 43: S17-22
154) Batta AK, Salen G, Tint GS: Hydrophilic 7 beta-hydroxy bile acids, lovastatin, and cholestyramine are ineffective in the treatment of cerebrotendinous xanthomatosis. Metabolism, 2004; 53: 556-562
155) Lewis B, Mitchell WD, Marenah CB, Cortese C, Reynolds EH, Shakir R: Cerebrotendinous xanthomatosis: biochemical response to inhibition of cholesterol synthesis. Br Med J (Clin Res Ed), 1983; 287: 21-22
156) Luyckx E, Eyskens F, Simons A, Beckx K, Van West D, Dhar M: Long-term follow-up on the effect of combined

therapy of bile acids and statins in the treatment of cerebrotendinous xanthomatosis: a case report. Clin Neurol Neurosurg, 2014; 118: 9-11
157) Mimura Y, Kuriyama M, Tokimura Y, Fujiyama J, Osame M, Takesako K, Tanaka N: Treatment of cerebrotendinous xanthomatosis with low-density lipoprotein (LDL)-apheresis. J Neurol Sci, 1993; 114: 227-230
158) Ito S, Kuwabara S, Sakakibara R, Oki T, Arai H, Oda S, Hattori T: Combined treatment with LDL-apheresis, chenodeoxycholic acid and HMG-CoA reductase inhibitor for cerebrotendinous xanthomatosis. J Neurol Sci, 2003; 216: 179-182
159) Dotti MT, Lütjohann D, von Bergmann K, Federico A: Normalisation of serum cholestanol concentration in a patient with cerebrotendinous xanthomatosis by combined treatment with chenodeoxycholic acid, simvastatin and LDL apheresis. Neurol Sci, 2004; 25: 185-191
160) Matysik S, Orsó E, Black A, Ahrens N, Schmitz G: Monitoring of 7α-hydroxy-4-cholesten-3-one during therapy of cerebrotendinous xanthomatosis: a case report. Chem Phys Lipids, 2011; 164: 530-534
161) Berginer VM, Salen G: LDL-apheresis cannot be recommended for treatment of cerebrotendinous xanthomatosis. J Neurol Sci, 1994; 121: 229-232
162) Selva-O'Callaghan A, Bardes I, Jacas C, Jubany L, Lorenzo-Bosquet C, Cuberas-Borrós G, Vilardell-Tarres M: SPECT imaging for brain improvement quantification in a patient with cerebrotendinous xanthomatosis. Clin Nucl Med, 2011; 36: 38-39
163) Amador MDM, Masingue M, Debs R, Lamari F, Perlbarg V, Roze E, Degos B, Mochel F: Treatment with chenodeoxycholic acid in cerebrotendinous xanthomatosis: clinical, neurophysiological, and quantitative brain structural outcomes. J Inherit Metab Dis, 2018; 41: 799-807
164) DeBarber AE, Kalfon L, Fedida A, Fleisher Sheffer V, Ben Haroush S, Chasnyk N, Shuster Biton E, Mandel H, Jeffries K, Shinwell ES, Falik-Zaccai TC: Newborn screening for cerebrotendinous xanthomatosis is the solution for early identification and treatment. J Lipid Res, 2018; 59: 2214-2222

Supplementary Table 1. Allele frequencies of *CYP27A1* variants according to Exome Aggregation Consortium database (version 0.3)

variant	AFR	AMR	EAS	FIN	NFE	SAS
p.G145=	0.00000	0.00000	0.00040	0.00000	0.00000	0.00000
p.A216P	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00004	0.00000
p.T339M	0.00000	0.00000	0.00010	0.00000	0.00002	0.00007
p.R395C	0.00010	0.00020	0.00000	0.00030	0.00020	0.00006
p.R405W	0.00000	0.00009	0.00000	0.00000	0.00000	0.00006
p.R405Q	0.00010	0.00009	0.00050	0.00000	0.00004	0.00000
p.R474W	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00002	0.00000
p.R474Q	0.00000	0.00000	0.00010	0.00000	0.00002	0.00000
c.1184+1G>A	0.00000	0.00000	0.00000	0.00000	0.00006	0.00070
c.1263+1G>A	0.00000	0.00009	0.00010	0.00000	0.00007	0.00000

AFR: African; AMR: Admixed American; EAS: East Asian; FIN: Finnish; NFE: Non-Finnish European; SAS: South Asian.

The official journal of the Japan Atherosclerosis Society and
the Asian Pacific Society of Atherosclerosis and Vascular Diseases

Review

J Atheroscler Thromb, 2021; 28: 000-000. http://doi.org/10.5551/jat.RV17056

Current Diagnosis and Management of Abetalipoproteinemia

Manabu Takahashi[1], Hiroaki Okazaki[2], Ken Ohashi[3], Masatsune Ogura[4], Shun Ishibashi[5], Sachiko Okazaki[6], Satoshi Hirayama[7], Mika Hori[8], Kota Matsuki[9], Shinji Yokoyama[10] and Mariko Harada-Shiba[11]
on behalf of the Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan[†]

[1]Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan
[2]Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan
[3]Department of General Internal Medicine, National Cancer Center Hospital, Tokyo, Japan
[4]Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan
[5]Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan
[6]Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, Tokyo, Japan
[7]Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan
[8]Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan
[9]Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan
[10]Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan
[11]Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan

[†]**The Committee on Primary Dyslipidemia under the Research Program on Rare and Intractable Disease of the Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan:** Mariko Harada-Shiba (Department of Molecular Pathogenesis, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute, Osaka, Japan), Shun Ishibashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Shinji Yokoyama (Institute for Biological Functions, Chubu University, Aichi, Japan), Hitoshi Shimano (Department of Internal Medicine (Endocrinology and Metabolism), Faculty of Medicine University of Tsukuba, Tsukuba, Japan), Koutaro Yokote (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Hideaki Bujo (Department of Clinical-Laboratory and Experimental-Research Medicine, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Shizuya Yamashita (Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Kazuhisa Tsukamoto (Department of Internal Medicine, Teikyo University, Tokyo, Japan), Toshio Hayashi (School of Health Sciences, Nagoya University Graduate School of Medicine, Nagoya, Japan), Katsunori Ikewaki (Division of Neurology, Anti-Aging, and Vascular Medicine, Department of Internal Medicine, National Defense Medical College, Saitama, Japan), Takanari Gotoda (Department of Metabolic Biochemistry, Faculty of Medicine, Kyorin University, Tokyo, Japan), Kazushige Dobashi (Department of Pediatrics, School of Medicine, University of Yamanashi, Yamanashi, Japan), Yoshihiro Miyamoto (Open Innovation Center, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Misa Takegami (Department of Preventive Medicine and Epidemiology, National Cerebral and Cardiovascular Center, Osaka, Japan), Yoshiki Sekijima (Department of Medicine (Neurology & Rheumatology), Shinshu University School of Medicine, Matsumoto, Japan), Yasushi Ishigaki (Division of Diabetes, Metabolism and Endocrinology, Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, Iwate, Japan), Hiroaki Okazaki (Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Atsushi Nohara (Ishikawa Prefectural Central Hospital, Kanazawa, Japan), Shingo Koyama (Division of Neurology and Clinical Neuroscience, Department of Internal Medicine III, Yamagata University Faculty of Medicine, Yamagata, Japan), Kyoko Inagaki (Division of Diabetes, Endocrinology, and Metabolism, Department of Medicine, Nippon Medical School, Tokyo, Japan), Koh Ono (Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan), Masahiro Koseki (Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Osaka University Graduate School of Medicine, Osaka, Japan), Hiroyuki Daida (Faculty of Health Science, Juntendo University, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Manabu Takahashi (Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Internal Medicine, Jichi Medical University, Tochigi, Japan), Kimitoshi Nakamura (Department of Pediatrics, Kumamoto University Graduate School of Medical Sciences, Kumamoto, Japan), Takashi Miida (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masa-aki Kawashiri (Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa University, Kanazawa, Japan), Tetsuo Minamino (Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan), Sachiko Okazaki (Division for Health Service Promotion, The University of Tokyo, Tokyo, Japan), Hayato Tada (Department of Cardiovascular Medicine, Kanazawa University Graduate School of Medical Sciences, Kanazawa, Japan), Jun Wada (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Masatsune Ogura (Division of Lipid Metabolism, Department of Molecular Innovation in Lipidology, National Cerebral and Cardiovascular Center Research Institute,

Osaka, Japan), Hirotoshi Ohmura (Department of Cardiovascular Medicine, School of Medicine, Juntendo University, Tokyo, Japan), Mika Hori (Department of Endocrinology, Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University, Nagoya, Japan), Kota Matsuki (Department of Endocrinology and Metabolism, Hirosaki University Graduate School of Medicine, Hirosaki, Japan), Masashi Yamamoto (Department of Endocrinology, Hematology and Gerontology, Chiba University Graduate School of Medicine, Chiba, Japan), Yasuo Takeuchi (Division of Nephrology, Kitasato University School of Medicine, Kanagawa, Japan), Atsuko Nakatsuka (Department of Nephrology, Rheumatology, Endocrinology and Metabolism, Okayama University Graduate School of Medicine, Dentistry and Pharmaceutical Sciences, Okayama, Japan), Daisaku Masuda (Department of Cardiology, Health Care Center, Rinku Innovation Center for Wellness Care and Activities (RICWA), Rinku General Medical Center, Osaka, Japan), Satoshi Hirayama (Department of Clinical Laboratory Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Tokyo, Japan), Masayuki Kuroda (Center for Advanced Medicine, Chiba University Hospital, Chiba University, Chiba, Japan), Takashi Yamaguchi (Center of Diabetes, Endocrinology and Metabolism, Toho University Sakura Medical Center, Chiba, Japan), Takeyoshi Murano (Clinical Laboratory Program, Faculty of Science, Toho University, Chiba, Japan).

Abetalipoproteinemia (ABL) is a rare autosomal recessive disorder caused by biallelic pathogenic mutations in the *MTTP* gene. Deficiency of microsomal triglyceride transfer protein (MTTP) abrogates the assembly of apolipoprotein (apo) B-containing lipoprotein in the intestine and liver, resulting in malabsorption of fat and fat-soluble vitamins and severe hypolipidemia. Patients with ABL typically manifest steatorrhea, vomiting, and failure to thrive in infancy. The deficiency of fat-soluble vitamins progressively develops into a variety of symptoms later in life, including hematological (acanthocytosis, anemia, bleeding tendency, etc.), neuromuscular (spinocerebellar ataxia, peripheral neuropathy, myopathy, etc.), and ophthalmological symptoms (e.g., retinitis pigmentosa). If left untreated, the disease can be debilitating and even lethal by the third decade of life due to the development of severe complications, such as blindness, neuromyopathy, and respiratory failure. High dose vitamin supplementation is the mainstay for treatment and may prevent, delay, or alleviate the complications and improve the prognosis, enabling some patients to live to the eighth decade of life. However, it cannot fully prevent or restore impaired function. Novel therapeutic modalities that improve quality of life and prognosis are awaited. The aim of this review is to 1) summarize the pathogenesis, clinical signs and symptoms, diagnosis, and management of ABL, and 2) propose diagnostic criteria that define eligibility to receive financial support from the Japanese government for patients with ABL as a rare and intractable disease. In addition, our diagnostic criteria and the entry criterion of low-density lipoprotein cholesterol (LDL-C) <15 mg/dL and apoB <15 mg/dL can be useful in universal or opportunistic screening for the disease. Registry research on ABL is currently ongoing to better understand the disease burden and unmet needs of this life-threatening disease with few therapeutic options.

Key words: **Abetalipoproteinemia, MTTP, Fat-soluble vitamin, Chylomicron, VLDL, Hypolipidemia**

1. Introduction

Abetalipoproteinemia (ABL; OMIM 200100) is a rare inherited disease characterized by the absence of plasma apolipoprotein (apo) B-containing lipoproteins and fat-soluble vitamins in the plasma. In 1950, Bassen and Kornzweig first described the syndrome, which is characterized by acanthocytes ("star-shaped" erythrocytes with irregular cytoplasmic projections, i.e., acantha, "thorn" in Greek), retinitis pigmentosa, and ataxia[1]. In 1960, the absence of beta-lipoprotein in the plasma of the syndrome was reported[2]. Later, in 1992, the activity of microsomal triglyceride transfer protein (MTTP) was found to be absent in the intestinal mucosa of ABL patients[3]. In 1993, mutations in the *MTTP* gene, which encodes the large subunit of MTTP, were identified in ABL patients (Fig. 1)[4, 5]. In this review, we summarize the pathogenesis, clinical signs and symptoms, diagnosis, and management of ABL. We also propose diagnostic criteria for ABL, which have been used to determine the eligibility to receive financial aid from the Japanese

Address for correspondence: Hiroaki Okazaki, Department of Diabetes and Metabolic Diseases, Graduate School of Medicine, The University of Tokyo, 7-3-1 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113–8655, Japan E-mail: hokazaki-tky@umin.ac.jp

Received: March 23, 2021 Accepted for publication: March 25, 2021

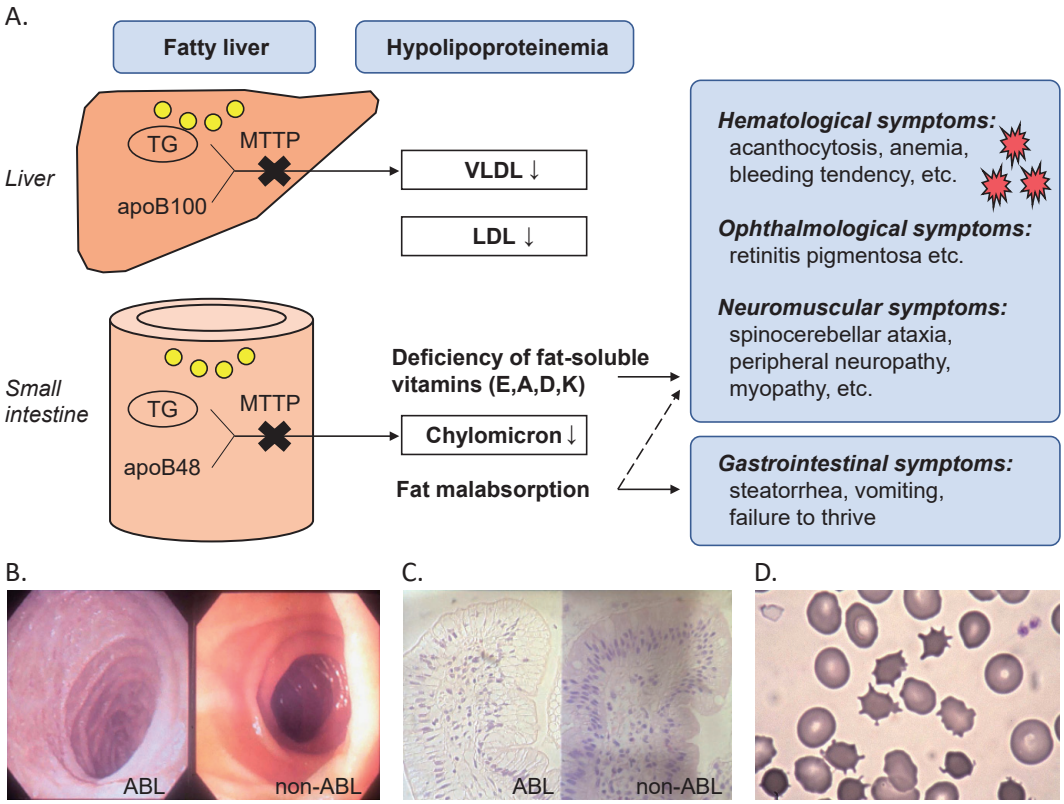


Fig. 1. Overview of abetalipoproteinemia

(A) MTTP is a prerequisite for the assembly and secretion of VLDL and CM by the liver and small intestine, respectively. Homozygous *MTTP* deficiency causes fat malabsorption, steatorrhea, vomiting, failure to thrive, hypolipoproteinemia, fatty liver, as well as symptoms related to deficiencies of fat-soluble vitamins. (B, C) Endoscopic examination and histological analysis of the duodenal mucosa of an ABL patient and a non-ABL control. Accumulation of intracellular lipids in epithelial cells (C) results in a snowy appearance (B), called snow-white duodenum, a gelee blanche, or white hoar frosting. (D) Acanthocytes of an ABL patient (Patient 1 in Ref 29). Figures 1B, 1C, and 1D are reproduced with permission from Ishibashi S and Ohashi K (The Lipid, 2014; 25: 200-203).

government for patients with ABL as a rare and intractable disease. The financial aid is provided by The Program for Designated Intractable Diseases under the Japanese Public Healthcare system. Pediatric ABL patients can be supported separately under The program of Medical Aid for Chronic Pediatric Diseases of Specified Categories.

2. Genetic and Molecular Basis

ABL is an autosomal recessive disorder caused by biallelic mutations in the *MTTP* gene. The estimated frequency of ABL is as rare as less than 1 in 1,000,000 [6]. Approximately 100 cases and at least 74 different *MTTP* mutations have been reported, including five (c.61+1G>C, c.1237-1G>A, c.1389del, p.I564T, p.N780Y) in four Japanese patients (Fig. 2)[7-35]. About one-third of patients were the progeny of consanguineous marriages[7]. The male-to-female sex ratio is reportedly 1:1 [7] or 3:2 [2], although both males and females should theoretically be equally affected. Genetic and clinical features of Japanese ABL patients are listed in Table 1. As the number of patients is limited, it is difficult to clarify the characteristics of Japanese cases of ABL.

MTTP is localized in the lumen of the endoplasmic reticulum of hepatocytes and intestinal epithelial cells. By transferring triglyceride (TG) and cholesterol ester to apoB, MTTP is essential for the formation of very low-density lipoproteins (VLDLs) and chylomicrons (CMs). A lack of MTTP abrogates the secretion of apoB-containing lipoproteins, which results in malabsorption of dietary fat and fat-soluble vitamins as well as accumulation of intracellular lipids in hepatocytes and intestinal epithelial cells. MTTP is a heterodimer of a large 97 kDa subunit containing 894 amino acids (encoded by *MTTP*) and a 55 kDa protein disulfide isomerase (PDI) subunit (encoded by *P4HB*)[36]. The *MTTP* gene consists of 18 coding exons. Crystal structure analysis reveals three structural

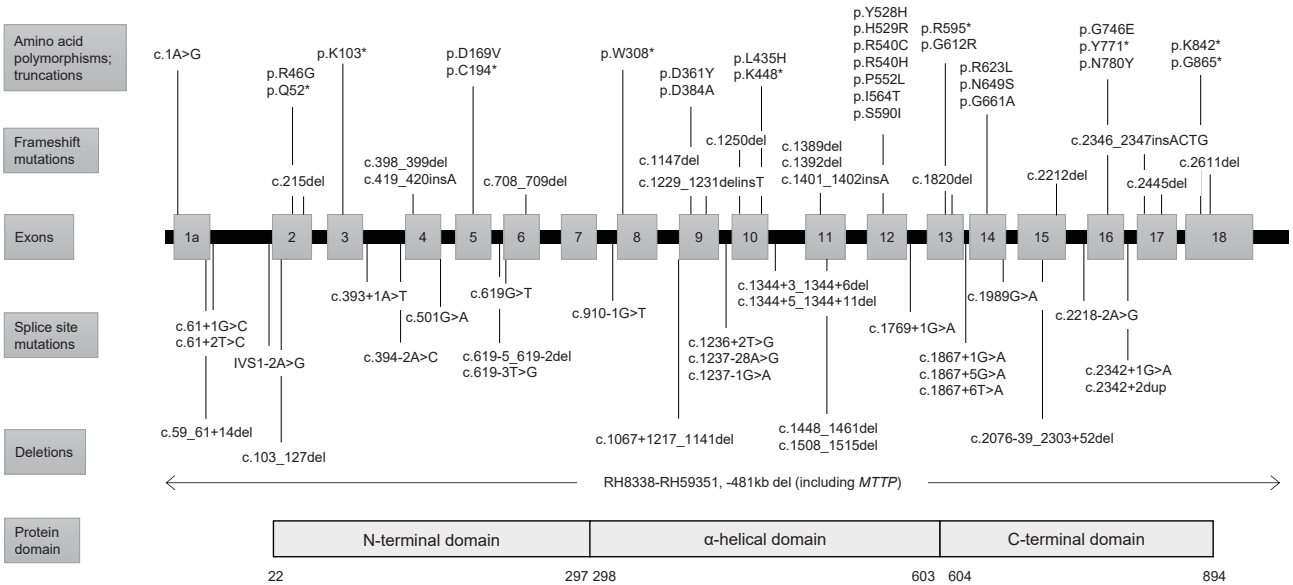


Fig. 2. Mutations in the *MTTP* gene

At least 74 *MTTP* mutations have been reported. The type of mutation may influence the severity of the disease[29]. The exon-intron structure of the *MTTP* gene encoded by exons 1a to 18 has been described[52]. Gray boxes represent exons. Lines represent the position of each mutation and polymorphism. Adapted from Zamel R, *et al.*[41], Narcisi TM *et al.*[27], and Suzuki T *et al.*[52]

domains in the large subunit of MTTP: an N-terminal β-barrel domain (amino acids 22-297), which interacts with the N-terminus of apoB; a central α-helical domain (298-603), which interacts with apoB as well as PDI; and a C-terminal domain (604-894)[7, 37-39]. The interaction between the α-helical domain and PDI is required for lipid-transfer activity, and the C-terminal domain mediates lipid-binding and lipid-transfer activity **(Fig. 2)**[37].

3. Clinical Manifestations

Gastrointestinal Symptoms (Fat Malabsorption and Failure to Thrive):

Symptoms of ABL typically develop in infancy after breastfeeding, including vomiting, steatorrhea due to fat malabsorption, and failure to thrive[2]. Patients often avoid dietary fat to relieve these gastrointestinal symptoms[2]. Endoscopic examination of the intestinal mucosa may reveal a snowy appearance, which is also called snow-white duodenum[40], a gelee blanche, or white hoar frosting **(Fig. 1B and 1C)**[7, 8].

Symptoms Related to Vitamin Deficiencies:

Chronic lipid malabsorption leads to a deficiency of fat-soluble vitamins (vitamins E, A, D, K). These vitamins require apoB-containing lipoproteins for their absorption and transport to peripheral tissues almost totally (for vitamin E and β-carotene) or partially (for vitamins A, D, and K)[7]. The resulting deficiency of these fat-soluble vitamins, particularly vitamin E and β-carotene, causes a variety of symptoms and complications, as described below.

• **Neuromuscular symptoms** develop mainly as a result of vitamin E deficiency, which is often associated with demyelination of spinocerebellar axons[2, 41, 42]. Typical symptoms include spinocerebellar ataxia, peripheral neuropathy, and myopathy[2]. Myopathy may result from both neural degeneration and an intrinsic myositis[7], which may be caused by pigment deposition due to the loss of vitamin E's anti-oxidant activity[2, 7]. The first symptom is often diminution of deep tendon reflexes as early as in the first few years or the first decade of life[7], followed by progressive abnormalities such as loss of vibratory sense, position sense, proprioception, a positive Romberg sign, spinocerebellar ataxia, dysmetria, dysarthria, wide-based spastic gait, hypesthesia, myopathy, muscular weakness, pes cavus, pes equinovarus, kyphoscoliosis, and lordosis. When left untreated, these symptoms gradually worsen and severely affect the quality of life, eventually rendering patients wheelchair-bound or bedridden. Without early treatment with vitamin E, patients may not survive past the third decade[2, 41, 43]. Mental retardation has been reported in some cases, although the evidence for causality is lacking[2, 17, 26]. There might be other

Table 1. Genetic and clinical features of Japanese patients with abetalipoproteinemia

Authors	Age	Gender	Mutation (*MTTP*)	Type	Consanguinity	Biochemical parameters (mg/dL)						
						TC	TG	LDL-C	HDL-C	cLDL-C	apoB	Vitamin E
Yang XP *et al.*[28]	29	M	c.1237-1G>A	Ho	No (Uniparental disomy)	33	0	N.D.	28	5	0	<0.1
Ohashi K *et al.*[29]	32	F	c.1389del	Ho	Yes	42	0.2	N.D.	36	6.0	0.9	<0.1
Ohashi K *et al.*[29]	27	M	c.2338A>T (p.N780Y)	Ho	Yes	34	2.6	N.D.	23	10.5	0.6	<0.1
Sakamoto O *et al.*[30]	15mo	M	c.61+1G>C c.1691T>C (p.I564T)	C. het	N.D.	46-92	10-100	N.D.	N.D.	-	<7.0	0.43

Authors	Clinical features			
	Gastrointestinal	Neuromuscular	Ophthalmological	Hematological
Yang XP *et al.*[28]	Frequent diarrhea, fat malabsorption with malnutrition, and short stature (from childhood); lipid-laden enterocytes by intestinal biopsy (29 years old).	Cerebellar and posterior spinal column dysfunction, decreased deep tendon reflexes, impaired vibratory sense and proprioception, dysmetria, ataxia, spastic gait, and positive Chaddock sign (29 years old).	Suspected loss of night vision (3 years old); descreased vision in dim light, visual field defects, and pigmentary retinal degeneration (29 years old).	Acanthocytosis
Ohashi K *et al.*[29]	Intolerance for fat-rich meals; snow-white duodenum and lipid-laden enterocytes by biopsy (32 years old).	Absent ankle and knee jerks, positive Romberg's sign (32 years old).	Fine mottling in the retina (32 years old).	Acanthocytosis (32 years old).
Ohashi K *et al.*[29]	Mild fatty liver, no history of steatorrhea	Normal	Normal	Acanthocytosis
Sakamoto O *et al.*[30]	Hepatomegaly and fatty liver, no steatorrhea.	Normal	Normal	No acanthocytosis

*Age (years or months (mo)) at molecular diagnosis; M=Males; F=Females; Ho=homozygous; C. het=compound heterozygous; TC, total cholesterol; TG, triglyceride; LDL-C, low-density lipoprotein cholesterol; HDL-C, high-density lipoprotein cholesterol; cLDL-C, calculated LDL-C; N.D., Not described.

rare mutations due to consanguinity that could cause mental retardation[2, 17].

• **Cardiomyopathy**, supposedly due to vitamin E deficiency, may develop and can be lethal[7, 41, 43].

• **Ophthalmological symptoms** develop most likely as a consequence of deficiency of vitamin A and E. Retinitis pigmentosa is typically present by adolescence. Alterations in visual acuity, loss of night vision and color vision may appear as the first ophthalmological symptoms, followed by a gradual loss of vision, progressive scotoma, typically annular scotomas with macular sparing[2], and narrowing of the visual field, which ultimately lead to complete loss of vision. In some cases, ptosis, ophthalmoplegia, anisocoria, nystagmus, strabismus, and corneal ulcers may develop[2, 7, 41, 42].

• **Hematological abnormalities** include acanthocytosis **(Fig. 1D)**, low erythrocyte sedimentation rate (ESR), anemia, hemolysis, reticulocytosis, hyperbilirubinemia, and elevation of prothrombin time international normalized ratio (PT-INR)[41]. Acanthocytes are often observed, in more than 50% of the erythrocyte population, likely due to abnormal composition and distribution of lipids in the bilayer leaflets of the cell membrane[2, 44]. Low ESR is due to impaired rouleaux formation[7]. Anemia may be observed due to malabsorption of iron, folate, vitamin B12, and other nutrients secondary to fat malabsorption[2, 41]. Loss of vitamin E's anti-oxidant activity may cause autohemolysis, by accelerating hydroperoxidation of fatty acids[2]. Decreases in the levels of vitamin K-dependent coagulation factors (II,

Ⅶ, Ⅸ, Ⅹ) may result in bleeding tendency with elevated PT-INR[2, 41].

• **Abnormal bone metabolism and skeletal deformities** may be observed due to Vitamin D deficiency, as documented in some cases[41, 45, 46].

• **Hypothyroidism** may be observed in ABL patients, although the causality remains uncertain[39].

• **Fatty liver** may develop due to impaired secretion of VLDL. Steatohepatitis and liver cirrhosis may develop, requiring liver transplantation in some cases[9, 47].Causality needs to be carefully assessed as supplementation of medium-chain triglycerides (MCTs) may cause liver cirrhosis[2].

4. Diagnosis

ABL is typically suspected in infants who have steatorrhea, vomiting, and failure to thrive. However, the severity of the disease varies depending on the type of mutation in *MTTP*, and the diagnosis of ABL may be delayed until adulthood[2, 29]. ABL patients may be found opportunistically at health examinations in adulthood because of extremely low plasma cholesterol levels[29]. For early diagnosis and treatment of ABL, simple diagnostic criteria are warranted. Clinicians across multiple disciplines, including pediatricians, primary care physicians, neurologists, ophthalmologists and gastroenterologists, should consult lipidologists regarding further diagnostic tests when they suspect ABL.

Typical Levels of Plasma Lipids and Lipoproteins:

Plasma levels of total cholesterol (TC) in ABL patients are typically less than half normal, ranging from 20 to 50 mg/dL, with most of TC derived from high-density lipoprotein (HDL). Plasma levels of HDL are typically decreased by ~50%. The decrease in HDL may result in part from absence of phospholipid transfer from VLDL to HDL during the lipolysis of VLDL-TG. Catabolism of HDL, particularly apoE-containing HDL, may be increased, contributing to the apparently normal delivery of cholesterol to peripheral tissues in the absence of apoB-containing lipoproteins in ABL patients[7]. Plasma TG levels in ABL are typically less than 10 mg/dL[7] and do not increase after a dietary fat load[2, 7, 48]. Although the levels of TC and TG are variable in ABL patients, plasma levels of low-density lipoprotein (LDL) and apoB are consistently absent or extremely low. We searched PubMed for all previously reported cases and found that ABL patients have LDL-C <15 mg/dL and/or apoB <15 mg/dL (typically apoB <5 mg/dL)[7, 9, 28, 29], except for three cases of the mild-moderate phenotype[34]. Therefore, patients who have such levels of hypolipidemia should be suspected of having ABL.

Diagnostic Criteria:

A definitive diagnosis of ABL requires genetic testing of *MTTP*. Clinical diagnosis of ABL based on diagnostic criteria would help identify suspected cases for early diagnosis and treatment. Based on lipid levels of ABL and the clinical manifestations described above, we propose diagnostic criteria for ABL **(Table 2)**. Our criteria have been used to define the eligibility of ABL patients to receive financial support from the Japanese government as a rare and intractable disease. The entry criterion (LDL-C <15 mg/dL and/or apoB <15 mg/dL) of the criteria will also be useful for identifying suspected cases at health checkups or opportunistic blood testing (i.e., universal or opportunistic screening) for further referral to lipidology specialty clinics.

Differential Diagnosis:

Hypocholesterolemia in combination with fat malabsorption may result from the following diseases.

• **Familial hypobetalipoproteinemia 1(FHBL1; OMIM 615558)** is caused by mutations in *APOB* (mostly nonsense or frameshift) with an autosomal dominant mode of inheritance. The homozygous type of FHBL1 (Ho-FHBL1) presents with similar biochemical and clinical characteristics to ABL. Ho-FHBL1 can be differentiated from ABL only by family history. As FHBL1 is an autosomal dominant disorder, obligate heterozygote parents of Ho-FHBL1 patients have <50% of normal plasma levels of LDL-C and apoB. On the other hand, obligate heterozygote parents of ABL patients have normal plasma lipid levels. The estimated frequency of Ho-FHBL1 is as rare as less than 1 in 1,000,000, and that of heterozygote FHBL1 is 1 in 1,000 to 3,000 [42, 49].

• **Chylomicron retention disease (CMRD; OMIM 246700),** also referred to as Anderson disease, is a rare autosomal recessive disorder caused by biallelic mutations in the *SAR1B* gene encoding Sar1b (secretion-associated and Ras-related GTPase 1B). The deficiency of Sar1b, which is a prerequisite for the secretion of CMs, causes severe hypocholesterolemia as well as steatorrhea, vomiting, and failure to thrive[50]. As VLDL secretion is preserved, CMRD can be differentiated from ABL and FHBL1 by plasma lipid levels: In CMRD, plasma levels of total cholesterol, LDL-C, and HDL-cholesterol (HDL-C) are more than 50% decreased, whereas the plasma TG level is normal.

Table 2. Diagnostic criteria for ABL in Japan

A. Entry criterion
- Plasma LDL-C level ＜15 mg/dL AND/OR plasma apoB level ＜15 mg/dL.

B. Clinical manifestations
1. Gastrointestinal: fat-malabsorption related symptoms (steatorrhea, chronic diarrhea, vomiting, failure to thrive, etc.).
2. Neuromuscular: ataxia, spastic paralysis, hypoesthesia due to peripheral neuropathy, diminution of deep tendon reflexes, etc.
3. Ophthalmological: retinitis pigmentosa, loss of night vision, constriction of visual field, decreased visual acuity, etc.

C. Laboratory findings
1. Acanthocytosis

D. Differential diagnosis
Familial hypobetalipoproteinemia 1 (FHBL1)(OMIM 615558), chylomicron retention disease (Anderson disease) (OMIM 246700), hyperthyroidism.
*ABL and homozygous FHBL (Ho-FHBL) can not be distinguished only from the clinical manifestations and laboratory findings of a proband. Family history is helpful. As FHBL1 is an autosomal dominant disorder, obligate heterozygote parents of Ho-FHBL1 patients have ＜50% of normal LDL-C and apoB plasma levels. On the other hand, obligate heterozygote parents of ABL patients have normal plasma lipid levels. Plasma levels of lipids, apoB, and fat-soluble vitamin of other family members may be helpful.

E. Genetic test
Pathogenic mutations in the *MTTP* gene

<Diagnosis>

Definite ABL:
Entry criterion (A) is associated with at least one item of B or C AND exclusion of differential diagnosis (D) AND genetic diagnosis (E).

Probable ABL:
Entry criterion (A) is associated with at least two items of B or C AND exclusion of differential diagnosis (D).

5. Assessment, Treatment, and Management

The current strategy and recommendations for the treatment and management of ABL, which are adapted and modified from reviews by Hegele *et al.* and others, are summarized below[2, 6, 7, 39, 41, 42].

Assessment:

The recommended assessments for ABL patients include[2, 6, 7, 39, 41, 42]:

- **Evaluation of growth** at every visit.
- **Annual blood analysis** including lipid profiles (TC, TG, LDL-C, HDL-C, apoB, apoA-I), liver function tests (aspartate aminotransferase (AST), alanine aminotransferase (ALT), gamma glutamyl transferase (GGT), total and direct bilirubin, alkaline phosphatase, albumin), fat-soluble vitamins (Vitamin A (retinol), β-carotene, 25-OH vitamin D, vitamin E, vitamin K), other micronutrients (vitamin B12, iron, folate), complete blood count, PT-INR, reticulocyte count, ESR, calcium, phosphate, uric acid, and thyroid stimulating hormone (TSH).
- **Ophthalmological and neurological evaluation** every 6-12 months.
- **Hepatic ultrasonography, bone mineral density measurements, echocardiography** every 3 years.

Treatment and Management:

For the treatment of ABL patients, the standard of care includes[2, 6, 7, 39, 41, 42]:

- **Restriction of fat intake** is necessary to prevent steatorrhea. Total fat intake should be restricted to less than 30% of the total energy intake, or less than 15 to 20 g per day, or even less than 5 g per day in children[2, 6, 7, 39, 42]. Increased fat in the stool may induce oxalate urolithiasis by binding dietary calcium and increasing dietary oxalate absorption. This might be prevented by providing sufficient dietary calcium, fluid intake, and reducing dietary oxalate[2].
- **Adequate calorie intake** is essential to avoid growth retardation. It should be noted that fat malabsorption may lead to malabsorption of carbohydrates proteins, and other nutrients[7]. A fat-restricted diet may mitigate such secondary malabsorption.
- **Medium-chain triglyceride (MCT) administration** can help correct malnutrition, particularly in infants, though not absolutely necessary. MCTs are absorbed and then transported in the circulation not by CMs but by albumin. Since hepatic fibrosis is a potential adverse effect of MCTs, liver enzymes should be monitored in infants who are administered MCTs, and long-term administration is better avoided[2, 7].

• **Oral essential fatty acid supplementation.** The daily requirement for essential fatty acids, e.g., up to 1 teaspoon per day of oil rich in polyunsaturated fatty acids (e.g., soybean or olive oil) is recommended[7, 39, 42].

• **High dose oral vitamin E supplementation** (100-300 IU/kg/day[6, 7, 39, 42]; 1,000-2,000 mg/day (infant), 5,000-10,000 mg/day (older children and adults)[2]; 2,400-12,000 IU/day[41]; 1IU=1mg tocopheryl acetate) delays or prevents progression of neurological complications[2, 6]. Even with such high dose vitamin E supplementation, serum vitamin E levels increase to at most 30% of the lower limit of normal serum levels of vitamin E[7, 41]. However, serum vitamin E levels may not correlate with tissue vitamin E levels[7, 39, 41]. Better methods of monitoring tissue vitamin E concentrations are awaited. Vitamin E may be administered via alternative routes (intravenous, intramuscular, etc.). However, oral supplementation is favored due to: 1) feasibility for life-long supplementation, 2) no apparent inferiority in increasing tissue vitamin E levels compared to other methods, 3) no apparent toxicity (Other routes of supplementation may induce fatty liver and other complications[42]). It should be noted that absorption of large doses of vitamin E may induce or exacerbate vitamin K deficiency[6, 7, 41]

• **High dose oral vitamin A supplementation** (100-400 IU/kg/day[39, 41, 42]) and vitamin E supplementation can prevent or arrest ophthalmological complications[2, 6, 7, 39].

• **Supplementation of vitamin D** (800-1,200 IU/day[39, 42]) should be considered in cases of vitamin D deficiency.

• **Supplementation of vitamin K** (5-35 mg/week[39, 41, 42]) should be considered in cases of vitamin K deficiency with hypothrombinemia and prolonged PT-INR. Supplementation of vitamin K will normalize its blood levels[2, 41].

• **Supplementation of iron, folate, or vitamin B12** may be necessary in the case of anemia[2, 6, 41, 42].

• **Multidisciplinary care for neurological complications** involving neurologists, physiatrists, physical therapists, occupational therapists, and speech therapists[39].

Particular caution should be taken to avoid vitamin A toxicity[2, 39, 41], which can be seen even in those who have a normal plasma vitamin A concentration[39]. To avoid toxicity, it is recommended that the target vitamin A concentration goal should be set at the lower limit of normal levels[41], and the dose of vitamin A supplementation should be titrated by monitoring blood concentrations of vitamin A and β-carotene[39, 41, 42]. Women who are pregnant or planning to conceive should receive 50% of the dose of vitamin A supplementation to avoid vitamin A toxicity with careful monitoring of the blood concentrations of vitamin A and β-carotene[39, 42]. Supplementation of vitamin A should be continued in pregnancy as its deficiency could induce lethal complications in pregnant women[39, 41].

6. Burden of Disease and Unmet Needs

If left untreated, ABL patients start manifesting systemic complications related to fat-soluble vitamin deficiencies as early as in the first decade of life, gradually developing into lethal conditions in the third decade[7, 41]. Early diagnosis and adequate supplementation of vitamin E, A, and other fat-soluble vitamins may prevent, delay, or alleviate the complications and improve the prognosis, enabling some patients to live to the eighth decade of life[7, 39]. Successful pregnancies in ABL patients have been reported [2, 7, 41]. This review and our simple diagnostic criteria aim to contribute to the early diagnosis and treatment of ABL by facilitating cooperation among various medical specialists.

However, the growth potential of patients may not be fully restored by dietary therapy[39, 42]. High dose vitamin therapy is insufficient for most patients, and even ineffective for some, to recover from vitamin deficiencies and their complications[42]. Deficiency of other lipids or nutrients, such as essential fatty acids, could also contribute to the pathogenesis of ABL. Therefore, a good understanding of its pathogenesis and keeping abreast of novel therapeutic developments are necessary. Gene therapies that correct *MTTP* deficiency in the liver and small intestine may be promising therapeutic candidates[51].

More studies are needed to unravel the pathogenesis, genotype-phenotype relationship, burden of disease, and unmet needs. Considering the paucity of patients, a nation-wide registry for a long enough period to evaluate the prognosis would help clarify these issues. To this end, a registry study for rare and intractable lipid disorders including ABL (the PROLIPID study) is ongoing in Japan.

Acknowledgments and Notice of Grant Support

This work has been supported by Health, Labour and Welfare Sciences Research Grant for Research on Rare and Intractable Diseases (H30-nanji-ippan-003).

Conflicts of Interest

Atsushi Nohara has nothing to disclose. Hayato Tada has nothing to disclose. Masatsune Ogura has received honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc. Sachiko Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Koh Ono has nothing to disclose. Hitoshi Shimano has nothing to disclose. Hiroyuki Daida has received honoraria from Amgen Inc., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Kowa Co., Ltd., and MSD K.K., Novartis Pharma K.K., Bayer Yakuhin, Ltd. and received clinical research funding from Canon Medical Systems Corporation, Philips Japan, Ltd., Toho Holdings Co., Ltd., Asahi Kasei Corporation, and Inter Reha Co., Ltd. HD has also received scholarship grants from Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd., Sanofi K.K., MSD K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Pfizer Co., Ltd., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Astellas Pharma Inc., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi & Co., Ltd., Actelion Pharmaceuticals, Ltd., Actelion Ltd., Kowa Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. HD has also courses endowed by companies, including Philips Japan, Ltd., ResMed, Fukuda Denshi Co., Ltd., and Paramount Bed Co., Ltd. Kazushige Dobashi has nothing to disclose. Toshio Hayashi has nothing to disclose. Mika Hori has nothing to disclose. Kota Matsuki has nothing to disclose. Tetsuo Minamino has nothing to disclose. Shinji Yokoyama has nothing to disclose. Mariko Harada-Shiba has received stock holdings or options from Liid Pharma, honoraria from Amgen Inc., Astellas Pharma Inc., Sanofi, and scholarship grants from Aegerion Pharmaceuticals, Inc., Recordati Rare Diseases Japan, and Kaneka Corporation. Katsunori Ikewaki has nothing to disclose. Yasushi Ishigaki has nothing to disclose. Shun Ishibashi has received honoraria from Kowa Co., Ltd., and a scholarship grant from Ono Pharmaceutical Co., Ltd. Kyoko Inagaki has nothing to disclose. Hirotoshi Ohmura has nothing to disclose. Hiroaki Okazaki has received scholarship grants from Minophagen Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Company, Ltd. Masa-aki Kawashiri has nothing to disclose. Masayuki Kuroda has nothing to disclose. Masahiro Koseki has received clinical research funding from Kowa Company, Ltd., Rohto Pharmaceutical Co., Ltd. Takanari Gotoda has nothing to disclose. Shingo Koyama has nothing to disclose. Yoshiki Sekijima has nothing to disclose. Manabu Takahashi has nothing to disclose. Yasuo Takeuchi has nothing to disclose. Misa Takegami has nothing to disclose. Kazuhisa Tsukamoto has received honoraria from Bayer Yakuhin, Ltd., MSD Ltd., Takeda Pharmaceutical Company Ltd., and scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corporation., Bayer Yakuhin, Ltd., Sanofi K.K. Atsuko Nakatsuka has nothing to disclose. Kimitoshi Nakamura has nothing to disclose. Satoshi Hirayama has nothing to disclose. Hideaki Bujo has nothing to disclose. Daisaku Masuda has received clinical research funding from MSD K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., Kowa Co., Ltd. Takashi Miida has nothing to disclose. Yoshihiro Miyamoto has nothing to disclose. Takeyoshi Murano has nothing to disclose. Takashi Yamaguchi has nothing to disclose. Shizuya Yamashita has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K. Masashi Yamamoto has nothing to disclose. Koutaro Yokote has received honoraria from Kowa Company, Ltd., MSD K.K., Astellas Pharma Inc., Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Amgen K.K., Takeda Pharmaceutical Company Limited, Sanofi K.K., Ono Pharmaceutical Co., Ltd., AstraZeneca K.K., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Novartis Pharma K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Kyowa Kirin Co., Ltd., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Janssen Pharmaceutical K.K., and received clinical research funding from Taisho Pharmaceutical Co., Ltd. KY has also received scholarship grants from Mitsubishi Tanabe Pharma Corp., Takeda Pharmaceutical Co., Ltd., MSD K.K., Pfizer Japan Inc., Novo Nordisk Pharma Ltd., Taisho Pharmaceutical Co., Ltd., Kao Corporation, Ono Pharmaceutical Co., Ltd., Eli Lilly Japan K.K., Sumitomo Dainippon Pharma Co., Ltd., Nippon Boehringer Ingelheim Co., Ltd., Daiichi-Sankyo Co., Ltd., Teijin Pharma, Ltd., Shionogi Co., Ltd., Bayer Yakuhin, Ltd. Jun Wada has nothing to disclose. Ken Ohashi has nothing to disclose.

References

1) Bassen FA, Kornzweig AL. Malformation of the erythrocytes in a case of atypical retinitis pigmentosa. Blood, 1950; 5: 381-387
2) Kane JP, Havel R. Disorders of the biogenesis and secretion of lipoproteins containing the B apolipoproteins., In: Scriver CR, Beaudet AL, Sly WS, Valle D, Vogelstein B, eds. The Metabolic and Molecular Bases of Inherited Disease. 8 ed. Vol 2. New York, NY: McGraw-Hill; 2001: 2717-2752
3) Wetterau JR, Aggerbeck LP, Bouma ME, Eisenberg C, Munck A, Hermier M, Schmitz J, Gay G, Rader DJ, Gregg RE. Absence of microsomal triglyceride transfer protein in individuals with abetalipoproteinemia. Science, 1992; 258: 999-1001
4) Sharp D, Blinderman L, Combs KA, Kienzle B, Ricci B, Wager-Smith K, Gil CM, Turck CW, Bouma ME, Rader

DJ, Aggerbeck LP, Gregg RE, Gordon DA, Wetterau JR. Cloning and gene defects in microsomal triglyceride transfer protein associated with abetalipoproteinaemia. Nature, 1993; 365: 65-69
5) Shoulders CC, Brett DJ, Bayliss JD, Narcisi TM, Jarmuz A, Grantham TT, Leoni PR, Bhattacharya S, Pease RJ, Cullen PM, Levi S, Byfield PG, Purkiss P, Scott J. Abetalipoproteinemia is caused by defects of the gene encoding the 97 kDa subunit of a microsomal triglyceride transfer protein. Hum Mol Genet, 1993; 2: 2109-2116
6) Burnett JR, Bell DA, Hooper AJ, Hegele RA. Clinical utility gene card for: Abetalipoproteinaemia--Update 2014. Eur J Hum Genet, 2015; 23: 890
7) Berriot-Varoqueaux N, Aggerbeck LP, Samson-Bouma M, Wetterau JR. The role of the microsomal triglygeride transfer protein in abetalipoproteinemia. Annu Rev Nutr, 2000; 20: 663-697
8) Pons V, Rolland C, Nauze M, Danjoux M, Gaibelet G, Durandy A, Sassolas A, Levy E, Terce F, Collet X, Mas E. A severe form of abetalipoproteinemia caused by new splicing mutations of microsomal triglyceride transfer protein (MTTP). Hum Mutat, 2011; 32: 751-759
9) Di Filippo M, Moulin P, Roy P, Samson-Bouma ME, Collardeau-Frachon S, Chebel-Dumont S, Peretti N, Dumortier J, Zoulim F, Fontanges T, Parini R, Rigoldi M, Furlan F, Mancini G, Bonnefont-Rousselot D, Bruckert E, Schmitz J, Scoazec JY, Charriere S, Villar-Fimbel S, Gottrand F, Dubern B, Doummar D, Joly F, Liard-Meillon ME, Lachaux A, Sassolas A. Homozygous MTTP and APOB mutations may lead to hepatic steatosis and fibrosis despite metabolic differences in congenital hypocholesterolemia. J Hepatol, 2014; 61: 891-902
10) Aminoff A, Gunnar E, Barbaro M, Mannila MN, Duponchel C, Tosi M, Robinson KL, Hernell O, Ehrenborg E. Novel mutations in microsomal triglyceride transfer protein including maternal uniparental disomy in two patients with abetalipoproteinemia. Clin Genet, 2012; 82: 197-200
11) Gunduz M, Ozaydin E, Atar MB, Koc N, Kirsaclioglu C, Kose G, Cefalu AB, Averna M, Tarugi P. Microsomal triglyceride transfer protein gene mutations in Turkish children: A novel mutation and clinical follow up. Indian J Gastroenterol, 2016; 35: 236-241
12) Zeissig S, Dougan SK, Barral DC, Junker Y, Chen Z, Kaser A, Ho M, Mandel H, McIntyre A, Kennedy SM, Painter GF, Veerapen N, Besra GS, Cerundolo V, Yue S, Beladi S, Behar SM, Chen X, Gumperz JE, Breckpot K, Raper A, Baer A, Exley MA, Hegele RA, Cuchel M, Rader DJ, Davidson NO, Blumberg RS. Primary deficiency of microsomal triglyceride transfer protein in human abetalipoproteinemia is associated with loss of CD1 function. J Clin Invest, 2010; 120: 2889-2899
13) Sani MN, Sabbaghian M, Mahjoob F, Cefalu AB, Averna MR, Rezaei N. Identification of a novel mutation of MTP gene in a patient with abetalipoproteinemia. Ann Hepatol, 2011; 10: 221-226
14) Di Filippo M, Crehalet H, Samson-Bouma ME, Bonnet V, Aggerbeck LP, Rabes JP, Gottrand F, Luc G, Bozon D, Sassolas A. Molecular and functional analysis of two new MTTP gene mutations in an atypical case of abetalipoproteinemia. J Lipid Res, 2012; 53: 548-555
15) Magnolo L, Najah M, Fancello T, Di Leo E, Pinotti E, Brini I, Gueddiche NM, Calandra S, Slimene NM, Tarugi P. Novel mutations in SAR1B and MTTP genes in Tunisian children with chylomicron retention disease and abetalipoproteinemia. Gene, 2013; 512: 28-34
16) Najah M, Youssef SM, Yahia HM, Afef S, Awatef J, Saber H, Fadhel NM, Sassolas A, Naceur SM. Molecular characterization of Tunisian families with abetalipoproteinemia and identification of a novel mutation in MTTP gene. Diagn Pathol, 2013; 8: 54
17) Hammer MB, El Euch-Fayache G, Nehdi H, Feki M, Maamouri-Hicheri W, Hentati F, Amouri R. Clinical features and molecular genetics of two Tunisian families with abetalipoproteinemia. J Clin Neurosci, 2014; 21: 311-315
18) Miller SA, Burnett JR, Leonis MA, McKnight CJ, van Bockxmeer FM, Hooper AJ. Novel missense MTTP gene mutations causing abetalipoproteinemia. Biochim Biophys Acta, 2014; 1842: 1548-1554
19) Walsh MT, Iqbal J, Josekutty J, Soh J, Di Leo E, Ozaydin E, Gunduz M, Tarugi P, Hussain MM. Novel Abetalipoproteinemia Missense Mutation Highlights the Importance of the N-Terminal beta-Barrel in Microsomal Triglyceride Transfer Protein Function. Circ Cardiovasc Genet, 2015; 8: 677-687
20) Walsh MT, Di Leo E, Okur I, Tarugi P, Hussain MM. Structure-function analyses of microsomal triglyceride transfer protein missense mutations in abetalipoproteinemia and hypobetalipoproteinemia subjects. Biochim Biophys, 2016; 1861: 1623-1633
21) Aers XP, Leroy BP, Defesche JC, Shadid S. Abetalipoproteinemia From Previously Unreported Gene Mutations. Ann Intern Med, 2019; 170: 211-213
22) Di Filippo M, Collardeau Frachon S, Janin A, Rajan S, Marmontel O, Decourt C, Rubio A, Nony S, Dumont S, Cuerq C, Charriere S, Moulin P, Lachaux A, Hussain MM, Bozon D, Peretti N. Normal serum ApoB48 and red cells vitamin E concentrations after supplementation in a novel compound heterozygous case of abetalipoproteinemia. Atherosclerosis, 2019; 284: 75-82
23) Prachasitthisak N, Tanpowpong P, Tim-Aroon T, Treepongkaruna S, Chongviriyaphan N, Vithayasai N, Iamopas O, Wattanasirichaigoon D. Two infants with abetalipoproteinemia: Classic versus atypical presentation. Pediatr Int, 2019; 61: 508-509
24) Al-Mahdili HA, Hooper AJ, Sullivan DR, Stewart PM, Burnett JR. A mild case of abetalipoproteinaemia in association with subclinical hypothyroidism. Ann Clin Biochem, 2006; 43: 516-519
25) Di Filippo M, Varret M, Boehm V, Rabès JP, Ferkdadji L, Abramowitz L, Dumont S, Lenaerts C, Boileau C, Joly F, Schmitz J, Samson-Bouma ME, Bonnefont-Rousselot D. Postprandial lipid absorption in seven heterozygous carriers of deleterious variants of MTTP in two abetalipoproteinemic families. J Clin Lipidol, 2019; 13: 201-212
26) Khan AO, Basamh O, Alkatan HM. Ophthalmic diagnosis and optical coherence tomography of abetalipoproteinemia, a treatable form of pediatric retinal dystrophy. J AAPOS, 2019; 23: 176-177
27) Narcisi TM, Shoulders CC, Chester SA, Read J, Brett DJ,

Harrison GB, Grantham TT, Fox MF, Povey S, de Bruin TW, Erkelens DW, Muller DP, Lloyd JK, Scott J. Mutations of the microsomal triglyceride-transfer-protein gene in abetalipoproteinemia. Am J Hum Genet, 1995; 57: 1298-1310
28) Yang XP, Inazu A, Yagi K, Kajinami K, Koizumi J, Mabuchi H. Abetalipoproteinemia caused by maternal isodisomy of chromosome 4q containing an intron 9 splice acceptor mutation in the microsomal triglyceride transfer protein gene. Arterioscler Thromb Vasc Biol, 1999; 19: 1950-1955
29) Ohashi K, Ishibashi S, Osuga J, Tozawa R, Harada K, Yahagi N, Shionoiri F, Iizuka Y, Tamura Y, Nagai R, Illingworth DR, Gotoda T, Yamada N. Novel mutations in the microsomal triglyceride transfer protein gene causing abetalipoproteinemia. J Lipid Res, 2000; 41: 1199-1204
30) Sakamoto O, Abukawa D, Takeyama J, Arai N, Nagano M, Hattori H, Egashira T, Sakai N, Yamashita S, Iinuma K, Ohura T. An atypical case of abetalipoproteinaemia with severe fatty liver in the absence of steatorrhoea or acanthocytosis. Eur J Pediatr, 2006; 165: 68-70
31) Vidanapathirana DM, Jasinge E, Waidyanatha S, Hooper AJ, Burnett JR. Identification of a novel MTTP splice variant c. 394-2A>C in an infant with abetalipoproteinemia. J Rare Dis Res Treat, 2019; 4: 25-27
32) Isa H, Mohamed A. Abetalipoproteinemia: three case reports, a novel microsomal triglyceride transfer protein gene mutation and a literature review. J Clin Case Rep, 2016; 6: 9
33) Rafique M, Zia S. Abetalipoproteinemia in a Saudi infant. J Coll Physicians Surg Pak, 2011; 21: 117-118
34) Rodríguez Gutiérrez PG, González García JR, Castillo De León YA, Zárate Guerrero JR, Magaña Torres MT. A novel p.Gly417Valfs*12 mutation in the MTTP gene causing abetalipoproteinemia: Presentation of the first patient in Mexico and analysis of the previously reported cases. J Clin Lab Anal, 2020; e23672
35) Tada H, Usui S, Sakata K, Takamura M, Kawashiri MA. Low-Density Lipoprotein Cholesterol Level cannot be too Low: Considerations from Clinical Trials, Human Genetics, and Biology. J Atheroscler Thromb, 2020; 27: 489-498
36) Wetterau JR, Combs KA, Spinner SN, Joiner BJ. Protein disulfide isomerase is a component of the microsomal triglyceride transfer protein complex. J Biol Chem, 1990; 265: 9800-9807
37) Hussain MM, Shi J, Dreizen P. Microsomal triglyceride transfer protein and its role in apoB-lipoprotein assembly. J Lipid Res, 2003; 44: 22-32
38) Biterova EI, Isupov MN, Keegan RM, Lebedev AA, Sohail AA, Liaqat I, Alanen HI, Ruddock LW. The crystal structure of human microsomal triglyceride transfer protein. Proc Natl Acad Sci USA, 2019; 116: 17251-17260
39) Burnett JR, Hooper AJ, Hegele RA. Abetalipoproteinemia. 2018. In: Adam MP, Ardinger HH, Pagon RA, Wallace SE, Bean LJ, Stephens K, Amemiya A, editors. GeneReviews® [Internet]. Seattle (WA): University of Washington, Seattle; 1993-2020. Available from: https: // www.ncbi.nlm.nih.gov/books/NBK532447/
40) Mitchell CJ, Scott BB, Bullen AW, Losowsky MS. Snow-white duodenum: a new endoscopic sign in a patient with hypobetalipoproteinemia. Gastrointest Endosc, 1978; 24: 123-124
41) Zamel R, Khan R, Pollex RL, Hegele RA. Abetalipoproteinemia: two case reports and literature review. Orphanet J Rare Dis, 2008; 3: 19
42) Lee J, Hegele RA. Abetalipoproteinemia and homozygous hypobetalipoproteinemia: a framework for diagnosis and management. J Inherit Metab Dis, 2014; 37: 333-339
43) Dische MR, Porro RS. The cardiac lesions in Bassen-Kornzweig syndrome. Report of a case, with autopsy findings. Am J Med, 1970; 49: 568-571
44) Lange Y, Steck TL. Mechanism of red blood cell acanthocytosis and echinocytosis in vivo. J Membr Biol, 1984; 77: 153-159
45) Forsyth CC, Lloyd JK, Fosbrooke AS. A-BETA-LIPOPROTEINAEMIA. Arch Dis Child, 1965; 40: 47-51
46) Triantafillidis JK, Kottaras G, Peros G, Merikas E, Gikas A, Condilis N, Konstantellou E. Endocrine function in abetalipoproteinemia: a study of a female patient of Greek origin. Ann Ital Chir, 2004; 75: 683-690
47) Black DD, Hay RV, Rohwer-Nutter PL, Ellinas H, Stephens JK, Sherman H, Teng BB, Whitington PF, Davidson NO. Intestinal and hepatic apolipoprotein B gene expression in abetalipoproteinemia. Gastroenterology, 1991; 101: 520-528
48) Kawashiri MA, Tada H, Hashimoto M, Taniyama M, Nakano T, Nakajima K, Inoue T, Mori M, Nakanishi C, Konno T, Hayashi K, Nohara A, Inazu A, Koizumi J, Ishihara H, Kobayashi J, Hirano T, Mabuchi H, Yamagishi M. Extreme Contrast of Postprandial Remnant-Like Particles Formed in Abetalipoproteinemia and Homozygous Familial Hypobetalipoproteinemia. JIMD Rep, 2015; 22: 85-94
49) Burnett JR, Bell DA, Hooper AJ, Hegele RA. Clinical utility gene card for: Familial hypobetalipoproteinaemia (APOB)--Update 2014. Eur J Hum Genet, 2015; 23: 890
50) Peretti N, Sassolas A, Roy CC, Deslandres C, Charcosset M, Castagnetti J, Pugnet-Chardon L, Moulin P, Labarge S, Bouthillier L, Lachaux A, Levy E. Guidelines for the diagnosis and management of chylomicron retention disease based on a review of the literature and the experience of two centers. Orphanet J Rare Dis, 2010; 5: 24
51) Kassim SH, Wilson JM, Rader DJ. Gene therapy for dyslipidemia: a review of gene replacement and gene inhibition strategies. Clin Lipidol, 2010; 5: 793-809
52) Suzuki T, Swift LL. Discovery of Novel Splice Variants and Regulatory Mechanisms for Microsomal Triglyceride Transfer Protein in Human Tissues. Sci Rep, 2016; 6: 27308

資料 3. PROLIPID 研究の登録患者数およびその内訳（令和 3 年 3 月末時点）

疾患名	N	（疑い症例）
① FH ホモ接合体	17	0
② FH ヘテロ	789	12
③ 家族性 III 型高脂血症	18	
④ 高カイロミクロン血症	47	
⑤ シトステロール血症	2	
⑥ 脳腱黄色腫症	2	
⑦ LCAT 欠損症	1	
⑧ タンジール病	0	
⑨ アポ A1 欠損症	0	
⑩ 無βリポタンパク血症・低βリポタンパク血症	0	
合計	876	12
未回答	89	

資料４．学会承認を得た各疾患の新しい診断基準（案）

259 レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ（LCAT）欠損症の新診断基準（案）

Ａ．必須項目

１．血中 HDL コレステロール値　25 mg/dL 未満

２．コレステロールエステル比の低下（60%以下）

Ｂ．症状

１．　　蛋白尿、腎機能障害

２．　　角膜混濁

Ｃ．検査所見

血液・生化学的検査所見

(1) 貧血（ヘモグロビン値＜11 g/dl）

(2) 赤血球形態の異常（いわゆる「標的赤血球」「大小不同症」「奇形赤血球症」「口状赤血球」）

(3) 異常リポ蛋白の出現（Lp-X、大型 TG rich LDL）

眼科検査所見

コントラスト感度の正常範囲からの逸脱

Ｄ．鑑別診断

以下の疾患を鑑別する。

他の遺伝性低 HDL コレステロール血症（タンジール病、アポリポタンパク A-Ⅰ欠損症）

続発性 LCAT 欠損症（肝疾患（肝硬変・劇症肝炎）、胆道閉塞、低栄養、悪液質など蛋白合成低下を呈する病態、基礎疾患を有する自己免疫性 LCAT 欠損症）

二次性低 HDL コレステロール血症[*1]

（＊１：外科手術後、肝障害（特に肝硬変や重症肝炎、回復期を含む）、全身性炎症疾患の急性期、がん等の消耗性疾患など、過去 6 か月以内のプロブコールの内服歴、プロブコールとフィブラートの併用（プロブコール服用中止後の処方も含む））

Ｅ．遺伝学的検査

１．　　*LCAT*遺伝子の変異

＜診断のカテゴリー＞

必須項目の 2 項目を満たした例において、以下のように判定する。

Definite：**Ｂ・Ｃ**のうち 1 項目以上を満たし，**Ｄ**の鑑別すべき疾患を除外し、**Ｅ**を満たすもの

Probable：**Ｂ・Ｃ**のうち 1 項目以上を満たし**Ｄ**の鑑別すべき疾患を除外したもの

Definite、Probable を対象とする。

260．シトステロール血症の新診断基準（案）

Ａ．症状

１．　皮膚黄色腫または腱黄色腫の存在

２．　早発性冠動脈疾患（男性 45 歳未満、女性 55 歳未満）

Ｂ．検査所見

血清シトステロール濃度１mg/dL（10μg/ml）以上

Ｃ．鑑別診断[*1]

以下の疾患を鑑別する。

家族性高コレステロール血症、脳腱黄色腫症

*1：鑑別診断が困難な場合や上記疾患とシトステロール血症の合併が否定できない場合は，*ABCG5/8*遺伝子検査を実施する．*ABCG5/8*遺伝子の病原性変異が確認された場合は，上記の疾患を合併していてもシトステロール血症の診断が可能である．

Ｄ．遺伝学的検査

*ABCG5/8*遺伝子の変異

＜診断のカテゴリー＞

Definite：Ａ−１及びＢを満たし、Ｃの鑑別すべき疾患を除外し、Ｄを満たすもの

Probable：A-１及びＢを満たし、Ｃの鑑別すべき疾患を除外したもの
Possible：A-１、２及びＢを満たすもの
Definite、Probable を対象とする。

補足事項：
高 LDL コレステロール血症を呈したシトステロール血症では、コレステロール吸収阻害薬（エゼチミブ、コレスチミド）が著効する点が家族性高コレステロール血症と異なる。

261．タンジール病の新診断基準（案）

Ａ．必須項目
１．　血清 HDL コレステロールが 25 mg/dL 未満
２．　血中アポ A-Ⅰ濃度 20 mg/dL 未満

Ｂ．症状
１．オレンジ色の特徴的な扁桃腫大
２．肝腫大または脾腫
３．角膜混濁
４．末梢神経障害
５．心血管病変

Ｃ．　鑑別診断
以下の疾患を鑑別する。
LCAT 欠損症、アポリポ蛋白質 A-I 欠損症、二次性低 HDL コレステロール血症[*1]
（*１：外科手術後、肝障害（特に肝硬変や重症肝炎、回復期を含む）、全身性炎症疾患の急性期、がん等の消耗性疾患など、過去 6 か月以内のプロブコールの内服歴、プロブコールとフィブラートの併用（プロブコール服用中止後の処方も含む））

Ｄ．遺伝子検査
ABCA1 遺伝子変異の同定

＜診断のカテゴリー＞
Definite: 必須項目の 2 項目を全て満たす例のうち、Ｂの１項目以上を満たし、Ｃの鑑別すべき疾患を除外し、D を満たすもの
Probable: 必須項目の 2 項目を全て満たす例のうち、Ｂの２項目以上を満たし、Ｃの鑑別すべき疾患を除外したもの
Definite、Probable を対象とする。

補足事項：鑑別診断が困難な場合は，*ABCA1* 遺伝子検査を実施する．*ABCA1* 遺伝子の病原性変異が確認された場合は診断が可能である．

262．原発性高カイロミクロン血症の新診断基準（案）

Ａ．必須条件：１および２を認め、鑑別診断（下記Ｅ）が除外される。
１．血清トリグリセリド値　1,000 mg/dL以上（空腹時採血(食後 12 時間以上)）
２．カイロミクロンの証明（血清静置試験[*1]、超遠心法、電気泳動法、HPLC法による）
（*1: 血清を４℃で 24～48 時間静置した後に、血清の上清にクリーム層を認める）

Ｂ．症状 主症状：１～４、副症状：５、６

１．繰り返す腹痛かつ/または急性膵炎
２．発疹性黄色腫
３．網膜脂血症の存在
４．肝腫大かつ/または脾腫大
５．**呼吸困難**
６．神経精神症状（認知症、うつ病、記憶障害）

Ｃ．検査所見

１．LPL活性・蛋白の欠損あるいは著明な低下（正常の 10%以下）。
（ヘパリン静脈注射後血漿、脂肪組織生検検体、単球由来マクロファージ。）
２．アポリポ蛋白C-IIの欠損あるいは著明な低下（正常の 10%以下）。
３．アポリポ蛋白A5 の欠損あるいは著明な低下（正常の 10%以下）。
４．LPL、ヘパリン、アポリポ蛋白C-II、GPIHBP1 に対する自己抗体の証明。

Ｄ．遺伝学的検査

１．　リポ蛋白リパーゼ遺伝子の変異
２．　アポリポタンパクC-ＩＩ遺伝子の変異
３．　*GPIHBP1* 遺伝子の変異
４．　*LMF1* 遺伝子の変異
５．　アポリポタンパクA-V遺伝子の変異

Ｅ．鑑別診断

１．III型高脂血症
２．家族性複合型高脂血症（FCHL）
３．二次性高脂血症（アルコール多飲、ネフローゼ症候群、神経性食思不振症、　　妊娠、糖尿病、リポジストロフィー、ウェーバー・クリスチャン（Weber-　Christian）病、甲状腺機能低下症、先端巨大症、クッシング症候群、ネルソン　　症候群、薬剤（エストロゲン、ステロイド、利尿薬、βブロッカー、SSRIなど抗　　精神病薬、痙攣治療薬、HIV治療薬、免疫抑制剤など）、その他高TG血症を来す　　疾患（多発性骨髄腫、全身性エリテマトーデス（SLE）、悪性リンパ腫、サルコ　　イドーシスなど））

＜診断のカテゴリー＞

Definite（確定診断）：必須条件に、**Ｃ**あるいは**Ｄ**のいずれかの異常（疾患関連あり）が確認された場合。
Probable（臨床的診断）：必須条件に、**Ｂ**の主症状のいずれかを認める場合。
Possible（疑い例）：必須条件のみ、あるいは、必須条件に**Ｂ**の副症状を認める場合。
Definite、Probableを対象とする。

264.　無 β リポタンパク血症の新診断基準（案）

Ａ．必須項目

血中 LDL コレステロール 15 mg/dL 未満（Friedewald 式による）または血中アポリポ蛋白 B 15 mg/dL 未満

Ｂ．症状

１．消化器症状（脂肪吸収障害による脂肪便、慢性下痢、嘔吐、成長障害など）
２．神経症状（運動失調,痙性麻痺,末梢神経障害による知覚低下や腱反射消失など）
３．網膜色素変性症（夜盲,視野狭窄,視力低下など）

Ｃ．検査所見

１．有棘赤血球の存在

Ｄ．鑑別診断

以下の疾患を鑑別する。
家族性低 β リポタンパク血症,カイロミクロン停滞病（アンダーソン（Anderson）病）,甲状腺機能亢進症
※家族性低βリポタンパク血症ホモ接合体との確実な鑑別は,本人のデータのみでは困難であり遺伝子変異

の同定を要するが,以下の所見を参考に鑑別可能である.
・ホモ接合体発端者の第1度近親者のコレステロール低値
本症は常染色体潜性遺伝（**劣性遺伝**）でありホモ接合体発端者の第1度近親者のヘテロ接合体に軽度低脂血症を認めないが,家族性低 β リポタンパク血症（FHBL）1は常染色体共顕性遺伝（**共優性遺伝**）であるため,ホモ接合体発端者の第1度近親者のヘテロ接合体に低脂血症を認める.両親・兄弟の血清脂質・血中アポB濃度、脂溶性ビタミン濃度の測定も参考になる.

Ｅ．遺伝学的検査

*MTTP*遺伝子の変異

＜診断のカテゴリー＞

Definite：必須項目を満たす例で，**Ｂ・Ｃ**の計４項目のうちいずれか１項目以上を満たし、**Ｄ**の鑑別すべき疾患を除外し,**Ｅ**を満たすもの.

Probable：必須項目を満たす例で，**Ｂ・Ｃ**の計４項目のうちいずれか２項目以上を満たし,**Ｄ**の鑑別すべき疾患を除外したもの.

Definite、Probableを対象とする。

264類縁　家族性低βリポタンパク血症（FHBL）1(ホモ接合体)の診断基準（案）

Ａ．必須項目

血中LDL-コレステロール15 mg/dL未満（Friedewald式による）または血中アポリポ蛋白B 15 mg/dL未満

Ｂ．症状

１．消化器症状（脂肪吸収障害による脂肪便、慢性下痢、嘔吐、成長障害など）

２．神経症状（運動失調、痙性麻痺、末梢神経障害による知覚低下や腱反射消失など）

３．網膜色素変性症（夜盲、視野狭窄、視力低下など）

Ｃ．検査所見

１．有棘赤血球の存在

Ｄ．鑑別診断

以下の疾患を鑑別する。

無βリポタンパク血症、カイロミクロン停滞病（アンダーソン（Anderson）病)、甲状腺機能亢進症

※無βリポタンパク血症との確実な鑑別は、本人のデータのみでは困難であり遺伝子変異の同定を要するが、以下の所見を参考に鑑別可能である。

・ホモ接合体発端者の第1度近親者のコレステロール低値

家族性低β リポタンパク血症（FHBL）1は常染色体共顕性遺伝（**共優性遺伝**）であるため、ホモ接合体発端者の第1度近親者のヘテロ接合体に低脂血症を認めるが、無βリポタンパク血症は常染色体潜性遺伝（**劣性遺伝**）であり、ホモ接合体発端者の第1度近親者のヘテロ接合体に軽度低脂血症を認めない。両親・兄弟の血清脂質・血中アポB濃度、脂溶性ビタミン濃度の測定も参考になる。

Ｅ．遺伝学的検査

*APOB*遺伝子の変異

＜診断のカテゴリー＞

Definite：必須項目を満たす例で、**Ｂ・Ｃ**の計４項目のうちいずれか１項目以上を満たし、**Ｄ**の鑑別すべき疾患を除外し、**Ｅ**を満たすもの。

Probable：必須項目を満たす例で、**Ｂ・Ｃ**の計４項目のうちいずれか２項目以上を満たし、**Ｄ**の鑑別すべき疾患を除外したもの。

Definite、Probable を対象とする。

新規：アポリポタンパクA-Ⅰ欠損症　-診断基準（案）-

○概要

１．　概要

高比重リポ蛋白（high density lipoprotein: HDL）の主要構成アポ蛋白である、アポリポタンパク A-Ⅰ（アポ A-Ⅰ）の欠損、異常により生ずる病態である。アポ A-Ⅰとともにアポ C-Ⅲ、アポ A-Ⅴを欠損する場合もある。血清 HDL コレステロール、アポ A-Ⅰ濃度が著しい低値を示す。タンジール病で認められるオレンジ色の扁桃肥大や、LCAT 欠損症で認められるコレステロールエステル比の低下や腎障害は、認められない。早期に冠動脈疾患を合併する危険性があり、動脈硬化性疾患の早期診断と危険因子の管理が重要である。アポ A-1 の変異の一部にアミロイドーシスの合併が報告されているが、アミロイドーシスが主要な病態であり HDL 低値を伴わない場合は、全身性アミロイドーシス（指定難病 28）にて取り扱う。

２．　原因

血中の遊離アポ A-Ⅰが ABCA1 に結合することが、HDL 形成の第一段階である。ABCA1 は細胞内からコレステロール搬出する機能を持ち、アポ A-Ⅰと結合することでコレステロールを付加して preβ-HDL となる。本症ではアポ A-1 の欠損または機能喪失により HDL が産生されないため、血清 HDL コレステロール、アポ A-Ⅰ濃度が著しい低値となる。

３．　症状

角膜混濁

　角膜混濁がしばしば認められる

皮膚病変

　黄色腫がしばしば認められる

心血管病変

　冠動脈疾患の合併が多く認められる

血清脂質検査

　著明な低 HDL-C 血症（HDL- C＜25mg/dL）で、血清アポ A-Ⅰは 20 mg/dl 未満

　アポ A-Ⅰ含有血清 HDL の欠損、正常～低下したトリグリセライド，正常レベルの LDL-C を認める

４．　治療法

遺伝子治療などの根本的な治療はなく、合併する動脈硬化性疾患の予防・治療が中心となる。糖尿病（耐糖能異常）を合併することが多くその治療が重要であり、また高血圧、喫煙などの危険因子の管理も重要である。

５．　予後

冠動脈疾患などの動脈硬化性疾患により大きく異なる。狭心症、心筋梗塞などの発症に留意し、定期的な動脈硬化性疾患のチェックが重要である。

○要件の判定に必要な事項

１．　患者数

100 人未満（わが国では 9 例が報告されている）

２．　発病の機構

不明（アポ A－1／C－III／A－Ⅳ遺伝子変異が関与する。）

３．　効果的な治療方法

未確立（併存する動脈硬化性疾患危険因子の治療が重要である。）

４．　長期の療養

必要（遺伝子異常を背景とし、代謝異常が生涯持続するため。）

５．　診断基準

あり（研究班作成の診断基準）

６．　重症度分類

先天性代謝異常症の重症度評価で、中等症以上を対象とする。

○情報提供元

「原発性高脂血症に関する調査研究班」

研究代表者　国立循環器病研究センター研究所　病態代謝部　部長　斯波真理子

研究分担者　国立大学法人大阪大学　循環器内科　小関正博

アポリポタンパク A-Ⅰ欠損症の診断基準（案）

Ａ．必須項目

1. 血清 HDL コレステロールが 25 mg/dL 未満

2. 血中アポ A-Ⅰが 20 mg/dL 未満

Ｂ．症状

1. 角膜混濁
2. 黄色腫
3. 早発性冠動脈疾患（男性 55 歳未満、女性 65 歳未満）

Ｃ．鑑別診断

以下の疾患を除外できる。

タンジール病、LCAT 欠損症、二次性低 HDL コレステロール血症[*1]

（＊１：外科手術後、肝障害（特に肝硬変や重症肝炎、回復期を含む）、全身性炎症疾患の急性期、がん等の消耗性疾患など、過去 6 か月以内のプロブコールの内服歴、プロブコールとフィブラートの併用（プロブコール服用中止後の処方も含む））

Ｄ．遺伝子検査

APOA1 遺伝子変異の同定

＜診断のカテゴリー＞

Definite：Ａの必須項目を満たす例で、Ｂの１項目以上を満たし、Ｃの鑑別すべき疾患を除外し、Ｄを満たすもの。

Probable：Ａの必須項目を満たす例で、Ｂの１項目以上を満たし、Ｃの鑑別すべき疾患を除外したもの。

Definite、Probable を対象とする。

資料 5. 成人指定難病と小児慢性特定疾病の該当疾患の違い

表１．「難病の患者に対する医療等に関する法律」にもとづく 2015 年１月 1 日および　7 月 1 日施行の厚生労働省「指定難病」のうち原発性高脂血症該当疾患

告示番号	病名
79	家族性高コレステロール血症（ホモ接合体）
259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症
260	シトステロール血症
261	タンジール病
262	原発性高カイロミクロン血症
263	脳腱黄色腫症
264	無βリポ蛋白血症

表２．2015 年施行「児童福祉法の一部を改正する法律」による厚生労働省　「小児慢性特定疾病」のうち原発性高脂血症該当疾患（大分類 12 脂質代謝異常）

小分類番号	病名
129	原発性高カイロミクロン血症
130	家族性高コレステロール血症
131	家族性複合型高脂血症
132	無βリポ蛋白血症
133	高比重リポタンパク（HDL）欠乏症
134	129 から 133 まで掲げるもののほか、脂質代謝異常症

令和 3 年 3 月 11 日

国立保健医療科学院長　殿

国立研究開発法人
機関名　国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長
氏　名　小川　久雄　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　分子病態部・非常勤研究員

（氏名・フリガナ）　斯波　真理子・シバ　マリコ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	■	□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	国立循環器病研究センター	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年３月15日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　自治医科大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　永井　良三　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部　・　教授

（氏名・フリガナ）　石橋　俊　・　イシバシ　シュン

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	自治医科大学倫理委員会	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年４月９日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　中部大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　竹内　芳美　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　応用生物学部生物機能開発研究所・客員教授

（氏名・フリガナ）　横山信治・ヨコヤマシンジ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□	■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	中部大学倫理審査委員会	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。

・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3年 3月 16日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人筑波大学

所属研究機関長　職　名　国立大学法人筑波大学長

氏　名　永田恭介　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学医療系・教授

（氏名・フリガナ）　島野　仁・シマノヒトシ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□	■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	筑波大学附属病院	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3 年 3 月 24 日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人千葉大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　徳久　剛史　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　大学院医学研究院・教授

（氏名・フリガナ）　横手　幸太郎・ヨコテ　コウタロウ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。
(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3 年 3 月 15 日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　東　邦　大　学

所属研究機関長　職　名　学　長

氏　名　高　松　　研　　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部・教授

（氏名・フリガナ）　武城 英明・ブジョウ ヒデアキ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　☑	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　☑	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	☑　□	☑	佐倉病院倫理委員会	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　☑	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　☑	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☑　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ☑　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ☑　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ☑　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ☑（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2021年3月12日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　地方独立行政法人
りんくう総合医療センター

所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　山　下　静　也　　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　循環器内科・理事長

（氏名・フリガナ）　山下　静也・ヤマシタ　シズヤ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	■	□	■	りんくう総合医療センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	りんくう総合医療センター	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年３月31日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　帝京大学
所属研究機関長　職　名　学長
氏　名　冲永佳史　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部　教授

（氏名・フリガナ）　塚本　和久　・　ツカモト　カズヒサ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）	有
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）	有
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）	有
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無■（有の場合はその内容：　）	有

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　3年　3月　31日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　名古屋大学大学院

所属研究機関長　職　名　医学系研究科長

氏　名　門松　建治　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　大学院医学系研究科・教授

（氏名・フリガナ）　林 登志雄　（ハヤシ トシオ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□	■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	名古屋大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年３月31日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　防衛医科大学校
所属研究機関長　職　名　学校長
氏　名　四ノ宮　成祥　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　抗加齢血管内科　教授

（氏名・フリガナ）　池脇克則（イケワキカツノリ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年3月26日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　杏林大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　大瀧　純一　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部・教授

（氏名・フリガナ）　後藤田　貴也　（ゴトウダ　タカナリ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□	■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□	■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックレ一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

R3 年3月17日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人山梨大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　島田　眞路　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　山梨大学　大学院総合研究部小児科　医学研究員

（氏名・フリガナ）　土橋一重　（ドバシ　カズシゲ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　3　年　4　月　1日

国立保健医療科学院長　殿

国立研究開発法人
機関名　国立循環器病研究センター

所属研究機関長　職　名　理事長

氏　名　大津欣也

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患等政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　オープンイノベーションセンター　・　センター長

（氏名・フリガナ）　宮本　恵宏（ミヤモト　ヨシヒロ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	■	□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	■	□	■	国立循環器病研究センター	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年3月9日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長
氏　名　小川　久雄　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　予防医学・疫学情報部　室長

（氏名・フリガナ）　竹上　未紗　・　タケガミ　ミサ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	国立循環器病研究センター	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　3年　3月29日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人信州大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　濱　田　州　博　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部　・　教授

（氏名・フリガナ）　関島　良樹・　セキジマ　ヨシキ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□	■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	信州大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　3　年　3　月　31　日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　岩手医科大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　祖父江　憲治　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部　教授

（氏名・フリガナ）　石垣　泰（イシガキ　ヤスシ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年５月２０日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　東京大学
所属研究機関長　職　名　総長
氏　名　藤井　輝夫　印

次の職員の令和 2 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）医学部附属病院・助教

（氏名・フリガナ）岡崎　啓明・オカザキ　ヒロアキ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	東京大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3年　3月15日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　石川県立中央病院

所属研究機関長　職　名　院長

氏　名　岡田　俊英　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　遺伝診療科　診療部長

（氏名・フリガナ）　野原　淳　（ノハラ　アツシ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	石川県立中央病院	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 □　無 ■（無の場合は委託先機関：　当院倫理委員会にて審査　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年　２月　１９日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　山形大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　玉手　英利　　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）医学部付属病院・講師

（氏名・フリガナ）小山　信吾・コヤマ　シンゴ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	■　□	■	山形大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	山形大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年３月２６日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　日本医科大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　弦間　昭彦　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部・講師

（氏名・フリガナ）　稲垣　恭子（イナガキ　キョウコ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	日本医科大学付属病院倫理委員会	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年3月9日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人京都大学

所属研究機関長　職　名　医学研究科長

氏　名　岩井　一宏　　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）大学院医学研究科・准教授

（氏名・フリガナ）尾野　亘　（オノ　コウ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

2021年 2月 24日

国立保健医療科学院長 殿

機関名　国立大学法人大阪大学
所属研究機関長　職　名　大学院医学系研究科長
氏　名　森井　英一　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　大学院医学系研究科・助教

（氏名・フリガナ）　小関　正博・コセキ　マサヒロ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年４月１日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　順天堂大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　新井　一　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　保健医療学部　特任教授

（氏名・フリガナ）　代田　浩之　（ダイダ　ヒロユキ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること

令和３年３月15日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　自治医科大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　永井　良三　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部　・　学内講師

（氏名・フリガナ）　高橋　学　・　タカハシ　マナブ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	自治医科大学倫理委員会	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

R3年 3月22日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人熊本大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　原田　信志　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　生命科学研究部　・　教授

（氏名・フリガナ）　中村　公俊　・　ナカムラ　キミトシ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	☑	□	☑	熊本大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	☑	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□	☑	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	☑	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	☑	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ☑　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ☑　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ☑　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ☑　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ☑（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和３年４月１日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　順天堂大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　新井　一　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　大学院医学研究科　教授

（氏名・フリガナ）　三井田 孝　（ミイダ　タカシ）

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■　□	■	順天堂大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 □　無 ■（無の場合はその理由：申告する経済的利益関係がないため）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年　4月　1日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　　国立大学法人金沢大学

所属研究機関長　職　名　　学長

氏　名　山崎　光悦　　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　大学院医薬保健研究総合研究科　・准教授

（氏名・フリガナ）　川尻　剛照　・カワシリ　マサアキ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	■	□	■	金沢大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	金沢大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3年　3 月 16日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　　国立大学法人香川大学
所属研究機関長　職　名　　学長
氏　名　　筧　善行　　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　医学部 循環器・腎臓・脳卒中内科学　・　教授

（氏名・フリガナ）　南野　哲男　・　ミナミノ　テツオ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無	左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有　無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□　■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□　■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	□　■	□		□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□　■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□　■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年 3月 23日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人東京大学
所属研究機関長　職　名　総長
氏　名　五神　真　　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　保健・健康推進本部　助教

（氏名・フリガナ）　岡崎　佐智子　　オカザキ　サチコ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	□	■	□		□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	東京大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和3年　4月　1日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人金沢大学

所属研究機関長　職　名　学　長

氏　名　山崎　光悦　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　附属病院・助教

（氏名・フリガナ）　多田　隼人・タダ　ハヤト

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	■	□	■	金沢大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	金沢大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和　3年　3月　12日

国立保健医療科学院長　殿

機関名　国立大学法人岡山大学

所属研究機関長　職　名　学長

氏　名　槇野　博史　　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）大学院医歯薬学総合研究科・教授

（氏名・フリガナ）和田　淳・ワダ　ジュン

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	■	□	■	岡山大学	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	岡山大学	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。

令和 3 年 3 月 11 日

国立保健医療科学院長　殿

国立研究開発法人
機関名　国立循環器病研究センター
所属研究機関長　職　名　理事長
氏　名　小川　久雄　印

次の職員の令和２年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

１．研究事業名　難治性疾患政策研究事業

２．研究課題名　原発性高脂血症に関する調査研究

３．研究者名　（所属部局・職名）　病態代謝部・室長

（氏名・フリガナ）　小倉　正恒・オグラ　マサツネ

４．倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	■	□	■	国立循環器病研究センター	□
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	□	■	□		□
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	■	□	■	国立循環器病研究センター	□
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	□	■	□		□
その他、該当する倫理指針があれば記入すること（指針の名称：　）	□	■	□		□

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。
（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

５．厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 ■　未受講 □

６．利益相反の管理

当研究機関におけるＣＯＩの管理に関する規定の策定	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究機関におけるＣＯＩ委員会設置の有無	有 ■　無 □（無の場合は委託先機関：　）
当研究に係るＣＯＩについての報告・審査の有無	有 ■　無 □（無の場合はその理由：　）
当研究に係るＣＯＩについての指導・管理の有無	有 □　無 ■（有の場合はその内容：　）

（留意事項）　・該当する□にチェックを入れること。
・分担研究者の所属する機関の長も作成すること。